

1 2 3 4 5 6 7 8 9 21

大正六年九月十日發行

# 滿蒙經濟事情

第十三號

東京經濟社出版部

庫文閣內			
函	冊	五 四 六 九	和 書
架	冊	類	

- 一、本書は常部滿蒙に關する産業調査上蒐集する資料を考査し周知を便し認むるものを逐次印刷するものとす。
- 一、本書は滿蒙事情精通者に頒つ爲めに非らず未だ該地方を詳かにせざる母國人に汎く經濟事情を紹介し堅實なる起業の指針たらしむるにあり。
- 一、順序は特に産業交通等の區分を設けず速知を要する事項より記載し且つ他日合本に便せん爲め事項の異なる毎に紙を改む。
- 一、本書の記事は成るべく普及を計るため新聞雜誌其の他の刊行物に轉載せらるゝを望む。
- 一、本書の材料は民政部員の實地踏査に係るものを主とし他官衙、學校、會社等の調査書類を參酌す而して編纂に就ては囑託旭藤市郎之れに當る。

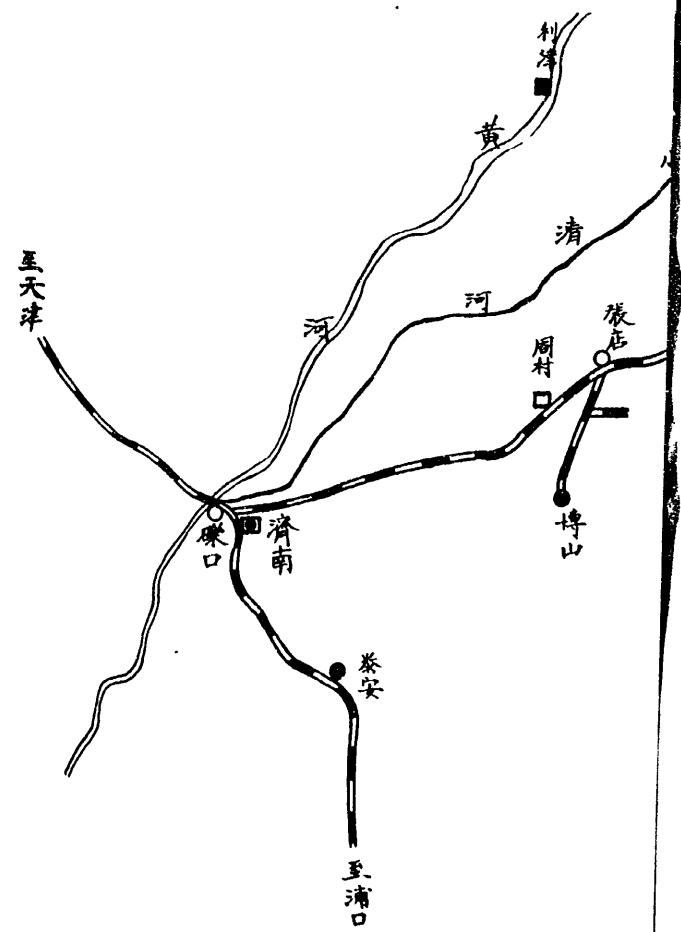
大正五年十月一日

關東都督府民政部

### 滿蒙經濟事情第十三號

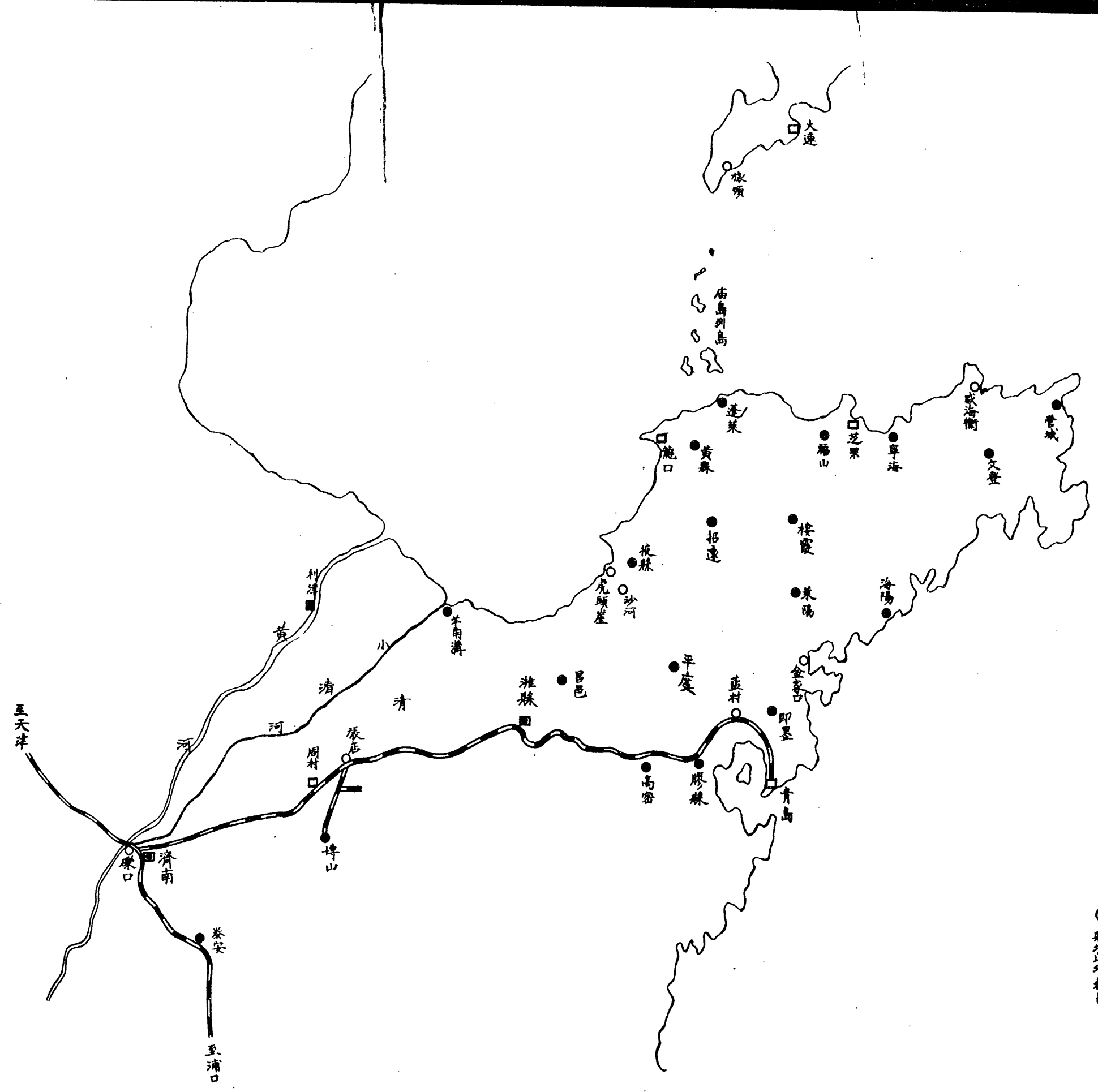
#### 目次

一、北部山東省經濟事情	一
一、露領黑龍州通信	四一五
一、林西近信	四二二
一、伯都訥近況	四二五
一、開魯近況	四二八
一、經濟事情自一號至十二號總目次	一





# 調查區域内略圖



□ 省 城  
 ● 縣 城 所 在 地  
 ○ 縣 城 以 外 鄉 邑  
 例 □ 關 口 地

裏面白紙



332  
54649  
60

# 北部山東省經濟事情

左記は當部廳託内助七が大正五年八月より本年五月に至る間山東省北部各地方を踏査報告せる復命書にして記述周到を缺き觀察亦正誤を得ざる點なきにあらざるも該地方經濟事情の概要を紹介する爲め纏めて茲に掲ぐることにせり。

## 目次

旅行地域略圖

緒言

第一篇 沙河鎮事情

第一章 概説

第一節 位置及人口

第二節 居民の衣食住

第二章 金融

第一節 流通狀況

第二節 貨幣相場

第三節 金融機關

第三章 交通運輸機關

第一節 運輸機關

第二節 運賃

第四章 商況

第一節 輸出品

北部山東省經濟事情

第二節 衛生狀態

第四節 起居の狀態

第二章 貨幣計算法

第四節 取引慣習

第二節 樓房

第四節 貨物運送に関する慣習

第二節 商業範圍

北部山東省經濟事情

第三節 煙臺(市)

第五節 主要なる商舖

第五章 主要輸入品

- 一、絲織布
- 二、煙草
- 三、織寸
- 四、石油
- 五、紙類
- 六、砂糖
- 七、雜穀
- 八、藥種
- 九、雜貨
- 一〇、膠帶子
- 一一、信石及白布草
- 一二、其他雜品

第六章 沙河市場に集散する本地産品及輸出品

第七章 度量衡

第二篇 第一回旅行調査報告

第一章 總說

第一節 緒論

第二章 農業

第一節 農耕地

第三節 主たる農作物

第五節 農業之將來

第三章 畜畜産

第一節 牛

第三節 羊

第五節 鷄

第四章 交通機關

第一節 海上交通機關

第五章 金融狀況

第四節 煙臺に關係ある鄉村

第一節 金融の中心地

第三節 銅元計算法

第六章 度量衡

第一節 尺度

第三節 衡

第七章 商業

第一節 都會

一、芝罘

五、威海衛

第二節 主要輸出品

- 一、輸出品(蘭綢、柞蠶絲、花綢、桐材、牛皮)
- 二、輸入品(絲織布)

第三篇 第二回旅行調査報告

第一章 總說

第一節 經過地

第三節 河流

第二章 農業

第三章 工業

第四章 商業

第一節 都會

一、即墨

第二節 重要輸出品

一、棉花

第二節 流通貨幣

第四節 金融機關

第二節 斗量

第四節 平

第一節 都會

一、芝罘

三、黃縣

七、萊陽縣

四、掖縣

八、濰縣

第二節 主要輸出品

二、輸入品(絲織布)

第二節 地勢

北部山東省經濟事情

二、青島

二、雲母

三、濰縣

三、山東縣

四、濟南

四、輸出麻毛

三

結論

(附) 山東に於ける麥稈真田の調査

## 緒言

山東省は北支那東部の三角形に突出せる半島にして海拔五千呎の泰山を起點とし東西を貫通する骨髄山脈の南方に於て江蘇省に界し西は河南直隸と相接する大平原あり黃河の奔流に依りて河南山西の奥地と相往來す北は渤海灣を隔て關東州と相對す。

省内西部の平原と中央を東西に走る平原とを除けば到る處山岳起伏し古來交通開けず匪賊省内に跋扈し人文比較的遅れ風氣開通せず從て住民性懷悍往時は孔聖人の嘆となり又稗史に傳はる梁山伯の跡は泰山地方にありと云ふ以て其一斑を察すべし。

然れども爛眼なる獨逸が一度此地に著目するや青島の開港となり山東鐵道の開通となり津浦鐵道完通と共に濟南の急進的發展となり周村、濰縣、青州等の經濟中心地を濟南青島との間に連結し省内の經濟力を統一し農業生産品の海外輸出となり新式工業の勃興を來し近來工業製品の海外に紹介せらるるもの日新月歩の勢にして生牛、生骨、牛皮、棉花、落花

生、落花生油、豆油、絹紬、花纒、野蠶絲、鷄卵、牛肉、蛋白等の輸出漸次増加を加へ從つて生産力増加に伴ふ富の向上となり購買力の増進を來し綿絲、綿布、石油、燐寸、砂糖雜貨の輸入率昂騰し今や山東省は三十年前の山東に非ずして青島より流入する歐亞文明の風物は山東鐵道を傳ふて其沿線に遍からんとし風氣は日進月歩開發せられつゝあり。

大正三年役の結果山東東部の經濟界を統括する山東鐵道及び主要重鎮なる青島は日本軍政下に統治せられ獨逸が其東亞に於ける國策遂行の根據として將た政治的殖民の第一歩として多大の經濟的犠牲を拂ひて山東省をして支那に於ける政治的に經濟的に向上誘導せしめたる後を受けて之れに臨まんとする邦人は大いに此處に考慮する所あらざるべからず。

想ふに山東省が俄然其經濟狀態を轉換し新生面を開くに至りしは青島の開港、山東鐵道の開通が主因を爲すと雖も亦農業の起色と鑛業の發展とが一因を成せる事も疑ふべからず由來山東省は瘦薄の地として名あり農産物の如き其生産高は常に三千八百萬の住民を養ふに足らず爲めに進取的精神に富める彼等は海外移民となるの風習生じ山東苦力の名茲に顯著たるに至れり但し近來穀類の不足を補ふべく各種農産の改良發達するあり加ふるに鑛業の發展に伴れ埋れたる地中の富を開掘せられ金鑛、炭鑛等數多存在すること世已に知る所

たり陸に於て斯くの如き状態の山東は海に於ては古來漁鹽の利を以て稱せらる特に近來關東州に根據を有する日本漁業者の毎年出漁して新式漁法に依りて漁撈に従事するもの少からず之れに伴ふ支那漁業者も漸次舊法を捨て新式漁法を採るに至り爲めに沿岸諸地方の經濟状態に齎す反映は小ならず又一昨年來龍口の新たに開埠せらるるあり沿岸航路の進歩著しく爲めに交通運輸の便備はり山東と關東州南滿間を接近せしめ經濟的新生面又此方面にも開けたり。

斯くの如く過去數十年間に於て山東省經濟状態の急劇的變遷を來せしは事實の證明して餘蘊なき所なり以下本囑託が沙河鎮駐在及び前後二回の旅行に於て努めて事實の正確を期し調査せる所を記述して以て山東省經濟事情の一端を知るに便ならしめんとす。

## 第一篇 沙河鎮事情

### 第一章 總說

#### 第一節 位置及人口

沙河鎮は北山東に於ける麥稈眞田の大集散地として有名なる市場にして龍口濰縣間を連絡

する大道の中間に位置し龍口濰縣と比肩し得べき繁盛の都市なり今當地より各地に至る距離を示せば

至 濰 縣	一八〇支里	至 龍 口	二〇四支里
至 芝 罘	三五四支里	至 萊 州	五四支里
至 平 度	七〇支里	至 虎 頭 崖	四〇支里
至 石 虎 咀	一三〇支里	至 海 廟	五十支里

沙河鎮城壁は周圍四支里南北及東西直徑各約一支里にして東、西、南、北、東南、東北、西北の七門あり現在に於て東南、北、西北門の三門は閉鎖して市民の交通を許さず。城内には東西、南北及東北、西北門を連鎖する大街ありて縱横の小街を以て四通八達し城内總面積の約三分の一強は大夏高樓軒端櫛比し煉瓦二階建の商舖多し北門、西北門、西門南門の城壁に接する地域は商業不振にして往々空地存し家屋も大部は土造壁の陋屋にして苦力、農夫の家庭及小商人の居住するもの多し商舖の大部は何れも城外鄉村の財主の所有にして腹心の番頭を派して店務を管理せしめつゝあるを以て家族の城内に居住するもの極めて少し沙河城内及南門外の合計戸數は一般に一千戸と稱せらるれども余の調査せし所に



よれば約七百三十戸なり而して當地一家族は多きは十五人少きも五人同居するを見れば平均一戸八人の人口を有するものと見て沙河城内外の人口は六千人を越わざるべしと信ず。

### 第二節 衛生状態

當地の衛生状態も他都市と同じく不潔にして文明諸國の衛生状態と同日に論ずべからずと雖も龍口黃縣等に比して市街の美觀勝れるものあれば一見甚だ衛生状態佳良なるに似たり然れども一度城内の各地を巡視せんか各所に汚水滲溜し且つ城外に接して設られたる溝中にも泥水常に滲溜するを見る、夏時數多く堪へ難きものあり殊に飲用水の井戸は地上何等雨水の流入を防ぐべき設備なく且つ釣瓶の設備もなければ各自家用の水桶を用ひて汲水するの習慣あり桶に附著せる塵埃は井中にて洗滌せらるゝの状態にあり加之澡堂の設備不完全にして身體の汚穢なる云ふべからず然れども衣服は常に洗濯せられたる白衣を著し汚衣を著用するは苦力を除きては見るべからず。

### 第三節 居民の衣食住

居民の三分の二は皆辮子を垂れ自己生活に關係せざる一切の問題に關しては何等求めて知らんと欲するの研究的態度を有する者なく漢字新聞さへ讀まんとする者なく其心理状態の極めて單調なる實に憐むべきものあり。

衣服は一般に洋布即ち輸入綿布を以て裁縫せられ男子は普通夏時に於ては白色又は紺色を用ゐる女子は紺飛白の上衣に紺無地或は紺の褲子を用ゐる腿帶子は男子は主に黒色女子は赤、桃、藍色等を嗜好す秋季及春季にありては黒色絲羅緞、花羅緞を用ゐる冬季は裏に毛皮主に羊毛を著け或は綿入物を用ふるを普通とす今左に當地人が著用する春夏秋冬の各衣の價格を示せば

名	稱	使 用	布 疋	價 格
大	掛(衫)	藍色洋布或は洋紗(二四尺)		小洋五元二角
小	掛(衫)	紺、白、洋布、土布、葛布(六尺)		一吊四百四十文
褲	子	白洋布、白條布、紺洋布(六尺)		一吊三百文
汗 被	衫	洋 布(二尺八寸)		不 詳

北部山東省經濟事情

汗衫 莫大小

不詳

春秋用衣

名稱	使用布疋	價格
夾大掛	絲羅緞及藍色布(四尺)	十二吊八百文
夾小掛	同上(上六尺)	四吊一百二十文
夾褲子	絲羅緞裏地藍色布(六尺)	四吊一百二十文
夾馬掛	同上(上六尺)	四吊一百二十文
夾套褲	花羅布裏藍色地布四尺	二吊三百文
夾坎肩	絲羅布裏地藍色布四尺	二吊一百文

冬季用衣

名稱	使用布疋	價格
皮襖	用布は秋春に同じく裏に羊毛を付	五十吊文
小襖	同上	二十五吊六百文
皮馬掛	同上	二十五吊六百文

皮褲子	同上	二十五吊六百文
皮坎肩	同上	十七吊文
皮套褲	同上	十七吊文

以上の外冬物としては裏地に羊毛を付するに替へて綿入物とするものも多けれども價格は何れも十吊内外のものなりとす。

食物としては高粱、包米、小米の食せらるものなきに非ずと雖も常食とさるものは粟飯頭にして副食物としては肉類、魚類、野菜類とす。

食事は家に依りて異れども一日三回或は二回を以て普通とす。家屋は他地方支那人の住宅と何等異なる所なければ之れを略す。

#### 第四節 起居の状態

毎朝未明に起き食事終れば商戸は店頭に出で農夫は耕地に出で自己の定まれる職業に従事し婦女子は家にありて家事を辦し其傍ら寸暇あれば麥稈真田の編造に従事し夜は又一家打揃ふて麥稈真田を編み十時或は十一時に至りて寝に付くを常とす。



## 第二章 金融

### 第一節 流通狀況

沙河に流通しつゝある貨幣は硬貨及紙幣の二種なり。

硬貨は元寶銀、英洋(鷹洋)德洋(站人洋)北洋、小洋、銅元の六種にして紙幣は俄帖子(露國留布)老票(日本銀行兌換券)手票(日本軍票)中國銀行兌換券の四種となす。

元寶銀とは所謂馬蹄銀にして兩、錢、分等進十平數を以て計算するものにして一般に五十兩或は五十三四兩の重量を有する銀塊にして政府規定の品位を標準として流通するものなり又十兩或は十二三兩の重量を有する銀鏤又は尾銀と稱するものありて此地に流通す然れども之れ等は餘程大量の取引に非れば賣買上取引の用に供せらるゝ事極めて稀なりと云ふ當地の一兩は掖平兩にして曹平兩なる芝罘兩の百兩は掖平 九四・四六兩に相當し掖平一兩は芝罘兩一〇・五七五九強に相當するが故に掖平一兩は曹平とは〇・〇五七九強の差あり。英洋、德洋、北洋、小洋は何等地地方と異なる所なければも此所に一般に誤信せらるゝは德洋にして獨乙銀行が山東地方流通貨幣として特に製せしものゝ如く思はるれども其實然ら

ずして山東地方にて德洋と呼ばれるものは站人洋なる別名を有する香港圓銀なり。

俄帖子とは露國ルーブル紙幣にして大帖、中帖、小帖の三種に區別せられ大帖とは千留、百留紙幣を云ひ中帖とは五十及十留紙を指し小帖とは五及一留の紙幣を稱す、芝罘、龍口等の如く帖子の流通を多き地方に於ては之れ等三種の區別に於て銅元との相場各異れりと雖も當地に於ては大中帖子何れも殆んど大差なき相場を以て賣買せられつゝあり。老票、手票は其流通極めて少くして相場も銀洋と同一の相場を以て賣買されるれども數に於て有無を疑はるゝ程尠ければ當地流通紙幣と見る能はざる憾あり。

中國銀行票も流通極めて稀なり今其種類を記すれば百圓、五十圓、十圓、五圓、三圓、一圓とす。

制錢の通貨としての價値を失墜してより當地取引の根本即ち強ひて云へば沙河及び其他山東地方にて貨幣の本位として通用するものは銅元なりとす。

### 第二節 貨幣計算法

銅元の計算法に二種あり一つは大錢にして一つは京錢なり。

大錢は芝罘及山東の半島部に於て行はるゝ計算法にして銅元一箇を舊來の制錢十文に相當せしむるものとして一千文即一吊文は銅元百箇と規定するものなり。

京錢とは黃縣以西に於て行はるゝ計算法にして沙河も勿論京錢法を採用す京錢は銅元一箇を當制錢二十文として計算し一千文を以て一吊文となすの習慣は大錢法と異ならずと雖も京錢一吊文は銅元五十箇に相當するものなり。

今沙河地方に於ける賣上の價格は殆んど全部此の京錢法を以てせらるゝ吊文建なり銅元五十箇を以て一吊文とするは京錢の規定にして元來之れに依りて市價は定めらるべきものなるも永年の習慣として或數を減じて以て一吊文と呼ぶの方法行はれつゝあり然れども洋貨即ち外國品は全部一吊文は當銅元五十箇として計算せらるゝ習慣にして之れを滿錢と稱す滿錢は又足錢と稱せらるゝ事もあり。

貨幣の賣買に於ては二千文より十二文を減じ九百八十八文を以て一吊文とす即ち之れを十二底錢と呼び銅貨四十九箇と制錢四箇とに相當するものなり其他と雜穀及び土産貨物に對しては一千文中より二十文を減じ九百八十八文即ち銅元四十九錢を以て一吊文と數ふるを常とす之を九八錢と稱す。

上述の如く規定の銅元五十箇より或數を減せしものを串錢と云ひ減せらるゝ數を底子と稱す。

### 第三節 貨幣相場

前節の如き事情なるを以て貨幣の相場は何吊滿錢何吊有底子として決定せらるべきものにして一般物貨の相場に於て滿錢なる語なき時は九八錢を以て二十文の底子付きなりと知るべし。

大正五年七月二十五日及同月二十九日に於ける當地各貨幣の相場を示せば

名	稱	七月二十五日相場	七月二十九日相場
寶	銀	四吊零六十五文	三吊八百六十五文
帖	子	一吊六百四十文	一吊五百文
英	洋	二吊六百六十文	二吊八百六十文
北	洋	二吊四百文	二吊六百二十文
德	洋	同	同上





小

洋

二吊一百文

一六

二吊一百文

今左に票の相場を示せば

名 稱

七月二十九日相場

日本銀行兌換券

二吊六百元

日本軍票

二吊五百文

中國銀行兌換券

二吊八百六十文

以上の相場は勿論十二底錢の底子を有するものなり普通底子と云へば十二文即六箇錢なりと心得べし上述九八錢とは底子を意味せずして一吊文を九百八十文と計算するを習慣上の名稱なりとす。

底子は六百文以上なる時は十二文即ち六箇制錢を減するも五百文以上五百九十九文迄は六文三箇制錢を減じ五百文以下には底子なるものなしと知るべし。

當地の貨幣相場は他の開港地又は開市場の如く毎日變化有る事なく毎月六回三八の日に於て商務總會に有力なる商人集合して芝罘電報に依る芝罘貨幣相場を基礎として銅元に對する銀の相場を決定するものなり故に三日より八の日に至る銀の相場は一定不動のものなり

り然れども英洋以下の貨幣相場は需要の多少によりて常に變化し寸時も停止すべからざるものなれば毎日相場は異なるものなりと知るべし。

然れば各商舖は沙河の貨幣相場(行市單)の發行せらるゝなきを以て常に芝罘貨幣相場表を座右に備へ以て貨幣相場の變動を知り自家相場の決定の助けとなす。

上市、毎月六回三八日に於て商會に集合し銅銀の相場を決定する者は商會員たることを要するものにして此の相場の決定せらるる集會は即ち銀と銅との賣買を意味するものにして之れを銀市と云ひ銀市に參加するを上市と云ふ上市する人は賣買に於て現錢受授をなさずして記帳決済をなすの權利を有す。

#### 第四節 取引慣習

商慣習として特筆すべきは底子と九八錢なり底子は貨幣の換算相場に於て用ゐらるゝものにして制錢六箇を一千文より減する方法なる事は已に金融の項に於て述べたるが如し九八錢は主として糧食物及洋火、薪、木材、大量麥稈真田、牛皮の賣買又は果實野菜等の賣買に於て常に用ゐられつゝあり。



現金、掛賣、先物等も行はれつゝありて先物の如き一定の期日ある事なくして賣買當事者が相談の結果決定するものなり大量掛賣に於ては清賬(決算)期なるもの僅かに年末一回なる當地の事なれば定まりたる規定なく雙方の協定による清算決済の日違ければ高價を支拂ふものゝ如し。

貸借の場合に於ける利息は商會の銀市に依りて決定せらるゝ利率に依るものとす。

其他銀の買買に對して跑街錢なる名稱存す芝罘に於ける抹兌と似て而も非なるものにして銀を買ひ入れたる甲が現錢を支拂ふ事なくして後刻支拂を約し錢の工面をなすべく各商家を歴訪し午前八時及十一時午後四時及八時に鳴らす保衛團の喇叭の音を聞ける時訪問を受けし者其全部を貸し與ふるの習慣なりと雖も如何なる意味に於て行はるゝものなるや余は未だ深き研究を積まざるを以て茲に詳述し難し。

第五節 金融機關

沙河には新式銀行なく金融機關としては錢莊の存在するのみ、沙河近郷には豪家たる張家杜家の居住するあり何れも一千萬兩に近き財産を所有し張家、杜家共に一大郷村をなし各

自家守護の任に當る守衛兵を有し自費を投じて財産の安全を保障する方法を取りつゝありて各人口五百乃至六百を有する大家族にして青島、濟南、天津、芝罘、沙河、上海等に商舖を有し當地方金融界の一大權威たり。今沙河に於ける錢莊業者を上ぐれば下の如し。

名	稱	備	考	名	稱	備	考
瑞祥	公	老街にあり		裕和	興	棉花市街にあり	
會聚	租	老街にあり杜家の所有に屬す		萬順	堂	同上	
聚聚	租	同上		恒順	永	同上	
義聚	永	同上		萬聚	棧	同上	
通聚	永	老街にあり張家の所有なり		永順	祥	老街にあり	
通聚	棧	同上		永昌	祥	同上	
通聚	棧	同上		乾和	棧	同上	
福聚	棧	同上		永祥	棧	同上	
世慶	源	老街にあり		公昌	隆	同上	
永豐	公	同上		洪順	祥	同上	



恒 成 和	老街にあり	德 和 永	棉花街にあり
和 聚 信	編子街にあり張家の所有なり	義 和 亭	同上
和 聚 福	同上	復 春 堂	木貨街
政 益 公	棉花街にあり		

### 第三章 交通運輸機關

沙河は四十支里の地に海港虎頭崖を控ゆれども通運に利用すべき大河なく純然たる内地市場に過ぎざれば交通運輸機關としては北支那特色の車馬あるのみ。

土地は概ね平坦にして南東四十支里を隔てて一條の山脈東南より南西に走れども道路は此間を縦横に通じ夏時雨季に際して道路溼惡を極むる以外に於ては通行に不便を感ずる事なし唯其運輸機關が文明的ならざるを以て敏活を尊ぶ商業者には常に其缺陷を感せられつゝあり。

#### 第一節 運輸機關

運輸機關は車輛、馬、騾、驢等に區別し得べし車輛は大車、小車の二に區別す大車とは馬及牛に依つて運用さるゝ荷車にして其の大部分は馬に依るものなく大車も大小種々あれども當地に於ては大なるものは五頭を以て牽引するも小なるは三頭を以て牽引す價格は大なるもの百圓内外小なるも八十圓内外にして多くは濰縣に於て製造せらるゝものなり故に馬五頭と車輛とを合算する時は最優良馬を用ゐて一千兩の資本を必要とすと云ふ然れども普通に於て二百兩乃至五百兩の間にあるものゝ如し大車の積載量は最大量二千支斤、最小量一千斤とす。

小車とは一輪車にして男子一人にて推運するが一頭の驢馬に牽引せしめ且つ人自から推運するものにして一車積載量は三百五十斤内外なり。

騾及驢も一頭百五十斤乃至二百斤を駄送し得るものにして遠路少量の荷物にして敏活を要するものは多く騾或は驢によりて運輸さる尙騾及驢は乗用に供せられ車輿と共に内地旅行用として缺ぐべからざるものなり。

以上の外輪車と稱するものあれども之等は何れも豪家が自家の乗用として使用するものにして一般交通の用に供せらるゝものに非ず。

大車、小車、騾、驢は農家の所有にして農耕の期に至れば各農作使用するものなるが故に農繁期に於ては運輸機關として能力を發揮する能はざる多し。

### 第二節 棧房

棧房は一種の客舎にして大車、騾、驢等の運輸機關に依る貨客は何れも一先づ棧房に入るを普通とす、棧房は客人用の房間を設備し且つ荷貨を預かるべき倉庫の備へもあり運輸機關たる車馬の宿泊するを得る一種極めて便利なる制度なれども客室の不完全なる事到底想像の外に出づ棧房は即ち運輸機關の集合する場所なるを以て一見運輸業者支配所たるの感あり。

棧房は物品賣買の仲介をなし運賃の立替拂ひをなすものにして場合に依りては貨物代價の立替もなす事あり然れども當地に於ては唯運賃の立替拂ひをなすに止り他の賣買仲介貨物代價立替拂ひの如き極めて少し。

### 第三節 運賃

農繁期及雨季等の如く運輸機關の減少及交通不便なる時に於ては運賃最も高く冬季の如く交通便利にして繁忙ならざる時は最も低價を以て運輸するを得今陰曆七月に於ける各地間の運賃を調査せるに運賃は何れも斤を以て論定せられ一斤幾何總量幾何と記入せられあるを見る。

以下は各地方より送貨せる發票に依れるものなれば確實に近からん。

自芝 罘 至沙 河	三百五十四支里	一斤に就き銅元二箇
同上海路虎頭崖に至る	約六百海里	一斤に就き銅元一箇半
自沙 河 至平 度	七十支里	一斤に就き銅元一箇
自沙 河 至濰 縣	百八十支里	一斤に就き銅元一箇半
自龍 口 至沙 河	二百〇四支里	一斤に就き銅元一箇半
自沙 河 至虎頭崖	四十支里	一斤に就き制錢七箇

なりとす。

### 第四節 貨物運送に關する慣習

貨物運送に於ては各發票を用ふる事彼等の習慣なり發票は一種の誓約書にして且つ又送貨單を兼ねるものとす。

送貨に際して脚夫即ち運輸者と發送人とは此の票に記載せる約束を固く遵守するの契約をなし貨物の安著を保障せしむるものにして此の發票と貨物とは荷受主に引渡さるゝものなり。

貨價單とは送貨の價格を記載し買主に送附するものにして極めて簡單なるものなり。

發票には貨物總斤量及一斤に對する運賃及運賃合計を記載し尙ほ前渡運賃額未拂運賃額及脚夫の責任義務を記載せるものなり今試みに發票を記して参考に資せんとす。

今著 某々脚夫發去

某品何箱、共量何斤、一斤銅元何箇、總費何吊何百文、言明脚力銅元何千何百何十文

當交銅元何吊下缺脚力銅元何百文訂明送至龍口交卸收貨無弊清付其貨路途倘有短少水

濕磨破等情有脚戶照卸地市價賠補此據

何某實號驗收

何年何月何日

沙河某字號

斯の如くして送貨の際は自家の常に備ひつけ脚戶を以て送貨するを以て途上不慮の盜賊等に相逢する災難を除きては常に貨物の安全を保護し得るに近し。

今之等運輸機關の一日の行程は略次の如し。

大 車 百里内外 驛 及 驢 百三十里内外

小 車 七十里内外 車 與 百二十里内外

### 第四章 商 況

沙河は昌邑平度萊州府(掖縣)より略同一の距離にあり且つ之等地方の特産物として多額の輸出をなしつゝある麥稈真田の集散市場なるが故に商業比較的繁盛を極め龍口、濰縣共に北山東の商市として知らる。

#### 第一節 輸出品

沙河及附近より沙河商人の手によりて輸出せられつゝあるものは左記の如し。

麥稈真田、生牛、牛皮、猪毛、鶏卵

以上の中麥稈眞田及生牛、牛皮は已に世人已知の物産なれども猪毛鶏卵の如きは市場に於て之れを見る能はず且つ牛皮、猪毛は夏季には殆んど出産なくして秋冬の候にあらざれば調査極めて困難にして現在にありては殆んど詳細を知るべからず麥稈眞田も沙河に於て製せらるゝものは極めて少額にして殊に一度家庭の手内職として婦女子の手に製せられたるものは郷村に運び去られ編歴と稱する麥稈眞田整濟所に於て荷造り發送するものなれば當地商人と雖も其總輸出量を確知する者なきを以て之等輸出品については次回に報告する所あるべし。

### 第二節 商業範圍

沙河は他開港地の如く廣大なる商業勢力なく僅かに萊州府(掖縣)管下の牟平平度縣、昌邑縣の一部を有するのみ但し沙河は山東三開港地の移入地たるに過ぎざればなり然れども此等の地方は土地物産にして輸出品たるもの甚だ多く各民家の家政他地方に比して富有なるものありて輸入品の販路も甚大なるものあるを見る。

### 第三節 趕集

山東各市鎮店には概ね趕集と稱する市の開かるるあり趕集は一名之れを集と稱し集の大なるものを會と云ふ。

趕集及び會は毎月規定の日を限りて行はるゝものにして各鎮店の集は月の何々日として決定し居るものゝ如し何れの集も會を加算して毎月六回宛開催されつゝあり。

萊州府の如きは殆んど毎日集開かれありと云ふを得べきも特に世人に知られたるは同じく月六回なり。

沙河の趕集は毎月三、八日の六回にして初八日の集は之れを山會と稱し他の五回に比して物貨の集散すること大なるものあり殊に山會には牛、馬、驢、騾、大車の集まるもの多くして山會の牲口市は初八、九兩日に渡る山會市場に於て見る家畜の數を列記すれば毎日

牛 二百頭 馬 二千頭(騾驢は馬と合算せり)  
猪 三百頭 大車 五百輛

とす山會に集まる馬は全部牝馬にして牛の總てが牡牛なるを見れば實に不思議の感に勝へ

ざるものありと雖も使用家畜として驟の最も好まるる當地方に於ては當然の事と知るべし  
尙ほ牛は其幼牛が當地産に非ずして他省より移入され山東に於て養育されつゝある所以を  
窺ふに足るべき一材料たらん。

當地初八の山會にして最も有名なるは陰曆四月及び十月の山會にして遠く濰縣、黃縣等の  
商人をも來集せしめ得るものなりと云ふ。

而して現今濰縣地方の革命擾亂及び平度縣内馬賊(紅髮)の出沒が大なる影響を波及し城  
門の警戒頗る嚴重を極め殊に趕集に際しては各門を閉鎖し東南二門を半開するのみなり而  
も城内趕集に到らんとするものは東門より入りて南門に退出し催亂的行ひあるべからずと  
諭告し進退出共に東、南門に於て看門兵の誰何を受くるの狀態にありと雖も尙ほ五萬以上  
の鄉村民來集するあり以て沙河趕集の盛大なる二年を知るべし。

#### 第四節 趕集に關係ある鄉村

今平常沙河鎮の得意客たるべき四十支里以内に於ける鄉村及び之等地方に於ける重なる趕  
集開催の日を記すれば左の如し。

名	稱	距當地より 離	人 口	集	備 考
岳	西	二	五〇〇		
雷	西	四	三〇〇		
寨	里	七	一五〇〇		
窪	邱	一四	二〇〇	一、六の日	
土	山	一九	五〇〇	四、九の日	
津	家	一九	二〇〇		
海	滄	三〇	五〇〇		
西	家	五	九〇〇		
登	村	七	四〇〇	五、十の日	
北	庄	一〇	六〇〇	二、七の日	
皂	裡	一五	二〇〇〇		
婁	家	一八	七〇〇		
楊	家	二	五〇〇		
劉	家	五	五〇〇		
珍	珠	七	一〇〇〇	二、七の日	



神朱軍卞趙張徐索津因催大白柞鄭高趙國  
 堂馬營家家家家家家家家家沙閣村村村  
 家

三六  
 三〇  
 五五  
 五六  
 六五  
 七六  
 七八  
 八八  
 八九  
 九〇  
 一〇  
 一五  
 三〇  
 三三  
 三三  
 二二  
 四二  
 七四  
 八七

八〇〇  
 二〇〇〇  
 五〇〇〇  
 九〇〇  
 八〇〇  
 七〇〇  
 三〇〇  
 三〇〇  
 三〇〇  
 九〇〇  
 九〇〇  
 八〇〇  
 五〇〇  
 五〇〇  
 二〇〇〇  
 三〇〇〇  
 二〇〇〇  
 二〇〇〇  
 二〇〇〇  
 三〇〇〇

海邱古高楊東候玉原應消呆祝姚于大小  
 路 古 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家  
 鎮 巷 村 宋 家 家 家 庄 村 家 溝 家 村 村

二八  
 二八  
 二二  
 二七  
 二〇  
 一八  
 一八  
 一五  
 九  
 八  
 六  
 五  
 三〇  
 二〇  
 二二  
 一一  
 〇  
 八

五〇〇  
 四〇〇  
 三〇〇  
 七〇〇  
 五〇〇  
 四〇〇  
 九〇〇  
 八〇〇  
 四〇〇  
 五〇〇  
 六〇〇  
 八〇〇  
 三五〇〇  
 二〇〇〇  
 六〇〇  
 四〇〇  
 五〇〇  
 五〇〇〇  
 一、六の日



子買楊新杜山大灰國驛油蔣曲城王小大鄭  
 家 家 平 瓶 家 古張庄  
 屯家庄河埠埠庄埠裡堂庄家庄子庄家子家

一五 一四 一二 五〇 四〇 三〇 二〇 二〇 一四 一三 一三 一〇 八 二五 一八 一七 一五 一三

七〇〇 七〇〇 六〇〇 三〇〇〇 五〇〇 四〇〇 一五〇〇 七〇〇 八〇〇 四〇〇 五〇〇 三〇〇 五〇〇〇 九〇〇 六〇〇 七〇〇 六〇〇  
 四、九の日 五、十の日 二、七の日 一、七の日 四、九の日

古廟には人家なし

元邵石李苗界庄夏益焦長沙丁米埠史戰新  
 柱 邱王家  
 上家子家家山子舖家庄樂嶺家家子埠家庄

一三 一五 一五 二〇 〇 八 二五 二五 二五 二五 二五 二〇 〇 〇 九

五〇〇 六〇〇 五〇〇 四〇〇 八〇〇 九〇〇 四〇〇 三〇〇〇 八〇〇 四〇〇 三〇〇〇 三〇〇 八〇〇 六〇〇 四〇〇 五〇〇 五〇〇 四〇〇  
 四、九の日 一、六の日 四、九の日

人口合計	呂家集	洋家窪	韓家	邱家	紅廟
	一五	一八	一六	一四	二五
	八八二〇〇	一〇〇〇	九〇〇	六〇〇	五〇〇
					九〇〇

以上の外尚ほ調査洩れの地もあれば沙河及附近に於て約十萬の住民あるを知るべく沙河商店の重なる銷路は其中六は此等住民にありとす。

第五節 主要なる商舖

沙河に於ける商品の賣買は毎月六回の趕集の外極めて少量にして各商舖一年間賣買額の過半は趕集の賣上高にして平日に於ては門戸を閉關して極めて閑散の日を送り洋雜貨類の外は賣行なしと云ふも過言に非るに似たり然れども趕集に於ては比較的來集人員少き夏季に於てさへ殆んど吃飯の暇さへなき有様なり今左に其重なる商舖を列記すれば

字號	種類	所在地	備考
德興隆	洋布正貨舖	木街	
公順和	雜貨舖	同上	
聚盛棧	雜貨舖	同上	
華豐祥	雜貨舖	同上	
復春堂	藥舖	同上	
恒成永	石油舖	同上	
恒成永	雜貨舖	同上	
德順昌	雜貨舖	同上	
永興昌	雜貨舖	同上	
永興昌	雜貨舖	同上	
福盛同	錢舖	同上	
義和祥	雜貨舖	同上	
天和同	雜貨舖	同上	
仁盛同	雜貨舖	同上	
聚和成	雜貨舖	同上	

英、米、煙草及勝家公司は代理販賣を兼ね沙河第一の文明的商舖也

美孚公司の代理販賣店

恒	萬	裕	中	萬	恒	瑞	東	德	同	德	義	永	天	政	源	德	恒
興	和	和	和	聚	順	祥	春	源	興	聚	成	昌	福	益	裕	和	興
同	堂	順	興	棧	永	同	堂	祥	和	興	公	棧	堂	公	興	永	同
雜	錢	雜	雜	錢	錢	油	書	時	雜	雜	雜	藥	錢	雜	錢	雜	
貨	行	貨	行	行	酒	計	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	
藥	錢	茶	茶	茶													
舖	舖	行	舖	庄	行	舖	舖	舖	舖	舖	舖	舖	舖	行	舖	行	舖
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	魚
									花								市
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

參祥、真田、牛皮の取扱しなす

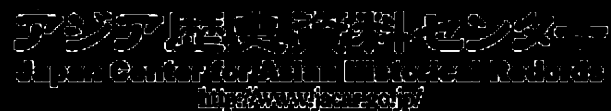
益	聚	會	天	福	榮	德	德	恒	松	德	福	福	啟	福	和	和	洪
	成	慶	茂	聚	盛	順	鶴	成	聚	興	興	和	聚	聚	聚	聚	
和	和	和	祥	祥	恒	祥	公	祥	堂	昌	永	祥	昌	成	福	信	德
同	上	錢	同	酒	布	茶	布	布	藥	洋	同	雜	茶	布	同	錢	布
										油	貨						正
上	上	行	上	舖	舖	庄	舖	舖	舖	舖	上	舖	莊	正	上	行	舖
同	同	老	同	同	同	小	小	同	同	同	同	同	同	同	同	同	編
							狗	狗									子
							市	市									市
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

同 上

同 上の杜家の所有にして參祥、真田、牛皮の取扱あり

美孚公司代理店

同 上 沙河近郷富泰家の所有



源	通	通	福	長	長	世	永	東	昶	瑞	永	乾	通	永	云	洪	恒
裕	聚	聚	聚	春	春	慶	豐	和	祥	昌	和	聚	聚	聚	昌	順	成
號	永	棧	棧	棧	棧	樓	源	云	棧	記	公	棧	棧	棧	隆	祥	和
雜	錢	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨
舖	行	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
老	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
街	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
	張家所有にして麥稈、眞田取扱	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	東亞煙草代賣店	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	亞細亞公司代賣店	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	張家の所有にして牛皮、麥稈、眞田の取扱をなす	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

和 聚 昶 石油 雜貨 魚 市 街 亞細亞公司代賣店

以上の店舗は何れも七八萬兩以上百萬兩内外の資本を有す二三の合資組織の商舖を除きては多く附近郷村の子弟に依りて經營せられ富豪の所有其の大半を占む青島、天津、芝罘、龍口、上海、濟南、大連、漢口等繁華なる地に支店を有するもの多し。以上の外飯館子、鍛冶工、理髮業、運輸業、小賣雜貨舖等何れも十數軒を數ふれども資本の大なるもの少きを以て略す。

### 第五章 主要輸入品

#### 一、棉絲布

##### 一、輸入經路

沙河綿絲布の輸入經路は時に依りて一定すべからずと雖も青島より汽車にて  
 濰 縣 沙河より一八〇支里  
 丈 嶺 沙河より一四〇支里



藍 村 沙河より一八〇支里

等の各地に運送し其れより陸路大車、小車、馬等の運輸機關を利用するものと芝罘龍口より陸路直送するか海路虎頭崖に直送し之れより陸運するものに限られたり輸入數比例の如きも現時に於ては青島經由の方安價なる爲め過半は青島より移入せられつゝあり青島綿絲布の芝罘物に比して安價なる理由は種々あらんも青島は現金取引にして芝罘は一箇月拂の期賣なるを以て買入れ價格に於て安價なりとす即ち一箇月間の利息を自己の利益計算に算入する事をなさずして一見青島物の安價なるが如くに思ふが故ならん。

尙芝罘と龍口とは距離に於て約二百支里の差あるに係らず綿絲布が龍口品と芝罘品とを比較して一と三の割合を以て沙河に移入されつゝあるは從來沙河、芝罘間の取引關係上其情勢に依るものあらんも沙河商人の言を聞くに龍口は開埠久しからず商業未だ不振にして貨少く價高きを以て芝罘より移入するを得策とすと云ふ今上述三港經由沙河に移入されつゝある綿絲布の比例を見るに

- 青島より 六
- 芝罘より 三

龍口より 一

なりとす。

二、運賃

運賃は運輸機關の繁閑、雨季等に於て異れども普通次の如し。

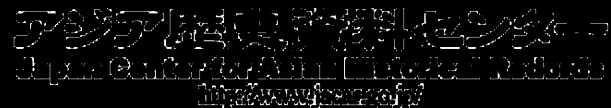
自青島至沙河	每大俵一俵	銅元	五百枚
自龍口至沙河	同	銅元	四百八十枚
自芝罘至沙河	同	同上	五百七十枚
自芝罘至沙河海路	同	同上	四百八十枚

青島、沙河間に於ては最高運賃一斤に對して銅元四十二枚を要せし經驗もありと云ふ然れども一般に上記運賃を以て妥當のものとする。

芝罘虎頭崖間の海路は多く之れを帆船に依るものにして到着遅緩するの憂あるを以て急を要するものは陸路によるを常とす。

三、需要狀況

沙河に於ける綿絲の需要は秋冬の候に多くして夏季に於ける需要の約二倍半に増加すと云



ふ之れ即ち冬季に於ては家庭一般に閑散にして家庭工業として土布の製織せられ市場に出づるもの多き所以なりとす。

綿布は夏季衣服用として主要なるものにして春季に於ける需要最も大なり勿論秋冬の候に於ても棉入物衣服用として下級社會に於て用ゐらると雖も春季に於ては約三倍の需要を増加すと云ふ之即ち夏季に於ては當地上下社會を通じて白衣を好み且つ洋布の價安價にして品質よき爲めなり。

沙河に於て最も需要多きは日本綿絲布にして彼等の所謂粗布粗洋線なり少量の印度綿絲及少量の英國産粗布、上海産粗布、大尺布の外は全部日本産なり日本産及支那外國品とを比較せば

綿 絲	日本品	九	外國品	一
綿 布	日本品	七	外國品	三

四、輸入總額

沙河に於ては輸出入品總額を知るべき統計なければ確實なる計數を上げること甚だ困難な

れども毎趕集に市場に表はるる綿絲布の賣上高及び各大商舖に就いて調査せし所を總合する時は略々其實數に遠からざるものを得べし。

今沙河に於ける輸入綿絲取扱店は十家にして毎趕集平均十八俵の大袋を販賣するを見る沙河の趕集は一年七十二回なるを以て一年一千二百九十六俵の賣上高あり大俵一俵の平均價格は目下九十八兩なるを以て一年總輸入額は十二萬八千兩となる。

綿布は毎趕集賣上平均五俵(一俵二十疋)なるが故に一年約三百六十俵七千二百疋とす一疋の價格は平均三兩半を最低となすを以て二萬五千二百兩に達す。

以上の外尙ほ外國製晒金巾及芝罘にて加工せられたる染色布、日本染色布、日本緞子、日本金巾の輸入され賣行良好なるものあり之れ又年額約一萬兩の輸入あるを見る故に沙河一年間綿布の總輸入額は三萬五千二百兩に達す。

沙河綿絲布の一年間の需要高約十六萬三千二百兩にして當地輸入品の大宗と云ふべし。

五、重なる輸入綿絲布の種類及價格

綿 絲

(民國五年陰曆七月二日に於ける當地綿絲布の行市に依る)

名稱	番手	單位	價格	國別	重量	備考
藍魚紗	右十六	大俵一俵	九八〇	日本	三百二十斤	大部分は青島經由にして實行 其實行良好
扇面紗	同	同	九七〇	同	同	同
花叶紗	同	同	九五五	同	同	同
三馬紗	十六手	同	九五〇	日本	同	芝罘經由大部分を 占む
雙虎紗	同	同	九三〇	日本	同	同上
水月紗	二十手	同	九八〇	上海	同	同
福島紗	同	同	一〇三五	日本	同	實行良好
五字紗	同	同	一〇二八	不詳	同	實行良好
日鳥紗	同	同	一〇二七	日本	同	實行良好
立馬紗	十六手	同	九三五	日本	同	實行良好
下村紗	同	同	九三〇	日本	同	實行良好
雙鹿紗	同	同	九五〇	日本	同	實行良好
日出鶴紗	四十六手	同	九三〇	日本	八支	實行良好
吉字紗	四十七手	同	一一一〇	日本	同	實行良好

以上の表に見る如く沙河に於ける日本綿絲の賣行きは甚だ良好にして恰も旭日昇天の勢あり

り市場は日本綿絲獨占と云ふも又過言に非ず一つは青島經由に依り安價なる供給を受くるが爲めなりとは當地商人の言明する所なれども日本品が支那人の嗜好に適應せるが爲めなる事疑ふの餘地なし。

綿布

當地に最も需要多きは粗布にして大尺布之に次ぐ。

今當地に移入さると重なる綿布及價格を表示すれば左の如し。

名稱	重量	價格	單位	長さ	幅	國別	備考
九龍粗布	八	三六〇	一疋	四〇	二六	日本	價格安價にして實行良好 一名飛龍と云ふ
龍頭粗布	八	三五七八	同	四〇	二六	同	實行良好
三圈粗布	四	一六〇〇	同	二四	不詳	同	實行良好
眼鏡標布	六	二六〇〇	同	二四	不詳	同	實行良好
三馬頭布	八	四五〇〇	同	四〇	二六上	海	實行不良
二馬頭布	八	四三〇〇	同	四〇	二六	同	實行不良
三鷹布	八	四四〇〇	同	四〇	二六	英	實行不良
條子布	八	二二〇〇	同	四七	二六	支那	實行普通

紺色粗布	八、五	五、七〇〇	一正	四〇〇	二、六	日本及外國	實行良好
模入粗布	不詳	三〇〇	一尺	四〇	不詳	支那加工品	同
金城紅標	四支斤半	三、五〇〇	一正	二五	二寸六分	日本	同
石榴紅標	同	三、五〇〇	同	二五	同	同	同
孔雀牌東洋緞子	不詳	一五、四〇〇	同	二五	同	同	黒色實行良好
同上紅色物	同	一五、四〇〇	同	二五	同	同	實行良好
同上桃色物	同	一五、四〇〇	同	二五	同	同	同

以上の外支那土産品あれども其賣行到底比較すべくもあらず自から日本布に驅逐されつゝあり之れ沙河が従前に比し住民の嗜好の向上せし結果にして殊に麥稈真田の家内工業に於て婦女子は一人平均三十筒銅元の収入を一日に得つゝありて女子の美衣に對する慾望と相俟つて日本綿絲布は現狀以下に低落することあらざるべし且つ一度信用せる商標は容易に他のものに代ふる事をなさざる保守的通用性あれば日本綿絲布の將來は益々其需要を増大するに至るべし。

今試に大連より龍口を經由して沙河に綿絲布を發送せんに大連の時價大俵一俵を百三十六圓とする時は

大連にて船積諸掛

小俵一俵

金 五 錢

大連、龍口間運賃

金 五 十 錢

龍口の荷上諸掛

銅元二十筒

龍口の通關料

銅元十筒

龍口海關稅金百斤〇、九五兩とする時は小俵一俵一、四九七兩

龍口海關稅を銅元に換算すれば三百筒なり

之れ七月八日に龍口相場により換算せるものにして大連龍口間の諸掛は小俵一俵約金三圓十錢とす。

大俵一俵龍口渡し相場は金百四十二圓四十錢に該當す。

金の相場を二吊八百文として銀に換算すれば大俵一俵は九十九兩六錢にして之れを沙河に送達するに約二兩六錢の運賃を要するが故に沙河到着一俵の價額は百〇二兩三錢なり。

二、煙 草

一、移入狀況



煙草は支那産葉煙草の趨集に表はるゝものあれど大部分は濰縣を經由して移入されたるものなり沙河市場に毎度表はるゝ葉煙草は約三百斤にして十斤の價格約六吊なり故に每集沙河に表はる葉煙草は約百八十吊(四十五兩)内外なり故に一年間を通じて總移入額は三千二百四十兩なり以上の外に外國製卷煙草の輸入せらるゝもの極めて多額に達す。

外國製煙草は所謂紙卷煙草にして東亞、英米煙草の二會社製に限らる而も其需要狀態は英米煙草六、東亞煙草四の割合にして英米煙草は萊州平度方面に迄銷路を擴大し好く支那人の嗜好を刺激し需要益増加の勢を示せり。

東亞煙草及英米煙草は何れも當地に代理店を有し煙草の卸賣店として此等の代理店を除きては又他に求めて得べからず。

- 東亞煙草經理店 老街 長春棧
- 英米煙草經理店 木貨街 德興隆

長春棧は別に長春樓と稱する酒館を有し此所にも招牌を掲げ居れども發賣は長春棧に於てなすのみなり。

德興隆は平度縣、掖縣等に分店を有するが故に常に此等地方へ向つて煙草の輸送をなす。

二、移入經路

英米煙草は上海英美公司の製品にして上海より津浦鐵道に依り濟南に輸送せられ或は青島芝罘に輸送せられたるものと當地に輸入せらるゝ順序なり今其割合を示せば

- 自濟南過濰縣至沙河 五
- 自青島過濰縣至沙河 三
- 自芝罘過黃縣至沙河 二

なり。

東亞煙草は青島より濰縣を經由するもの芝罘より來るものと二と成す。

三、價格及種類

英米煙草

名	稱	一箱容量	一盒容量	一包容量	一箱價格	一包價格	備考
盜品	海牌	一〇〇	五〇	一〇	大洋 二九五	銅元 七	實行普通
		一〇〇	五〇	一〇	大洋 二三五	銅元 七	實行良好

北部山東省經濟事情

北部山東省經濟事情

農沙稱鷄同雙金	夫船人牌牌牌牌	刀花	牌牌牌牌
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
五	五	五	五
六〇	五六	六〇	九〇
一	一	一	七
賣行不良	沙河に賣行良好	崑崙方面賣行良好	萊州方面賣行良好

英米煙草は以上の外三樹臺の賣行き多少あれども之れ又計數少き爲め到底語るに足らざるなり。

東亞煙草

名	一箱容量	一盒容量	一包容量	一包價格	一箱の價格
錢立扇	〇〇	五〇	五	銅元	大洋 三二圓
龍樹子	〇〇	五〇	五	銅元	同 二四圓
ラ	〇〇	五〇	五	銅元	同

花帽樓兔	牌子牌牌	一箱容量	一盒容量	一包容量	一包價格	一箱の價格
スウイト	スウイト	五〇	二〇	二〇	銅元	同 一五圓
アンド	スウイト	五〇	二〇	二〇	銅元	同
ワイルド	スウイト	五〇	二〇	二〇	銅元	同

東亞煙草にして最も賣行良好なるものは立樹即ちコ、アにして兔之れに次ぐ樓牌、帽牌、花牌、スウイト、アンド、ウアイルドの如き市場小賣に散見するものにして長春棧に於て見ざるものなり要するに之等は賣行き良好ならざるものと見るを妥當とすべし。以上の外尙日本帝國專賣局製の星牌あれども下流社會の需要に適せざるが故に賣行き良好と云ふべからず價格は銅元六箇とす。

沙河に於ける東亞煙草の現狀は到底英米煙草の壘を磨する困難にして將來多少需要の増加を見るべきも英米煙草の勢力増進と到底日を同じくして論ずる能はざるの憾あり。

四、需要總額及運賃

煙草の需要は近年非常の増加を示しつつあるも其數量に至りては販賣業者の言を信するより外何等の參考なきを遺憾とす。

今兩徑理店に付きて調査せる結果と每趕集(市)に表はると賣上高とを合せ考査するに當地一年間の移入高は五萬兩に達するが如し運賃は何れも斤を單位とすること異なるなし。

### 三、燐寸

燐寸は當地市場の需要頗る多くして一年總移輸入額輕視すべからざるものあり、當地に於て常に市場に表はるとも其種類鮮少ならずと雖も其主要なるものを示せば左の如し。

名	稱	國別	價	格	容	量	單位	備	考
雙	獅	日本	一九	吊文	二四〇	包入	一箱	品質良好の評高し	
雙	子	同	一九	吊文	同	同	同	實行良好	
四	馬	同	一九	吊文	同	同	同	實行良好	
跑	馬	同	一九	吊文	同	同	同	實行良好	
雙	猿	同	一九	吊文	同	同	同	實行良好	
中	跌	同	二〇	吊文	同	同	同	實行良好	
象	不詳	同	一八	吊文	同	同	同	實行甚良好	
雙	龍	日本	二〇	吊文	同	同	同	實行甚良好	
雙	旗	支那	二〇	吊文	同	同	同	實行最良好	

### 輸移入徑路

沙河輸移入の燐寸は全部芝罘經由移入せらるゝものにして海路帆船に依るもの多きも又沙河商人が商用を帯びて芝罘に出で歸路手荷物として汽船にて虎頭崖に運送するものも少からず。

### 年總移輸入額

沙河の燐寸は一趕集の賣上げ高を百箱とす故に一年の總賣上高は約三萬五千五百兩とす。上表に見る如く沙河需要の燐寸は殆んど其全部日本製品にして何れも相當に實行きあるを見る。

### 四、石油

石油は全部美孚公司及亞細亞油公司の製品とす、以前大連より虎頭崖を経て日本石油の輸入されたることあれども到底英米二商會製品の敵に非ず現に其輸入は根絶の有様なり。

### 移輸入徑路

美孚油亞細亞油共に芝罘に一度輸入せられ海路虎頭崖を経て沙河に移入せらる。

### 需要狀況



當地は未だ電燈なければ各商舖民家共に洋燈に點燈するが故に其需要極めて多く現時に於ては缺ぐべからざる日用品として賣行き甚だ良好にして綿絲布と共に沙河の主要なる移輸入品なり而して最も需要多きは美孚公司製品にして年總額は亞細亞油公司製品の約三倍に達す。

美孚公司、亞細亞油公司共に各二戸の代理販賣店あり。

美孚公司代理店

恒盛永、德成昌

亞細亞公司代理店

和記、和聚和

にして美孚公司代理店は何れも石油専門の店舖なれども亞細亞油公司代理店は雜貨販賣を主とし石油は兼業として發賣するものなり今各商會の賣行良好なるものを擧げ其價格を示せば。

美孚公司品

名	稱	價	格	單	位	備	考
美孚	牌	一六吊	二百文	一	箱	賣行良好	

名	稱	價	格	單	位	備	考
虎	牌	一五吊	五百文	同		賣行最良好	
	牌	一四吊	八百文	同		賣行不良	

亞細亞公司品

名	稱	價	格	單	位	備	考
亞細亞	亞細亞	一四吊	二百文	一	箱		
備	備	同	同	同	同		

一年總販賣高

美孚石油會社製品は一年間二代理店に於て約一萬五千箱の賣上げ高を有し其總價格は五萬八千三百二十五兩に達す。

亞細亞石油會社代理店賣上高は一箇年僅かに五千箱に過ぎず總價格一萬八千兩なり故に一年間沙河市場石油の移輸入額は合計七萬六千三百二十五兩の多額に達す。

五、紙類



當地に移輸入せらるゝ紙は其種類は少からざれども最も需要多きものは左の二三種に限らる。

名稱	一色容量	一刀容量	價格	色	備考
安吉利元表紙	二四刀入	九五枚	每包四吊二百文	黄色	稍薄くして需要大なり
黄91尖紙	九一刀入	八十八枚	同 一四吊五百文	黄色	稍厚くして需要大なり
花藍洋尖紙	—	—	一刀 三吊五百文	藍黄	模倣入
花紅洋尖紙	—	—	同 二吊五百文	紅色	同
花黄洋尖紙	—	—	同 二吊五百文	黄色	同

移輸入徑路及年總額

安吉利元表紙及黄91尖紙は芝罘より移入せられ花藍洋尖紙は黄縣より移入せらる其年總額は確實ならずと雖も毎集の賣上げ狀況より見る時は一萬二千兩以上に達すべし。

六、砂糖

當地需要の砂糖は日本糖(臺灣糖)及香港糖にして別に冰糖の輸入もあれど今之を分類して

實數を上ぐることは頗る困難とす。

輸入徑路は全部芝罘より海路虎頭崖を経て沙河に移入せられつゝあり毎年總輸入高は一萬二千兩内外にして紅糖の賣行き最も良好なり今其の種類及び價格を示せば左の如し。

白糖

名稱	價格	重量	單位	一斤の小賣價格
尖白	六二吊文	一三〇斤	袋	四八〇文
奇白	五七吊文	同	同	四四〇文
白粉	五〇吊文	同	同	四〇〇文
白	五五吊文	同	同	四二〇文
四二五尖	同	同	同	四〇〇文

各種何れも號を以て種々に區別せられ複雑にして到底枚舉の遑なし。

紅糖

名稱	價格	重量	單位	一斤の小賣相場
一號	三六吊	百三十斤	袋	二八〇文



七、雜穀

沙河城外及附近鄉村の間は概ね耕地にして不毛の地は全くなければ本土産のみにては到底其消費に應じて供給する能はざるものありて毎年東三省各港より輸入せらるゝもの尠からず。

輸入徑路

雜穀の沙河に輸入せらるゝものは主として東三省産の雜穀なれば其輸入徑路は大連、營口、錦州方面より帆船に依りて虎頭崖に輸入せられ之れより陸路沙河に移入せらるゝものなり。

運賃は

輸出港より沙河に至るまで船戸に於て受負ひ運送するものにして輸出港より虎頭崖に運送せる船戸は責任を以て沙河まで送達し來るものなり虎頭崖より沙河迄の運賃は現時に於て一袋百三十斤入物普通四百四十文見當なり。

每趕集に表はるゝ雜穀

沙河市場に表はるゝ雜穀は即ち趕集毎に表はる數にして之れ等雜穀の用途は食用に供せらる物は鮮少にして輸入品の大部分は家内小工業として沙河近村に盛んに行はれつゝある油房、燒鍋、粉條子製造等に使用せらる今其主要なる用途及價格種類を示せば。

名	稱	價	格	單	位	一升の重量	趕集の出高	用	途
高粱	梁	八六〇	文	一	升	八斤入	四〇支那石	燒	酒
包米	米	九四〇	文	同	同	同	三〇支那石	食	用
麥子	子	九〇〇	文	同	同	同	五〇支那石	同	同
大豆	豆	九四〇	文	同	同	同	四五支那石	油	坊
綠豆	豆	九六〇	文	同	同	同	三五支那石	粉	條子
小豆	豆	三吊八百文	文	同	同	同	五〇枚	牛馬食用及肥料	子
餅	餅	二吊百文	文	同	同	同	一〇枚	同	同
芝麻	麻	同	同	同	同	同	少	同	同
黑豆	頭	同	同	同	同	同	二〇石	牛馬食用	用
合計	計								



以上は本年七月及八月の二箇月間の集市場に於て實見したるものにして各種其本地産穀類一市場に表はれたるもあるべく且つ季節に依りて需要の多少もあるべければ確實に春夏秋冬此の比例を以て見る事能はざるや明かなり殊に輸入雜穀の需要の多少は土地農作の豊凶に依りて決定さるゝ場合多ければ之れが總輸入額も年々同一の數を以て律する能はず然れども昨年度に於ける三穀物間屋の言に依れば四萬五千兩の輸入は確かにあるものゝ如し之れ沙河の穀物間屋たる三家の糧食店が何れも口を同じくして言ふ所なれば暫く此言を取つて一年總輸入額に近似せる數と信せんと欲す。

### 八、藥種

藥種にして最も銷路廣く當地方人に信用多く需要大なるものを國別に列記すれば。

#### 英國藥品

名稱	價格	單位	名稱	價格	單位
燕製除疾聖藥	三吊	一瓶	燕製引病出外藥	一吊八百文	同

燕製補血除蟲藥	一吊八百文	同	燕製補丸大盒	一吊二百文	一筒
燕製去風藥酒	同	同	同上小盒	三百六十文	同
燕製解血毒藥	五吊五百文	同			

名稱	單位	價格	單位	價格	名稱	單位	價格	單位	價格
兜安氏秘製保腎丸	每打	一四元	每瓶	一四元	兜安氏霍亂吐瀉藥	每打	七元	每號	〇七元
兜安氏秘製補血丸	同	七元	同	〇七元	兜安氏止痛水	同	同	同	同
兜安氏馳名名藥膏	同	同	每盒	同	兜安氏養生靈藥	同	同	同	同
兜安氏補肺聖藥	同	同	每瓶	同					

#### 支那製藥品

- 志仁堂雙層化積膏 四角 二枚入二色 男女氣血積聚、食積、心腹疼痛等に貼用す
- 志仁堂強種保元丹 大盒一元 小盒五角 一筒 健康濟
- 志仁堂神效鹿胎丸 二元 一盒 婦人月經不調其他一切婦人病豫防
- 同仁堂發賣藥品
- 牛黃清心丸 三角六分 每九 急症救治藥



蘇合丸	五角四分	每丸	急症救濟藥
五淋丸	三百六十文	每一兩	小便流自藥
白鳳丸	三百四十文	每丸	婦人調經藥
點舌丸	百二十文	每粒	中風不語藥
女金丹	三百六十文	每一兩	婦人調血濟
狗皮痞膏	四百六十文	每一帖	疔塊順氣救濟膏
蟾酥錠	三百八十文	每一錢	瘋犬及蝎に刺され又無名腫毒排除
蟾酥丸	二百四十文	每一錢	筋骨麻木驅濕藥

名稱	價格	單位	效能生治
壯筋活絡膏	四百文	每帖	筋骨の疼痛に貼用す
聖靈奪命丹	二百四十文	每包	胃疼藥
八寶麝香丸	二百四十文	每瓶	腫毒に效能あり
火煨明目散	六十文	同	眼藥

以上列記するものゝ外尙香港廣生行雙嚙子牌藥品の移入されたるものあれども何れも眼藥皮膚病、齒痛止、風邪藥にして其賣れ行きも大なるものなければ略することとせり。

日本製藥品

日本藥品の價格效能は世人已知の所なれば唯品名のみを記することにせり。

仁丹	健腦丸	薄荷錠	大學眼藥	薄荷腦
中將湯	白補淋丸	一掃光	白頭痛膏	金雞那霜
靈治水	毒滅丸	授毒膏	灰錠	山道年
鎂黃養	鎂黃養	石炭酸水	毛飛	開胸丸
光明水	龍王湯	紅白痢疾藥	咳嗽藥	令治水
靈治水	止咳散	次亞憐	癩藥	海典酒
活汁	順經復元湯	五福眼藥	白帶丸	止咳消痰散
癬疹藥水	頭痛定神膏	戒煙丸		

上衛藥品は各國品共相當に需要あるものゝみを計上列記せり。

現今最も賣行良好にして信用深きものは仁丹にして到る所雜貨店行商小賣人の販賣しつゝ



あるを見る而も口を極めて其靈藥たるを推賞し居れり。  
 賣藥にして最も買行大なるものは洋藥、支那藥の區別なく健胃劑、皮膚病藥、眼藥、下毒藥、瘡塊病藥、腹痛急治藥、婦人調經調血藥、戒煙丸等にして特に婦人病藥需要は甚だ良好なるものありて中將湯の如き賣行良好なり。

沙河藥品の輸入徑路

英國製賣藥は何れも上海より輸入せらるるものにして主として郵便にて十打内外宛直送されつゝあり、支那製品は奉天、北京、香港等より輸入せられ日本藥品は芝罘岡野回生堂、龍口東洋藥房等の輸送するものとす。

沙河の醫者及支那藥草

從前某醫學堂出身の洋醫ありて開業し名望技術共に名國手として好評を博せしが何地に去りて今は無し、尙ほ沙河唯一の國手としては舊式漢法醫の開業せるあるのみ。  
 醫者にして已に舊式漢法醫なれば沙河市内藥舖の藥品は何れも家傳的調劑に依る草藥舖なる事何等の不思議なき所なり。

九、雜貨

此所に雜貨とは主として洋貨及び之れに類似する支那製品なりとす、今其主要なるものを國別に示せば

日本製雜貨

名	稱	單	位	價	格	備	考
岡本製石鹼	一	打	〇、四五				
ポケット用ノート類	同		同				
扇面	同		一、六五		賣行良好		
一八號金鈴扣	一	打	〇、七〇				
二分燈	一	打	〇、一六		賣行良好		
四號猪咀石鹼	同		〇、一八				
二號白紗布	同		七、〇〇				
大號白紗布	同		七、五〇				
四號猪咀洋燈首	同		〇、六〇				
三號	同		〇、七〇				

北部山東省經濟事情

二號	一號	大號	黃合	五五	一五	七三	五七	鏡合	五寸	六寸	黃盒	大號	大號	綉花	彩花	真皮	白臺	福翁
木製煙袋	潤面油	號黑角煙咀	號琥珀煙咀	號黑點翠煙咀	號黑角煙咀	號黑角煙咀	號黑角煙咀	牙刷	銅邊鏡子	銅邊鏡子	金水	寶白粉	輕鐵鍋	花毯子	石鹼盒	票色布	臺布	細邊代領汗衫
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
打														打床	打床			打床
一、二〇	〇、六五	〇、四五	〇、四五	〇、五〇	〇、五五	〇、四〇	〇、四〇	一、五〇	一、七〇	二、五〇	〇、六五	〇、四〇	一、五〇	〇、五五	一、七〇	一、〇〇	一、二〇	
		煙草の吸口												實行甚好				

高翁椒地代領汗衫	座	鐘	筒
一	同		
			一、四〇
			三、五〇

此他吊洋燈及び燈芯、コーヒー用陶器コップ、皿、フォーク、急須、牙刷子、鉛筆、石筆石板等の賣れ行きも甚だ良好なり要するに現今日本雜貨は價格安價にして需要増大の傾向を示しつつあり。

支那製雜貨

名	稱	單	位	價	格	備	考
一三號	寶星毛巾	每	打		〇、七五		
一二號	加市綬帶	每	打		〇、一六		
仙鶴牌	石鹼	每	打		一、一〇		
老虎牌	牙粉	同			〇、七五		
三星	牙粉	同			〇、九〇		
應牌	石鹼	同			〇、九〇		
英印	牙粉	一盒	打		〇、六〇		
二號	洋爐子	一	套		二、五〇		

蟹尾牙刷子	每	把	〇、〇四兩
文明絲帶	付	〇、三〇	

此他香港廣生行白粉、香水、香油及江西產花瓶の賣行きもあり。

外國品

名稱	單位	價格	國別	備考
素花茶杯	每打	一、七〇兩	逸國	殘品に過ぎず
冲羅哥石鹼	同	一、九五兩	國	
美孚小座燈	同	二、一〇元	米	賣行甚好
二號美孚手提燈	同	一、六五兩	同	賣行甚好
二號白臺布	同	一、六〇兩	獨	
二號良濟胭脂	同	一、〇〇兩	同	
二號俄牙粉	同	一、〇〇兩	獨	
大號同上	同	一、三〇兩	同	
美孚燈罩	同	〇、四二兩	米	
獨逸製磁盆	同	一、三六兩	獨	殘品に過ぎず

名稱	單位	價格	國別	備考
同 上	同	七、〇〇	同	同
彩花茶壺	一筒	〇、五〇	同	
七分羅絲燈	同	〇、二五	同	
機器油	每打	一、八〇	英	
金鷹石鹼	同	二、九〇	獨	
祥茂石鹼	同	二、二〇	英	
日光石鹼	同	二、一〇	同	賣行甚甚好 洗濯石鹼賣行甚良

外國品にして最も賣行き良好なるは日光石鹼にして洗濯用として山東地方に舊來存在する石粉と共に大いに需要を増加しつつあり。

以上の中石鹼類を除きては何れも到底日本品の敵に非ず。

輸入徑路及年總額

雜貨は全部芝罘に輸入せられたる上沙河に移入せらる而して一年の需要高(沙河)は約五萬二千兩なりと云ふ但し此の計數は洋藥品をも加算したるものと知るべし。

十、腿帶子

沙河に於ける腿帶子は一年總輸入額僅かに一千餘兩に過ぎざるも當地に於ける帶子は全部日本製品のみにして支那產老頭牌の如き店頭飾らるゝものあるを見ると雖も其賣行き良好ならず腿帶子は日本物が價廉にして而も結實堅牢なりとは何人も異口同音に言ふ所なりとす。

輸入徑路

従前は威海衛自由港たるを利用し脱税して山東内地に馬背で運ばるゝもの多かりし爲め當地へも威海衛より輸入さるゝもの多かりしが現時常關の嚴重を極むるに至りし爲め必ず芝罘或は龍口を経由することとなり龍口經由當地に輸入せらるゝは少量に過ぎずして大部分は芝罘より移入せらるゝものとす。

當地人の最も好みて需要する日本帶子は孔雀牌帶子にて殆んど全部孔雀牌なりと云ふも不可なきなり今左に種類及價格を示せば

名	稱	號	色	幅	單位	價	格	經	過	地
孔	雀	一號	黒	一寸二分	一打	二吊六百四十文	大連より芝罘或は龍口			
		二號	黒	一寸二分	一打	二吊六百四十文	大連より芝罘或は龍口			

名	稱	號	色	幅	單位	價	格	經	過	地
同		六號	黒	一寸八分	同	二	七百文			
同		一號	黒	一寸六分	同	二	四百文			
同		一九號	黒	二寸五分	同	四	三百文			
同		二〇號	黒	三寸	同	七	五百文			
雙	野	一九號	桃	二寸五分	同	三	吊八百文			
東	鄉	一九號	黒	二寸七分	同	六	吊			
老	頭	支那製	黒	二寸七分	同	五	吊			不詳

上表に依りて如何に孔雀牌が當地に於て嗜好されつゝあるかを知るに足らん。

十一 信石及び白布草

信石とは湖南產藥材にして白布草は河南省を主産地とする藥草根なりとす。

用途及び輸入徑路と運賃

信石は農耕地中に害蟲發生し農作物の生育を害すること甚しき地方にて害蟲驅除に使用せらるゝものにして沙河は其需要莫大なるものあり常に芝罘より虎頭崖を經由し同地より陸運機關によりて沙河に入る白布草は大根の害蟲驅除用に供せらるゝものにして虎頭崖石虎

咀より沙河に移入せられつゝあるを見る。

運賃は何れも斤を以て定められ運賃額に於ても他移輸入品と異なる所なし。

價格及び輸入總價

信石は桶詰めとせられ之れを又麻袋を以て色まれたるものにして毎桶一百五十支斤の重量を有し十六兩稱百斤の價格は銀十四兩とす而して毎年に依りて其移輸入量を異にすと雖も平均一年約二千桶二萬八千圓の總移輸入額を計上す。

白布草は麻袋詰めにして一袋百斤入とし一斤の價格銅元二十五箇一袋十二兩を以て販賣せられつゝあり年總輸入額約一萬兩に達す。

其他雜輸入品

以上の外甘草、曹達、外國產洗滌曹達等の輸入せられて市場に表はるゝあれども其數量價格言ふに足るべきものなし。

其他雜品としては昆布、鹽魚、上海米、支那茶、鐵線、玻璃器等の輸入せらるゝものあれども極めて少量なりと知るべし。

今沙河に於ける主なる輸入品及其總價を示して沙河貿易狀況の一半を知るの便に供せんとす。

輸入品總表

名	稱	總價	名	稱	總價
綿	布	三五、〇〇〇	砂	糖	一一、〇〇〇
綿	絲	一八、〇〇〇	雜	穀	四五、〇〇〇
葉	草	三、二四〇	雜	貨	五二、〇〇〇
外	草	五〇、〇〇〇	帶	子	一〇、〇〇〇
磷	寸	三五、〇〇〇	信	石	三八、〇〇〇
石	油	七六、〇〇〇	及	白	一〇、〇〇〇
紙	類	一一、〇〇〇	布	草	一〇、〇〇〇
			其	他	一〇、〇〇〇
			合	計	四八五、二四〇

第六章 沙河市場に散集する本地產品及輸出品

沙河附近一帶の地の產出品としては農產品及其加工品、家畜類及副產品とす今當市に集散する主要品を左に示せば

農產品	小麥	高粱	大豆	小豆	黑豆
	綠豆	椒子	榛子	穀子	豌豆
	野菜	甘藷	西瓜	其他瓜類	葡萄
	柿	桃	林檎		
工業加工品	豆餅	粉條子	紙	鹽	
麥稈真田	靴子類	金屬製品	木製家具	木製農具	土織布
染色布					
家畜及び副産品	生牛	牛肉	馬	騾	驢
	羊	猪	牛皮	羊皮	猪毛
	魚類	鶏卵			

條子、紙、鹽等あり家畜及び副産品として生牛、牛皮、豚毛あり農産品として僅かに野菜と葡萄あるのみにして雜穀の如き到底當地需要を充たすに足らず外省より移入するもの鮮少なからず。

沙河の鶏卵に關しては嘗て青島軍政署調査課員の談として當市の集散するもの年約一百萬箇に達すと聞きしも當地一帶は鶏卵の産出極めて少くして寧ろ平度縣城に集散するもの多大なり當地市場に集まる鶏卵の數は僅かに當地人の需要に供給し得るに過ぎざるなり。

沙河に集散する麥稈真田

山東省の麥稈真田は毎年多きは十數擔少きも四百萬擔の海外輸出あるは海關報告によりて明知する所なり今や山東省は世界に於ける麥稈真田の有數なる産地たらんとす其詳細は經濟事情第四號に記述せられたるも尙重複を厭はず本復命書末に支那農商公報に發表せる該調査を添付して參考とす。

第七章 度量衡

當地に於ける度量衡を日本度量衡と比較研究の結果之れを報告するを至當なりと思惟する

も余は出發に際して其準備全からず當地度量衡と對照研究すべき日本度量衡を携帶せざりしを憾みとす然れば比較研究の結果報告は之れを他日に期し唯其査知し得たる所を報告する事下の如し。

一、度

度は官尺又は廣尺と稱せらるゝ所謂裁尺と土木業者が使用する作尺との二種とす裁尺の一尺は吾國曲尺の一尺一寸五分に相等し英尺一呎一時八に相當す。

二、量

量は掖縣衙門に保存さるゝ桶を以て基本とするものにして一升の容量は各地に於て異りて同じからず然れども各地一升の容量に大差を見ることなく一升は普通四、六乃至四、九桶の容量を有するが如し沙河の一升は四、八桶を以て其容量と規定せるものとす、斯くて十升を一斗とし四八桶の容最と規定し十斗を一石と呼ぶ。

斛は一升、五升、一斗の三種あり別に牛馬の食料を量る一升斛ありて普通一升斛よりも小なるものなり一升斛は柳枝を以て編製せられたる深さ約七寸にして直徑(上端)約五寸の蘭形をなせる籠にして五升、一斗斛は木板製にして各面三角形の近似形をなせるものなり。

三、衡

沙河に於ける衡は前きに貨幣の項に於て詳述する所ありたる掖平即ち戥(銀を量る天秤)及賣買一切に使用さるゝ秤との二種とす戥の一兩は曹平兩よりも大なること〇、〇五七九強兩にして主として銀の秤量に使用せらるゝものなるも又草藥材料の秤量にも使用せらるゝを見る。

秤とは物品賣買に使用せらるゝ衡にして一斤は十六兩或は十八兩と規定せられ之れを十六兩秤一斤十八兩秤一斤と稱す。

十六兩秤は普通小賣及び食料品の秤量に使用せられ十八兩秤は卸賣又は牛馬食用の乾草及薪等の秤量に使用せらるゝ事多しと雖も其場合は確定的のものに非るを知るべし。

十六兩秤一斤は制錢三百二十文の重さにして十八兩一斤は制錢三百六十文重さを以て一斤と呼ぶものにして一兩は制錢十箇即ち二十文の重さに相當す而して一磅は十二兩に相當するものと知るべし當地人は一磅を十二兩秤と稱することあり。

## 第二篇 第一回旅行調査報告

### 第一章 總說

#### 第一節 緒論

大正五年九月三十一日駐在地沙河鎮を發足し平度縣、萊陽縣、棲霞縣、福山縣、黃縣、掖縣を通過して同十月末日沙河鎮に歸著せるもの及び萊州府虎頭崖を経て沙河鎮に歸著せるものを余が第一回の旅行徑路とす。

上記の如く今回旅行區域は北山東省にして而も芝罘龍口の二開港場を控へ之れ等二港と最も密接なる關係を有するのみならず大連との貿易經濟關係の輕視すべからざるものあり、從て其經濟關係を研究する時は本地方が將來大連に對し商業的に如何なる地歩を占め得べきか政策の如何によりて益々密接の度端倪すべからざるものあるを見るべし況んや三線問題の結果の如何を問はず大連紳董諸賢が大連の貿易勢力を擴張し其雄飛を北部支那に試みんとせば寸地尺土と雖も等閑に付すること能はざるべし殊に煙濰鐵道の開通事實として表はるゝの曉に於ては芝罘龍口は現今の二倍の内外貨を吞吐し得るの豫想確實なるを見れば益

益山東省と大連との間に有する關係を密にし大連の地歩を本地方に確實になし置くの必要あるは邦人の發展上滿蒙方面と共に緊要なることと云ふべし都督府は茲に見る所ありてか先きに淺見氏を龍口に駐在せしめ龍口大連の經濟關係の密進を計畫せられ其結果命令航路起り商品陳列館設立せられ尙ほ金融機關として龍口銀行の開設せらるゝありて兩者貿易關係益々成功の域に進みつゝあり。

#### 第二節 地域及び地勢

福山、蓬萊、黃縣、掖縣の四縣は何れも渤海灣に面し芝罘龍口の二開港場を有するのみならず約八箇處の民船港を有す而して平度縣は西方昌邑縣と界し南方は高密、膠縣と相接し萊陽縣は南方即墨縣に界し東方海陽、北方棲霞に隣りし棲霞縣は福山寧海海陽の諸縣に交界す何れも山東半島の重地なり而して蓬萊縣、黃縣福山縣棲霞縣萊陽縣の五縣は舊登州府に屬し登州府城の所在地たりし蓬萊は現時尙登州と呼ばれ掖縣平度二縣は舊萊州府管下にして掖縣は尙ほ萊州として世人に知らる。

以上各縣の約三分の一は山岳地帯に屬す遠く泰安府の泰山を起點とする山脈は山東半島の



北部に走り平度縣の北部地方より掖縣の南部と平度縣の交界地方に入り黃縣より招遠の一部を経て蓬萊福山に達し且つ掖縣平度縣の交界地方より分岐したるものは招遠及萊陽縣の交界地を貫通し棲霞縣の全部に廣がり而も龍口に至る地方の海岸地方は何れも山岳重疊し平地極めて少く龍口より下營に至る間に於ても海岸に沿ひて極めて低き山脈の起伏するものありて虎頭崖に至りて止む今之等七縣の地方的地勢の詳細に至りては左記旅行徑路の説明と共に明かなるべし。

沙河鎮より南方十五支里にして十舖莊あり平度縣及び掖縣の交界地に近く平度縣管下に屬す之れより店子に至る間は唯坦々たる平原にして東南二十支里内外を隔てて遠く黃縣地方へ走れる山脈の西より東に連なるを見る店子沙河鎮間四十五支里とす店子より真南に向ふこと約十支里にして山道となり山脈の低所を通じて之を横ざる山は低しと云ふべからざるも他地點に比し傾斜の度緩にして山嶺に至る迄開拓せられ此間人家多く村落の點散するを見る此山道の平度平野と相接する所は即ち平度を去る十支里の地とす平度縣城以西及び以南は真に一望千里渺茫たる大平原にして山岳眼を遮ざるを見ず平度縣は古への平度州なり沙河平度間の通路は此外沙河より店子を経て萊州平度間の車道に合するもの及び西方王哥

を経て平度に至る車道もあり何れも山脈の斷絶せる地を過ぐるを以て坦々たり。

平度より東行して古現に出づ麻嵐を経れば八十支里、間道を進めば六十支里なり此地は山東鐵道沿線藍村に近くして人口約二千五百を有し附近農産物の集散地たりと雖も大なる繁榮を見る能はず但し本地方の都會としては又輕視すべからざるもの一なりとす。

古現より以東は稍高臺をなし院山日莊水溝頭を経て萊陽縣城に至る間は耕地相續く此間常に北方掖縣招遠縣との交界地方の山脈連續するを見るべし萊陽街道は僅かに此山脈を距る二十支里乃至四十支里内外の所を山脈と併行す。

萊陽縣は耕地としては狭しと云ふに非ざるも到る處山地或は高臺にして平度掖縣黃縣に比して山地たるを免れず陽縣城を去る北方十支里の地は已に山岳壘々として屹ち沐浴店の如きは僅かに山間の盆地に發達せるを見る萊陽縣より棲霞縣に至る一百〇五支里の間にありて約三十支里の間は道路常に海拔數百尺の高臺を通じ頗る嶮難にして萊陽棲霞兩縣間の交通は極めて稀れなり棲霞縣城は山間の溪谷に僅かに開けたる河床沖積地に築造せられたる小都會にして商業甚だ振はず門を出づれば直ちに山地に達す之れより煙臺に出づるには常に溪谷若しくは河床を辿り或は峻嶮なる山頂を越わざる可らず而して福山縣界に於て始め

て平原に出づ。

芝罘より福山縣城は芝罘を距る三十支里遠く北方に山脈を望み一帶は平地なり道路は平坦にして煙臺山を越ふれば車馬自由に往來し得るも此間河流ありて橋梁完全ならざる爲め福山煙臺間の交通は馬に依るを最も便とす。

煙臺山脈は遠く海岸山脈となりて蓬萊黃縣地方に延び煙臺黃縣間を聯絡する道路の如き芝罘より三十支里にして已に此山脈に入り路は山坂に非ざれば則ち河床を通ず大幸店の大市場と稱すれども人口僅かに一千餘にして山間に發達せる地方的市場に過ぎざるなり但し道路は峻坂多しと雖も大車の往來不可能ならず。

海岸山脈は黃縣の東方三十支里の地なる黃城集の附近に至りて斷絶す黃城集は黃、蓬兩縣界に近く黃縣管下に屬す黃縣に入りては土地肥沃なる黃縣平原展開し南方二十五支里或は三十支里の地に一道の山脈の起るありて遠く北馬龍口は何れも此平原にあり。

掖縣も比較的平原多く唯縣城附近に於て海岸山脈と南方を東西に走る山脈とが相接近するを以て山水美なり沙河鎮に至りて山脈は遠く三十支里の南方に退き北方平度縣と共に大平野をなす河流は頗る大なるものあれども何れも水流に乏しく一度大雨到らんか水は奔騰し

て大洪水となり晴天に於ては水不足して水田灌漑の用をなさず。

## 第二章 農業

本地方は河流ありと雖も水量の見るべきものなければ水田極めて尠なく従つて米の産出は論ずるに足らざるや勿論なり然れば本地方の農耕地と稱すべきは全く畑地にして農産物は畑地に播種せられたるものに限る、殊に山東省は人口過剰の地にして工業の發達見るべきものなく、農耕地としては山嶺に至る迄人力の及ぶ限りは開墾し盡されたりと云ふも過言に非らざるなり而も尙ほ耕地は狹隘を感ずるを以て霸氣に富める青年は猶額大の地に留まるを欲せず滿洲或は西伯利地方に向つて移住或は出稼に出で陸續として出入するもの毎年四十萬以上に達すと云ふ、然れば山東に於ける主たる産業は農業を以て第一とし而も山東省産品の大部は農産品或は其加工品に非れば農家の副業に依りて製出せらるゝものなり然れば住民の大部は農業に従事すと雖も人口過剰の結果は山東省産品の食料を以てしては尙不足を告ぐるを常とし殊に地質の關係上適物適所に播種せらるゝ傾向を生じ食料として用ふる能はざるものと産出亦少からざるにより外省の接濟を受くる食料品少からず之れと共に

に農産品及其加工品にして世界市場に名を馳するもの少なからず。

### 第一節 農耕地

各縣管内に於ける平地にして少くも農耕地として些少なる收穫と雖も獲得し得らるゝ地方即ち農作物の播種に適する所は極端迄之れを開拓し山崗と雖も氣候及び地質の山地の傾斜等が耕地に適する所は總て開墾し盡されあり然れば今後本地方各縣管下に於ては全然耕地の擴張を望むべからず而も其地質に至りては吾人は到底詳細なる學術的研究をなし能はざるも吾人が有する農業的智識を基礎として之れを論ずる時は黃縣掖縣平度の平地及び福山棲霞縣界に近き福山縣内は地味最も肥沃にして百穀實るに好適の地質を有するも平度縣の山部及び萊陽縣福山縣北部は地味稍劣等にして沙地たるを免れず。

耕地は官尺五尺四方を弓と稱し耕地地積の數量を呼稱するの單位となす弓は時によりて歩と呼稱せらるゝ事あれども歩は元來地積の單位には非ずして長五尺を意味す但し一般民は一步は之れを三尺なりと云ひ道路の距離を示しつゝあり弓の上位は畝と云ひ畝以上は十進法を以て十畝二十畝千畝と云ふ而も各縣に於て一畝の廣さ同じからず同一縣内に於てさへ

相等しからざるものあり今各縣に於ける一畝の廣さを記すれば

掖 縣二四〇弓 福山縣二四〇弓 棲霞縣二四〇弓

平度縣三六〇弓 蓬萊縣二四〇弓 黃 縣七二〇弓

今之れが面積を日本の坪數に換算せんか官尺一尺は約日本曲尺一尺〇四分に相當するを以て

二四〇弓一畝のものは 一八〇坪二六七弱即六畝〇坪二六七

三六〇弓一畝のものは 二四九坪弱即八畝九坪

七二〇弓一畝のものは 五四〇坪七九九九即一段八畝〇坪七九九九

となる

各縣に於ける耕地の面積は之れを數字的に確實なる調査をなす能はざりしと雖も黃縣平度縣最も廣く萊陽縣掖縣之れに次ぎ棲霞縣の如きは全然之れ山岳にして平地極めて少し。

### 第二節 耕作の方法

#### 一、使用農具

山東省の農耕者が使用する器具は一般他省に於ける畑地耕作用に使用せらるゝものと異なる所なきが如し今其種類を擧ぐれば。

鋤(犁) 鐵鋸(土を細碎するも) 鈎鍬、鎌、大鋸、小鋸、石棍子等とす。

二、使用動物

本地方に於て使用せらるゝ動物は騾子、驢、牛の三種に限られ而も騾子、驢は主たる使用家畜なり牛の農耕に使用せらるゝもの多からず之れ等家畜の使用せらるゝ場合に我國の如く鞍を用ふる事なくして一本の半墮圓形の木を頸部に装置し之れより左右兩條の強靱なる網を括りつけ以て牽引せしむるものにして然も一頭にて牽引する事なく必ず二頭或は三頭を用ふるを常とす此場合牛、騾子、驢等三種類の組合せ頗る面白く數學的コンビネーションを此所に見るを得べし。

三、耕作方法

本地方は氣候比較的溫暖なるが故に四時耕作に適す然れば播種の季節は大體に於て春、夏、秋の三期に區別するを得、即ち春風南より吹く頃高粱、粟、包米等の植付に従事し麥の收穫終れば包米豆類の播種をなし秋天高き頃高粱、大豆等の收穫終りて麥の播種をなすものとす。

とす。

本地方農夫が農耕に従事する様を見て世人或は勞多くして效少しと評するものあれども吾人は本地方農夫は能ふ限り人力を節用し收穫多からざるも勞を少くして之れを償はんとするものに似たりと信す。

彼等が耕地に出で、耕作に従事するの様は眞に呑氣千萬にして生存競争の風何處を吹くやらの態度なり或は使用牛馬に鋤を牽かせたるまゝ牛馬は二頭或は三頭體を並べて耕地に坐して眠り人は其後に地上に横はりて華胥の國に遊びつゝあるに非ずんば或は長き煙管を咬へて煙を吐き悠々たるを見るを得べし之れや眞に悠長なる田園生活の生きたる繪畫ならずんばあらざるなり生存の爲めの強食弱肉の慘も彼等の前には顔色なしと云ふべし。

開地、播種期に至れば先づ開地を行ふ開地は又耕地と云ふ播種せんが爲めに固結せる地を鋤起するなり開地は概ね一回にして終る其方法は鋤に牛馬二頭或は三頭を套繫し鋤の把手を一人にて握り、舵を取りつゝ進行して鋤起するものとす。

一度鋤起せられたる後之れが土塊を粉碎せんが爲めに鐵鋸を牛馬に套繫し一人は鐵鋸に乗りて之れが重量を増し一人は馬の轡を取り舵取りつゝ進行す。

開地に際して吾人が認むる缺點は鋤起の深さ淺きに過ぐるにあり但し開地の深淺は地質の如何及び地盤の深淺、耕作物の種類の如何に依りて同一なる能はざらんも今少しく鋤起を深くし肥料を吟味したらんには耕地の土壤を良好ならしむるのみならず收穫の増加を見るや必せり。

肥料、肥料は骨粉の如きものを用ふる事少く人糞、牛馬猪糞及び塵埃等を用ひて恰も吾國の堆肥に似たるものを製して施肥する外豆餅の使用せらるゝ事あり然れば彼等は常に堆肥材料の蒐集に心を用ひ暇あれば籠と馬柄鍬とを手にして人馬往來の頻繁なる地に出で人馬糞を拾集しつゝあるを見る即ち本地方道路が人馬糞の爲めに衛生的害毒を流す事比較的少きは上述の利用的行爲の自然の賜物なりと知るべし。

施肥は播種の際に於て一回なさざるのみにして其方法たるや之れを二に區別するを得一は開地前に畑地に滿遍なく撒散するものにして一つは種子と混じて播種するものなり。播種は其方法二あり一つは機械的にして一つは人力的なり。

開地終るや鋤と牛馬の力とを用ひて開地と同じき方法に依りて一定の間隔(大概ね七寸)を以て鋤起して淺き溝渠を作りつゝ進み再び肥料と種子とを混じたるものを以て播種し之れ

に土を被蔽するもの之れ人爲的播種の方法なり鋤に小さき箱を裝置し之れに種子を入れ且つ鋤と人との間即ち小箱の後方に一本の木棍を繩にて垂らして地上に置けるものを前者の機械的播種の方法とす此方法に依れば鋤及び人馬の進行に伴ひて種子は適度に溝中に落ち後方に垂れたる木は土を種子に被蔽するの效力を有するものにして人力を節すること甚大なり但し地瓜甘藷の如きは其植付方法の我國と異なることなきも我國にて九州地方と中國地方とが其形式を異にするが如く形式に於て異なる所あるが如し。

### 第三節 主たる農作品

本地方に於ける農產品は一般的なるあり地方的なるあり今各品に對して少しく説明を加ふべし。

#### (イ) 農作品の種類

高粱、玉蜀黍、粟、穄子、稗子、大豆、綠豆、麥、地瓜、藍、落花生、黑豆、米、蕪類、蕎麥

#### (ロ) 播種期及收穫期

播種期は春夏秋の三期に區別す。

(A) 春季播種  
高粱、玉蜀黍、粟、椒子、穄子、藍(錠と稱す)

(B) 春季收穫  
麥

(C) 夏季播種

玉蜀黍、豆類、蕎麥、地瓜、落花生、蘇

(D) 夏季收穫

玉蜀黍

(E) 秋季播種

麥

(F) 秋季收穫

高粱、粟、椒子、穄子、豆類、地瓜、落花生、玉蜀黍、蘇

1. 高粱に就いて

高粱は二種あり一つは實の熟する場合赤褐色をなせるものにして一つは之れに稍黒色を帯

べるものにして穂の形情少しく異れり但し後者は極めて稀にして品質も劣等なるものとす  
一般に高粱粥として食用に供せらるれども又馬匹の食料として使用せらる其の穀稗は之れ  
を稗稽と稱し燃料とし壁天井、垣等の材料となり又或場合には家屋を葺くに用ゐらるゝの  
みならず黃縣招遠地方に於ては高粱細工の原料とす高粱細工とは稗稽を以てアンペラ即ち  
馬連包を製造するものにして秋末初冬の期に於て芝罘龍口等へ輸送せらるゝもの極めて多  
しこは極めて粗末なるものなれば一般に粉條子(小豆又綠豆にて製せる素麵の如きもの)荷  
造の包装用に供せらるゝを普通とす高粱葉は成熟期に近くや殆んど全部採收せらる之れを  
打葉と稱す蓋し高粱葉は牛馬の食料として良好なればなり。

2. 粟

粟は其脱殼せざるものを穀子(又は谷子とも書す)と云ひ脱皮せるを小米子小米兒と云ふ、  
黃縣掖縣平度縣等に於て多くを産すれども到底需要を充たすに足らず本地方人は之れを粥  
として食すれども常食と云ふよりも寧ろ饅頭と共に食せらるゝ副食物の如き感あり稗は馬  
牛の食用に供せらる。

3. 玉蜀黍

玉蜀黍は支那名包米と云ふ春夏二作にして發育佳ならず大抵一稈に三箇以上の實穂を得ること能はず普通二箇或は一箇なり紅色白色の二者あるも前者は極めて少く一般に白色を栽培す白者は紅色に比して品質良好なればなり。  
實は主として麩に製して食せられ稈殻は燃料に供せらる。

4. 蕎麥

蕎麥は其形態及び發育の狀況毫も内地産のものとは異なるなしと雖も作付反別極めて少く農産品として論ずるに足らず。

5. 稭子

稭子は粟に似て穂は稻穂の如き形をなす日本内地にては之れを粟黍と稱する地方あり團子を製するに用ゐらる實は粟よりも大にして黄酒製造の原料として需要せられ稈は馬料に使用す。

6. 稗子

稗子は高粱大豆等の播種せられたる畑地の圍りに播種せらるゝのみにして極めて少し牛馬の食料となる。

7. 地瓜

地瓜とは甘藷の謂なり何れの地方と雖も栽培せられざることなけれども比較的土地の肥沃ならざる萊陽、棲霞兩縣地方に多し、此等の地方に於ては地瓜を常食とし葉及び稈は燃料として用ゐるを普通とすと雖も葉は凶作の年に於ては食料となる。秋霜一度到るや婦女子は何れも地瓜畑に出でて之れが採取に従ふ採取したる葉は之れを日光に乾燥して保存す。

8. 米

米は本地方極めて少し水田としては掖縣土山郷の東方に少しく見らるゝのみなれば之れを論ずるに足らず但し水田として本地方一部の地質及び氣候が不適當ならざるは又知るに足らん水田の外陸稻として畑地に播種せらるゝものあり實り良好なるに非ざるも又捨つべからず。

9. 野菜類

野菜は他地方と種類の異なるものなしと雖も牛蒡のみは到底見るを得ず本地方にて最も良好にして著名なるは白菜なり白菜は山東白菜又は芝罘白菜として知られ近來益々其輸出を増加し遠く上海及び日本内地へも輸送されつゝあり殊に其種子は、歐洲に迄も輸出せられつ

つあり就中英國人は本菜を非常に愛好し其本國へ輸送する種子も少からず中には良好なる種子を得て之れを本國首都の某種子商と取引を開始せんと計畫せる向きもありと云ふ我國に於ては名古屋農事試験所に於て之れが耕作を研究し其品質は已に等差なき迄に成功せりと聞く但し其形狀に於て未だ山東原産地物に及ばざるものありと云ふ。

白菜は多く夏至に於て植付くるものにして植付の時期早きに過ぐる時は虫害を受くること甚しく遅きに失する時は收穫不良の缺點を有するものにして農家が最も苦心する所なり山東省原産地に於ても農家全部が本品の耕作に妙技を有するものに非ず肥料としては必ず大豆糞を用ゐる肥料に多費を要するものなるを以て他の野菜類に比し高價なり若し野菜の價下落せんか到底收支相償はざるの結果を生ずと云ふ殊に植付けの初めに於ては苗圃に培用するか或は直接播種せられ其播種の期を誤らざらんことに苦心す苗圃に培養せらるゝものは即ち白菜植付けをなさんとする土地が空地ならざる場合に限らる白菜苗は凡そ二寸長さに達して一本宛移植す移植の後は連日之に水を注ぐ若し給水不足するか或は多きに失して其當を得ざる時は野菜の品質備らず且つキャベツの如く集結せざるの虞あり之れ亦苦心を要する所なり然れば之が耕作者は毎日畑中に開鑿せる井戸より水を汲みて之れに給す。

價格は一斤銅元一錢乃至半錢にして一箇の白菜の重量は五斤乃至十斤を普通とす。

白菜の最も良好なるは黃縣にして福山、萊陽、掖霞、招遠、掖縣等にも産す主として龍口より輸出せらるゝものは招遠、黃縣、掖縣産にして芝罘より輸出せらるゝは福山縣の産なり。本品が出廻り時期とも云ふべきは十一月初旬より翌年三四月頃にして生産者が之れを貯藏するには地中に深く埋めて變質を防ぐ殊に十一月の頃は最も多量に輸出せられ附近各地より芝罘龍口に輸送せらるゝもの絡繹として絶えず兩港より輸出せらるゝもの亦巨額に上れり。

10 豆類

豆類は其種類甚だ多しと雖も主なるものは黃豆、青豆、黑豆とす初夏晩春の候麥の收穫終りし後播種せられ中秋の候に到り葉の八部程落ちたるを待ちて收穫せらるゝを常とす。青豆は即ち綠豆にして綠豆粥として食用に共せらるゝのみならず粉條子の原料として需要多し然れば綠豆は到底本地方産のみにては需要を満足する能はずして龍口を経て天津、營口、利津、下營地方より輸入せらるゝもの少からず。

大豆は之れを黃豆と云ふ豆油製造の原料として消費する額最も多し殊に平度萊陽等は其産



出多く掖縣之れに次ぐ但し北山東省の地は需要多くして産出之れに伴はず豆類の東三省及び山東省西部より輸入せらるゝもの少からず。

II 落花生

山東省にて最も注目すべき農産物は棉花、落花生及び麻、麥とす殊に落花生は近來海外へ輸出さるゝもの甚だ多く山東省輸出品として市場に高名を馳せつゝあるのみならず又加工品として花生油、花生仁の輸出も少からず、本品が斯くの如く世界的商品として輸出さるるに至りし動機は勿論其の實が製菓原料として使用せられ花生油が食用として且つ工業用として使用せらるゝに至りしが爲めなれども獨逸が山東經營に苦心し其使用方面を廣めたるも亦與つて力あり、而して山東の土質が一般に肥沃ならずして沙地及び砂石混合の土地多く其等の地方に於ては落花生が最大收穫量を有せることが多産の一大原因たらざるは非ず。

本地方は本品の産出せざる所なしと雖も最も多量に産出するは平度、萊陽の兩縣にして福山、蓬萊、棲霞縣之れに次ぐ本品の播種期は夏季五六月頃にして收穫期は九月初旬頃よりなるも其成熟に達するは十月及び十一月初旬とす然れば之が出廻り時期は十月に始まり十

二月に到る間を全盛とし漸時減少し六七月頃に至りて止む。

其輸出徑路は平度縣及び萊陽縣西部地方に産するものは距離の最も近き山東鐵道沿線の各驛に運送し之れより青島に輸送するを常とす、萊陽縣東部、棲霞縣、福山縣、蓬萊縣、招遠縣産品は殆んど全部芝罘へ輸送さる、此外尙ほ芝罘に出づるものは海陽の一部文登、寧海の全部とす、萊陽の南部海陽縣南部の産は一度金家口に出で之れより青島に運ぶの徑路を辿るなり本地方に於て幾何の産出額を有するやは照合すべき統計なく且つ何等の參考となるべき資料なければ確實なる數を發表する事能はざるも年々芝罘港へ集散するもの約二十萬擔にして此等の中には今回調査區域外なる文登、寧海、海陽の産をも含まるゝを以て之等地方の産と平度萊陽の青島へ輸出する數とは到底比較すべくもあらず之れに依りて之れを類推し之れに本地方産の加工品として需要せらるゝものとを合する時は略四十萬擔の收穫あるものと見るを得し落花生が原産地より開港場に移出さるゝに當りては有穀、無穀の二種に區別せられ何れも大小善惡混合さるゝを常とすと雖も一般に價格に關係するものなるを以て惡辣なる手段を用ふることなし其品質は普通實大にして乾燥し而も實の薄皮が赤色に近き程優良品とす但し品質は地方地質に依りて異り萊陽物平度物等何れも品質を異

にし價格の差ありて地方毎に自から特長と缺點あり之れが運搬は馬背に依るを普通とし荷造りは麻袋を以て包み有穀品は一重袋にして無穀品は二重袋を用ふ其重量は有穀品は六十斤無穀品は百二十斤入を普通とす。

價格は普通百斤を基本として決定せらるれども年の豊凶需要供給の如何及び銅銀價格の騰落によりて異なるを以て其變動の間斷なけれども普通に於て其價格を金に換算すれば。

無穀品 五圓乃至九圓

有穀品 四圓五十錢乃至七圓

と思はゞ大差なからん之れ等の平均價格を七圓と見ば本地方一年間の出產高は約二百八十八萬圓内外に達するものと見るべし。

12 麥

麥は農産品として外人の注目を牽く程のもの非れども山東人は麥を以て常食とするを以て麥の產出の多少は山東人に取りて重大なる關係を有す然れば高粱と共に栽培の量最も多きも本地方にありては地質の麥に適せざるものありてか又住民過多なる結果に依りてか常に不足を告げ殊に棲霞縣、福山縣、蓬萊縣の如きは不足の度高し山東省内麥の產出多きは中

部山東及西北部山東一帶にして山東全省の需要に供給するのみならず直隸省地方へも移出しつゝあり而して麥の集散の最も有名なるは壽光縣方面とす掖縣平度、萊陽は壽光產麥を移入するもの最も多く山東鐵道沿線昨山、坊子、文嶺の如きは麥の出廻地として本地方人に膾炙せらる麥には大麥、小麥の二種あり小麥の量遙かに多し小麥は之を製粉にして上麵となし本地方常食の饅頭、饅饅を製するのみならず祝祭節句の菓子製造をもなす然れば福山、蓬萊、黃縣を除きては外國製洋麵の輸入せらるゝ事少し但し龍口、芝罘に近き地方は態々西部地方より麥を輸入する事をなさずして廉價なる上海麥粉及滿洲麥粉の輸入多し。

13 藍

藍は藍靛を製造する原料とす初夏の候に播種し八月下旬に至りて收穫せらるゝや直ちに野外に池を作り又は數多の水缸を運び石灰水を充て其中に刈取れる藍を浸して染料を製造す此れを打錠と云ふ如斯して得たる藍錠は勿論良質のものに非ざるを以て従前獨逸製染料を安價に得られたる時代にありては其栽培せらるゝもの全く痕絶したるの有様なりしが歐洲戰亂後染料の暴騰するや又栽培を始めたものなりと云ふ其價格は現に外國製染料に比して甚しく安價に製し得るを以て本品の需要激増するに至れり其本地方に於ける産地は掖縣

平度、萊陽縣を主とする本地方の市街村落にして少しく大なる處には必ず染房ありて其數も又少からず何れも大甕を備へて染色す但し普通は紺色或は紺地に白色模様を染め抜くの方法にして春夏秋冬絶えず染料を使用しつゝあるを以て各染房の一年間に使用する染料も又少量に非ず然れば本地方に於て錠に比し品質勝れ且つ價格に於て獨逸品よりも安價なる染料を輸入し之れが使用法を教へて販路を求めなば相當の顧客を得るに難からざるべし。

14 麻

麻は此地方より海外に輸出せらるゝ重要農産品にして其種類又甚だ多けれども普通栽培せらるゝものは大麻及び桌麻の種類なり麻は支那人間に於ても鞋子の製造及び修繕に缺ぐべからざるものなるが故に至る所栽培せらるゝ雖も輸出品として最も多量に而も良品質のものを生産するは萊陽縣とす。

麻は四五月の候に播種し七月下旬に至り刈取る其品質は纖維強靱に白色光澤強きを優良品とし皮の剝脱に際しても粗皮除去の場合にありても極めて可憐なるを要し品質の下落せざる様注意せざるべからざるを以て之れを精製し乾燥し市場に出すには多少の時日を要す其出廻時期とも稱するは八九月頃とす。

其用途は製織製繩にして近來麻製品の應用極めて廣く且つ將來本品の用途は化學應用の進歩と共に益々需要増加するに至るべし。

萊陽麻は品質極めて良好にして省内各縣に向つて移出すると共に青島或は芝罘等より輸出せらるゝものも少からず而して芝罘に於ける麻の輸出高は到底青島の半にも達せず之れ蓋し本地方麻の産出は殆んど萊陽の一縣に限られたるの觀ありて而かも其一半は金家口水溝頭を通過して青島へ輸送せらるゝが爲なり麻は一度精製乾燥を終るや少量宛根部を縛り更に數十斤(一定せず)の大束となし兩折して根末相合する所を縛りて運送に便にし市場に送らるゝを普通とす斯くて地方商人或は買付に出張せる商人の手に依りて開港地に輸送せらる價格は斤を基準とし決定するを常とす。

麻の集散地として之等の地方にて名あるは萊陽、芝罘、黃縣とす芝罘は輸出向きの集散地にして黃縣は掖縣地方に需要せらるべきものゝ集散する所とす萊陽は勿論麻の産地たる萊陽縣の中心市場なり今三地方集散の量を概記すれば

萊陽	二十五萬斤	黃縣	五萬斤
芝罘	十萬斤	合計	四〇萬斤



と見るを得べきも芝罘に集散する大部分は萊陽より輸送せらるるものなるを以て之等地方の全産額は約三十五六萬斤と見るを妥當とす而も價格は京錢建にして十斤六吊文乃至七吊文と見るときは大なる誤謬なし故に試みに十斤六吊五百文と見るときは本地方總産額は二十三萬吊文内外と見るを得べし。

15 葉煙草

本地方に於て葉煙草の産出あるは棲霞縣あるのみ、葉煙草は初夏の候に於て栽培せられ九月下旬より十月初旬に於て收穫せらるるものにして稈極めて短く僅かに二尺内外の高さに及び一稈七八葉を有するに過ぎず之れが收穫に際しては畑地に於て刈取るや否や葉を幹と分取し葉は葉柄を揃へて積み重ね馬背に依りて家に運び各葉の柄を繩に挟みて吊し日光に晒乾す斯くして製せしものは一斤一錢の税金を納め市場に賣買せらる、但し棲霞産煙草のみにては到底本地方一帯の需要を充すに足らず従つて芝罘より輸出せらるるものと大部分は濰縣産の葉煙草なりとす。

第四節 主要農産品の收穫量

今茲に掖縣及び平度縣に於ける農産品の收穫量を紹介して以て本地方一般の地味及び産額の如何を推知するに便せんとす但し之等は路上農夫より聽取せるものに過ぎざれば土地の異なるに従ひて收穫量を異にするものたるや明かなり況んや各地方に於ける樹の大きさを確一にせざるに於てをや。

掖縣一畝地の收量	平度縣一畝地の收量
高粱 四斗	高粱 三斗
玉蜀黍 四斗乃至二斗五升	玉蜀黍 二斗
粟 四斗二升	麥 三斗
大豆 二斗五升	大豆 二斗五升
黑豆 二斗五升	黑豆 二斗五升
綠豆 二斗	落花生 三十吊文乃至六十吊文

掖縣に於ける一畝地は二百四十弓にして平度の一畝地は三百六十弓なり掖縣の一斗は四十八桶にして平度の一斗は七十桶なり。

平度縣收量は王哥莊に於て調査し掖縣の分は沙河鎮農夫に就きて調査せり。

第五節 農業の將來

本地方の穀物供給不足の量甚だ多しと雖も全然悲觀し去る能はず土地肥沃ならずと雖も耕種の方法に改良を加へなば尙幾分の發達をなし得べし又耕地は到る處開墾し盡されたるの觀あり其擴張に就ては大なる望みを囑すべからざるも河川の下流地方にして毎年洪水の大害を受け莊窳として收置されある地方少からざるを以て之れに相當の設備を施し堤防を築造せんか廣大なる水田を得んこと難からざるべし。

唯本地方の耕作者は古來傳習の耕作方法に就ては相當智識を有するも守舊的性情に富める民多ければ之れに何等改良を加ふることをなさず耕地の尨大なるに比し收穫量之れに伴はざるは惜むべし但し無智なる彼等と雖も作物の培育には極めて熱心にして一度乾天に至らんか畑中の井戸より給水するに努力を惜まざるも一度害蟲に作物の生育を妨げらるゝが如きあらんか其害の大なるに呆然として何等施すべき術を知らず拱手之を傍觀するのみ遂に害蟲に荒し盡さるゝが如き氣毒なる感起す場合を常に見受く殊に現今に於ける本地方は落花生、大豆、麻等海外に輸出せられ何れも數十百萬圓の多きに達すと雖も住民の糧たる

農作物は收穫量多からず却つて人口過剩の爲め食糧不足すること甚しきものあり。

平度縣、萊陽縣地方にありては豐年は辛うじて民の飢を凌ぎ得れども一度平作以下に至らんか直に食糧の缺乏を見るを常とし豐作とても三年一度或は四年に一度あるに過ぎざるの狀態なれば之等地方に於ける農作物は外省及び外縣の補給を受けざるべからず棲霞縣、蓬萊縣の如き山地にありては一縣の農産食料僅かに半年を支ふるに過ぎざるの狀態にあり何れも東三省地方より食料品として多量の輸入を仰ぎつゝあり但し之等の輸入は主として民船貿易に屬するものにして渤海沿岸の各民船港には常關の設備あれども其輸出入の統計あることなく其輸入數量の確實なるものを見るに由なし。

本地方の農業及び農産品が已に上述の如き狀態にして開墾地として將來擴張せらるべきもの少なく、且つ收穫量少く需要を満たし得ざるより生せる自然的調和は山東人の忍耐性と展外の志を有することの原因により住民の省外出稼或は移住の苦力となりつゝあり勿論山東省が苦力移民を省外に出すことは敢て近年の事にあらずして其昔未開地たりし滿蒙及び西伯利地方が山東苦力に依りて開發せられたるもの少からず現今に於ては毎年四十萬の出入苦力ありと云ふ然れば之等の移民苦力が省内に送る金額も又少額に非ずして本地方が

需要商品の爲めに省外或は外國へ流出する金銀は之れ等苦力に依りて再び省内に流入せしめられ辛うじて省内金融の調和を得つゝあり然れば古來金融の週轉斯くの如きを以て住民は農産少く食糧不足と雖も之れに比例して大なる苦痛を感せず農業の開發遅々たる又依つて來る所以を知るべし。

革命以來諸種地方改良機關設備せらるゝ傾向を生じ殊に山林農業等夫々研究機關成り農會の如き各縣之れを有するも其局に當るもの農業的智識の極めて淺薄なれば其效績の大を期待すべからずと雖も日を経て當局者に其人を得ば又進歩發展を見ること困難に非ざるべし本地方に於て第一に改良を要すべきものは開墾地の整理にして其改良には先づ鋤の改良を緊要とす鋤にして改良せられんか牛馬の使用數も又一頭にして足るべく而も鋤起の深さを適度に増すを得べし加ふるに肥料を吟味し土質を研究し土地含肥要素を増加せんことに努力せば土地は自から肥沃となり作物の生育結實に良好なる結果を得るに至るや必定なり、尙ほ播種或は移植の場合に際し好く地質を研究し各苗間の距離及び數量を適度にし施肥の回數を増し除草手入れ等に遺漏なからしめば以て本地方農業に多少の發達を見るを得ん但し本地方人は他に使用せられて直ちに其勢力が金錢に交換せらるべき場合には頗る忍耐力

に富むも農作の如き自己の食料となりて金錢となること多からざるものにおいて極めて努力を惜しみ作業従つて粗雑に流れ易きの惡弊あれば農作の如く其植付手入に就きて極めて綿密なる注意を要するものにおいて全く不適當なるを免れず。

土地は何れも個人の所有に屬するものにして小作としては年何圓と小作料を決定し借地小作す反別は上述の如く弓を基準とし畝以上は十進法を以て計算し地價に按照して納税す納税額は近來増加されたりとて往々農民の不平を耳にする事あれどもこは唯從前に比して増加せしに過ぎず決して高率に過ぐるものに非ず從前統一なかりし時代に比して稍統一的となれるものにして此所に施政統一の曙光を見る、納税に關する詳細なる規定は其探査極めて困難にして殊に現今の如く本地方人が日本人を色眼鏡にて見る時に當りては之れを如何とすべからず後機を伺つて再調すべし。

### 第三章 畜産

本地方に於ける牧畜業は極めて寥々たり但し山東省が、牛の産地として廣く世に知られ山東牛山東肉の名洋の東西に響けるを以て牧畜業極めて盛んにして到る處放牧場を見得るも

の如く思考せらるゝも實は然らず本地方に主として養はるゝ牛、羊、猪、騾子及び驢等は何れも牧畜の目的を以て山野に放牧せらるゝ事極めて稀にして主として農耕用に供せらるものなり。

### 第一節 牛

總説 山東牛が現今の如く世の注目を牽くに至れるは極めて近年の事にして日清戦後露國が滿洲を經營せんとするや大連、旅順に於て之を需要し輸入したるに初まる但し山東の牧畜業が古代より盛んに營まれたるは史上に散見し太公望の昔より盛んに奨励せられたり然れば山東人は古へより畜産の法を知り幾千年後の現今に至る迄飼牛の事は山東唯一の成富の道と思惟せられしものにして偶然にも露國が滿洲を經營し獨逸が山東を經營するに及びて良種の牛の産出多きを知り此所に輸出の端緒を開き俄かに世界的市價を高からしむるに到りしなり。

現今本地方にて飼養せられつゝあるは果して元來の支那種にして些少の改良も加へられざりしや否や知るに由なきも獨逸が山東を經營するに當り山東牛の優秀なるを認め且つ之れ

が改良に苦心したるやの形跡あり現に噂としては洋牛の種牛として輸入せられたるものありと云へば或は多少の改良を加へられたるものなきを保し難し但し之等地方にて吾人の常に認むる牝牛極めて少くして殆んど九割迄が牡牛なるを見れば山東省殊に本地方に於ける牛の産出は極めて少なくして到底毎年輸出せられつゝある牛數を償ふ能はざるや勿論なり、然れば仔牛が外省より本地方に輸移入せられ本地方にて飼育を受け山東牛として外洋に向つて輸出せらるゝの徑路を辿りつゝあるものと見るを得べし而して土人の言によれども山東牛は河南山西省等より陸路輸入せらるゝもの多きこと事實なるが如く海港を経て本地方へ輸入せらるゝものあるを見ず本地方に於ては牛は到る處飼養せられ各農家は何れも多きは五頭乃至十頭を有す而して秋初の候荒蕪地多き地方にありては一人にして數十頭の牛を收穫後の農園又は高原地に放ち運動せしめつゝあるを見るべし之れ等の牛群は一個人の所有なること極めて稀にして一村或は一地方内に於て放牧者を共同して雇用し放牧せしむるものにして放牧者は曉天に各戸より牛を牽出し放牧監視し夕陽西山に没する頃各家に歸還せしむ牛の放牧せらるゝは農閑期に限られ最も多數の放牛を見るは棲霞縣の如き山岳地帯に限らる之れ蓋し該縣は養牛多數なるに非ざるも農地狭少にして飼料に缺乏を感ず

るが爲めなり本地方にて畜牛の最も多數なるは棲縣、萊陽にして平度棲縣之れに次ぐ。體格 山東牛の體質に就き學術的研究をなすことは其の方面の智識皆無なる余の能くする所にあらず唯外貌に依りて余の見聞せる所を記して以て如何に山東牛が優良なる體格を具備せるかを見ん。

本地方牛は性極めて温順にして肉質良好なるは一般に認むる所にして其肉は南洋、滿洲及び歐洲地方へ輸入せられつゝあるを見ても其聲價の如何を知るべし。

毛色は黒黄混色のもの多數にして黒色、黒白斑點あるもの白黄斑點あるものも少からず而も肥滿にして毛色は光澤に富めり。

顔面は長からずして頭部廣く面部に至りて小さく而も丸味を帯び眼も鋭からず甚だ可愛らしき面貌を有す脚も短くして太く頸部短にして短かき角あり一般に角は直にして根部大なれども急に細さを増す。

胸部は垂れて肩部の肉甚だ厚く臀部は稍丸味を帯び頭部より尾根に至る長さは普通輸出向き四歳位の牛は約八尺に達するものあり一頭約五百斤内外にして二三歳のもの二三三百斤内外あり丈は高からず凡そ四尺五寸を普通とす。

山東牛は一般に去勢せられたるを特徴とし去勢されたるものを掩口と云ふ地方人が行ふ去勢術は睪丸を切取するに非ずして之れを押潰すか或は精液道を打ち叩きて睪丸を萎縮せしむるにあるが如し但し沙河鎮市場に集まるものは去勢せざるものも少からず。

集散状態 山東省の主たる都邑に於ては毎月集市の開かるゝあり集には又大抵牛馬市の開かるゝを普通とす集の大なるものにして毎年一回或は三四回春秋の候に開かるゝものを會又は山會と云ふ集及會は其土地の物産或は輸入貨物食料品の賣買を行ふものにして牛馬市も亦牛馬の産出飼養多き地方にては必ず開催せらる然れば龍口、青島等より牛産地に買ひ出しに來る者は各地の集或は會を尋ねて買付けに従事するものとす牛の買出しには必ず仲買者が必要とし此點に關しては内地牛馬の賣買と異なる所なし。

牛馬賣買の契約一度成立するや賣却者は政府規定の税金を納入せざるべからず税金は賣價の二分即ち百圓に對する二圓と規定せられ公賣局に於て徴收す然れば集及び會の牛馬市には必ず天幕と机とを其中央部に運びて公賣局員の出張するありて賣買成立の現場に於て直接徴税を勵行するを常とす従前之等の牛は芝罘青島の兩方面に移出せられしが青島が我軍政署の手に經營せらるゝに至るや露國方面へ輸出せらるゝものは全部青島よりせらるゝに



至り尙大連旅順に輸入せらるゝものにして以前芝罘を經由せしものも現今に於ては龍口より積送せらるゝに至り芝罘に於ける牛の輸出は殆んど痕絶の状態にあり。龍口に集散する牛は主として掖縣及び平度縣北部の産にして市場は沙河及び朱橋鎮の會及び集とす市場にて買収し牛を龍口に輸送するには大抵支那人一人にて四頭を牽き來り此處より船積して大連、旅順に輸送するものにして牽き手は原産地より大旅返護送するを普通とす運賃及び食料を加へ大連渡し一頭に付七弗の費用を要す其中汽船運賃積込費等四弗を要す。

價格は普通斤を以て賣買せらるゝものなるも本地方は牛の斤量を測定するに完全なる設備なきを以て大抵の場合は賣買者見込を以て決定す價格は大體左の如き見當なり。

大 牛	二百五十吊文	中 牛	二百吊文
小 牛	百五十吊乃至七八十吊文		

### 第二節 馬

本地方に於ける馬類は普通馬、騾子、驢馬の三種とす馬は其數極めて少し、驢馬、騾子は

農家の農耕用として使用せらるゝのみならず交通機關として缺ぐべからざるものなれば其數も又少からず。

騾子は馬と驢馬との混種にして其形態馬に酷似せるも耳及び臀部の骨格馬よりも見悪くして鳴聲又甚しく驢馬に似たり之等は滿洲種として營口より龍口に輸入せられ龍口より各地方に配分せらるゝもの多くして其數毎年約三千頭内外に達すと云ふ。

馬類の賣買も牛と同じく集或は會に於てなさるものにして公賣局は税金として賣價の二分を徴收す而も交通機關として貨物を駄送するものは主として牡馬なるも大車に登乗せらるゝは一般に牝馬を用ふ。

之等を其骨格より見るときは種々雜多なる形態をなし驢馬の如き大小三種に區別せられ大なるものは騾と誤見せらるゝ事往々あり唯驢馬としての特徴は其肩部より背部に沿ひて尾端に至る黒線と肩部より前脚部外部へ通する黒線あり。

本地方の馬類は性極めて温順にして左右前後進退等の動作を使役者の言葉に依りて自由になし得如何なる難路と雖も好く通行し得る極めて注意力深き性質を有す。

價格は



驢 馬 二十吊文乃至二十五吊文 騾 馬 五十吊文乃至百五十吊文  
馬 百二十吊文乃至四百吊文

を普通とし驢馬の肉は食用に供せられ本地方下等社會にては好んで之れを用ふ驢皮は其用途廣からざるも狗皮と共に篋子の蓋として用ふ。

### 第二節 羊

山東西部地方壽光縣方面にありては羊の飼養せらるゝもの多しと雖も本地方にては飼羊者なしと云ふも不可なし然れども羊は肉として本地人に嗜好せらるゝ故に本地方鎮或は店に於ては西部地方産の羊を輸入して屠殺せらるゝもの少からず然れば常に西部地方より三四十頭群をなして移送せられ本地方鎮店の飯館子の手に買はれ或期間丈け飼養せらるゝ故に時として羊群の放牧せらるゝを見る。

### 第四節 豚

豚は又支那人の好んで食するものにして本地方到る處飼養せらるゝ、各戸少きは一二頭より

多きは四五十頭も飼養するものあり野外に放養し自然に生長するに放任するものありと雖も多數の豚を有するものは豚小屋を設けて食料も一日二回と定め且つ一日二回或は三回の給水をなしつゝあり。

本地方にて最も多數の猪の飼養せらるゝは掖縣、平度、萊陽等にして之等の地方にては晩秋の候收穫終りし畑地に多數の豚群の放養せらるゝを見る。

本地産豚は黒色にして骨格大ならず且つ肉付き甚だ悪しく肥滿せるものあるを見ず之れ豚の食料が大豆粕の如き高價なるものを用ゐられ分量十分ならざるに依るものならん。

豚の賣買も又主として集或は會に於て牛馬市と相隣りて開かるゝを常とし市日に至れば二十頭乃至三十頭内外の豚は一人或は二三人に看守されて市場に集まり夕刻再び家路に歸る沙河市場の如きは毎集三百頭乃至二百頭内外來集するを見る。

豚肉は食用に供せられ皮は製革して支那人間に使用せられ甚だ貴ばれつゝあり馬鞭の如き其皮にて製す豚毛は近來其用途極めて廣く短かきものは肥料となり長くして太きは猪鬃と呼ばれ濰縣及び濟南府に送られ兩地の猪鬃工場に於て整齊せられ之れを外洋に輸出す猪鬃の用途は主として刷毛製造用に使用せらるゝものにして近年日本の製刷業の發達せると共

に山東猪鬃が青島より日本へ向つて輸出せらるゝもの甚しく増加せり。

### 第五節 鶏

鶏は農家の副業として飼養せらるる本地方の家禽は鶏、家鴨、鵝鳥の三種に區別するを得れども家鴨鵝鳥は永少き本地方にては極めて少くして最も多きは鶏とす農家にては各戸殆んど鶏を飼養せられざるなく殊に平度、萊陽縣を最多とし掖縣、黃縣之れに次ぐ。

本地方飼養の家禽は其大部分は亞細亞種にして骨格大ならず一般に二斤内外の重量を有す其他コーチン、ブラマ等の西洋種及び雜種の見受けらるゝものあれども其數多からず。價格は地方に依り又時期に依りて一定せざるも普通一斤銅元十七箇内外なり。

### 第六節 鶏卵

鶏は農家の副業として收益大なるが爲め本地方に於て飼養するもの甚だ多く勤儉なる本地方人は一箇の卵をも自から明りに使用することをなさず他に賣却するを以て山東省より他地方へ移出する鶏卵甚だ増加し今や山東は鶏卵の産地として世に知らるゝに至れり山東産

出の鶏及び鶏卵の全數を未だ確知する能はざるも本地方農家各戸は常に數十箇の鶏卵を保存せざるなきの有様なれば其數も又少からず。

鶏卵は何れの地方と雖も産出し到る處其地方市場には多數鶏卵の集散するものあれども各縣管内の年産高概數を記すれば次の如し。

平度縣	一二〇〇、〇〇〇	福山縣	五〇〇、〇〇〇
萊陽縣	七〇〇、〇〇〇	招遠縣	五〇〇、〇〇〇
黃縣	一、四〇〇、〇〇〇	掖縣管内	二〇〇〇、〇〇〇
掖縣	六〇〇、〇〇〇	合計	七、七〇〇、〇〇〇
登州	八〇〇、〇〇〇		

即ち大約八百萬箇の鶏卵の産出高あるを知るべし但し之等は海外に輸出せらるゝ數に非ずして本地方の總産出高なり。

出廻り時とは鶏の産卵期を意味す土地、氣候、年齢及び種類に依りて産卵に多少の差異あるべきも本地方の鶏の産卵期は春秋の候に最も多ければ従つて出廻り時機も春三四月頃最多にして九十一年の秋季之れに次ぐ鶏は各農家に飼養せられ専門的養鶏者なければ卵も各



農家に散在し各市場にて賣買せらるる但し市場にて賣買せらるる卵の大部分は市鎮住民の食料となるものにして輸出用として賣買せられつゝあるものは黃縣、平度、萊陽の如き都會に於て見らるゝのみ。

## 第四章 交通機關

交通機關は陸上、海上の二機關に區別す。

### 第一節 海上交通機關

海上交通機關は汽船及び民船の二となす。

#### (イ) 航路

山東省北部近海は比較的遠淺にして大船の寄航に適せずと雖も芝罘、龍口の二開港場と劉家灣、登州、太平灣、石虎咀、海廟、虎頭崖、羊角口、下營、八家後、利津等の民船港あり此中芝罘は水深深く港灣の設備も稍備はれるを以て二千噸級の汽船と雖も出入困難ならざれども龍口は僅かに一千噸級の汽船の入港し得るのみ登州、虎頭崖等の民船港尙ほ沿岸

貿易汽船の寄航するものあれども吃水六呎内外のものに限らる。

冬季に至れば北風強く風波高くして汽船の航行を妨ぐるのみならず動もすれば結氷するを

以て民船は冬季に於て航海すること能はず。

#### (ロ) 汽船

汽船は芝罘、龍口の二開港と内外洋各港間に往復するもの及び以上二開港と沿岸各民船港間の往復をなすものとの二あり。

芝罘港には上海及び日本との直航汽船の往復するものあるのみならず天津上海間定期航路船亦寄港し其外安東縣、仁川、大連、青島間航路船及此地を起點とする沿岸航路船の劉家灣、登州、龍口、石虎咀、虎頭崖に至るもの五隻あり。

龍口には大連に根據を有する大連汽船會社所屬の汽船及び大正元所屬汽船が定期に安東、芝罘、大連及當港間を航行するあり又營口との間に東和公司汽船及び支那汽船の往復するものあり招商局の天津上海航路汽船の定期寄港するものあり交通比較的便利なり。

#### (イ) 民船

民船とは戎克即帆船にして此種交通機關が北山東運輸交通に益する所少からず渤海沿岸の

遠淺にして汽船の往來に適せざる地方と各開港場及び關外南滿洲諸港間に民船往來あるは勿論遠くは上海寧波地方の帆船も芝罘或は龍口へ來航し粉絲白菜等を積込み行くもの少からず。

然れば山東沿岸に於ける民船貿易の額は實に莫大にして芝罘、龍口二港が吐吞するものに比較し得べし、蓋し關外及び南滿諸港間に於ける雜穀の取引は主として民船を利用して輸送せらるゝのみならず北山東省沿岸の主たる民船港たる石虎咀、大平灣、虎頭崖、下營、羊角口、利津及び山東半島部、登州府、劉家灣、芝罘、龍口等へ往來するものも同じく雜穀を積載し來り雜貨、綿絲布等を積送す、芝罘の東方養馬島は民船の避難港として世に知らる。

## 第二節 陸上機關

陸上運輸機關は騾、驢及び大車、小車とす。

### (イ) 道路

道路は芝罘、濰縣間萊陽、平度間平度、即墨間萊陽、芝罘間を連貫する大道にありては時

に險坂を越ゆと雖も尙ほ大車の往來不可能にあらず萊州府、平度間にありても沙河、平度間の道路も尙ほ大車を通すべき道路あり以上の外各開港場民船港と各縣城間は勿論各鄉村より鄉村へ市鎮より鄉村へ人馬の通すべき道路は縦横に貫通し春秋冬の候にありては交通の便を缺ぐが如きことなし現今最も往來繁くして常に人馬の往來絡繹とし絶わざるは芝罘及び龍口を中心として各縣城に至る道路にして就中芝罘、黃縣、福山、萊陽、棲霞等の各縣城間と龍口、黃縣招遠間黃縣、昌邑間の道路は往來の繁華を極む。

棲霞縣、芝罘間、黃縣、萊陽間の道路は險難を極め車行を許さず棲霞、萊陽、黃縣、萊陽間の道路は人馬の往來極めて稀なれども棲霞、芝罘間道路は棲霞縣が有する交通路なれば道路は險難なれども縣内の輸出入品は必ず此道路を通過せざるべからざるを以て人馬の往來少からず。

### (ロ) 大車及び小車

大車とは騾子に依りて運用せらるゝ荷車にして三頭乃至五頭を套繫するを普通とす車輪は滿洲地方のその如く十字形のものにあらずして内地用荷車の輪の如く菊花形をなせるもの多し。

旅客乗用として稀に轎車あれども其數極めて少く滿洲内地の如く積載力大ならず小車は一輪車にして驢馬に套繫し人一人にて推進し舵を取るものなり但し之等に關しては沙河鎮事情報告に詳記する所ありしを以て略す。

(ハ) 驢 驢

驢驢は本地方交通機關の主なるものにして驢は一般に貨物を駄送するに用ゐる驢は旅客乗用として使用せらる何れも一日百支里内外の行程に耐へ少數貨物は勿論多く數量の貨物も敏活を必要とするものは概ね驢子を以て運送せらるゝ習慣にして運賃も比較的安價なり積送貨の全責任は脚夫の負擔にして到着地市價を按じて盜難品及び破壊品の辨價をなさしむるの習慣にして積送者より荷受主に發せし發票に依りて確實に證明せられれば貨物の積送には不安少し。

然れば貨物の運送旅客の往來には必ず驢驢を使用し而も一般の往來繁ければ至る所の市鎮郷店には必ず客棧なるものあり客棧の附近には必ず脚夫の集合して旅客貨物を待ちつゝあり旅客乗用の驢馬及び驢は脚夫間の相談に依りて次ぎから次ぎへ引渡すの習慣即ち荷客の運送權買買の行はれつゝあるを見る。

(ニ) 驛

馬又は驛を前後にし其の背を利用し二頭の間中に轎を駄し之れを連結したるものにして轎は普通アンペラを以て覆せざる粗造のものなり驛は地方名輻子と稱し旅客乗用に供せらるるも驢に騎るよりは賃金數倍なるを以て老人婦人又は稍貧澤なる向の乗用具とせらる從つて驛驢の如く其の數多からず普一日の行程百支里内外にして賃金は京錢五吊文乃至十吊文位なり。

第五章 金融狀況

農業の現況前述の如くにして地質と肥料との吟味、耕作方法の改良、種子の改良收益多かるべき作物の研究に努力するの外將來取るべき手段なく而も本地方の輸出物は農産品、農業副産品及其加工品を主とし化學工業の發達微々たるのみならず人口過剰にして食料品の缺乏甚しきものあるが故に農作の豊凶は金融に重大なる關係を有するや勿論なり加之本地方輸出入品を比較研究する時は輸入高と輸出高とは到底同日に論ずべくもあらざる程輸入超過を示せるを以て本地方金融は年一年逼迫し行かざるべからざるの道理なり但し本地方

は芝罘及び龍口よりして毎年殆んど四十萬に近き苦力移民を省外に出しつゝあれば之等に依りて送付せらるゝ正貨に依りて辛うじて金融の調和を保ちつゝあり。  
更に貨幣制度の不完全は絶えず貨幣價格を變動し金融系統を極めて錯雜ならしめ延いて市場は走馬燈的相場を生じ一朝にして家産を倒盡するが如き例は甚だ多し金融機關の如きも複雑にして貸借の關係も極めて慎重にして對人信用の如きは不安多くして危險を伴ふ事甚し。

### 第一節 金融の中心地

本地方金融の中心は芝罘にして各地方の金融相場は芝罘相場を以て根基となす萊陽、黃縣龍口、沙河鎮等各地の商業會議所は芝罘電報を斟酌して相場を決定す芝罘に次いで沙河鎮相場が地方的相場の中心として重大なる意味を有す。

沙河鎮は青島開港山東鐵道開通以前にありては山東の商業的勢力を殆んど此所に集め置く膠縣、濰縣地方は勿論西部山東省及び沂州府をも其勢力圏内に屈從せしめ市況頗る繁榮し大商人、大富豪の住居するもの頗る多かりしが時勢の推移に伴ひ漸次衰兆を來せり現今に

ありても尙ほ沙河產麥稈真田の集散市場として廣く知られ數百萬兩の輸出をなすのみならず此地を根據として各開港場に支店を有するもの多く遠くは上海、漢口地方迄も金融的勢力を伸張し滙票(爲替)の如きも芝罘、上海、漢口、煙臺等に向つては莫大の取組み賣買行はれつゝあり最も大連、龍口等へは僅かに數百萬兩の賣買あるに過ぎず。

然れば現在掖縣内にて商業會議所を有する地は其縣城にあらずして沙河鎮なり而して掖縣内の金融は勿論平度縣の全部、萊陽縣、昌邑縣の一部に迄重大なる關係を有し之れ等地方の貨幣相場は沙河鎮相場に準據す。

芝罘は勿論本地方唯一の大商業地にして本地方の日々に起る金融の變化は此地に於て左右せらる芝罘は内外國銀行及び舊式金融機關の數も多くして而も工業の大なるものあるのみならず本地方工業品農産品の輸出を此所よりなすもの甚だ多く且つ外國各地方との取引盛んなれば従つて金融の盛衰緩急は遠く外洋の金融如何に左右せらるゝものあるや勿論なり本地方にして最も富度高くして經濟金融の重鎮を以て雄視しつゝあるは黃縣及び沙河を東西の雄なるものとす。

然れば山東各地は勿論各開港地開市場にありても兩地商人は頗る重要なる地位を占め芝罘

商人の如き黃縣人甚だ多く且つ山東に於ける牛皮商は殆んど沙河商人の手に依りて營まれつゝあり。

### 第二節 流通貨幣

通貨は硬貨及び紙幣の二とす。

#### a. 硬貨

硬貨は土地の如何を論せず苟くも商取引あるところには次ぎの數種は流通しつゝあり但し地方鄉村にして商業の見るべきものなき地方にありては硬貨の相場不明の爲め流通困難なることなきに非るも之れとて先方にて希望する換算相場を以てすれば流通不可能なるに非るなり。

#### 1. 銀兩

銀兩は元寶銀、中錠、小鏢、の三種にして洋錢なかりし時代に於ては中錠小鏢は元寶銀の補助貨として使用せられたるものにして現今に於ても補助貨の用をなす芝罘にありては諸取引が皆兩銀を基本とすれども地方にありては大取引の外は主として洋錢若くは銅元を使

用す中錠小鏢は之れを尾銀と稱す元寶銀は所謂馬蹄銀一塊五十兩内外の重量を有し中錠は十兩内外を主とすれども時に又二十兩内外のものを見ることあり形分銅の如し小鏢は五兩内外にして饅頭形なり銀兩は大量取引の外錢莊及び各地方上市者が貨幣相場に依りて賣買を行ふの外滙票納税に使用せらるゝのみにして一般に貨幣としてよりも一種の商品として賣買せられつゝあり。

銀兩の各地に於て其重量を異にし價格従つて同じからず且つ各縣に於ける元寶銀の衡器をも異にせり今左に各地銀塊の比を示せば

芝罘兩(曹平兩)一千兩は庫平兩	九五六兩
芝罘兩(曹平兩)一千兩は萊陽兩	九五〇兩
芝罘兩(曹平兩)一千兩は蓬萊兩	九六二兩
芝罘兩(曹平兩)一千兩は黃縣兩	九四四兩
棲霞縣兩一千兩は庫平兩	九六三兩
平度縣兩一千兩は庫平兩	九七九兩
平度縣兩一千兩は掖縣兩	七六〇兩





掖縣兩一千兩は曹平兩 一、〇五七兩  
掖平一千兩は萊陽兩 九七五兩  
掖平兩は海關兩の一、三六掛  
黃縣兩は海關兩の一〇一、〇三三

2. 洋錢

洋錢とは大小銀貨なり、英洋、德洋、北洋及び支那小洋日本補助銀貨ルーブル圓銀ルーブル小銀貨等とす。

(イ) 大洋錢

大洋錢とは一圓銀貨なり。

英洋、英洋とは本地方人が英國貨幣なりと信じつゝある墨銀の名稱にして應洋とも書く英洋が英國貨幣と誤信せられし原因は本貨幣の最初支那に輸入せらるゝや英國を經由し英國商人の手を以て輸入せられしが爲め最初より之れを英國貨幣と誤信せしに始まる。德洋、德洋は一名之れを立人又は站人と稱する香港圓銀なり之れを獨逸圓銀と誤信するは德華銀行に依りて山東地方に利用せられ廣く通貨として用ゐられたるに原因す。

北洋、北洋は支那政府が鑄造せるものにして故袁世凱の肖像が刻印せられ英洋、德洋に比し賤造及び磨滅の少き爲め支那人間の信用高く吾人が英洋、德洋を授受するに於て蒙るが如き損失及失敗は北洋に於ては全くなし従つて相場表以下の換算率を以て交換せらるゝが如きことなし。

ルーブル圓銀ルーブル圓銀は露國貨幣にして本地方にては商品取引の支拂ひに供せらるゝ事なく露領方面に出稼せる者の携帯し來れるものが錢莊業者と所有主間に於て賣買交換せらるゝに過ぎず其數も多からず。

(ロ) 小洋錢

小洋錢とは江蘇、吉林、奉天、直隸、廣東、福建、安徽、湖北の各省にて鑄造せられし二角、一角の二種支那貨及び日本補助貨露國ルーブル小銀貨を稱す但し日本補助貨は龍口、黃縣、芝罘以外に於て流通するものあるを見ず然れども到る所其の相場を立てつゝあれば之れが交換には不便を感じる事なし。  
ルーブル小銀貨は錢莊業者が之れを賣買しつゝあるに過ぎずして流通貨幣と稱すべからざるが如し。



支那小洋錢にして最も信用あるものは湖南省及び湖北省銀貨の二種にして他種貨幣は何れも品質劣等にして往々贗造物あるを以て信用大ならず割引せらるゝ事多し。

3. 銅元

銅元とは一錢銅貨なり我國舊一錢銅貨と略同一型にして品位少しく劣れり時に依りて流通を拒絶せらるゝが如き品質劣悪なるものあり現今本地方に於ける通貨として最も多量に使用せられ殆んど本位貨幣とも云ふべき状態にあり。

銅元は各省銅元局に於て鑄造せられたるものにして主として前清時代の鑄造に係り何れも當制錢十文即ち制錢十箇に相當するものなり別に當制錢二十文即二錢銅元ありと雖もこは本地方にては信用地に落ちて流通するものなし然れば本地方にては制錢の通貨としての價値を認めざるに至り殆んど銅元を以て本位貨幣視するに至れり。

但し本地方が銅元の計算をなす場合にありては銅元の箇數を以て計算することなく尙ほ制錢流通時代の慣習に従ひ制錢の計算法を以て銅元に適用するに過ぎず而かも芝罘以外に於ける貨幣相場は銅元を主として貨幣相場を確定するものとす然れば本地方に於ける貨幣は一度銅元に換算せられたる上他種貨幣と銅との換算率に依りて授受せらる。

B. 紙幣

紙幣にして本地方全般に流通するものは帖子とす帖子の外或地方のみに限りて通用するものは中國銀行票、交通銀行銅票、山東銀行票、龍口銀行銅票、粉票、滙豐銀行銀票、鈔票、日本銀行兌換券手票等とす。

1. 帖子

帖子とは露國ルーブル紙幣なり本地方にては之を大帖(一〇〇、五〇〇、ルーブル)中帖(五〇、二五)小帖(二三、一〇)の三種に區別せられ大中小帖子各相場を異にす之れを支那人に詰せば大帖は贗造少く携帯に便なるが爲めに於て最も喜ばれ中帖は之に次で信用あるが爲め小帖よりも高價の相場を保つ場合多しと云ふ本地方現今の流通紙幣として其額最も多きは帖子にして其信用も淺からず然りと雖も歐洲戰亂の爲め露國財政窮乏し不換紙幣となる虞ありしにより帖子の價格著しく下落し今や戰前に於けるものと殆んど三分の一の價を保持得るに過ぎず。

帖子が本地方に流通する所以は別に露國の政策に依るに非ずして本地方四十萬の出稼苦力が毎年過年(正月)を故郷に於てなさんが爲めに歸郷する際其貯蓄を露貨に換へて携帯する

が爲めに自から本貨幣が本地方金融業者に依りて一定の相場にて交換せらるゝに至りしもの之れが端緒なり。

2. 老頭兒票

老頭兒票とは日本銀行兌換券にして又老票とも云ふ之れ日本紙幣面に刻印せられたる武内宿禰の像が單に支那人の眼には一老人と解せられしに依る近來正金、朝鮮二銀行の金票も同じく老票或は老頭兒票と呼びつゝあり日本金票は其數に於て到底帖子と同日にして論ずべからざる程少數なれども本地方と大連及び營口、安東地方の經濟關係が益々密接するに従ひ間接に日本經濟上の實力は山東方面に進展し日本金票の流通額は益々増加するの傾向を示せり加之青島が日本軍政に依りて統治せらるゝや本地方の金票の勢力は正金鈔票と共に増進し現に今回旅行せる都市の到る所の錢市に於ては日本紙幣の相場の立てられざるなければ交換に不便少し。

3. 鈔票

鈔票とは正金銀行銀券なり近來流通額頗みに増加し平度、萊陽地方は勿論龍口、芝罘等の主なる都會にありては何れも流通し帖子に次ぎて軍票と共に信用あり。

4. 手票

手票とは日本軍票なり青島戰後日本軍票は相當に信用及び勢力あるものとして通貨界に表はれたり。

5. 滙豐銀行票

本票は英洋即墨銀に對する香港上海銀行の發行せる票にして芝罘に於て非常の勢力を以て流通すと雖も他方にては全く信用なく流通不可能なり。

6. 中國銀行票

とは支那金庫たる中國銀行が發行せる銀票にして沙河鎮、芝罘、龍口等の主たる市場に於て流通するも其數多からず特に兌換停止問題發生以後は信用を失し相場も又大洋錢に比して著しく下落せり。

7. 山東銀行票

とは濟南に本店を有する山東銀行が發行せる大洋銀票なり芝罘に於ては流通すと雖も他地方にては流通せず。

8. 交通銀行票

は交通銀行龍口支店が發行せる吊文銅元票にして龍口に於て多少流通するも其信用極めて低く支那人さへも領收せるを欲せず。

9. 龍口銀行票

龍口銀行が龍口に於て發行するものにして一吊文及び五吊文十吊文の三種にして龍口一帯及び黃縣招遠管下にて信用甚高く流通頗る佳なり。

10. 粉票

粉條子製造家に於て發行しつゝある一種の兌換券にして龍口に於ても黃縣に於ても毎日相場を立てらるゝ程現今支那人間に信用高く特に黃縣に於ては然りとす。

第三節 銅元計算法

銅錢の流通禁止せられ銅元を以て本位貨幣視するに至れりと雖も其計算法に到りては舊來の慣習に依りて銅錢を基礎とせる計算法に遵據す但し銅元は源と銅錢を基礎として鑄造せられたるものなるが故に銅錢全く流通せざる現今と雖も舊來の慣習を襲用すとも何等不都合の點を見ざるなり然れば今銅元の計算法を詳細に記述するは全く制錢の計算法を説くど

甚しき差異なし而して計算法は地方の商慣習の異なるに従つて特色ありて一定せざるも大體に於て或る一地方を主として系統的關係を有す。

之れが計算法を大別するときは先づ大錢法京錢法の二とす。

(イ) 大錢法

大錢とは銅錢一箇を一文として計算し銅元一箇は當十文とす京錢とは銅錢一箇を二文とし銅元一箇は當二十文として計算す。

大錢法の採用せらるゝは芝罘を中心とし芝罘商業系統に屬する福山棲霞、萊陽及び芝罘以東の半島部諸縣に用ゐられつゝあり銅元百箇即一千文を以て一吊文とす故に大錢法にありては一吊文は銅元百箇なりと見る事を得。

(ロ) 京錢法

京錢法は蓬萊、黃縣以西の地方に採用せられ福山地方の西部は京錢と大錢と混錯し或場合には京錢法を或場合には大錢法を用ふるの習慣あり然れば物價を問ふには大錢にて幾何か或は京錢にて幾何區別するの要あり。

京錢も大錢と同じく一千文を以て一吊文と確定せる事に於て同一なるも京錢法の一千文は



銅元五十箇にて一千文と爲るを以て同じく一吊文と雖も大錢一吊文は京錢の二吊に相當するものとす。

(ハ) 串錢滿錢及び底子

貨幣換算の場合に於ては必ず一度銅元に換算せられし上他種貨幣に換算せらるゝを普通とす然れば貨幣の換算即ち兩替を必要とする場合は何れの地方も慣習に従つて串錢をなす。串錢とは割引にして一吊文より一定の割引をなすものにして割引高を差引きたる額を一吊文として計算するを云ふ。

龍口	十二文	黃縣	十二文
黃縣	十二文	平度	八文
沙河	十二文	萊陽	八文(京錢十六文)

但し芝罘のみは昨年來底子の制度廢せられたり底子なきもの即串錢せられざるを滿錢と云ふ。

黃縣、掖縣管下にありては一吊文より十二文を減じたる數九百八十八文を一吊文として交

附し平度縣にては九百九十二文を一吊として交附するの習慣なり十二文を控除するものを十二底子と云ひ八文を減するを八底錢と云ふ串錢は一般に六百文以上の取引に於ては一吊文と同じく十二底子或は八底子を控除するも五百文より五百九十九文迄は其底子の半分即ち六文或は四文を減じ四百九十九文以下の數に於ては串錢をなさず滿錢とす。但し串錢は貨幣換算の場合に於てのみ行はるゝものにして決して商品賣買に際して行はるる事なし但し雜穀のみは沙河、龍口地方に於て割引計算法の行はるゝ事あり沙河鎮にありては所謂九八錢の方法なり九八錢は一吊文を九百八十文即ち銅元四十九箇を一吊文と計算するものにして已に價格決定の場合有底子幾何として商約す。

第四節 金融機關

金融機關は外國銀行支那新式銀行支那舊式銀行とす支那舊式銀行とは錢莊及當舖を云ふ當舖とは質屋なり。

(イ) 外國銀行

外國銀行は本地方に於ては芝罘に於て之れを見るのみにして其主なるものは。

1. 露亞銀行(革俄道勝銀行) (R.A.B.)
2. 滙豐銀行代理店 Co. nabe Co.
3. 正金銀行代理店 Am & Co.
4. 正隆銀行支店

にして露亞銀行は最も信用深くして芝罘經濟界の重要地位を占め盛んなる活動をなしつゝあり。

正隆銀行は支店設立後僅かに半年のみ論すべからず。

(ロ) 新式銀行

新式銀行は支那舊來の習慣を脱して外國銀行の法式を以て設立せられたる支那銀行を云ふ

1. 中國銀行
- 交通銀行と共に支那の大銀行として中外人に知られ中央銀行たり。
- 本地方にては芝罘及び掖縣に其出張所あり。
2. 交通銀行
- 交通銀行は芝罘及龍口に其出張所あり海關税金の出納を掌る。

3. 山東銀行

山東銀行は本店を濟南に有し芝罘に出張所あり。

4. 芝罘商業銀行

芝罘有力者の設立に係り芝罘に於ける金融を掌る。

5. 龍口銀行

龍口銀行は日支合辦の銀行にして大連に支店(現今大連を本店とす)を有し龍口、大連の經濟界の接近に努力しつゝあり。

(ハ) 錢莊

錢莊は即ち兩替屋なり何れの地と雖も少しく都市の形態をなすところ必ず錢莊ありて貨幣の買賣を行ひ貨幣の換算に應じて以て金融界に雄視しつゝあり然れば本地方に於ける金融の如何は錢莊の大小多少及び盛衰に依りて知ることを得べし各地に於ける錢莊の數を擧ぐれば。

黃	縣	四〇	芝	罘	六四	平	度	六
棲	霞	四	沙	河	二七	萊	陽	八



### 第六章 度量衡

#### 第一節 尺度

尺度は官尺及び裁尺の二種に區別するを普通とす地方に依りては裁尺及び匠作尺の二種に區別するものあり官尺と裁尺とは全然一別種のものなるも匠作尺と官尺とは同一のものと見るを得べし今官尺と裁尺とに就き日本曲尺との比較を示せば

官尺七寸は日本曲尺七寸三分

裁尺一尺日本曲尺一尺一寸五分

に相當す但し裁尺は土地に由り店舗に由り多少の差異あるのみならず甚しきに至りては買用買用の二種の異りたる裁尺を用ひつゝあるものさへ見受く之れ尺度に對する制度の不完全なるに起原する所ならん。

#### 第二節 斗量

斗量は土地の異なるに從ひて大小種々ありて同じ一升と雖も掖縣と沙河鎮とに於て異り沙河

と灰埠とに於て大小同じからず然れども各縣ともに衙門即ち縣公署に於て一定の斗管を保管しありて之れを斗量の基礎となしつゝあり但し斗管の容量は之れを明かにする能はざるも今各地方に於ける一升の容量を斗管に示せば

龍口 五、三管 灰埠 七、八管 平度 二、〇管

沙河 四、八管 萊陽 三、三管

とす斯くの如く同縣内に於てすら已に斗量の大小一定せざるを以て本地方の斗量が如何に錯雜せるかを見るに足らん。

斗量は十升を一斗と呼び十斗を一石と云ひ石以上は何千何百何十石と云ふ。

以上斗管の外芝罘、龍口、虎頭崖等の開港地及び民船港にありては錦斗を用ふ錦斗一斗の容量は我國一斗四升五合に相當す。

#### 第三節 衡

衡も亦區々にして一定せず精確なる調査は困難なり特に衡の製法不統一なる爲め同種のもの雖も衡量を同じくせざるを常とす普通本地方一般に使用せられつゝあるものは

1. 十六兩稱 十六兩を一斤とせるもの
2. 十七兩稱 十七兩を一斤とせるもの
3. 十八兩稱 十八兩を一斤とせるもの
4. 十五兩半稱 十五兩半を一斤とせるもの
5. 十四兩稱 十四兩を一斤とせるもの
6. 十二兩稱 十二兩を一斤とするもの即ち一磅斤なり
7. 二十兩稱 二十兩を一斤とするもの

とす但し最も廣く用ゐらるゝは十六兩稱にして一名之れを行稱と稱す十五兩半を一斤とするものは之れ煙臺稱にして主として芝罘、龍口に於て輸入品を權るに用ゐる十八兩稱は薪草の權に用ゐる二十兩稱は北馬市に於て牛肉を權るに用ゐる。

衡の標準となり基礎となるものは銅錢又は銅元にして一般に十六兩稱一斤の重さは銅錢三百二十箇銅元五十箇の重さを以てし略々日本衡の百五十匁に相當す。  
芝罘に於ては芝罘錢業公司内に重量一百斤を有する石頭の備へられたるあり之れを稱の標準試驗石として用ゐつゝあり。

#### 第四節 平

平とは一名之れを秤とも云ふ銀兩を秤量とすに用ふるものなり之れに就ては已に貨幣の項に於て述べたる各地銀兩と同じきものと知るべし。

### 第七章 商業

#### 第一節 都會

本地方商業狀況を商業地としての都會と輸出商品とに區別し記述すべし。

##### 一、芝罘港

##### (1) 人口及び位置

芝罘は一名煙臺と云ふ西曆一千八百六十三年の開港にして人口十萬と稱すれども芝罘日本領事館の調査に依れば七萬を過ぎず。

地は渤海灣口の要所に位置し風光明媚に氣候溫暖なれば夏時避暑地として名あり。

今當港と關係各港間の距離を記せば左の如し。



至大連	八八漚	至仁川	二六八漚	至天津	二四五漚
至龍口	八〇漚	至釜山	五二〇漚	至上海	五一〇漚
至青島	二二九漚	至長崎	五六六漚		
至太沽	二〇五漚	至營口	二二四漚		

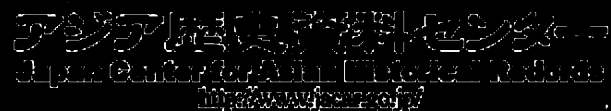
(ロ) 港灣及貿易盛衰

芝罘は元來山東省に於ける唯一の開港場たりし地にして三千餘萬の人口を有する山東全省の外海に對する門戸として内外貨物を吞吐し滿洲及朝鮮貿易の中繼港として發達し來りしも青島開港せられ山東津浦兩鐵道の開通するあり南西山東省の大部分は青島の商業的發展に伴ひ其勢力圏を縮少せられ大連及び安東縣の發達と共に中繼貿易港としての實權も又此等の地方に移り唯一の勢力範圍として一道の光明なりし背後地の一部は威海衛、大連間龍口、大連間の貿易の増加と共に此二地方に奪はれ従前の兄弟港たる大連、安東の繁盛を他所に見つゝ衰退の悲運に落ちつゝあり今之れを數字的に研究せんが爲めに次に芝罘海關の最近十年間の報告表を記載せん。

汽船出入總數

年 別	進 口 隻 數	進 口 噸 數	出 口 隻 數	出 口 噸 數
一九〇五年	二〇八九	一七四、一三三	二、七八五	二、四九七
一九〇六年	二、七九一	二、五〇、〇三三	二、六四七	一、九六三、三三三
一九〇七年	二、六四八	一、九六五、五九六	二、五五四	一、九三三、九三六
一九〇八年	二、五四九	一、九二〇、三六四	二、三六八	一、九五六、七七九
一九〇九年	二、三六九	一、九五三、四三六	二、二六三	一、八四四、一四三
一九一〇年	二、二六〇	一、八四二、二五二	一、九五五	一、五九七、四二九
一九一一年	一、九五四	一、五九八、九六七	一、九七二	一、五六七、一六〇
一九一二年	一、九九〇	一、五六五、一五	二、一七〇	一、七二四、六五〇
一九一三年	二、一七五	一、七二六、九二九	一、八五〇	一、六八九、五九四
一九一四年	一、八四八	一、六八八、四八一	一、六九二	一、四三五、五九一
一九一五年	一、六九三	一、四三四、五六九		

右統計に依れば西曆一千九百十三年以後は歐洲戰亂の餘波の爲め汽船の出入多少の亂調を示したるものあるは免かれざるも十年前と現今とに於ては出入共に五十萬噸乃至七十萬噸の大減少を示せり以て芝罘港の衰運如何を知るべし。



上表は外洋航行の汽船なれども内航汽船の出入状況亦頗る亂調子を示せり即ち  
内航汽船出入總數

年 別	出入隻數合計	入港噸數合計	年 別	
			出入隻數合計	出入噸數合計
一九〇六年	九二二	三〇四、九四五	一九一一年	一、〇六三
一九〇七年	六四三	二一七、五五九	一九一二年	九九五
一九〇八年	六四八	二七、〇一四	一九一三年	一、〇四三
一九〇九年	六九一	三三〇、三九四	一九一四年	八三三
一九一〇年	九一〇	三六一、九六四	一九一五年	一、〇〇八
				二六三、五二五
				三八五、二五五
				二八八、五二九
				三〇九、八一〇
				二五〇、七二七
				二六三、五二五

即ち以上二表に由り芝罘が近年其港灣としての衰色を示しつつあるを見るべく貿易に於ても他港の進侵を蒙りて自から悲運の境にあり左の貿易年別表を以て之を證すべし。

貿易年別表

年 別	輸 入 額	輸 出 高	合 計	再 輸 出
一九〇六年	二、四九六、二五九	一、九六三、三九九	四、〇四九、六五七	五七、一九三八八

一九〇七年	三、四八九、四三五	一、〇七九、九〇七	三、三二〇、八四九	四、五六一、九八四
一九〇八年	三、七五三、四〇〇	一、一三六、四〇三	三、三二〇、八四九	六、八六六、三八一
一九〇九年	二、六〇七、六五三	一、八二四、三〇七	四、四三三、九六〇	五、八九八、一九七
一九一〇年	二、五九四、〇〇九	一、四七三、二二四	三、六三三、八五三	五、五〇五、二二三
一九一一年	三、一五九、三三九	一、三九一、六五八	三、六〇七、七五七	五、六六四、一三三
一九一二年	二、五三六、八五三	一、二八六、三七三	三、四四〇、五八三	三、三〇九、四八九
一九一三年	二、〇七六、三三〇	一、四一八、三六三	三、四九四、六九三	三、三〇九、四八九
一九一四年	一、六八九、六〇〇	一、四六七、五四一	二、八三三、六四一	二、五八四、三六四
一九一五年	二、二二二、四三三	二、二六三、三六〇	四、三七三、九〇三	四、三八九、六四三

尙ほ芝罘海關の收入税金を調査するに十年前と大正三年度とを比するに約二割七分の減少を示せり之れ海關税金の増減多少は其港灣の盛衰を語るべき唯一のものなるに税金にして已に減少を示す以上最早芝罘港が衰退に赴きつつある事實は確實に證明し得る所なり千九百十五年度に於て貿易額合計の増加を示せるは之れ青島が戰亂の爲めに閉鎖されたるが大なる原因にして戰亂の爲めの亂調なりと知るべし。

(一) 港灣狀況

芝罘は北面の海港にして北西は煙臺の突角あり東北には空洞島あり三面山に圍繞せられ所謂崂山臨水小半島上に發達せる都市にして港灣の形狀は大なる不可なきも灣内比較的遠淺にして大洋航行汽船の出入には多少の不便を感ず但し三千噸級以下の汽船は入港不可能なるに非ず多少停泊地の距離遠くして荷役諸掛りの増加するの不利あり。

(二) 築港狀況

芝罘の衰運を挽回救済せんが爲めの窮策として芝罘有力者及び在住外人間にて講究建築せしものを芝罘築港及び煙灘鐵道敷設の二案件とす但し煙灘鐵道の如きは芝罘、黃縣間の工事困難にして多額の費用を要し外國財團の援助なくしては爲す能はざるに近し紙片の燃ゆるが如き支那人の一次的衝動は其初めに於て非常なる努力と抱負とを以て鐵道敷設に奔走せしと雖も事に意外の齟齬を來すや忘れたるが如く放棄して顧みず現今に於ては全く事業の進行を畫策しつゝある者なし然れども築港は著々として其の歩を進め北京外交團及政府の同意する所となり輸出入貨物に特別附加税を賦課し入港船舶より築港税を徴し以て之れが資に宛て已に、ネザールランド、ハーバークス會社の手に依りて築港事業を開始せり但し戰亂の結果は諸材料の騰貴せし結果工事進行遲滞し未だ見るべきものなし。

(ホ) 錢莊

芝罘に於ける錢莊大小數ふるに違あらずと雖も其主たるものは次の如し。

字號	資本金	年曆	字號	資本金	年曆
同泰利	一〇〇,〇〇〇	一八年	恒聚茂	一〇〇,〇〇〇	二三年
福和盛	八〇,〇〇〇	一七年	寶生同	八〇,〇〇〇	一六年
和興厚	一〇〇,〇〇〇	一六年	益盛永	八〇,〇〇〇	二〇年
德盛永	八〇,〇〇〇	一五年	豐順棧	一〇〇,〇〇〇	二〇年
源興和	七〇,〇〇〇	一七年	增泰德	八〇,〇〇〇	二四年
同盛福	七〇,〇〇〇	一七年	仁順福	八〇,〇〇〇	二四年
福盛永	一〇〇,〇〇〇	一六年	興利洋	一〇〇,〇〇〇	二六年
豐泰永	一〇〇,〇〇〇	一四年	政利號	一〇〇,〇〇〇	二六年
聚盛長	一五〇,〇〇〇	一〇年	文生合	五〇,〇〇〇	一三年
恒聚棧	一五〇,〇〇〇	一〇年	恒源號	一七〇,〇〇〇	一五年
永聚德	六〇,〇〇〇	一〇年	協和成	一三〇,〇〇〇	一二年
順利	八〇,〇〇〇	一五年	豐泰成	一三〇,〇〇〇	一二年
聚和厚	八〇,〇〇〇	一五年	福成號	八〇,〇〇〇	一四年



萬順茂	公順	天成	永盛	和豐	永豐	益豐	源發	復成	天和	天聚	德魁	同順	同慶	豐永	盛泰	餘順	安記
八〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇	五〇〇〇	八〇〇〇	五〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇〇	九〇〇〇	二〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	八〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇
一五	一八	一四	一五	一七	一七	一七	一七	一七	一八	一八	一八	一八	一七	一七	一六	一六	一六
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
利和興	慶德	同盛	同順	聚盛	福順	廣生	德成	中興	福永	復成	和昌	同盛	華勝	和興	聚盛	成發	永豐
四〇〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	七〇〇〇
一〇	一八	一九	一七	一八	一八	一八	一五	一五	一七	一七	一八	一九	一八	一八	一七	一七	一七
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

(一) 貨幣相場

芝罘貨幣相場は毎朝未明西太廟に於て重立ちたる商人が集會し錢銀市場を開き元寶銀と銅元との賣買を行ひ銀の銅元に對する相場を決定す此場合現金賣と期買との二あり従つて銀對銅の相場も二者同からず期賣の相場は抹兌と云ふ大正五年七月十日に於ける抹兌は二吊十二文五厘にして之れ銀一兩(曹平)の銅價なり。

現錢賣買は二吊零七文五厘とす此に相場表に記載せらるゝは即ち當地に於て底子及び月底の制度なきが爲めなるべし。

以上西太廟に於ける銀銅賣買を稱して錢市或は銀市と云ふ西太廟の銀市は午前九時前後に至りて終了す、銀市終了するや各錢莊業者は芝罘錢業公所に集合し銀市の銀對銅の相場を參酌し内外各貨幣の換算率を決定す。

斯の如く當地貨幣相場は元寶銀を基礎として決定せられ洋錢百圓に對し銀幾兩として相場に表はる。

今大正五年七月一日に於ける芝罘相場を示せば

英 洋 元

六九二五〇

俄 金 洋

六三二〇〇

北部山東省經濟事情

一五二

德洋元	六九二五〇	日本老票	七〇、三〇〇
北洋元	六九二五〇	日本洋元	六七、〇〇〇
俄帖子	四一七五〇	邊洋元	六七、〇〇〇
牛莊票	六九六五〇	小洋元	五六、八五〇
大手票	六九六五〇	江湖洋元	六七、〇〇〇
吉林洋元	六四〇〇〇	奉天洋元	六四、〇〇〇
俄洋元	四八〇〇〇	帖色	二、五〇〇
銀市	抹 兌	二吊十二文五厘	
	現 錢	二吊二文五厘	
	銅 元	二吊七、五文	

但し以上の相場は當日の標準相場にして實際錢舖が取扱ひつゝある貨幣の換算相場は錢莊手數料として一分を控除するが故に百圓に對する一圓の控除をなさると習慣なり。

(ト) 帖色

帖色とは滙票の賣買に依りて生ずる額面價格との差額を云ふ一名之れを帖水と云ふ、滙票

とは支那錢莊が發行する爲替券を云ふこは金融の緩緊に依りて高低を生ずるものにして本地商人にして若し多額の現金を所持せば別に滙票を發行するの必要なきや勿論なり然れども他地方に對する支拂は現金輸送出來ざる場合多きを以て滙票の需要多くして供給不足を生じ益々之が收買に困難を感ずることあるに反し金融緊縮したるとき即ち現金少きときは全く反對の現象を呈し賣却者の數増加するを以て買手に於て競争的買收手段を講ずる必要なし故に金融緩慢なるときは百圓の滙票を買收せんとする場合にも需要供給の關係上競争を惹起し滙票の價格は自から騰貴を來し百圓以上の價格を生ず然れども金融緊迫の場合は之れと正反對の競争起り額面下に於て賣買するを得此場合に於ける賣價と額面價格との差額を帖水と云ふ上記相場表に表はれたる帖色は千兩に對する帖水なり但し一般帖色或は帖水と云はるゝは額面額以下に於て賣買せられたる際の差額にして之れを順帖色と稱す之れと反對なる場合に於ては逆帖色と云ひ芝罘行市單面に倒帖色と記入せられたる場合なり之れに依りて滙票が銀行爲替に於けると比較して利益なる點は滙水即ち爲替料なるもの不必要なるが上に順帖色の場合には買收者に於て帖色丈の利益あり。

(チ) 芝罘在住外國人

北部山東省經濟事情

一五三

芝罘は外國租界の設定なく内外雜居の地にして外國人の居住するもの六百に近し然れば外國商館及び官衙も少からず從て之れに附隨せる事務所住宅公會堂等も少からず之等は何れも芝罘市街半島の突端たる東部の第六區に集合し之れを俗に居留地と稱す居留地内の外人委員會を設けて義務税を徴收し道路、橋梁、街燈衛生の事務を掌る。

A. 日本人

芝罘在住日本人は約四百人にして其職業は官吏、會社員、雜貨商、船員及び藝酌婦、理髮、飲食店、料理店等とす然れば日本人は六百人の外人中其三分の二を占め其數に於ては實に第一位にあり在留民機關として居留民團あり明治四十年の設立に係り小學校幼稚園、民團醫院、俱樂部、火葬場を經營す。

當地に於ける主たる日本商店を掲ぐれば左の如し。

三井洋行出張所	輸出入商、石炭	勝田洋行	雜貨
岩城商會	石炭、船舶、雜貨	白石洋行	雜貨料食品
東亞煙草會社出張所	煙草	岡野回生堂	藥舖
正隆銀行出張所	銀行業	愛國ホテル	旅館

稻森洋行 桐材 東洋館 寫眞

而して外人支那人間に相當の信用を有するものは三井、岩城の二商會のみ別に岡野回生堂が賣藥舖として多少支那人間に知られたるのみ然れば芝罘に於ける日本人は人口の割合に有力なる地位を占め居らず。

B. 外國商館

和記洋行、英國人の經營にして輸出入を本業とし別に怡和洋行、亞細亞石油會社、英米煙草會社の代理店たり。

益斯洋行、獨逸人經營にして輸出入を本業とし戰前にありては正金銀行、大阪商船會社の代理店たり。

太古洋行、輸出入商にして英人の經營に係り滙豐銀行の代理店なり。  
哈喇洋行、獨逸人經營にして雜貨及艦船用達を本業とす。

美孚洋行、米人經營の石油スタンダード會社出張所。  
士洋美行、輸出入商。  
露清銀行、銀行業。



以上の外尙輸出入商として

徳成洋行(獨) 敦和洋行(獨) 百多洋行(佛) 等あり。

(リ) 主たる輸出入品

芝罘に於ける輸出貿易額は千九百十五年度に於て四千萬圓以上に達せしと雖も一般に三千五六百萬圓内外を普通とす。

芝罘に於ける主なる輸入品は綿絲布、石油、洋火及び雜貨とす然れど之等に就ては第二項重要輸出入品に於て記述すべきを以て茲に之を略す。

輸出品の大宗は精細、落花生、炸蠶絲、粉條子、甘草、麻、牛皮、白菜とす之れは第二項に於て説くべし。

(ヌ) 工業

芝罘に於ける工業主たるものは炸蠶製絲業、絹綳製織業、油房、製襪工廠、織布工廠とす。

炸蠶製絲場	四八	織布業	四	絹綳製機房	三
油房	一三	製襪業	不詳		

以上に關する詳細は第二項參照。

二、龍口鎮

(イ) 位置人口及地勢

龍口は黃縣管下瓊島半島の起脚にある開港場にして一名金沙嘴と云ふ今之れが位置を明かにせんが爲めに各地との距離を記せば

芝罘より西、海路八十浬  
 芝罘より陸路二百二十支里  
 大連より海路百二十浬

にして北緯三十七度四十分東經一百二十度二十分に位置す。

市街は開埠後僅か一年に過ぎざるを以て他の開港地に見るが如き未だ高樓輪換の美なしと雖も開港以來人家商舖の面目改まり南方に向つて商業家屋の擴張増築せらるゝもの多く注目すべき商業町を形作り街道は町端に於て黃縣平野に連り掖縣、黃縣等へ通する大道へ聯絡す。

往時は一漁村に過ぎざりしもの此附近の海岸比較的水深く船舶の出入に便なるが故に次第



に發達して民船港となり遂に開港場として變遷し來りたるものにして未だ市街も廣大ならず大商舖も少く殊に開港前に於ては北風激甚なる冬季には當港唯一の顧客たる民船の出入減少し全く商勢衰ふるの風ありしを以て龍口商舖の過半は地方商人の出張店たるの觀を爲し夏季に出で各季に退去するもの多く人口も夏冬其數を一にせざる有様なりしも開港後に於ては次第に其風習衰へ永住的商舖の數を増加するの傾向を喚起し人口の差異少きに至れり。

現今の調査に依れば當地戶口の概數は戶口七百人人口四千五百人とす但し昨年末當地海關の報告に依れば人口約三千八百六十人と認められしを以て人口は約一千人の増加を示せり。龍口一帯は土地肥沃ならずして一般に沙地なるを以て衛生状態の進歩せざるに係らず健康にして從來流行病の如きもの少し而も遠く黃縣平原に連り最も近き山脈も龍口を去る二十五支里を距て地勢甚だ好し。

(ロ) 港灣及び商埠地

山東省渤海沿岸は概ね遠淺にして大船の入港に適せずと雖も當地は芝罘に於ける良港灣をなし小型汽船の入港に不便なし然れども開埠後僅かに一年にして未だ設備整然たらず港岸

の如き唯一箇の民船港たりし時代と何等變りたる面影なく荷役の不便尠からず。

本港の地理形勢は囑託淺見氏の調査報告に盡きたるを以て其詳細は之れを避けんも昨年末當地東海分關の調査せし所に依りて其の大體を記すれば。

東北方三十支里外に瓊瑤島半島突出して港灣風波の保障となり來往船舶之れに隱泊す同半島の西南に一沙洲現出し港口を内外に分割す或は名附けて港門と稱す。

外港は朔望潮落の時も水深尙は十三乃至十六英尺あり外港より内港に馳入する最も淺き所即ち港門の最淺所も亦水深八英尺あり岸上には指引標準を設けて水面には程を浮べて警船浮標とす。

内港は南北二漚東西一漚三分の一にして朔望潮落の時水深十二呎あり東南北の三面は岸にして西方港門たり天自海潮の形勝たり内外港共に海底は沙地にして外港は比較的大船の停泊に可能なれども内港は僅かに沿岸航路船の如き比較的吃水短きもののみ停泊し得。

本港の特點は大海より港内への線路明瞭にして水底石礁なれば航海に種々困難を免れ得せしむ春夏秋の三季は重に南及西南風多きも之れが爲め海波激するに至らず小浮舟と雖も遠く外港に出でて荷役することを得冬季は西北風多く従つて内港又波浪の襲來を免れず汽船



の出入には大なる困難なきも燭板の困難甚しき危険を有す加ふるに冬季約五日毎に東風襲來するを例とし海波従つて平穩なるが故に之れを利用し得旅順、大連、芝罘と汽船の交通は當港が有するこの自然的東風の爲めに甚しき不便を見ず但し大正五年末より六年初めに於ては寒氣甚しく海水は結氷し各地との交通絶わて物價騰貴し食料の拂底を來せり。

商埠地

龍口開港の結果は當然外人居留地選定の必要あり即ち瓊璣島半島の起脚より現龍口市街に至る沙原の一角を劃し之れを商埠地と定め已に中央政府の許可する所となりて商埠局長陳國器を派し其事務を總理せしむ該地は已に測量を終り製圖完備し建築の法も又新式に則つて之れが完成を期せんとするものゝ如し商埠局は已に一昨年末より誠心之れが實行に従事し商埠局事務所は已に完成し道路も又已に起工し一橋梁は竣成し道路も大馬路已に半部の工終る。

(ハ) 大連と龍口との貿易關係

大連、龍口二港の貿易關係は比年密接の度を加へ明治四十三年小型汽船の定期航路開けてより貨物の來往益々増加し通商關係愈々密接ならんとするや一時支那常關が土貨保護の目

的を以て輸入品に破格の税金を課するに至り綿布及諸雜貨の税率凡そ九割高となり綿絲約三割半高となれり但し開港以來は規定に従つて海關に於て關稅を徵收するに至れり。

然れども未だ芝罘に於けると同一なる能はざるものあり現に龍口商會は稅關に向つて芝罘と同一の恩典を受けんことを申請せり。

大正五年四月大正元汽船が都督府の命令航路を開始し大連汽船(命令航路)と交互に定期航海をなすに至り従前に比し彼此交通は益々便利となり頻繁に赴けり。

(ニ) 貿易通商關係

大連、龍口間の貿易關係は近來益々密接を加へ爾者實に兄弟港たるの觀を呈す蓋し従前に於ては當港貿易系統は芝罘市場に隸屬せしものなりしが定期汽船航路の開始せられてより山東名物移民苦力の集散するもの甚だ多きを加へしのみならず從來單純なる戎克港たりしもの一躍有數なる貨物吞吐港となり商業勢力も招遠、黃縣管下に擴張せられ背後地市場と附近各開港間に立て仲繼市場となり大連港に對しては恰も之れが補助港たるの感あり。今之れが事實を證明せんが爲め當港年來の輸出入統計を示せば

1. 大正二年度汽船貿易

港別	輸出總數	輸入總數	港別	輸出總數	輸入總數
芝罘	一二三三九八 <small>小計元</small>	一一二二八三八 <small>小計元</small>	天津	一四六九〇 <small>小計元</small>	七〇二五七七 <small>小計元</small>
大連	一八八九二八	一六五三四四六	安東	—	—
營口	三二一八二二	一〇三三四六〇	合計	六四八八三八	三六九二三八一
合計	三二一八二二	一〇三三四六〇			

大正三年度汽船貿易

港別	輸出總數	輸入總數	港別	輸出總數	輸入總數
芝罘	三三〇二七八 <small>小計元</small>	六六八〇三三 <small>小計元</small>	天津	一六三三二 <small>小計元</small>	一九八六〇〇 <small>小計元</small>
大連	三八四八九九	一八六八八一	安東	—	—
營口	一一〇〇〇〇	八〇八〇三五	合計	八五一五二九	三六二七一七九
合計	一一〇〇〇〇	八〇八〇三五			

大正四年度汽船貿易

港別	輸出總數	輸入總數	港別	輸出總數	輸入總數
營口	一六九二二六 <small>小計元</small>	二四二六一六三 <small>小計元</small>	大連	二三八五一六六 <small>小計元</small>	三四一〇〇〇 <small>小計元</small>

芝罘	大連	營口	合計
二四八九二〇 <small>小計元</small>	六四六六三三五 <small>小計元</small>	三〇三二四二七 <small>小計元</small>	七〇四八七六六 <small>小計元</small>
六二八七二一 <small>小計元</small>	—	—	六二八七二一 <small>小計元</small>

大正元年度帆船貿易總計

年別	輸出總數	輸入總數
大正元年	一三〇五七二〇 <small>元</small>	二〇一六八一五 <small>元</small>

大正二年度帆船貿易

輸入總數	輸出總數
七五三七一三 <small>元</small>	八一四二五三 <small>元</small>

大正三年度帆船貿易

輸入總數	輸出總數
一一三三四二八 <small>元</small>	不詳

注意

一、龍口は開埠後僅かに一年に過ぎずして貿易統計表として發表せられたるものなければ勿論上表の確否に就ては責任を以て保證するを得ざるも當地の主なる民船及汽船取扱業

北部山東省經濟事情

者及び龍口銀行の各方面より得たる數を綜合せるものなれば近似の數なるを斷言するこ  
とを得べし。

一、數字は小洋元を以て示す。

以上の表に依りて對岸貿易港と當港との關係を細密に研究するときは輸出は輸入に比して  
遙かに少く大正四年度に至りては已に十と一の比を示す之れ龍口背後地に輸出向物産の少  
きを語るものにして龍口は目下片貿易のみと云ふも妨げなし。

各港別に之れを見れば大連最も多額の輸出入をなし總額の約三割強營口二割、芝罘一割四  
分、安東一割九分其他一割七分の歩合を示し而も大連は輸出入額の増加率最も高し。

龍口よりする輸出土貨に就いて其仕向先きを驗するに汽船貿易に於ては大正四年度に於て  
既に大連、芝罘の壘を靡せんとせるも芝罘、龍口間の民船貿易は大連よりも遙かに優勝の  
地位に立ちつゝあり但し龍口、芝罘間に於ては毎年粉條子の戎克に依りて積送せらるゝも  
の甚だ多ければなり。

(ホ) 主たる輸出入品

輸入品の主要なるものは炸蠶絲、豆粕、綠豆、包米、高粱、大豆、諸雜貨、紙、石油、綿絲布等に

して比較的高價品のみなれども輸出品は粉條子、鶏卵、野菜、菓物等比較的廉價なるもの  
多きが爲めに輸入額は貿易總高の八割乃至九割を占め甚しき入超を來しつゝあり今大正四  
年度に於ける輸出入品及び來往客數を示せば

1. 營口より

品目	數量	價格	品目	數量	價格
客	、三二、八九四		藥	六三	三一五〇
綠豆	二九、八〇七	二六八、二六三	灰	三、四八二	一〇、四四六〇〇
小豆	九、一一〇	七二八、八〇〇	毛	一、二二四	三、七二〇
大豆	一〇、七五七	七五二、九九九	紅	一、八八四	六、五三六二
小餅	一四二、三六〇	八五四、一六〇	大	二、八九四〇〇	四、三四一〇〇
包米	一四、六六四	九、九一八八	雜	七二〇	五〇、四〇〇
酒	一三、二九二	六、六四六〇	豆	二、二二九	六、八七
酒	一、四九六	七、四八〇〇	油	一〇	二〇〇
酒	九、六三六	五、七八一六	鐵	一〇	一五〇
洋	四、五〇	一、三五〇	土	四九〇	六、三七〇
麵			麻		



北部山東省經濟事情

品目	數量	金額
海菜	三三三	二二六四五
火油	一〇〇〇	七〇〇〇〇

一六七

芝罘より

品目	數量	金額
大洋豆	二二	四四〇
小豆	二三、九八四	一六三、八八八
小餅	六、一七八	四九、三四四
小元米	五五〇〇	三三〇〇
洋元米	六三三	五三八〇五
白糖	一三、一一一	三九四六三
高粱	一、一一一	一七、七七六
海菜	六三七、一八	三五四、四九四
洋灰	二四五	一五四二
小洋線	三四	二七二
紅糖	三〇、二七	二二七、〇二五
綠豆	二二〇	二二〇〇
合計	二二七、一〇	一九五、三九〇
粗洋布	九七六	二七、二二〇
小洋布	一、一九四	一〇、九四六
英煙	七七	二、三二〇
甘蔗	一〇〇	三〇〇
清醬	六四	一一八
糊布	四三	四、七三〇
大布	六五	一三五
大尺	五七、六〇四	一五〇、〇〇〇
碎紙	三八〇	七、六〇〇
芝麻	八四二	二六、九四六
其他	—	一〇〇〇
合計	—	一、四一九七、一四

北部山東省經濟事情

品目	數量	金額
洋灰	三三	二四六
洋火	一四八	一、三三二
大洋米	三〇	三六〇
合計	—	一、六八三、八五七

一六六

大連より

品目	數量	金額
客入	八九〇	一、二六九、六〇〇
鹽魚	四、三三二	四九、三〇〇
捲煙	九八六	九〇〇
白糖	二、四八六	一五四、二九二
密柑	一〇六一	六三、六六六
大豆	一、三四	四〇二
雜貨	七二〇	八、五二〇
酒	一、六七四	一、六七四〇〇
合計	七、七九	一九、四七五
坐鐘	一六	三二〇
芋子	九七	一、二六一
帶子	四七	九、四〇〇
細布	二六九	二六、九〇〇
洋蠟	一八三	三、六六〇
木炭	二三四	二三四
火酒	二〇〇〇	一四、〇〇〇
大線	二〇、五七	三〇八、五五〇
雜糧	五六	三三六
紙	一四〇	一、四〇〇
合計	—	一、四〇〇

北部山東省經濟事情

品目	數量	金額	品目	數量	金額
客人	一九五四	六二八、二〇〇	合計	四〇	六〇〇
豆	六八六八	六二八、二〇〇	合計	四〇	六〇〇

一六九

天津より

品目	數量	金額	品目	數量	金額
大豆	三九	一、一七〇	檣	三三五	二、一〇〇
包豆	五九三七	五、一八〇	板	一四七	一、三六〇
大餅	一、七五四	二、二七八	袋	一四五	五八〇
雜貨	五四二	四〇、六八〇	豆	一〇四九	九、四四一
酒	二二五	三三七五	麵	三〇〇	九〇〇
料	四六	三三二〇	布	二二	一、〇〇〇
高板	二二六〇七	七、二六四	煙	八	二四〇
扁擔	一三〇	七、一五〇	蔴	四八	五九八
車軸	一三〇	五、二五〇	蔴	二九	四三五
海菜	五六三	八、四五五	其他	七五	一、七三七
合計	六二	二〇八〇	合計	一、八二七	二二、四〇四

品目	數量	金額	品目	數量	金額
客人	二、二二五	六四六、六三三	合計	二、五四三	六、二九〇

安東より

品目	數量	金額	品目	數量	金額
洋紅	五六五	四、二三五	洋紙	一、五二七	四、五八一
紅糖	三七八	三、七〇〇	洋火	五二	一、〇四〇
灰	二	六〇〇	芝	二七	二、四三九
蜜	五	三〇〇	尖	二四三	三、一五九
大米	一〇、七八六	一〇七、八六〇	紙	一、七四〇	八、七〇〇
白糖	二、四一四	三八六、二四〇	綠	一、五五二	一、七九六
洋粉	一六	二二八	包	一〇〇	六、〇〇〇
標油	四一	一、五五八	捲	三〇	一、五〇〇
雜貨	四四八	五、三七六	米	七〇	二、三〇〇
麻	八九一	八、九〇〇	子	七	三五〇
洋煙	三四	四、四二〇	其他	二、六五九	三、五〇〇
合計	一〇、八七一	三、三六一	合計	一、八二七	二二、四〇四

北部山東省經濟事情

一六八

北部山東省經濟事情

品目	數量	金額	品目	數量	金額
麵粉	八二〇	八二〇〇	布	一七三	八六五〇
雜貨	三二五六	一〇六二九〇	靴	二五	一一五
茶	二二	五五〇	蒲扇	二〇	一〇〇〇
粗茶	二七	八一〇	土布	五五	七七〇
入茶	五六	三九二	爆竹	六〇	九二〇
麥	四二〇	六二六〇	花紙	一一	二四二〇
小麥	七七〇	六二六〇	毛紙	八	一一〇
客麥	九七	四八五	牛皮	五六	二二四〇
水菓	八九八	五三八八	其他	一二三〇	一六四〇六

一七一

營口へ

品目	數量	金額	品目	數量	金額
粉條	九九五二	二四八八〇〇	杏仁	八	八〇
客子	三一九二	二四八八〇〇	針	四	四〇

北部山東省經濟事情

品目	數量	金額	品目	數量	金額
客粉	一六〇八四	四〇二一〇	水菓	七五八	三八二四
粗茶	六二	四三四	雞布	九六四	五七八四〇
麻布	三八	一三三〇	土布	三四	二五五
魚子	四〇	三三	馬布	二四〇	八二〇〇
麵子	二四七六	二四七六〇	生物	六	四二〇
外皮	四五八	二七四八〇	麥	三六五八	二二〇
雜貨	一〇〇	九〇〇	小麥	三九〇	三二二〇
爆竹	五九二	二九六〇〇	花鞋	三九〇	三二二〇
爆竹	九九	一三八六	水壩	四八	二四〇〇
篋子	二八	四二〇	米	五〇	一〇〇
毛紙	五〇	一〇〇〇	其他	二八九	一七九一

輸出の部  
大連へ

一七〇

芝罘へ

品目	數量	價格	品目	數量	價格
粉條子	三〇九	七、七二五	水菜	五一	二五五
水菓	九一四	五、四八四	糖子	六一六	六一六〇
槐米	三五	三一五	皮子	四	二四〇
毛紙	一一五	二、五〇〇	雜貨	八七	四、三五〇
筆	二	二〇	其他	一九〇	三、二三五
滿扇	六	三〇			

客人

天津へ

二五二八

外洋へ

品目	數量	金額	品目	數量	金額
粉條子	七二〇	一、八〇〇	客人	四	一

斯の如く大連、龍口間の經濟的連鎖は年毎に密接を加へ常に龍口が芝罘市場の商業系統より脱しつゝあるのみならず大連は芝罘が從來固めたる商業區域に向つて其勢力を擴張しつつあり。

(一) 龍口及芝罘の背後地

山東省の商業的勢力の中心は之れを三分することを得即ち一つは青島にして他は濟南を中心とするものと芝罘及龍口を中心とするものなり。

而も濟南は尙ほ青島、天津等と兄弟交易地たるの實を有すれども芝罘及龍口は一箇獨立の中心地にして特殊の地位にあり。

今芝罘及龍口と青島との本地方に於ける商的勢力圏を見るに龍口は黃縣、招遠、掖縣、濰縣、昌邑、芝罘は福山、寧海、文登、萊陽、棲霞、黃縣、海陽、蓬萊、掖縣、昌邑、濰縣に及び之等以外の地は主として青島の商勢下に立ちつゝあり。

龍口は従前一民船港たりしに過ぎずして黃縣より外國諸雜貨を輸入したりし時代は尙ほ近年の事に屬せり。

然れば前記統計により彼此對照するとき龍口は實に非常の勢を以て發展をなしつゝある

の事實を否定すべからず然れども之れ唯輸出入商品が比年激増しつゝあるに過ぎずして諸種の商業的設備未だ甚だ不完全にして而も界限に信用高き店舗の存在することなければ商取引上甚しき不便を感じるものありて當然龍口の商業的勢力範圍たらざるべからざる黃縣掖縣、蓬萊縣の如き地方にありてすら尙ほ芝罘の多年有する地勢を抜く能はずして現に龍口勢力圏として全然指摘し得べきは招遠縣の大部及び黃縣の半部掖縣の一部に限られたり芝罘は多年開港場として商業的設備の完全せるのみならず外國商館及支那人大商舖備比して大取引行はれ商品の供給圓滑なるを以て地方商人の信用程度高く而も内外人の競争的賣買行はるゝあれば龍口に比して價格も亦廉なるのみならず舊來の慣習上嚴として抜くべからざるの實力を有す殊に内地産として主要なる絹紬、麥稈、眞田、牛皮、落花生等が芝罘在住外商に依りて外洋に輸出さるゝもの多數にして到底龍口の比に非ず、加ふるに内航稅の規定あるが爲めに一般に陸上より馬背を以て芝罘へ輸送せらるゝもの多くして其運賃も又返り荷の關係上甚だ廉なるを得れば稍々龍口に近き地の商人と雖も龍口と取引するも芝罘と取引するも運賃の點に於て大差を見ず而も芝罘は貨物の有無を懸念するの必要なければ芝罘と取引するが却つて便利なるの結果を生じつゝあり。

(ト) 龍口及び芝罘と地方との關係

1. 龍口と地方との關係

A. 營口

龍口が兎角芝罘と共に渤海沿岸の開港場として芝罘の一敵國たるの狀をなすに至りしは營口との關係最も密なるものありしが爲めに今日あるを得たるものと云ふも過言に非ず。兩地間の苦力の往復は毎年前表に見るが如く七萬乃至八萬に達し其他約四十五萬枚の大小豆餅の輸入あり一百万圓の柞蠶絲其他雜穀等輸入せられ大連及安東と共に頗る密接の關係を示し殊に金融上看過すべからざる關係ある土地にして従前龍口の俄帖は主として營口に送られ諸輸入品の代價として支拂はれたり但し營口は冬季に於て流水或は結氷の爲めに航海の停止せらるゝあれば自から大連と龍口間の關係密を加ふるを傍觀せざるべからざる不利あり兩港間には東和公司汽船及支那汽船二隻の定期航路を開ける外多數の民船の來往絶わす。

B. 渤海西部其他

龍口は開港場なりと雖も汽船の來往僅かに大連、芝罘、營口間に定期航海の小型汽船ある



と天津、上海間定期航海の招商局汽船が定期寄港を開始し粉條子の輸送をなすに過ぎざれば其貿易の一部は之れを民船に譲らざるべからず民船の往來最も盛んなるは滿洲及び西部地方即ち羊角口、利津、錦州とす而も之等地方より輸送せらるゝものは綠豆、大豆、芝麻等を主とし毎年來龍する民船の數五百隻内外あり。

2. 芝罘と地方との關係

芝罘は同じく開港場なれども其貿易系統は上海、日本諸港大連等の諸港に屬し貿易關係は龍口が内國的なるに比し芝罘は幾分世界的地位を有す芝罘は上海及日本の直通航路汽船ありのみならず上海、天津間航路船によりて天津とも交通し大連、龍口、石虎咀、虎頭崖、威海衛等へも汽船の往來頻繁なるものあり加之民船の來集するもの又尠からず常に三百隻内外の帆船の碇泊しつゝあるを見る、芝罘が貿易上最も密接なる關係を有する地方は威海衛及び錦州とす錦州は蒙古の出入口にして蒙古特産品の集散市場として世人周知の地なり毎年之等の地方よりは雜穀及び皮類、藥材等を輸送し來り綿絲布諸雜貨を積送し去る、但し威海衛、錦州等と雖も芝罘の衰色あると共に其貿易關係も又從前の如くならず大連、營口、龍口等の發展に伴ひ之等地方に於ける芝罘の勢力も又衰へざるを得ざるや勿論なり。

(チ) 龍口の金融

龍口の金融に關しては前記金融總説に記せるものと大差なければ茲に詳記せず唯龍口に於ける特種の金融慣習につき聊か記述せん。

龍口の銀市は商會内にて行はれ毎朝上市を許されたる商人が集會して貨幣の賣買を行ひ芝罘貨幣相場を斟酌して貨幣相場を決定す。

龍口行單に就いて最も注意すべきは下掛なり下掛は貸借關係に於ける利息なりとす然れば吾人が金銀貨幣を以て銅元に換算し現銅を受領せんと欲する場合に於ても行單上の換算相場より月底即ち下掛と底子とを差引きたるものを以て換算するの習慣なり下掛は黃縣銀兩に對して定められたるものにして先づ銀一兩を三百七十文とし之れに對し幾箇と決定す箇とは十箇を云ふ然れば當地人が相場を言語に表現する場合に一吊五百四箇半と云ふ場合には四箇半は四十五文を意味するなり然れば行單面に表はれたる二十箇或は六箇等の文字は之れ三百七十文に對する二十文或は六文の利息を附するの意なり然れば銅子兒三百七十吊文を貸借する場合には下掛の數丈の吊文を差引きて授受す例へば下掛二十箇の時二十吊を引くなり、然れば吾人が此所に金を以て銅元と換算せんと欲する場合には之れを理論

を以てすれば金の價を一度銀の價に換算したるものより下掛を減すべきなれどもこは如何にも面倒にして且つ利益なき事に屬す依て現今にありては

金額×(金相場-下掛底子)÷半取金  
なる式に依りて計算せらるゝを常とす。

C. 金融機關

金融機關は通商、龍口の二新式銀行と舊式錢莊とす。

當地錢莊は之れを専門として經營するものなく多くは糧行或は雜貨舖の兼營するものなれば資本の大なるものなし今主なる錢莊を左に記すれば

字	號	開市年曆	資本金	字	號	開市年曆	資本金
福盛和	三	一	萬、吊	源成	三	一	萬、吊
永興德	十	二	萬、吊	永成	八	一	萬、吊
德記	三	六	千、吊	謙益	六	一	千、吊
同聚豐	四	一	萬、吊	泰昌	五	一	萬、吊
寶勝泰	六	四	千、吊				

龍口の貨幣相場には煙臺相場を基準とする事既述の如し但し貨幣の相場特に俄帖子にありては時々刻々同じからず激烈なる變化を示しつつあり。

貨幣の賣買は商會に於ける銀市にては手数料なくして賣買し得れども銀市以外に於ては全部の貨幣賣買は經記の手を経ざるべからず經記とは貨幣賣買の媒介をなすものにして手数料は賣買高の二分とす龍口には四十餘人の經記ありて毎日各上市者の舖を何回となく歴訪し刻々變化し行く貨幣相場を報告し經記として必要なる御用を聞く貨幣賣買は常任行はれつゝあるが故に四十幾人の經記は毎月百吊以上の收入ありと云ふ。

貨幣の賣買は上市者にありては帳簿上の決済に依りて賣買せらるゝものにして決して現金賣買をなすことなしと雖も上市せざるものは上市者に依頼して手数料を支拂ひし上又或場合には現金を必要とするを以て上市者に比して頗る不利なる點を有す。

上市者の帳簿上の決済は毎月二十八日に清算し此日より翌月三日迄に支拂ひを完了せざるべからず。

龍口大正元は龍口商會銀市に上市を許可せられたり蓋し支那に於ける唯一の日本個人上市者ならんか。

德公	豐同	廣義	鴻慶	雙義	復三	福乾	福義	增成									
泰合	順春	盛合	祥與	順盛	合盛	德生	興順	順順									
公昌	行盛	號祥	號順	順東	德義	號福	號盛	利興									
同同	布同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同									
		貨															
行		行															
同	一	二	同	五	八	五	八	五	八	二	五	二	二	同	同	同	二
萬	萬	千	千	千	千	千	千	萬	千	萬	千	萬	二	萬	二	萬	二
吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
五	五	一	七	七	一	六	六	一	六	一	四	二	二	二	四	二	一
													○				○
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

(リ)

龍口に於ける主なる商舖

三保	增德	恒兼	同源	東源	恒裕	雙裕	裕源							
成興	順興	順益	順豐	盛興	順新	順新	順新							
公順	義號	和福	和義	承泰	德棧	德棧	棧							
雜同	發回	雜雜	小糧	雜雜	同同	同同	糧							
貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	行							
舖	行	行	商	商	商	商	店							
三	二	三	二	六	同	同	八	一	一	不	同	二	一	
萬	萬	萬	萬	千	千	千	萬	萬	八	千	吊	吊	萬	萬
吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
一	五	五	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一
○			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

三	三	義	同	益	永	永	義	華	三	裕	太	織
成	義	順	義	同	昌	福	遠	記	興	豐	興	昌
東	和	祥	德	記	雜	同	同	同	同	同	同	同
雜	同	同	同	石	貨	灰	行	商	店	店	店	店
二	八	一	同	五	一	二	一	二	一	四	五	不
千	百	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊	吊
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
六	六	一	三	三	三	三	三	三	一	二	五	不
詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

龍口商舖の金主は三成東の萊州府人謙益徳の芝罘人雙順棧の安東縣人なるの外は何れも黃縣、招遠の二縣人にして主として龍口附近村落より出でたるものなり。  
 龍口は例年二月下旬より十月下旬或は十一月中旬の間に於て其商業最も盛んにして安東縣及營口の結氷期なる十一月中旬より二月下旬の間に於ては大連、芝罘、旅順間に航行汽船

及び民船のあるのみにして大連及芝罘との取引は此期に於て最も盛んに行はる上半期に於ては苦力の出入最も多く下半年期に於ては粉條子、果實、白菜の輸出最も多し。

(又) 龍口に於ける外國人商舖  
 龍口に於ける外國人は税關官吏の五六を除きては全部日本人にして現に老幼男女合計二十五人あり。

- 大正元 商品陳列館、船舶、貿易 三曳公司 厘錢、土木受負
- 滿鐵撫順煤廠 石炭 理髮店
- 東洋藥房 賣藥 赤十字救護所
- 大石藥房 賣藥 田中商會龍口出張所

一、港灣の將來  
 二港現況如何は既述せし所に依り芝罘が遙かに龍口に優りたるを知るに足らん二港の位置を見るに二港は其背後に自然的限界ありて互に相侵すべからざるものあれども港灣として芝罘は水深龍口に比して深く大船の出入龍口よりも自由なるの特點あると共に長年

開港地として交易盛んに行はれ港灣として諸設備又稍整然たるものあり加ふるに近來ネ  
 ガーランド築港會社に依りて三千萬圓を以て築港に従事せらるゝものあり防波堤を築造  
 して汽船の停泊を便にするの目的にて工事せられつゝあれば龍口が開港尙日淺くして何  
 等の灣港設備なきに比すれば著しく優利の地位を占めつゝあるや勿論なり但し龍口は芝  
 罌と其趣を異にし主として滿洲諸港との貿易に重きを置くものなれば港灣も又芝罌と其  
 趣を異にして可なり然れども龍口が地勢上有利なるに係らず尙ほ芝罌の爲めに壓せらる  
 るは港灣の設備及び舢板制度が整然たらざる缺點あることを看過すべからず。

龍口の港灣整理には多大の費用を必要とせず僅かに十萬圓内外に依りて可なりの設備を  
 なし得べしとは某専門家の觀察談なりと云ふ港灣の設備と共に將來大いに整理せざるべ  
 からざるは舢板の統一なり汽船或克の離陸遠きのみならず干潮に於ては舢板に乗るに尙  
 ほ人背を借らざるべからず現に當港舢板の數は約三百隻にして各同酒店の所有に屬し何  
 れも汽船及大帆船の荷役に従ふ汽船停泊地は遠くして夏冬氣候により其地位を變じ舢板  
 賃も又比較的高價にして夏季最も平穩なる時に於てさへ一人二十五錢を要求し冬季に至  
 りては五十錢を普通とし甚しきに至りては五圓に達す加ふるに水捐局に於て各客一人に

五錢の人頭税を舢板より徴收し干潮時に於ては舢板と岸上との間に於ける苦力代をも客  
 より別に支拂はざるべからず。

荷役は大抵簡便或は噸數に依りて賃銀の決定を見るも芝罌に比して一般に高價なるを免  
 れず従つて物價に影響す。

然れば吾人が當港に向つて痛切なる要求を感ずるものは完全なる陸送機關と有力なる汽  
 船帆船舢板の同酒店を設立し現存支那人船取扱業者に對抗して廉價なる荷役及び報關  
 の事務を辦じ完全なる陸送機關を兼營し實費的輸送を開始し其信用と勢力を以て舢板の  
 統一を行ひなば大連、龍口間の經濟關係は益々密度を加ふべし。

二、特産物の將來

芝罌の特産物とは芝罌より輸出せらるゝものを意味す、其主たるものは柞蠶絲(灰絲)其  
 製織加工品、麥稈糞田、牛皮、甘草及び落花生とす。

灰絲は山東省棲霞縣より出づる柞蠶繭及び寧海縣、滿洲各地より輸送せられたる原料を  
 以て製絲せられつゝあり。

殊に滿洲より輸送せらるゝ原料が七割を占め居るを以て將來滿洲に於て製絲業發展と共に

に原料輸送の減少を來すが如き事あらむか當然衰退に赴くべき運命を有す。  
 灰絲加工品とは絹紬にして世人が認むる如く灰絲がレース(花縵)の原料として用ゐらるること少し絹紬は棲霞縣及び昌邑縣の産にして芝罘自身に於ては僅かに三箇の機房を有するに過ぎず然れば昌邑縣産絹紬にして芝罘に出でつゝあるものは其地理的關係に於て當然龍口より輸出せらるゝの運命に到著すべきものなり、尙ほ麥稈眞田も牛皮も其七割乃至八割は地勢上龍口より輸出するを便利とす若し龍口が輸出港として且市場として海陸共に完全なる設備を成すに於ては龍口の將來は期して待つべきものあり。  
 粉條子は龍口附近が其主要産地にして龍口は主たる輸出港たり従て現に芝罘よりせらるるものも其大部は龍口に引寄せらるべきものなり。

斯くの如く龍口は現在芝罘と同日に論ずべからざる程蕭條を極むれども一朝龍口に於ける商業機關の設備完成せば芝罘を凌駕し其の商業の大部に奪ふ事の困難に非るべし。

### 三、消費市場の將來

從來安東、大連、營口、關外地方諸港の仲繼港として上海及日本貨物の集散場たりし芝罘は其實を大連に奪はるゝと同時に青島によりて背後の商圏の大部分を侵蝕せられ僅かに

に半島の一部に於ける吞吐港としての實を有するに過ぎず加之龍口が開港せられ芝罘の仇役として山東内部に活動するの地位に立ち従前芝罘貿易系統たりし地方今や大連貿易系統と變じたるのみならず從來芝罘と西部地方との仲繼市場として將た消費市場として有力なりし黃縣に於て其全輸入の何割かを龍口に奪はれたり然れども龍口が地理的に有利なるの地位に立ちつゝも尙芝罘に其背後地に於てさへ一步を輸しつゝあるは前者の開港日淺く設備未完全なるに起因すること屢々既述せる所にして若し將來諸機關整備するに至らば龍口以西の數縣は當然龍口の獨占市場たるべく余は將來芝罘及び龍口の商圏が蓬萊縣、棲霞縣を以て區劃せらるゝ時必ず到來すべきを信じつゝあり。  
 但し棲霞縣の大部及萊陽縣は地勢の許さざるものあれば到底龍口が此地を芝罘より奪ふ能はざるや勿論なり。

或は曰く煙濰鐵道の開通後に於ける二港の盛衰は到底問題となすに足らずと余は煙濰鐵道の開通は寧ろ以上二港對青島の競争なりと云はんと欲す、何故なれば鐵路の運賃は全然特別の政策を取らざる限りは距離に比例すべきものなれば龍口商人の努力如何に依りては芝罘をして一步たりとも龍口以西に發展し得ざらしめ兩地は自から設備相應の分界

線を劃すべければなり故に余は寧ろ問題と稱すべきものに非らずして斯くなり得べき斷案なりと信ず然らば青島との對抗問題は如何に成るべきやは余は未だ青島を見ざれば其確否は斷すべからざるも大體に於て有利なるを信ず即ち煙濰鐵道は其中心に黃縣を有し西部に沙河鎮の大市場を有す沙河鎮は鐵道なき現代に於てすら尙ほ青島よりも芝罘系統に屬すべき市場なる事は余が先きに報告せし沙河鎮事情に明かなり故に若し鐵道開通せば沙河は勿論芝罘、龍口の麾下に立ち現に青島の系流に屬する平度縣の大半も沙河市場の顧客に轉すべし加ふるに昌邑、濰縣等も又運賃問題に依つて芝罘、龍口と相接近し昌邑の綳紬、濰縣の猪鬃、麥、葉烟草等が芝罘、龍口に出づるものと額を増加すべければ芝罘、龍口はより以上青島の勢力圏に侵迫し得るに至るべし。

余は茲に於て龍口、大連間の經濟的基礎を鞏固にし兩地間の貿易をより以上に進展せしめんが爲めに龍口と背後地方との間に貿易の密接と信用とを喚起すべき商業機關を設立し且つ現存商業機關の發展とを計劃せざるべからざるを思ひ而して其一段として在龍口の龍口銀行及び大正元の發展を切望して止まず即ち龍口銀行は地方支店或は出張店を設立し所謂舊式銀行の事務を取つて滙票の賣買に従事し龍口と地方との金融を圓滑なら

しめ地方商人の便利を増進し一方大正元は地方の有力なる市場に出張所を設立し龍口商舖の實力と大連商店の實質と其利益ある取引振りとを紹介し一方同濟店及び陸上運輸機關とを兼ねたる合資又は株式商會を設け官商或は日支合辦として一方當局より相當の監督を受け相當の信用を得る迄は薄利主義を實行し損益相償ふの程度に於て營業を開始せば稍其目的を達し得べし但し此事あるや實際問題に於て鐵程度迄は様の下の力持ち的事業たるを以て世人の義氣に訴へざる可からざるものなり然れども國家的利益と實業上の地盤とを尺地寸土に迄伸張せんとする愛國心の發露は或は此地に於て之を見ることなしと云ふべからず吾人は切に之を期待す。

### 三、黃縣

#### (1) 位置及び市場

黃縣は龍口を東に去る四十支里登州府の南西六十支里芝罘より西一百八十支里にして黃縣公署の所在地なり人口三萬山東有數の殷富の地にして海を去ること遠く黃河營に至る尙二十支里の距離を有するを以て帆船林立の繁華なしと雖も渺茫たる黃縣平原の中樞を占め而も沙河鎮、芝罘の中間に位置するを以て古來芝罘港と黃縣以西との仲繼市場として商業頗

る繁盛なり而も富豪多きを以て此地方金融界の權威となす諸地方と取組む滙票の如きも何等不便を感せず然れば金融機關たる錢莊の多き事内地市場としては稀に見る現象にして省内各都會の大商店の資本主として多額の放資をなせる者少からず實に金融界の一大勢力たり交通も比較的便利にして商業範圍も亦狭からず。

(ロ) 重要輸出入品

1. 輸入品

黄縣は古來芝罘の獨占市場たりしを以て現今に於ても商業關係の密接なるは芝罘を最とし支那貨の大部及び西洋品の殆んど全部は陸路或は海路黄河營を経て芝罘より輸入せられ日本貨の全部及支那貨の一部は龍口より輸入せらるゝを以て當地に於ける兩港現在の勢力は芝罘と六割龍口四割の比率なり而して當地の商勢力は西部諸縣に及び内地市場としては沙河鎮と共に頗る繁榮を極む。

芝罘、黄縣間の交通は陸路山多くして險なりと雖も尙は交通運輸類繁に行はれ車馬の運賃も比較的安値なり又夏季降雨の際には帆船に依りて黄河營に至る水運ありて交通運輸の便を助く今黄縣に於ける輸出入品の數量を示せば略々次の如し。

品目	總額	品目	總額
石油	五〇、〇〇〇箱	磷寸	二、〇〇〇大箱
綿絲	七、〇〇〇俵	紙類	五、五〇〇包
粗布	一〇〇、〇〇〇匹	雜穀	四〇〇、〇〇〇單文
打連布	四五、〇〇〇匹	雜貨	二〇〇、〇〇〇單文
標布	三〇、〇〇〇匹	砂糖	八〇、〇〇〇單文

本年の如き綿絲布騰貴せしも市場は元來銅子兒本位の建値にして本年當地方に於て銅子兒非常の高價を稱へ金の下落を見たるが故に消費者の買値段には大なる打撃なかりき。

2. 輸出品

輸出品としては見るべきもの多からず其主たるものを擧ぐれば

粉條子 二萬俵 麻 五萬斤 鷄卵 約一百四十萬箇  
あるに過ぎざれば黄縣は土貨の集散市場としてよりも輸入外國品及外省土貨の仲繼市場たるや明かなり。

四、掖縣(萊州府)



掖縣は舊萊州府城の所在地にして現今尙ほ萊州府と呼ぶもの多し。

(イ) 地勢及位置人口

東西南の三面に山脈圍繞し山麓と城壁との間に東西南を廻流する大河あり常時水多からずと雖も山河の固め美にして府城の置かれたる又故なきにあらず。

北方は渤海灣に到る二十支里の間一望の平野を擁し民の糧たる百穀此所に稔るも河は水少くして蜿々たる沙床をなすを以て水田なし城内は勿論附近村落の富の程度及び人口の密度測底沙河鎮と比すべくもあらず。

縣城は圓周約十支里にして東西南北門より通する十字街に於て店舗の存在するを見るの外城内皆御屋敷町たるの觀をなす。

公衙官衙としては掖縣公署、警備隊屯營所、農會、森林促成會、警察署、陸軍第一混成旅歩第一營、東海常關上稅總局及縣立中學校、第一、第二縣立小學校あり城内十字大街に於て幾十基かの牧民官、學者等の彰功記念門の建設せられあるは此地の一大特色にして歴史的誇りの餘香尙存するあるを知るべし。

城の東西南北門外何れも一個の大市場にし之れを關と呼ぶ東北の二關は市街の形をなす

と雖も附近耕地の農夫の居住地たるに過ぎざれば大商舖なし南西關は商舖客棧軒を連ね殊に南關の如きは穀物小賣商、支那雜貨商舖約一支里の間に連り城内の繁華を此所に奪はんとするの概あり往時職に殉したる牧民官朱公の殉難の跡今尙ほ其往時を語りて南關に残れり吾人が常に龍口、濰縣間の往來に通過するは北關西關の二關にして西關には公賣局設置せられ税金(酒菸牲口)を徵收す西關には尙澡堂子の設立あるのみならず支那雜貨舖、化石首飾舖等多く西關に集まる。

人口は城關合して約四萬五千の大都會なるが要するに武士町の面影ありて商業市場としては附近鄉村の需要に應ずるに過ぎず黃縣を去る百七十九支里虎頭崖を去る三十八里海廟後に至る十八支里沙河鎮の東五十四支里龍口の西百五十支里の地に位し東西南北門を去る十支里の地に十里舖と稱する人口約一千内外の市街あり。

(ロ) 商工業狀況

掖縣は商業地に非ずして僅かに附近鄉村の需要に應ずるに過ぎざれば商業として見るべきものなし。

1. 輸移入品

燐寸、綿絲布、雜穀、石油、雜貨、砂糖を大宗として魚類、磁器、雜貨等の輸入あれども雜貨は十中八は支那産土貨にして外國雜貨としては英國製洗濯石鹼、日本製鏡、牙粉刷牙子及びメリヤス衛生衣、洋燈、洋燈ホヤ等あり但し日本雜貨の將來は又看過すべからざるものあるべしとは當地商人の言ふ所なり。

A. 綿絲布に就いて

綿絲布は殆んど全部日本品なり但し之れ歐洲戰の影響する所なしと云ふべからずと雖も日本品が有する勢力は實に其信用堅固なるものあれば戰後と雖も劇減を見ることなかるべし今當地に於ける重なる種類を列擧して市價を示せば。

綿 絲

品 目	市 價	單 位	番 手	備 考
雙 雞	九吊五百文	一 塊	四 十 七	建價は九八錢
雙 鹿	十六吊五百文	同	三 十 二	
菊 花	十六吊文	同	三 十 二	同
扇 面	九吊八百文	同	十 六	同

綿絲は何れも賣れ行き良好にして殊に最も他と趣きを異にせるは割線の多き事なり割線は二本割捺せる絲にして少しく線の大なるものとす。

綿 布

品 目	單 位	價 格	品 目	單 位	價 格
九 龍 布	一 疋	三、七〇兩	三 圈 粗 漂 布	一 疋	一、七兩
龍 頭	同	三、六五兩	眼 鏡 漂 布	同	二、五兩
三 馬	同	四、六〇兩	二 馬 頭	同	四、一兩
雙 雞	同	四、六〇兩	五 馬 頭	同	四、八兩

以上は何れも大正五年九月末の相場なり。

九龍布は廉價にして品質も悪からざれば七割は本品の賣行なりとす以上の外尙ほ黒色打連布、冬服用として多量の輸入あり露國製更紗の輸入せらるゝも品質思はしからざるを以て賣行き良好ならず。

B. 綿絲布輸入徑路

當地綿絲布は煙臺、黃縣、龍口、青島等を経由し移入せらる勿論當地は煙臺の商業勢力範

團に屬すと雖も近來黃縣綿絲布が龍口より輸入せらるゝもの少からざれば煙臺は又龍口に一部の勢力を割讓せざるべからず但し青島莊、煙臺莊、黃縣莊の別によりて舊來の習慣上綿絲布は以上の四地方を経由するものにして決して一地方の獨占する所ならず今當地が各地方より輸入する綿絲布の比率を示せば煙臺、黃縣は伯仲し三割宛龍口直輸入二割青島二割なり然れども黃縣品は芝罘龍口品に屬するを以て之れを二港に加算するときは煙臺四割五分龍口三割五分青島二割とす。

C. 其他の輸移入品

綿絲布の外石油、雜貨、磁器、雜穀等にして石油は美孚亞細亞二會社製品に限られ且つ石油の需要は燈火用として缺ぐべからざるものなるが故に輸入せらるゝ額も又少からずして一年一萬二千箱内外に達す雜貨は之れを外國品及び支那品の二に區別し當地商舖の大部分は支那雜貨商にして之れに少量の外國雜貨を混賣するのみ純然たる洋貨店なるものなし。支那雜貨としては紙類、腰帶子、石粉、土城、石鹼、仙香等を主とし藥舖にして雜貨販賣を兼營するもの少からず。

洋貨は燐寸玻璃器、鏡磁器、牙粉、刷牙子等の日本品と英國製洗濯用石鹼香港糖の移入も少からず。

燐寸は一箱二百四十包入り小箱及び一噸入りの大箱あれども普通に於ては小箱の輸入多く市價は一小箱十八吊乃至十七吊にして二三の支那製品を除くの外全部日本燐寸とす需要の最も大なるものは雙旗、蟲峽、雙龍にして一年の總輸入は三千箱内外とす雜穀は主として南滿洲及び山東省西部錦州地方より民船を以て海廟後、虎頭崖に輸入されたるものにして其量極めて多しと雖も其實際の數量を知ること困難なり。

麥は大部分西部山東省産にして主として山東鐵道沿線より陸路輸入せらるゝものとす。

D. 輸入徑路

石油及諸雜貨は主として煙臺より仕入れ石油は又時に平度代理店より輸送せらるゝもあり龍口經由品は未だ多からずして煙臺或は黃縣を経由するもの殆んど其全部を占むと云ふも不可なし。

當地雜貨商は毎年春秋二回或は一回必ず芝罘に出で商品の仕入れ及び商契約をなすを常習とす。

2. 輸出工業品

當地一帶より輸出品として海外に輸送せられ又移出品として他都市へ賣出すものは麥稈眞田及び化石首飾品の二工業品あるのみ麥稈眞田は當地一帶の婦女子の家庭手内職として盛んに製造せられつゝあれども何れも此地商人によりて直接海外へ輸出せらるゝものに非ず小販大販の手に依りて沙河鎮及び沙河附近の經歴に送られ輸出せらる然れば本地方に編歴の一箇だになきより見るときは當地一帶の麥稈眞田が甚しく多量ならざる一面を窺知するに定らん。

化石首飾とは化石と名附くる蠟石様のものを用ゐて製せる彫刻品なり石質光澤あれども軟かく價も比較的廉なり近來青島、大連地方に移出せらるゝもの多し。

(ハ) 金融

商業上述の如く振はず金融も又重きをなさず毎月六回城内に於て沙河相場を基礎とし銀市の開かるゝありて貨幣の賣買を行ふ。  
錢莊の如き大なるものなく多くは大商舖の兼業するものにして其數も少し萊陽、龍口等へ店舖を有するものもあれど要するに殷富の地と云ふべからず。

五、虎頭崖

(イ) 位置及地勢人口

虎頭崖は掖縣より三十八支里沙河より四十支里(捷徑三十支里)龍口より海路五十五哩の地にして渤海灣に面する民船港なり近來芝罘との間に小型汽船往來し雜貨及び麥稈眞田の輸送に従事すと雖も其主たる目的は支那苦力の輸送にあり但し汽船の出入あるを以て従前に比し稍繁華の域に進みつゝあり然れども地勢極めて悪しく港灣は海岸山脈の直ちに海に入る所に開かれ何等の防波物なく而も遠淺にして冬季は北風激浪を送り又結氷して十一月下旬より三月に至る間は船舶の出入なく夏季に於ても八呎以上の吃水を有するものは入港極めて困難にして普通入港しつゝある吃水六呎内外のものも尙ほ離岸一支里の點に停泊し滿潮を利用して稍々陸に近づき荷役及び集客の便に資するも尙ほ半支里以内に近づくことを得ず。

市街は極めて不便にして山腹に建てられたりと雖も地域狹少なるを以て將來著しき擴張を許さざるべし。

(ロ) 商舖及船舶問屋

當地には一連の守備隊駐屯する外東海分關あり居住民は何れも苦力、舢板夫、商舖、船舶

開屋、客棧等に限られ戸數約七十戸人口四百五十を越えず商舖としては糧行、石炭商、魚行、雜貨店にして客棧の如き僅かに三月のみ主なるものを記すれば

字	號	營業種目	字	號	營業種目
祥	聚	棧	海	育	魚行
福	昌	棧	永	棧	魚行
和	盛	棧	聚	棧	汽船業代理酒稅局
福	慶	公棧	增	祥	魚行
德	昌	公棧	裕	勝	汽船業代理、石炭
祥	和	公棧	德	館	客棧及汽船業代理

以上の外客棧二、雜貨舖四、材木屋二あり何れも山腹の高地に大建築をなして店舖を張り掖縣、昌邑、平度地方へ向つて糧食、魚類、木材を輸送しつゝあり殊に木材、糧食は帆船に依りて安東縣、大連、營口、利津、錦州地方より輸送するものにして常に三十隻内外の民船停泊しつゝあり。

(ハ) 汽船及び諸掛り

當地入港の汽船は芝罘を起點として當地を終點とするものにして總數五隻あり。

- 新飛雲 發記公司 大 利 政記公司
- 新聚雲 毛合興公司 登 州 毛合興公司
- 濟 安 同

にして晴天にありては殆んど毎日出入す輸入品は綿絲、雜貨、砂糖、洋火、白米等にして輸出は少量の麥稈其田の積送せられつゝあるのみ、船客も季節に依りて同じからず多きは二百人に達するも少きは僅かに十人内外の時もあり一年間航海期を平均するときは一日五十人を算し得べしと云ふ。

一般貨物の汽船積は當地に於ては極めて少量にして多くは船客が携帯せる手荷物に過ぎず但し手荷物も積送品となすときは陸上費及運賃を合して煙臺より十錢を要す。

(ニ) 石 炭

石炭は開濼及撫順の二種にして前者は福慶公に於て發賣す其價格は

- 大塊 一千斤(十六兩稱) 二十二吊文
- 中塊 一千斤(同) 十九吊文



粉炭 一千斤(十六兩秤) 十五吊文

にして之れを汽船に積込むには一萬斤に對して苦力賃五吊、舢板賃六吊を要す。

撫順炭は大連經由當地に輸送せらるるものにして塊中粉炭混合し價格は百斤二吊文とす之れを汽船に積み込むには一千斤に對して舢板賃小洋一圓を要し苦力賃は百六十斤に銅元六箇を要す。

(ホ) 常關稅率表

主要輸出入品に就いて當地東海常關分局が徵收しつゝある稅率を示せば次の如し但し本表は年々改變せらるるものあり。

種類	單位	海關兩	金額率
絹綉	每百斤	海關兩	二二五〇
山繭	同	同	〇二〇〇
繭絲	同	同	〇二〇〇
繭綉	同	同	〇三〇〇
繭線	同	同	一〇〇〇
種類	單位	海關兩	金額率
蠶豆	每五十斤	海關兩	〇〇二〇
絹絲	每百斤	同	一二五〇
繭綉	同	同	〇二〇〇
繭線	同	同	〇三〇〇
繭帶	同	同	五〇〇〇

細夏布	同	同	一二五〇
印花布	同	同	一〇〇〇
洋布	同	同	〇五〇〇
洋綉	每條	同	〇〇七五
洋絲	每副	同	〇〇七五
洋帶	每百斤	同	〇二〇〇
洋花	每十張	同	〇二〇〇
洋傘	每百把	同	一七五〇
洋鉛	每百斤	同	〇二七五
洋魚	同	同	〇二七五
尤魚	同	同	〇六〇〇
鮑魚	同	同	〇八二五
土城	同	同	〇〇七五
肥皂	同	同	〇〇五〇
牛油	同	同	〇〇三〇
熟牛皮	同	同	〇四〇〇
生牛皮	同	同	三〇〇〇
老牛皮	同	同	〇〇〇六
絲粗布	同	同	二〇〇〇
粗夏布	同	同	〇六二五
色洋布	同	同	〇七五〇
綿絲小	每條	同	〇四〇〇
綿帶	每百斤	同	〇〇一四
片花	每百斤	同	〇二二〇
片花	每十張	同	〇二二五
桌涼	每百箇	同	〇五〇〇
草帽	每百箇	同	〇四五〇
宮粉	每百斤	同	〇三〇〇
海帶	同	同	〇一〇〇
江搖	同	同	一〇五〇
自來	每大箱	同	〇三〇〇
燈草	每百斤	同	〇三〇〇
玻璃	同	同	〇二〇〇
甘瑠	同	同	〇一四〇
甘蔗	同	同	〇〇六〇
猪毛	同	同	〇〇六〇
牛骨	同	同	〇〇一〇



生	驢	馬	皮	皮	猪	皮	駝	牛	羊	大	小	小	青	綠	紅	江	元	豆	麻
皮	皮	皮	子	器	毛	毛	毛	毛	毛	麥	麥	豆	豆	豆	豆	豆	餅	餅	餅
每百斤	同	同	每百條	每百斤	同	同	同	同	同	每十斤	同	同	同	同	同	同	五十斤	每片	每片
海關兩	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	〇七五〇	〇四〇〇	〇一〇〇	〇二〇〇	〇〇一五	〇〇二〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇
雜	牛	牛	羊	猪	元	黃	粟	包	掛	麵	粉	高	芝	松	桐	椴	同	同	同
骨	蹄	筋	絨	米	米	米	米	米	米	麵	粉	團	梁	麻	板	椽	木	木	木
每百斤	同	同	同	每五十斤	同	同	同	同	同	每百斤	同	同	每五十斤	每副	長一尺	長六尺	長六尺	長六尺	長六尺
海關兩	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇〇八〇	〇〇五〇	〇四〇〇	〇六〇〇	〇二七五	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇三〇	〇〇一〇	〇〇一五	〇〇六二	〇〇六二	〇〇三〇	〇〇二五	〇〇二〇	〇〇六〇	〇〇三〇	〇〇一〇	〇〇三〇	〇〇三〇
道加銀	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二	〇〇七二

六、平度縣城

平度縣は舊政時代に於ける平度州城にして現に平度縣公署あり、女師範學堂、工業學堂、警察署、警備隊歩兵一營の駐屯するあり、電報局、郵便局等の公官建物多し。  
沙河鎮を去る七十支里、藍村より一〇五支里萊陽を去る一九八支里あり縣城を去る北方十支里にして掖縣平度を東に走る山脈ありと雖も西方は渺々たる大平原にして東北に大河床あり地味肥沃にして穀物好く實る、城內關裏合せて人口二萬五千あり。

(イ) 商業狀況

當地は商業繁盛と云ふに非ざるも人口稠密なる地方なれば附近鄉村の需要も又少からず東西兩門を貫く大街には商舖連接し商業系統は全く青島に屬す。

1. 輸出品

花生	七〇、〇〇〇擔	豆	油	三、五〇〇擔	百六十斤入
牛皮	三、八〇〇枚	花生油	四、〇〇〇擔	百六十斤入	
豆餅	一、二〇、〇〇〇枚	麥稈	眞田	一、〇〇〇、〇〇〇兩	

北部山東省經濟事情

二〇五

鶏 卵 一、二〇〇、〇〇〇箇 牛 骨 不 詳  
以上の外芝麻油の産出するものあれども之れ即ち支那人の食用に供せらるゝ事多くして輸出品として認むべからず。

平度縣は山東省有数の花生出產地にして縣内集散地は麻嵐故現及び縣城とす。

豆油、花生油は縣産輸出品の大宗にして縣内油房の數約三百五十の多きに達すと云ふ、然れども之等は皆舊式機械を以て製油するものにして規模大ならず各油房の製油高も大量ならず。

牛皮、牛骨は主として縣城以南を産地とす。

麥稈眞田は縣城以北を主産地とす上述統計中の價格は灰埠城子店子附近に於ける所謂平度縣管下に於ける輸出の概數にして商務會長の言により計上せるものなれば精確を期し難きも公賣局總理宿氏の言亦略相一致する所あるを以て先づ眞に近き數と見るを得べし。

2. 輸入品

當地は全く青島商業系統に屬し其輸出入品は丈嶺を經由するにあらざれば藍村を經過して山東鐵道を利用す輸入品の大宗は綿絲布、石油、砂糖、燐寸及び諸雜貨にして青島及び平

度以北諸地方間の仲繼市場たり但し背後地方が何れも青島直輸入をなすに至りしを以て近來仲繼たるの資格を減じ商業區域も廣からざれば輸入品も多からず今主要輸入品統計を示せば

綿 絲	五百俵	綿 布	四百俵
燐 寸	三千箱	石 油	三千箱

等にして以上の外尙ほ當地經由北方に向ふもの少からず然れども諸雜貨の如きは到底調査の道なく商務會さへ其豫想すらなす能はざるの有様なり。

(ロ) 金融

當地は全然沙河鎮金融配下に立ち貨幣相場の如きも沙河鎮相場を以て其標準とし五日毎に商會内の銀市に依りて各貨幣相場を決定す。

大正五年五月民軍の掠奪に遇ひ市勢衰へ金融又思はしからず錢莊の如きも僅かに六月現存するのみ。

(ハ) 青島平度間綿絲布運賃

青島當地間の輸出入は主として藍村を經由するものにして綿絲大袋一俵の運賃は汽車賃及



陸送機關費掛りは最も安價なる冬秋の候に於て一兩五錢とし夏季に於て二兩を要す尙ほ之れを沙河鎮に送らんには一吊五百文を要す。

七、萊陽縣

平度を去る一百九十八支里棲霞縣に至る一百九十支里青島、芝罘に至る略同一の距離を有し三日にして到るべし人口三萬を有するも地は山間に偏在し交通不便を極め商業平度縣に彷彿たり市街は城內及び東南南關に區別せられ城內東西南北門を貫く十字街に各種商舖あり錢莊、布疋商、客棧、藥舖等の外は多く小賣商舖、農夫及び官吏の住宅なり。

(イ) 輸出入品

1. 輸出品

主要なる輸出品の數量を示せば次の如し。

豆油	五、〇〇〇篋	百六十斤入	豆餅	一〇、〇〇〇枚
花生	八五、〇〇〇擔		花生油	四、〇〇〇篋
牛皮	三〇、〇〇〇枚		雞卵	七〇〇、〇〇〇箇
麻	二五〇、〇〇〇斤		牛骨	不詳

梨 不詳

等にして縣內約五百の油房あり豆油花生油は輸出の大宗にして花生之れに次ぐ。

2. 輸入品

輸入品の主要なるものを示せば

綿絲布	一、〇〇〇俵	礮寸	二、八〇〇箱
石油	三、〇〇〇箱		

等にして諸雜貨及び煙草の輸入も少からず。

大正五年十月五日萊陽に於ける綿絲布市價を示せば次の如し。

扇面印	一塊	四吊八百文 (大錢)	吉字印	一塊	五吊七百三十三文 (大錢)
殆んど扇面印十六手に限られ僅かに吉字牌の割線を見るのみ。					
九龍	布一匹	八吊文 (大錢)	石榴紅標布	一匹	七吊三百文 (大錢)
九宏白漂布	一匹	十吊文 (大錢)	露國製サラサ類	一尺	百二十文 (大錢)
打連布	不詳				

等にして打連布の輸入も少からず。



(ロ) 商業の範圍及び系統

萊陽は山地に偏在し且つ縣内には水溝頭、院上、日莊の市場あれば其商業勢力は自から附近村落に限られたるの感あれども其實は水溝頭、日莊等の市場に對しても輕視すべからざる勢力を有す。

青島より輸入し青島へ輸送せらるべきものは主として金家口を經由しつゝあり然れども萊陽は其商業系統としては芝罘に屬すべきものにして輸出入の七割は芝罘に依る蓋し萊陽は偏僻の地にして僅かに芝罘との間に比較的交通便利なればなり。

(ハ) 金融

金融系統は全く芝罘に屬し滙票の賣買も行はれつゝあり但し大富豪の居住するなく金融界に勢力の認めらるゝことなし唯土貨の輸出せらるゝもの多きと出稼苦力の多き爲めに其圓滑を保ち得るのみ農作物の如き豐年にありては辛ふじて縣内の食用として足るも平作以下のときは到底不足するを免れず而も豐作は三年五年に漸く一回あるに過ぎずと云へば正貨の流出絶えず錢莊の如き僅かに八戸に過ぎず。

(ニ) 芝罘との間に於ける運賃

芝罘との間には馬背に依りて運輸されつゝありと雖も土貨の芝罘に輸送さるゝもの多ければ交通絶間なく而も輸入の大部が芝罘よりせらるゝを以て返り荷の關係上運賃も又比較的安價にして一斤十五文とす。

八、棲霞縣

萊陽を距る九十五支里芝罘を去る一百四十五支里の地にして縣内至る所山地にして縣城は山間の窪地にあり人口三千商業振はす商務會の設立さへ唯名のみにして事務の辦せらるゝなく錢莊四戸あれども小資本にして貧弱極まれり五日毎に集市の開かるゝありて魚肉、野菜類、布疋及び土産品、果實、柞蠶繭の市場に表はるゝのみにして平時は肉類さへなし商業系統は全然芝罘に屬し芝罘以外に求めんと欲するも能はざるなり然れば芝罘との間は道路險惡なりと雖も縣内に於ては唯一の便利なる道路なれば困難を忍んで來往しつゝあり花生、絹紬、柞蠶繭、花綵を輸出品の大宗とし石油、綿絲布、諸雜貨を主要輸入品とするも商業として見るべきものなし。

第二節 主要輸出入品

一、輸出品



本地方輸出品は農産品に非ざれば其加工品にして花生、花生油、豆油、麻等の輸出に過ぎず農産物の外本地特産品として多量の海外輸出を見るは灰絲、柞蠶繭、繭紬、鶏卵、牛皮、牛骨、麥稈真田、粉條子等を主要なるものとす而して之等の大部は芝罘を經由して輸出せられ僅かに粉條子、野菜、果實の龍口より輸出せらるゝのみ。

(4) 繭紬

1. 緒論

本品は古來山東省の特産として各地に知られ其需要の増加と共に輸出額も比年向上しつゝあり。

絹紬は價格比較的低廉なると耐久力強きとに依り今後も其需要は益々増加すべく従つて其本地方の製織業も盛大となるべし芝罘に於ける輸出商も現に甚だ増加しつゝある傾向あり

2. 産地及び産額

本品の産地としては昌邑縣を第一指に屈すべし而して今回旅行調査區域にては棲霞縣、萊陽、芝罘の三地に之を産するも萊陽縣は其産額極めて寥寥僅かに一戸の機房あるに過ぎず芝罘とても三戸の機房あるのみなるが棲霞縣は其産額昌邑に次ぎ省内第二位にあり寧海縣

又之れに次ぐも昌邑及寧海は他日に譲り此所には主として棲霞縣の生産狀況と芝罘に於ける輸出狀況とを記述すべし。

棲霞縣内に於ける機房は同縣の調査に依れば現下六十戸機械臺數四百四十一臺あり芝罘に於ける三機房は機械四十八臺を有す山東省各産各地機房が有する機械を合算すれば約一千三百臺に上り總産額一年間約二十萬匹の多きに達す。

機房は一年中舊正月前後及び夏季に於て各約一箇月間の休業をなすを以て作業日數は約三百日と見るを得べし而して機械一臺は幅の大小厚薄によりて其製出高一定せずと雖も平均三百にして一疋を製織し得るを以て機械一臺一年間の織上げ高は約百疋とす然れば棲霞縣及芝罘、萊陽に於ける製織高は約六萬匹と見るを至當とす棲霞縣城に於ける機房は僅かに四戸にして其大部分は萊陽、芝罘街道沿途の桃村及其附近を主産地とす。

3. 種類及原料絲

經絲の一本なると二本なるとに依りて單紬雙紬の區別あり又重量の大小に依りて粗紬、細紬、洋紬の區別あり而して老寬とは我國の大幅物にして裁尺二尺四寸を普通とし二寬とは二尺を普通とし時として一尺九寸、二尺一寸等のものを見る我國の中幅物に相當す窄紬は



一尺四寸五分幅物にして我小幅物とも云ふべし其他長袖とて百三十尺物あり之れ等絹紬の原料絲は關東大框絲、本地大框絲、出殼繭絲の三種を用ふ。

關東大框絲は蓋平、大孤山、安東縣地方より輸入する大框絲にして框の周圍は我曲尺の約五尺九寸あり品質粗惡にして黒黄色を呈す光澤少くして糊多く絲量の一二割に及ぶものあり然れば關東大框絲のみにて製織するものなし、本地大框絲は棲霞、寧海地方に産出するものにして大部は芝罘繭房に於て製絲せらる關東大框絲に比し品質良好にして光澤あり色白くして糊少く價格も又前者に比して一擔平均五十兩内外高價なり。  
主として經絲に用ゐらるゝも上等物は經緯共本地絲を用ふ。  
出殼繭絲は出殼繭より取りたる絲にして概ね色白く前に者比して品質優良なり。

4. 品質

絹紬の品質の鑑定は織方の巧拙及び上記三種の絲を如何に配合使用せられたるやを見て判定するを普通とす。

- 第一品位 經緯共に出殼繭絲      第二品位 經は出殼繭絲緯は本地大框絲
- 第三品位 經緯共に本地大框絲      第四品位 經本地大框絲緯關東大框絲

第五品位 經緯共關東大框絲

とす老寬洋紬は經緯共出殼繭絲なるが普通にして經に出殼繭絲を用ゐる緯に本地大框絲を用ふるもの又少なからず粗紬は經絲通常出殼絲或は本地大框絲を用ゐる緯は本地大框絲と關東大框絲と半に混用したるもの多し。

5. 芝罘に於ける輸出高

芝罘に於ける絹紬の輸出高は下表の如くにして年々其數を増加するの傾向を示せり主たる輸出先は香港上海にして此兩地より更に英米其他の諸國へ再輸出せらる。

三井洋行	六〇〇〇〇	中國絹紬社	二八〇〇〇〇
和記洋行	五〇〇〇〇	盎斯洋行	一〇〇〇〇〇
山東絹綢花綆莊	一五〇〇〇〇	支那商人	二〇〇〇〇〇
ムラン、ヂエームス商會	八〇〇〇〇〇	デベン公商會	一〇〇〇〇〇〇
ビエーイルトン商會	二五〇〇〇〇	マースード商會	一五〇〇〇〇〇
Diederichsen	三〇〇〇〇〇	合 計	二八九〇〇〇〇



6. 製織狀況

本品製織の順序は次の如し。

- 一、纜絲 原料絲の地質を晒し灰汁を取り去るが爲めに豆腐汁即ち豆糊を原料絲に塗り太陽に晒し乾燥せしむ。
- 二、做穂 とは纜絲の終りたる絲即ち乾燥終りたるものを緯絲に使用する爲めに鎌を作るを云ふ其機器は我國の総繰器に彷彿す。
- 三、落框 大框絲を小框に移卷するを云ふ。
- 四、刷机 經絲を梭に通し之れに豆糊を塗るを云ふ。  
上記の方法にて得たる絲を緯とし落擦刷机の方法にて得たる絲を經とし之れを機に掛け織出し従事す機は木製にして我國に用ふる織機と大差なし。  
職工の巧拙及び絹紬の厚薄に依りて種類異なるも普通三日に一疋を仕上げ老寬洋紬は經絲の數二千四百本老寬粗紬は三千三百八十本とす緯絲は三本乃至六本の間の割線なり。
- 五、仕上げ

以上の如くにして製織したる絹紬は之れを清水に浸し猪胰子を以て十分に洗滌し日光に晒す。

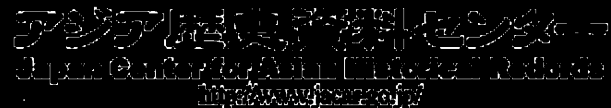
猪胰子とは粗悪なる石鹼にして此外石粉子、土碱等を以て洗滌することもあり。

六、製織費用

一疋の絹紬に関する費用を示せば次の如し但し原料は之に加算せず。

纜 絲	銅元	二五〇文	做 穂	同	一〇〇文
落 擦	同	一〇〇	刷 机	同	一〇〇
織 机	同	一〇〇〇	燃 料	同	二〇〇
猪 胰 子	同	五〇	小 米	同	一七〇〇
豆 糊	同	一〇〇	豆 油	同	一〇〇
蒟	同	五〇	野 菜	同	三〇〇
屋賃割宛	同	一〇〇	工人給料	同	四〇〇
諸雜費	同	一〇〇	合 計	大錢	四吊六百五十文

然れば老寬一疋の製織費は大略四吊半を要す。



7. 運賃諸掛

原産地より芝罘に運送するには何れも布及び油紙にて包み二十疋一包とし馬背に依りて積送す普通一頭に二包を限度とす而し棲霞縣より芝罘に積送するには百斤大錢二吊文を要す

8. 棲霞縣に於ける價格及芝罘倉渡價格  
普通棲霞縣棧房の計算は次の如し。

原 料	六兩	大錢	十二吊(一兩二吊の相場として)
諸費用			四吊六百五十文
運 賃			二吊文
合 計			十八吊六百五十文

今一兩二吊文の相場とせば九兩三二五となる而して芝罘倉渡價格は九兩八匁に達せざるの  
有様にして尙手數料としての支拂もあれば棧房の利益は多からず。

9. 棲霞縣内に於ける價格表

單位	寬	長さ	重	量	價	格
----	---	----	---	---	---	---

一疋	二尺四寸	二尺二寸	三碼	〇兩	八	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	六碼	〇兩	十	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	七碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	八碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩
同	二尺四寸	二尺二寸	十碼	〇兩	二	兩

10. 芝罘に於ける荷造り

荷造りは朝鮮紙にて包み更に油紙を以て掩ひ木箱に入れ釘付けの鐵帶を施す箱の大きさは相  
軸の幅の大小に依り異れども普通次の二種とす。

- 1. 型 1.19" x 重 2.3" x 長 2.9"
- 2. 型 1.17" x 重 2.3" x 長 2.9"

11. 芝罘に於ける取引慣習

相場建は洋紬にありては一疋粗紬にありては十匁建とす又「オンス」相場建なることもあり  
小賣に用ふる尺度は裁尺一尺を單位とす即ち他の尺度と比較する時は。

- 裁尺一尺は 日本鯨尺 〇、九二五尺
- 同 同 曲尺 一、一五五尺



當地に於ける絹紬商人の大部分は專業に非ずして他業を兼營す之れ絹紬商は比較的大なる資本を要し割合に利益少きを以て斯くするときは金融及び經營に容易なればなり、通常小賣を除くの外は總て問屋の手を経て、代理棧房は其の代理店の手を経て取引するものにして最初見本を示し商談を開始し價格纏まれば賣買の契約成るを例とす契約は極めて簡單にして契約成立すれば日を期して貨物の授受をなす、之れを驗貨と云ふ即ち貨物の検査をなし見本と異なるが、品質劣れる時は値引をなす。

此外地方棧房が問屋に依託販賣を申込み事ありかゝる場合問屋は速かに顧客を求めて賣却し規定の口錢、倉敷料、諸雜費を差引き殘高を依託主に交附す口錢に關しては左の通りの習慣あり。

- 一、賣手は或問屋の手を通じ買手は他の問屋の手を通じ互に貨物の賣買をなしたる時は賣手は賣方買方の兩問屋に對して一分の口錢を支拂ふものとす。
- 二、賣買は兩者同一の問屋なる時は各一分宛を支拂へば可なり。
- 三、問屋が自己所有の貨物を他の問屋に賣渡したる時は買方に對して一分の口錢を拂渡す

四、問屋が自己所有の貨物を他の問屋の手を経て買手に賣却したるときは賣方なる問屋及び買手は買方なる問屋に各一分の口錢を支拂ふものとす。

12 龍口に於ける絹紬輸出狀況

龍口は前述の如く諸般商業機關の設備完全ならず且つ進取的商人の少きに依りて未だ龍口商人の絹紬問屋を營めるものなし但し龍口が南滿諸港より輸入する灰絲は其全部が昌邑縣に運送せらるゝものなり、然れども龍口輸出品として海關統計に表はるべきものは決して龍口商人の手に依りてなされたるに非ず昌邑縣商人が自から絹紬を運來し當地報關行に託して海關手續を了し再び自から大連に携帯し行くものなり然れば其數も多からず。

13 結論

近年芝罘に於ける絹紬商は益々増加し歐洲戰時中と雖も尙ほ歐米に於ける本品の需要は増加の傾向を示し商人等は益々利益を收めつゝあり殊に染色工業の發達と共に從來一色たりしもの多種多様の模様を染出し得るに至り之れが需要も發生するに至り本品の將來は全世界販路を有する最も有望なるものと云ふべし。

(ロ) 芝罘に於ける棧房

1. 緒言

芝罘は絹紬製織地としては適當の地と云ふべからず絹紬の如く水質の良好なるを必要とするものは芝罘の如く水質鹽分多きの地にては良品質のものを製織すれば困難なるが如し従て原料絲に富み且つ輸出に便利なる地にありながら尙製織業盛大なるを得ず遠く運輸に不便なる昌邑掖霞縣に其利益を奪はるゝの止むなき現狀にあり。

2. 芝罘の製織廠

當地に於ける製織廠は僅かに三廠あるのみ何れも最近に於ける設立に係り資本金も又多からず。

天興福	資本	一萬元	源盛福	資本	五千元
華興工廠	同	五千元			

天福興は支配人昌邑縣人王耀西にして支那式製織機二十臺を有し工夫八十人を使用し毎日七疋平均を製織し得、然れば同店が一年に製織する高は原料拂底其他の原因に依る休業日數を差引き従業日數を三百日とするときは二千一百疋内外の製織高となる一疋の工賃は約一吊文にして絲繰其他取扱ひに大抵毎月八吊文を要す。

源盛福は同じく昌邑縣人郭老三支配人たり、支那式機械二十臺を有し工夫七〇人を使用す製織高工賃等略前者に同じ。

華興工廠は支配人は同じく昌邑縣人李某にして支那式機械八臺工夫五十人あり。

當地に於ける三廠房の一年間の製織高は約五千疋なり。

3. 結論

絹紬の需要は今後益々増加すべければ若し芝罘附近に於て良質の水を得相當の資本を以て之れが製織に従事せば地勢上非常の利益と且つ安價なる品物を得らるゝ點に於て將來有望なりと云ふべし。

(ハ) 柞蠶絲

1. 緒論

柞蠶絲は灰絲或は野蠶絲とも稱して世人は偏ねく知る所にして絹紬の需要益々世界的となりと共に其原料として益々需要を増加するは勿論なり單に本省内の需要に止まらず遠く米國に於てし之れが需要少からず毎年當地方より米國向き本品の輸出少からず。

2. 産地





柞蠶絲は山東にありては昌邑、棲霞、寧海等の有名なる絹紬産地に於て産出すと雖も之等地方に於ける本品は其産地に於ける需要を充すに足らざる程にして本品の産地として海内外に名聲高きは芝罘とす。

3. 原料柞蠶繭の品質及び産地

灰絲の原料産地は山東省内にありては棲霞、寧海、灌水等にして春秋二回の産出あり但し原料として最も適當なるは秋繭なりとす、但し之等の地方には繭房の存するありて芝罘へ輸出せらるゝもの到底芝罘繭房の需要に應ずる能はざるを以て東三省野繭の芝罘に輸入せらるゝもの少からず。

4. 野繭の産出状況

野繭は普通柞樹に放養せらるゝものにして棲霞縣の如きは山地にして此種放養樹に富めるを以て之が放養盛んに行はる、秋末收繭に際しては放養者の多忙眞に名狀すべからざるものあり。

收繭終れば附近市場の開市日に於て販賣す棲霞縣市場の集市は四九の日にして收繭季に於て同市場に表はるゝ野繭は毎集約十萬箇の集散高あるを見る而して當市場の野繭の集散は

九月下旬より翌年一月末を以て終るを以て此間の集を約二十六回と見れば同市場に集散する總數は二百六十萬箇と見るを得べし。

野繭の値建は厘錢を以てするも支拂は銅元或は洋錢を以てするを普通とす而も價格は繭一箇幾何と商約するに非れば一千箇何吊文として價格を定む本年市場にては四吊五百文大錢の相場なり依つて本年度同市場に集散する野繭の價額を算出すれば  
 $(2,600,000 \times 1,000) \times 4,500 = 117,000$

吊とす今之れを銀子に換算する時は相場の如何によりて異れりと雖も六萬兩を下らざるべし但し同市場に集まる、棲霞縣城産繭は其數極めて少く而かも縣内の主要産地は東部縣界地方なるが故に前記數量を以て全縣産額を推定し難し。

5. 芝罘に於ける東三省繭の輸入額

芝罘海關報告に依る芝罘の東三省産繭輸入數を見るに左の如し但し芝罘港に輸入せらるゝものは全部東三省繭に限らる。

年次	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
輸入額	一一三三七八	二二五、一五〇	一六〇、四三八	九一三一三	二四九八四〇

北部山東省經濟事情

二二五

例年の統計に依る芝罘港輸入額の數字上の増加は芝罘に於ける繭房の發展を語ると共に一面又東三省産額の一半を窺ふべし。

6. 原料品の品質

原料繭は繭房當事者の言に依れば山東省繭の品質東三省繭に比して一般に劣等なりと云へり吾人は専門的智識なきを以て其優劣を鑑別する能はざるも一般に知らるゝ所は

イ 繭の大小

ロ 繭の堅軟

ハ 光澤の有無

ニ 繭の厚薄

ホ 繭の完不完

等に依りて鑑定されつゝあり。

7. 芝罘に於ける繭房

柞蠶製絲場を繭房と云ふ芝罘に於ける繭房數は年により増減あり定數を擧ぐる能はざるも本年は約四十八戸あり以上の中機械工場を有するは三月にして他は何れも座繰工場なり。機械工場は華豐、華泰、義豐德にして何れも五百臺の大框機械を有するも日常之等が運用せらるゝは僅かに其の半數に過ぎず芝罘に於ける繭房が有する機械總數約一萬四千臺にし

て平日運用せらるゝは其半數七千臺内外とす芝罘に於ける主なる繭房は義豐德、義豐恒、義豐興「以上三房の總理孫文山」裕德源「總理榮鳳五」祥茂公「周岐山」成生繭房「總理劉壽山」豐記熊廠「總理李星軒」同泰順「總理唐寅賓」義孚同「總理張祥同」等にして何れも東馬路或は西馬路に散在す。

8. 絲の種類

絲の種類は大框絲小框絲あり之れ即ち製絲に用ふる框の大小に依りて區別するものにして大框の周圍は五尺八寸小框の周圍は三尺二寸とす此外大挽手絲、二挽手絲の二種あり、絹細織物に使用せらるゝ純絲之れを區別して大框小框の二種に區別するを常とす、二挽手とは即ち繭屑、大挽手とは絲屑を以て製す尙ほ出殼繭にて製せるものは特に出殼繭絲と云ひ春蠶絲は春繭より秋蠶絲は秋繭より製し春控子絲、秋控子絲は又春秋出殼繭より製す。

9. 絲の品質

絲の品質は繭房に於ける製絲仕上げの一順序として鑑別せらるゝ、乾燥終りたる絲を檢査所に送りて絲の品質に依りて等級を付す其標準となるべきは。

イ、光澤の有無

ロ、節の多少

ハ、絲の整亂

ニ、絲の大小

ホ、乾燥の完不完

にして結局光澤あり節少くして絲整ひ且つ細きを優良品とす。

10 製絲方法

- 一、鍋煮、繭を約一萬箇一鍋に入れて土城(蒙古及萊陽産曹達)二斤と混じて煮沸し適度に至れば再び之れを簍子(籠)に入れ鍋中にて白水にて煮る、約三時間にして適度の熱に至るときは之れを冷水にて洗ひ冷却するや扒繭室と稱する室内に運ぶ。
- 二、扒繭とは除皮室にして外部の亂絲を除くを云ふ扒繭終れば之れを百二十箇或は百五十箇宛に區分す。
- 三、製絲、百二十箇或は百十五箇宛盛られたる器は製絲室に運ばる製絲室には各一人一器械を運用し普通大框を裝置し足にて踏めば框自から回轉するものにして内地産座繰製絲器が足踏みとなりたるものと思へば可なり。

A. 絲線

絲は一條即ち一總を百二十箇或は百十五箇の繭を以て製せらるゝものにして一線四箇の

繭にて製せられたるものを最優良品とす。

一般に絲の一條は繭四箇乃至十箇の間を以て製絲せらるゝものなれども普通絲は八箇を以て製せらるゝ習慣なり。

B. 一人の製絲高

大框は一箇に四條絲即四總を巻き得れば一回の取換へに四總を製絲することゝなる而して一時に一線の製絲に過ぎざるを以て普通午前中に百二十箇入を四度取代へ得るを以て都合一大框四總を製絲し午後に於て又同じ依つて一日八總を製絲す。

而して工夫の作業時間は午前十時より午後九時迄にして一日二食を給す。

四、乾燥、一大框を製絲するや絲は乾燥室に送られ乾燥せしむ。

五、検査、乾燥終れば検査室に送り絲の等級を定め各種類に區別せられ選擇せらる。

六、整理、検査終りたる絲は五斤約八十總を一括として整理せられ二十括りを一箱として

箱詰めとす。

11 春秋繭絲の優劣

一、春絲は光澤あれども節多し。

一、秋絲は粗にして光澤少きも強靱にして實用に適す。

12 芝罘に於ける柞蠶絲の商標

芝罘に於ける柞蠶絲輸出商及び其製絲所並に商標を表を以て示せば次の如し。

輸出商	商標	工場名	格付	輸出商	商標	工場名	格付
同泰和	日本娘	自工場	特等品	和泰	銀飛行機	地買絲	二等品
同	金寶星	地買絲	上等品	同	人傘	關東州絲	二等品
同	銀寶星	同	二等品	同	教子	同	三等品
聚盛長	黑金魚	自工場	特等品	同	養老	地買絲	上等品
同	赤金魚	地買絲	上等品	同	地球	同	二等品
元成	月中桂	同	上等品	裕豐德	同	同	上等品
同	人氣球	同	二等品	同	同	同	二等品
和昌求	水仙花	自工場	特等品	同	鴛鴦	同	上等品
和泰	金飛行機	地買絲	上等品	公晋和	白鴛鴦	自工場	特等品

13 輸出諸掛及荷造り(芝罘にて)

輸出する際の荷造りは先づ毛邊紙に包み更に油紙にて包み之れを箱詰めとするものにして

一梱一百五十斤入とす而して箱代紙代包装費苦力賃等の諸掛を合すれば一梱の輸出諸費用は

輸出税 一、〇六五曹平兩

積出諸掛 三、一五五兩

合計 四、二二〇曹平兩

となる。

14 芝罘輸出高及産額

芝罘繭房の一年間の作業日数は陰曆七月より翌年四月迄にして而も正月前後休業するを習慣とするを以て其製産高は略下の如し。

$$700 \times 300 \times 8 = 16,800,000 \text{ 條}$$

$$16,800,000 \times 5 + 80 = 1,050,000 \text{ 斤}$$

$$1,050,000 \div 100 = 1,050 \text{ 擔 (picul)}$$

と見るべし而も此大部分は歐米向なるも近年内地向増加し輸出減少の傾向を來せり但し亂絲頭、野蠶繭絲と稱するものゝ輸出甚だ多し其輸出先は近來米國を主としつゝあれども直接輸出に非ず直接輸出先は上海、日本、香港とす今其輸出高を示せば

野蠶絲

三三擔

野蠶繭絲

一八、一二六擔



とす練絲とは不完全なる柞蠶絲即ち製絲屑を云ふ。

附記 蠶

製絲業當然の副産物として産出するものにして當港蠶房の産額を示せば

年 月	鮮 蠶	價 格	乾 蠶	價 格
大正二年度	一〇〇〇、〇〇〇斤	一斤 銅元一箇	三、五〇〇、〇〇〇斤	一斤 銅元三箇二分
大正三年度	一、〇〇〇、〇〇〇	同 銅元一箇	三、〇〇〇、〇〇〇	同 同
大正四年度	一、二〇〇、〇〇〇	同 銅元一、二箇	四、五〇〇、〇〇〇	同 銅元三箇三分

にして其用途は主として肥料として用ゐらるゝも貧民の食料となる輸出先は日本にして年輸出少からず。

15 結論

本品は絹紬の發展に伴ひ當然其需要を増加すべきものなれども其原料が主として東三省より輸入せられつゝあれば一朝東三省に於て此種機械業の勃興を見んか原料需給の關係上芝

罌一帶の絹紬は到底現狀を維持する能はざるに至るべし之れ即ち山東省の野繭は到底其生産を急激に増加する能はざる理由あればなり。

(二) 花 緞

1. 緒 論

花緞とは「レース」の支那の名なり吾人が最も理解し易きは「カーテン」用のレース編物を見るにあり。

本品は近來歐米諸國の需要の増加又驚くべきものあり芝罘に於ける貿易商の花緞莊の増加は勿論産地の市鎮にありても花緞莊は益々増加の傾向を示せり、本品の用途は主として西洋婦人の夏服、卓子掛、裝飾用として需要せらるゝものにして而も支那産のものは本地方婦女子の内職として手編せられ機械製に非れば品質細密にして優美なる美術品にして而も工賃安値なれば價格も比較的廉にして歐米人の嗜好に投合せり。

2. 産地及産額

花緞の産地は棲霞縣一帶及び寧海縣一帶の地方に於ける婦女子の家庭手内職にして全然機械製造に非ず其産額は明確なる數を掲ぐることは困難なれども本品は支那内地に於ては其

需要あるに非ず僅かに芝罘に於て需要せらるるものに過ぎざれば其殆んど全部は海外に輸出せられつゝありと云ふも過言に非ず依て芝罘海關の統計は即ち輸出額にして又全産額なりと云ふべし其額左の如し(單位海關兩)

一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
五九六七四	二四三九五	一四五三二六	一四三六三九	二九三〇三〇

一九一一年には五九、六七四兩に過ぎざりしも一九一五年に於ては二九三、〇三〇兩の多額に達し僅かに五年にして六倍の増産を見たり以て近年花縵の輸出の如何に激増しつゝあるかを窺ふに足るべし。

3. 種類原料及品質

花縵の種類は頗る複雑なるも本地産の花縵には窓掛用の幅廣きものなし、之れを大別するときは絲花縵及び棉花縵の二とす絲花縵とは其料が生絲又は柞蠶絲にて成れる組「レース」絲にして棉花縵の原料は普通の綿絲に作れる「レース」絲「ガスレース」なり但し以上の區別は之れを原料の如何に依りて區別したるに過ぎず別に又狹寬、長短、花模様の如何に依りて區別す之れ即ち平様、磐結の二なり。

平様とは普通一般の窓掛に於て見る如き極めて粗なるものにして狹寬に依らず價格も平様は磐結に比して安し。

磐結とは模様極めて細密にして諸種花木の模様を織出し様様又二重、三重の絲を用ひて頗る頑丈にして細密なり。

本地産は全部手織なれば機械製品と異り粗末なる平様は極めて少く何れも細密結實なる磐結を主とす。

原料の「レース」絲は之れを花縵線と呼び前述の如く綿線、絲線の二種あり全部米國製原料を用ふ芝罘に於ける花縵線卸賣店は仁德洋行の一手販賣なり。

以上の外花縵を詳細に區別する時は實に枚擧に遑あらずと雖も主たる區別は其形情及長短に依る、本品の狹寬は主として線數によりて區別し最も狹きは十二線にして長さは一疋三十二碼とす此幅約一寸内外なり最も寬きは百二十根線を用ひ十二碼を一疋し幅一尺内外のものなり。

但し本品の輸出商取引に於ては一疋幾何の値建をなさず何根線何碼として價格を定められつゝあり。

形狀は圓形、扇形、方形あり半部粗にして半部密なるあり細粗、大小模様等諸種各様ありて到底之れが説明の煩に堪へず。

4. 價格及取引事情

價格は長尺物にありては一碼一根線を價格の基礎とし圓、方、扇、形等の大なるは一箇幾何、小なるは一打幾何の建値をなす、但し技術の優劣が價格の高下に關するや勿論なり。本品は支那人の家内工業に屬し其集散は製造者が附近の市場に到りて賣買するによりて行はる、花線の買収をなす商舖は花線莊と云ふ、花線莊は又之れを芝罘に送り芝罘の内外人花線莊に賣り込む芝罘に於ける賣買慣習は絹紬に關するものと異なるなし。

5. 花線莊

產地たる棲霞縣内知名の都會には花線莊のなき所なし然れど其數極めて少し今棲霞縣に於ける花線莊を擧ぐれば。

華成和 恒順號 天德興 恒成和 廣原

6. 芝罘に於ける花線莊

の五戸あり縣城一帶の製織者は之等の店舖に賣渡す。

近來同品の輸出増加と共に花線莊の數も亦増加しつつあり主たる花線莊を記すれば

仁德洋行 (米國人經營) 百多洋行 (佛人經營)

敦和洋行 (英人經營) 裕豐德 (支那人)

益斯洋行 (獨國人)

等にして其他尙支那商花線莊大小約三十戸あり。


7. 荷造

荷造りは白紙にて包み之れを紙製ボール箱に入れ更に木製箱に入れて輸出すと雖も其數量は一定せず之れ蓋し昨年迄輸出税を課したりしも本年に到りて輸出税免除せられたるに依り通關の面倒無きに到りし爲めなるべし。

8. 製織狀況

一、機器 極めて簡單にして幅一尺長さ一尺五寸高さ全長の半部は八寸乃至六寸にして半部は高さなき「コ」字形の板器を板の上に置くか或は板を釘付けにして器の底板となし直徑約一寸五分乃至二寸の棒を以て器の半部の高さある所に横架し恰も車の輿棒の如くにして回轉し得る仕掛にせり一般之れには布を巻きたり。



- 二、花纒様子 とは厚紙に針跡を以て花纒の模様及び大小の形を刻せるものなり。
- 三、錘 本名を忘れたれども無数の長さ五寸乃至六寸、徑三分乃至五分の木棍を作り之れを  形に型作る之即ち編織に際して原料花纒線を捲き附くる錘となるなり。
- 四、花纒針 之れが製織に用ふる釘なり之又百二十本内外を必要とす。
- 五、製法 器械の回轉棒に様子の刻せられたる紙を捲き付け之れを針にて止めたる上(三)に記述せし錘に捲かれたる絲の一端を一つに集め様子に刻せる第一の釘跡に止め而して錘の絲を延ばし器の底板とされる板上に様子と相當せる丈の錘を排列し錘を左右に順序好く働かして絲を三四回捻り合はせ(二條)様子の針跡を辿りて花纒針を以て止め行くものにして何れも同じき動作を繰り返し行ふ時は模様も生ずるの仕掛なり大抵女子の仕事にして二日或は三日にして一疋を織り小なる圓、方、扇形物は一日一箇或は二箇を製織し得。

#### 9. 結論

本品は主として歐米諸國を以て需要地となすものにして格價の廉なると品質極めて細密なるを以て其需要は増加するのみにて減少の傾向を示す事なり殊に婦人の夏衣に用ゐられ缺

ぐべからざるものなるを以て價高からず品質又良好なる山東品が年々需要を増加し得るや必然なり特に本年に至りて税金の廢止を見れば將來本品は一層廉價を以て之を供給することを得るに至るべし。

#### (ホ) 山東桐材

##### 1. 緒論

本品は山東の名産にして近く十數年來殊に海外輸出を企てられ山東桐材として人口に膾炙す、本地方が豊富なる桐材の産地となりしは輸出せんが爲にあらすして古來木材に乏しき山東省の本地方に於て不思議に桐と楊樹とが發育に適したるを以て桐の移植が盛に行はれたる結果に過ぎず特に本地人が桐の必要に迫られたるは棺材の缺乏なり、桐及び楊以外に棺材として用ふ材木は何れも皆外省の供給に待つを以て其價格極めて高く之れを求めんとするには富者は別として普通家庭に於て最も苦しむ所にして殆んど人一生の勞働は棺材を得んが爲めの勞働なるが如き感ありき、然るに桐材は本地方土質と氣候とに適合し其發育も比較的早く且つ最も安價に得らるゝを以て遂に本材の需要多きを來し何れの家庭にても家屋の周圍に之れを植ゑ付くの習慣發生し問はず語らずの中に山東は既に桐の名産地とな



るに至れり。

## 2. 産地及現状

桐材は本地方何れの地にも産せざるなく家ある所一本二本の木材を有せざるなしと云ふも妨げなきも最も有名なるは黄縣及蓬萊の二縣にして而も二縣の桐材が山東省内に於て最も優良なる品質を有す。

以上の外平度、萊陽又桐材少からずと雖も之等二縣のものは主として青島に輸送せらるゝを以て次回の報告に譲らん。

黄縣、蓬萊の桐材輸出は現時追々其數を減じ現存材は若樹にして輸出するに堪へず將來暫時良桐材の輸出の断絶すべき時あるべし之れ桐の輸出せらるゝもの多からざりし二十年前迄は桐が爾く有利なる材木たるを知らずして繁殖に意を用ゐず唯久しき間の古材が多量存在せるに過ぎざりしが爲めなり。

若し山東桐材にして輸出断絶する場合あらんか日本は貴重なる桐材製品を得るに甚だしき困難あるべし、但し日本桐材は下駄木としては適當なるも貴重製品としては山東桐に比し品質劣悪なればなり。

## 3. 品質及び切り出し

品質は柢目正しく目間小さく黄白色なるを良品とす最も大白或は紅白色のもの最良品なれども極めて稀にして得べからず木質は堅くして軽く光澤あるものを可とす、黄縣、蓬萊縣産桐材は最も好く此の條件に適したる良質のものにして全部芝罘、日本商人によりて切り出さるゝを以て芝罘桐材は青島材に比して一般に優良品と認められ大阪賣値も比較的高價なりと云ふ。

## 4. 切出し状況

### 一、土地の肥瘠及び土質に注意すること

之れ土地の肥瘠及び土質は桐材の發育に大なる關係あればなり土地肥沃にして桐の發育に好適なる地は桐の發育早くして従つて柢目大に水質多く木質堅からざれども脊地砂礫地帯にある桐材は發育急激ならず材幹直にして實質優良なるが故なり。

### 二、立樹を見て其年齢を看識すること

立樹の年齢を看識せんには主として其枝振り如何を見るときは大なる誤謬なし年齢若くして既に大樹となり切り出しに適するが如く一見せらるゝものも細密に枝振を注意する

ときは鑑別し得、即ち二十五年未滿の樹は一般に枝は皆斜に上方に向ひ二十五年より三十年内外の枝は皆幹と直角に空に向ひ尙ほ古きものは枝下方に斜向す而して年齢古き程木質優良なるものとす。

一、價格及び切り出し

立樹の年齢を鑑識し、樹に腐敗の有無を檢査し其樹の大體を理解したるときは此所に價格を決定す價格は樹の如何に依りて高下ありて一定すべからざるも價格決定の標準は長さ七尺五寸徑一寸を一才として一才幾何として價格を定む、支那人間にありて親指と食指とを延ばし此長さを一拿と云ひ長七尺五寸周圍七拿を以て百才と呼び日本にては長さ六尺四寸徑一尺を以て百才とす。  
斯くして賣約成らば之れを切り出し枝葉の輸出向きとならざるものは其場に於て薪材として賣却す。

5. 運送狀況及び運賃

切り出されたる桐材は木材として馬或は人によりて車道に運び之より陸路直接根據地に送るか又は附近民船港に運び之より戎克に依りて根據地に運ぶ黃縣、蓬萊縣よりするものは

主として後者の方法に依る目下渤海沿岸にて桐の輸出をなす商人は芝罘のみなり其運賃は

黃縣より芝罘迄 陸海路 一才につき 三錢乃至二錢

黃縣より芝罘迄 陸路 一才につき 五錢乃至三錢

にして海路より運送せらるゝは内海航路税として長さ五尺徑一尺ものに就て銀一錢を課す

6. 主たる輸出桐材

桐は丸木材又は下駄木として輸出せらる、即ち下駄木は丸木材として輸出すべからざる短尺物或は腐敗材等を以て製造せられたる長方形にして厚二寸、幅四寸、長さ八寸材なり。  
輸出桐材は六尺四寸徑一尺を百才と算し徑一尺五寸物は二百才、二尺物は四百才と算し且つ長さは六尺四寸より八寸増しの長さに切り取るを普通とす。

7. 輸出狀況

山東桐材の輸出先は日本にして芝罘の輸出額は

大正四年度 八十萬才 大正五年十月迄 三十一萬才

にして其價格は

最上 一才 二十五錢(金) 上 一才 十八錢(金)



普通 同 十四錢(同)

とす芝罘、神戸直行船に積込むものあれども主として大連經由にして下駄木の包装は百二十雙乃至八十雙を一包とし百五十斤乃至百八十斤の重量を有し之れを藁蓆に包む。

8. 輸出税と評價慣習

丸木材の輸出に際して芝罘税關の評價は百才六兩の評價にして下駄木は百斤四兩と評價す而して税金は何れも従價五分にして現時此外尙ほ築港税の附加徴收せらるゝものあり輸出税の六分五厘とす。

9. 輸出諸掛り

A. 丸木材に就いて

税金	評價六兩從五分銀三厘(銅五錢五厘)	築港税	税金の六分五厘
舢板賃	銅二十錢	運賃(大阪迄)	洋銀一圓七十錢
苦力賃	銅十五錢		
	B. 下駄木に就いて		
税金	評價四兩の五分	築港税	税金の六分五厘

舢板賃	銅十八錢	運賃	洋銀一圓三十錢
苦力	銅十錢		

10 結論

本品は其數量の減少と良材の缺乏を告ぐる事實あるに反し日本内地に於ける山東桐の需要は益々増加しつつあり、然れば山東桐材は將來益々其價格昂騰するのみならず良材の供給は需要に伴ふ能はざるに至るべし。

但し下駄木としては内地産は何等劣る所なく却つて本地品は高價にして内地品と競争の地位に立つこと得ざるべし。

(一) 牛皮

1. 緒論

山東省は牛の産地として知らるゝのみならず又牛皮の産出少からざるは既に世に遍ねきところなり、而も山東牛は骨格大なるが故に牛皮も大形物多く産額又多量なるのみならず降雨稀なるが故に乾燥も稍完全に行はれ品質優良なり但し本地方に於ける牛皮は僅かに芝罘を經由して輸出せらるゝに過ぎず龍口より輸出せらるゝものは極めて少し。



2. 種類

牛皮の種類は先づ牛の種類に依りて區別するを至當とす但し山東省内に於ける牛皮は普通牛皮、水牛皮の二種類に區別し得るも水牛は本地方にありては全く見る事能はず牛皮は屠獸の際剥ぎ取りたる儘のものあり之れを更に乾燥せしめたるものあり鹽付けとなせるものあり鹽付けとして乾燥せしめたるものあり即ち生皮、乾皮、鹽皮、鹽乾皮の區別あり蓋し生皮は製革用として最も優良なるものなりと雖も輸出品向きとしては重量を減する爲めに乾燥せしむるを常とし之れに適度の食鹽を以て腐敗を防止せざるべからざるを以て鹽皮となし更に重量を減せん爲め之れを乾燥せしめて乾鹽皮となす。

3. 品質

牛皮の品質は吾人の甚だ記述に苦しむ所にして單に牛皮と雖も山東牛が同一種ならざるが如く山東牛皮も又細別すれば甚だ複雑なるを免れず殊に同一種のもので雖も牛の大小其養育の如何に依りて又皮の大小厚薄あり損傷あり老少中年等に依りて用途各異り價格も從つて同一なる能はず。

但し一般に山東牛皮は蒙古及び中南支那産牛皮に比すれば品質遙かに勝れりと云ふ、今牛

皮の品質の鑑識には次の如き條件を以て之れを見るを普通とす。

- 一、皮の厚薄
- 二、損傷の有無
  - イ、剥皮に際して生ずる肉面の刀傷
  - ロ、養育中に生ぜる擦傷
  - ハ、鞍跡の傷
  - ニ、蟲類、蠅等に依りて生ずる孔傷
- 三、頭頸部皺
- 四、乾燥の際に生ずる損傷
  - イ、乾燥足らずして腐敗せるもの
  - ロ、乾燥の際に生ずる裂傷
  - ハ、乾燥に際し不注意より生ずる石焼
- 五、老少牝牝
- 六、乾燥の完否

皮一枚の重量も乾、生皮の別により又大小の別によりて同じからざれども生皮は普通其附著物を除去して五十斤乃至百斤内外にして乾皮は二十斤乃至三十二斤を普通とす但し十斤に達せざる小皮もあり。

4. 牛皮の産地及各都會に於ける集散状態

山東省は到る處牛皮の産出なきはなし蓋し各都會に於ける趕集に於ては必ず一二頭の屠牛あるを見ればなり而も縣城の如き大都に於ては殆ど毎日二頭或は三頭の屠牛あり。

山東省内にて最も牛皮の産出多きは人口最も稠密にして而も繁榮なる商業地たる山東鐵道の沿線及其附近とす蓋し附近の牛皮が青島或は濟南に輸送せらるゝ爲めに此所に集散するを以てなり山東鐵道及び其附近には回教徒の居住するもの多くして此の教徒は牛肉を好んで食するを以て自から此教徒の居住地は牛皮の産出夥多なり、山東鐵道附近の調査は之れを第二回旅行報告に俟たんとす。

5. 各都邑の牛皮

本地方に於て最も多量の牛皮産地は平度縣及萊陽の二とす沙河は牛皮の産地として知らるゝも沙河及其附近産の牛皮は極めて少くして一般に西部地方牛皮が沙河商人に依りて買収

せられ之より輸出せらるゝに過ぎず價格は青島相場と大差なし但し山東省に於ける牛皮商人は主として沙河人にして山東鐵道沿線附近の主たる牛皮商は何れも沙河大牛皮商店の支店或は出張所たるものにして牛皮と沙河商人とは離れて考ふる可らざる程の密接さを有するを以て世人往々にして沙河が牛皮の大産地たるが如く思考するも之誤謬なり本地方の牛皮取引系統は主として芝罘に屬す唯平度縣の全部と萊陽の一部が青島に輸送せらるゝのみ毎年芝罘より海外に輸送せらるゝものは僅かに一萬枚にして約二十萬斤に足らざるものにして青島が毎年約十四五萬枚を輸送しつゝあるに比ぶれば極めて寂寥の感を免れず蓋し芝罘商業系統と稱すべき山東内地各都邑の牛皮出産極めて少き結果なり各都邑に於ける牛皮の集散概數を示せば

芝罘	一〇、〇〇〇枚	黃縣	一、〇〇〇枚
萊州	一、〇〇〇枚	沙河	七、〇〇〇枚
萊陽	三、〇〇〇枚	平度	三、八〇〇枚
其他	三、〇〇〇枚		

とす但し之れ何れも該地商人或は商業會議所の言を斟酌せるものにして稍々確實に近き數



なりと信ず。

6. 荷造り

牛皮の荷造りは極めて簡單にして先づ毛部を内にして胸部より折り且つ腹部を折りて短形に疊み運搬に際しては十四五枚を重ねて一策とし藁繩を以て結細す。

7. 價格

價格は常に變動ありと雖も旅行當時に於ては略次の如し。

上 百斤五十五兩      中 百斤四十九兩      下 百斤四十五兩

8. 結論

要するに本地方は牛皮の産出多からずして到底回教徒の居住地方と同日に論ずべからざるものありと雖も牛皮は本地方と雖も尙ほ年々減少するが如き事なきは勿論にして輸出業者の努力如何によりては益々多くを芝罘或は龍口に集散せしめ得べし現に芝罘三井洋行の如きは昨年末より牛皮の輸出を計劃し著々實行しつゝあり。

二、輸入品

綿絲布、燐寸、石油、雜糧、雜貨、砂糖は本地方の重要輸入品なり綿絲布及燐寸は其八九

割は日本製品なり近來日本石油も其價格廉なるを保ち好きに依りて銷路を開くの端緒を得芝罘及龍口政記公司に於て盛んに賣出しつゝあり但し美孚、亞細亞石油に比して品質劣れるを以て大都會に於ては好まれず主として鄉村農民がカンテラ用として使用しつゝあり

(4) 綿絲布

1. 結論

綿絲布は元來最も多量に輸入せられ需要益々増加するを示しつゝあり而も支那國民の嗜好する所は其價廉なるにあり近來割線の輸入増加しつゝあるの傾向を示すも尙ほ其主要なるものは十六番手とす。

綿絲布は都會官商の需要するものに非ず特に綿絲は地方鄉村に於ける農民の家庭内職として土布を製織する爲めに需要するものなるが守舊的性情に富める支那人のこゝとて一度其嗜好に適すれば永續的銷路を獲有するを得べし但し價格の點に於ては如何に守舊性の支那人と雖も廉なるものに向ひて移るや明かなり歐洲戰亂始つてより以來印度絲、歐洲絲の拂底を來し近來本地方に於ては殆んど日本品獨占の姿にして僅かに支那製品の輸入せらるゝものあるのみ。



2. 芝罘に於ける綿絲布

芝罘は青島、大連の發達を見ざる以前に於ては山東全省貿易の牛耳を取りたるのみならず、關外南滿洲諸港間の仲繼として貨物を吞吐したりしを以て綿絲布の純輸入に於てすら尙ほ五萬俵を有し之れに通過數量を加ふるときは優に六萬俵に達したりしに大連、青島の發展を來すや兩者の爲めに銷路を奪はれ現今に於ては芝罘及び其背後地黃縣、威海衛及錦州の一部に供給をなすに過ぎず加ふるに龍口の開港と共に背後地銷路の一部を奪はるゝに至り到底現今に於ては原生産地市場に大なる影響を來すが如き勢力なし。

一、輸入綿絲布の消長

左の統計は芝罘海關報告に依るものにして各國支那貿易中芝罘に於ける綿絲布の消長を知り得べし。

綿絲單位一袋(三百斤入として)

年 曆	英國及香港	支 那	印 度	日 本	合 計
一九〇三年	二九五	三九七	八〇三	四〇九〇	四九六四

一九〇四年	七八	一、一七一	四、〇〇六	一八五七	二四、三三二
一九〇五年	三〇八	三、二九四	五、九〇三	一九四四	二八、六四九
一九〇六年	一四二	三、九七五	三、四一六	一八六〇	二二、五六一
一九〇七年	九二	四、〇八一	三、三三三	八、四七一	一五、七七六
一九〇八年	三三五	四、三三九	二、〇〇〇	一三、二九一	二〇、九一七
一九〇九年	二七一	一、八八二	二、七五二	一三、二六九	一八、一七四
一九一〇年	一三六	一、〇八八	二、〇九二	一、九〇一	一五、一四六
一九一一年	五五	八、三四	一、五三八	一〇、六六二	一三、〇八九
一九一二年	三七	四、五	一、四八九	一〇、七三八	一三、七二五
一九一三年	三三	六、六六	二、〇一九	一四、七四五	一七、四三三
一九一四年	六九	六、一一	二、二七五	二二、〇七	二四、三六三
一九一五年	一	三、七四八	二、四六五	八、八五五	一五、〇六八

千八百九十三年に於て芝罘に輸入せられたる日本綿絲は僅かに二十七袋に過ぎずして印度絲は實に二萬四千五百〇三袋の多きを見たり英國及び香港綿絲も尙ほ六百四十袋を數へたり。

支那絲の當地へ初めて輸入せられしは一千八百九十八年の四千一百五十九袋なり而して一

千九百〇二年に至りて日本綿絲は遙かに印度綿絲を凌駕して印度綿絲の一萬二千八百〇八袋なるに對し日本綿絲は三萬五千六百八十一袋に達せり。  
 一千九百〇四年に至りて芝罘輸入の綿絲は急激に減少の傾向を來し一千九百〇三年に於ては約五萬俵に達せしもの急に二萬俵代に減じ爾來比年減少し數年來二萬俵にすら達せず僅かに一千九百十四年日獨戰爭の爲め青島港の鎖港せられし勢ひを借りて二萬五千俵に達せんとせしも之れ戰亂の餘慶のみ。

シーチンダ(二十反入として)

年別	米	英國	印度	日本	支那	合計
一九〇三年	二六、一九六	五、〇五	六、九	一、七二	—	二八、四六
一九〇四年	一五、八四三	一、六八	一、六八	二、三三	—	一六、八四
一九〇五年	二四、〇九	一、八一	二、八	三、八三	—	三〇、〇三
一九〇六年	三二、一九七	二、〇三	二、六九	—	—	三三、九二
一九〇七年	一七、二二〇	一、六三	二、三	三、六一	—	一九、七七
一九〇八年	一五、六九	一、三〇	—	—	—	一六、九九

年別	米	英國	印度	日本	支那	合計
一九〇九年	一三、八八九	二、三九	七、九	二、九二	—	一九、六四
一九一〇年	一〇、二六八	九、四六	五、八	三、五七	—	一五、〇六
一九一一年	六、六一四	四、〇一	六、	四、〇五	—	一四、九三
一九一二年	八、四六七	三、五一	—	三、九二	—	一四、七〇
一九一三年	八、〇七九	三、四九	—	四、三三	—	一四、九〇
一九一四年	四、八三七	五、一八	—	六、九七	—	一八、一四
一九一五年	—	—	—	—	—	—

千九百〇三年に於ては殆んど米國獨占の有様なりしが近年に至りては日本品、支那品の勢力強大となり日本品の如き既に米國品を凌駕せり。

ヅリル(二俵二十反入として)

年別	米	英國	印度	日本	合計
一九〇三年	六、八六九	—	—	—	七、六二〇
一九〇四年	二、九〇九	—	—	—	四、三三二
一九〇五年	一〇、六六九	—	—	—	一一、九三四
一九〇六年	七、七二	—	—	—	八、一七五



一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
一、四四二	二、三三三	一、八九二	一、二七九	一、一三三	八九〇	七五八	四九七	
六八					二八	二六		
六七三	二四二	一六三	一〇二	八二	二二	五五	四五	
二		三	七					
九五〇	一四二	一〇七	一四一五	八〇三	六四三	五三三	六七二	
三六三六	三八八六	三〇七五	二八二五	二〇一六	一五七二	一三三三	一二二四	

斯の如く綿絲布に於ては日本品の勢力増加しつつあれども芝罘に於ける近年輸入は實に衰れむべきものあり。

二、輸入綿絲布の現状及將來

前表に見る如く芝罘綿絲布は比年輸入額を減少しつつあるは明らかなる事實なれども之れが現状及び將來に就て今少しく詳細に各銷費市場に就き調査せんに

A. 芝罘及其背後地

之れ即ち芝罘貿易の根據地にして而も唯一の生命なれば今後如何なる理由發生するも芝罘

が開港地として存続する限りは絶対に他港の勢力下に譲るべからざるの地なり、芝罘の背後地は寧海縣の西半部棲霞縣の全部蓬萊、招遠、萊陽、海陽の一部及び福山縣の全部即ち之れなり之れ等地方の綿絲の需要は一箇年約八千五百俵、粗布打連布約一千五百俵にして年の豊凶に依りて多少の増減は免れざらむも此の見當の需要は絶対に減少することなかるべし。

B. 黃縣

黃縣は芝罘及び掖縣、平度縣、北半部地方との間に於ける仲繼市場たるの感ありて綿絲布の輸入せらるゝもの少からず綿絲約七千俵綿布約五千俵内外の輸入あり龍口開港以前にありては其全部芝罘より供給せられたり、然れども其開港以來漸次黃縣商人の龍口を經由して大連との取引を仰がんとするものあるに至りて現今に於ては其約三割は大連と取引せらる蓋し黃縣は地勢上より之れを論ずる時は全然大連龍口の貿易系統に屬すべきものなるに一に金融の關係あり二に諸設備の未完全なるものありて今尙は黃縣の商業は稍々もすれば龍口を離れて芝罘に向はんとするの趨勢尙断ち難きものなり但し大連が益々此方面に注目し龍口在住日本商人と完全なる聯絡を取り其資本の一部を龍口に投じなば此方面銷路は龍

口の手に收め得べきは敢て難業に非ず。

C. 威海衛市場

此方面は綿絲の需要は又少からずして一年約五千俵内外の輸入あれども綿布は全く需要なし。

威海衛は英國管下にありて自由港たり地勢より論ずるときは全然芝罘の商業系統に屬すべきものなれども又上海、大連等より直接輸入せられつゝあり之れが比例を見るに上海三割大連二割芝罘五割とす而も大連との引合は近來著しく増加し傾向あれども芝罘との引合は益々減少しつゝあり。

D. 錦州市場

錦州は營口の勢力下に立つべきものにして地勢上芝罘との引合は不合理なるが如きも錦州客は當地へ雜穀を持ち來り或は藥草を携帯し來り其返り荷として雜貨及綿絲布を仕入れて歸るものなれば芝罘、錦州間の雜穀及藥草の取引斷絶せざる以上綿絲布の需要は斷絶せらるゝ理なし然れば雜穀類の豊凶に依りて甚しき減少あるは免れざるも平均一年一千俵の需要あることを證し得るものとす。

8. 龍口に於ける綿絲布

龍口は開港以來僅かに一年諸種商業機關の設備未だ完全せざると大資本の商舖なき爲め其商業勢力範圍未だ廣からず且つ龍口と直接取引を便とする地方にても諸貨物の在否を慮りて他方面と引合をなすもの多し従て到底芝罘と同日にして論ずべからざるものありと雖も其背後地に黃縣の一部と招遠の大部を控へ居れば芝罘の敵地として又大連の有力なる味方として輕視すべからざるものあり殊に綿絲布にありては輸入の大部が大連との引合なるは注目すべき價値あり。

一、龍口の綿絲布輸入數

龍口の輸入額尙未だ少しと雖も綿絲布は共に既に芝罘の約三分の數に垂んとしつゝあり。

綿	絲	五千五百俵	綿	布	二千俵
---	---	-------	---	---	-----

而して比年増加の傾向あるは前述の如し。

二、現狀及將來

龍口の綿絲布輸入は未だ極めて寥々たるも將來益々増加の傾向を有するは過去數年間の統計に依りて見るも明らかなり將來に於ては掖縣、沙河鎮は勿論西部地方に大なる發展をな



し得べし。

A. 黄縣市場

黄縣市場は綿絲布輸入の七割は今尙ほ芝罘との引合なれども地勢上當然龍口の獨占市場たるべき地位にあれば將來益々龍口を經由して大連との引合を生ずるに至るべし而して龍口より黄縣に輸送せらるる綿絲約二千俵綿布約一千俵と見るべく而も將來龍口の發展は黄縣市場を其勢力下に置くや否やに依りて決せらるるものなれば此所に最も注意を拂ふときは將來龍口—大連の引合は大いに有望なるに至るべし。

B. 招遠市場

招遠は龍口の背後地として最も重視すべき地にして龍口貿易の過半は此地方を得意客となしつゝあるを以て將來此地方に於ける龍口綿絲布の輸入は減せざるべし。

4. 芝罘綿絲布商人

芝罘に於ける綿絲布商人は左の三種に大別す。

A. 上海引合商人

こは單に上海丈けに引合を有して他に引合を有せざる商人を云ひ其取引高は極めて寥々僅

かに全輸入の五分内外に過ぎず。

B. 大阪引合商人

芝罘が山東省唯一の開港場として内外に雄飛せし頃より芝罘に於ける重なる商人が大阪川口に支店或は出張所を置き先物の取引を開始せしに始まり現に信用も基礎も確實にして金融關係上必ず上海に取引先を有し大阪、上海の二所と引合をなす芝罘現取引高の約七割は此種商人に依りて取引せらる。

彼等の得意とする所は其出張員は大阪に於て買附けをなし若し芝罘狀況の不味を呈するときは直ちに大阪に於て上海或は他方面に向つて轉賣をなし得るにあり之即ち商人としては最も有利なる手段にして彼等が斯くの如く有利なる性質と地位とを有する爲め芝罘が尙地勢上の自然的範圍を超越して得意先を失はざる所以なり。

C. 大連との引合商人

小資本にして大阪に支店又は出張所を設立する能はざるものが大連にて仕入れんとするに至れるものなり即ち彼等は大連に於ける綿絲布商の競争心を巧みに利用して漁夫の利を占めつゝあるものにして近來此弱點を利用せんが爲めと引合の場合時間的關係上より引合を

開始するもの多く何れも相當の勢力を有し且つ成功しつゝあるを以て威海衛客も又大連との取引を好むの傾向發生しつゝあり斯くの如く大連商人の競争激烈なるは益々芝罘商人をして多額の利益を與へつゝあるものと知るべし但し大連港の發展上或意味に於て大いに慶賀すべし。

5. 龍口綿絲布商人

龍口綿絲布商人は之れを二大別す。

A. 大連との引合商人

龍口には内外人の資本豊富なるものなく且つ新開港なるを以て諸般の基礎確實ならず信用深き商舖少く僅かに俄帖子の騰落に於てさへ破産の悲運に相逢するもの二三にして足らざるの有様なり然れば諸貨の取引も僅かに大連及び芝罘營口を主とするに過ぎざれば綿絲布の如き其主たる引合は大連との間に於てなざるゝに過ぎず大連に於て引合をなすもの約當地全輸入の七割を占む。

B. 芝罘引合商人

芝罘との間に引合をなすものは僅かに三割弱にして芝罘との間に極めて密接なる取引關係

を有する店舖のみに限らる蓋し大連との引合は信用薄き龍口支那商人には極めて不便にして且つ現金取引ならざるべからざるも芝罘との間には多年種々なる方面の關係上信用も又相當に得らるゝのみならず之れが保證を附するにも不便少く而も期賣の便を得るに難からざれば芝罘引合商人の尙ほ斷絶せざる所以なり。

6. 本地方に輸入せらるゝ綿絲布の種類

龍口芝罘より輸入せらるゝ綿絲布は主として扇牌、桃牌にして以上の外尙ほ藍魚、福島、水月、雙鹿、三馬等の輸入を見ると雖も此等は極めて少くして論ずるに足らず綿布の最も多量に輸入せらるゝは九龍布、五馬頭、打連布等にして殊に九龍布、打連布は其首位にあり。

7. 二港輸入綿絲布の地方的分布

此處に以上二港の綿絲布分布區域を記するに先だち青島と以上二港との商業範圍を記せざるべからず。

山東省は山國にして而も東西南北に走る山脈に依りて自から其商業區を劃せられたるの觀あり蓋し掖縣、平度縣、黃縣の境界を東西に走る山脈に依りて略兩者の勢力を區別せられた

りと雖も尙ほ之れを細かに論ずるときは山東半島部の八割即ち萊陽、蓬萊、海陽の過半、文登、寧海の八割福山、棲霞の二縣は全然芝罘の直接或は間接の市場と見るべく黃縣、招遠、掖縣の大部は芝罘及龍口の勢力下に立つものにして掖縣、沙河鎮に於て已に青島と相半ばし平度の南部海、陽萊陽の一部は直接或は金家口を通じて間接に青島の勢力下に立つ。

地名	綿	絲	綿布
黃縣	七千俵		五千俵
平度	五百俵		四百俵
萊陽	一千俵		五百俵
棲霞縣	三百俵		二百俵

8. 結論

斯くの如く芝罘輸入綿絲布は減少するの悲運あり龍口は増加の勢力を示すと雖も未だ其商業的地位上よりは之れを日々に論ずべくもあらず唯將來に之れを望むに過ぎず而も近來青島に於ては日本綿絲布商の大坂と直接引合するもの多くして恰も大連に於けるが如く競争激烈を極むるが爲め價格も從て廉にして比較的鐵道沿線を去る遠隔の地にまで銷路を擴張

しつつあり但し龍口港が將來商業的地位の向上すると共に鐵道の開通を見るに至らば青島の商的地位の下落を來し芝罘、龍口の向上するは期して待つべし。

(本編は大正五年九月より大正六年一月迄に完稿せり)

### 第三篇 第二回旅行報告

#### 第一章 總說

##### 第一節 經過地

駐在地沙河鎮を發し掖縣、平度、萊陽、即墨を経て青島に出で鐵路濟南に抵り再び濰縣昌邑を通過して駐在地に歸れるもの之れを第二回旅行經過地とす。

##### 第二節 地勢

今回旅行地域の地形は山岳地方、高原地方、平原地方との三に區別することを得。

###### (1) 山岳地方

今回の調査踏渉區域は泰山山脈の支脈の縱横に走向せる地帯にして山は大體に於て斷層線

的形態を以て成れり略ぼ左の三脈に分たる。

1. 昌邑縣東方に起り平度、掖縣の間を遠く棲霞縣地方に走るもの
2. 山東鐵道沿線城陽の北方より起り即墨、萊陽を経て棲霞縣に至るもの
3. 濟南南方より起り山東鐵道の南方を鐵道と同じき方向に走り高密南方地方に至るもの。

此三山脈により三種の異なる地形を形成せらる。

(ロ) 高原地方

平度縣より萊陽縣に通ずる萊陽管轄地帯及び萊陽、即墨間に於て之れを見ると雖も寧ろ高原地方として論せんよりは平原地方に包含して論述するも可ならん。

(ハ) 平原地方

平原地帯は二區に大別す。

1. 昌邑縣東方より棲霞縣地方へ至る山脈に依りて南北二大平原を構成するものにして昌邑縣の平原を成す
2. 山東鐵道南方を東西に走る山脈と掖縣、平原とを分界すを山脈の中間に於ける平原

にして東は膠州灣地方に走り數十支里の幅を保ちつゝ西濟南を経て遠く河南、直隸の大平原に連續するもの之れなり。

第三節 河流

河流は大小數多あれども何れも平時は流量極めて少く河床徒に大にして灌溉、舟航の便を有するものは唯小清河あるのみ小清河は濟南より羊角溝に通ずる約三百支里の河流にして従前山鐵津浦鐵道等の未開通時代にありては周村以西山東省各都邑に取りては頗る重大なる交通路なりしが兩鐵道開通したる後は自から其重大なる任務の幾部を輕減したり蓋し本河流の舟航は關東州を通じて日本が山東に發展なし得べき唯一の道程として識者間に論究せられ大連、濟南間四百裡の間を連鎖せんとする計畫管て立案せられたりしが現在青島及山東鐵道が獨逸の手を離れ日本勢力下に左右し得るに至りし爲め日本が國家的發展を企劃するに就いては其重大なる程度を下落せしめたるものと云ふべし。

第二章 農業

上述平原地帯及び高原地帯は全部是れ農耕地なれども灌漑の便なければ水田を見ず獨逸が青島の發展を企圖して本地方農工業の啓發に腐心し農産物の増收を謀りし結果山東鐵道沿線地方の耕地状態は多少進歩の跡を残し落花生、麥、大豆、棉、芝麻、高粱等の栽培に適し就中落花生、棉花等は山東省農産品として世界市場に記憶せらるゝに至り大いに山東農業の起色あるを示しつつあれども元來山東人は農耕に適當なる肥料を用ふることを講究せざるのみならず人口過剰の地なるを以て省内食料品の缺乏少からず加之一般農産物の價格は低廉にして農家の収入大ならず而も其農業組織は全然大地主に利益大にして収入の半は地主の収入となること少からざれば小作農夫の収入は益々小額となるのみならず冬期は寒氣甚しく野外農耕に便ならざるを以て農夫にして稍資力あるものは都市に出で、行商に従ひ資力なきものは苦力として出稼し辛ふじて生活の資を得るの有様なれば如何に山東省農産に起色を示し落花生、棉花等の輸出増加すと雖も其養を肥やすものは大地主にして其地方に於けるあらゆる生産業及び商業も又大地主に依りて獨占せられあるやの感あり。然れども山東省農産品として棉花、落花生の輸出が最近數年間に於て非常なる發展を遂げ又杏核、胡桃、無花果の海外輸出開始せらるゝや此種農産品の作付大いに増加し來り之等

輸出品の生産地の地價は驚くべき程昂騰し數年前に比すれば殆んど三倍強に相當れり。如斯農産品に向つて光明を與へたるは全く山東鐵道の布設、青島の開港及び熱心なる獨逸人の研究獎勵に基くものにして此他方の誘致により本省農業の將來は益々開發を見るべく本省經濟に新生面を展開せしむるに至るべし。

### 第三章 工業

開港前にありて山東省農業が思はしき發展をなさざりしは其地質的原因と人爲的研究の足らざりしことが大なる原因をなすと雖も元來山東省は山岳縱横に走り運輸の便を缺ぐこと大にして其生産品輸出取引の道を得ざりしこと亦其因を爲せり農業不發達の結果は一般經濟能力を削ぐこと大なるものあり従て何等か求めて之を資くるの道を講ぜざるべからず茲に於て山東省に起れるものは牧畜業と工業の二者なりとす。

省内に於ける支那式各種工業の發達せることは北支那各省に冠たる處にして支那にて工業の發達最も著しと稱せらるゝ南支那各省に比するも遜色あるを認めず即ち絹紬、麥稈、眞田花綫(レース)等は夙に世に膾炙せられ又博山方面の陶器、硝子は古來有名にして主として

支那内地の需要に應じつゝありしものにして製造起元は歐洲より古きものと考料せらる、其他周村地方に於ける粗製金物製造、濰縣に於ける塗器製造等も見逃すべからざるものと云ふべし又省内各地は機械業盛んに行はれ各種土布の製織せらるゝもの少からず。最近に至りては山東省の工業は益々發展の域に進み濟南、青島、芝罘等において石輪製造會社、麥粉製造會社、燐寸製造會社、製絲場、製紙場、製帽會社、牛脂精製所等の新式工業會社の設立せらるゝもの少からず且又落花生、豆類の生産多量なるに及びては地方鄉村及都會にありては舊式油房の設立せらるゝもの多く茶花生油の如きは山東物産中看過すべからざるものたり。

## 第四章 商業

今回旅行區域内の商業貿易事情を記述するには商業主要地たる都會と重要輸出入品とに分類するを便とす。

### 第一節 都會

主なる商市は即墨、青島、濰縣、濟南、昌邑とす今之等各都邑につき項を分ち記述すべし。

#### 一、即墨

##### (イ) 位置及び地勢

即墨は山東省東端青島の西北に位置し山東鐵道城陽驛の北二十五支里、膠州の東九十支里金家口の南西九十支里にして陸路芝罘より萊陽を経て青島に通ずる要衝たり。

即墨河城壁の東より西に流れ地味比較的肥沃にして縣内は農産及び鑛産に富む。

##### (ロ) 人口及戸數

即墨縣城は戸數二千五百人口約二萬と稱す。

##### (ハ) 物資取引關係

輸入物資は其殆んど全部を青島港に仰ぐ山東鐵道城陽驛に積送し之れより小車又は馬背を以て運送す。

移入品 輸入品の主たるものは綿絲、綿布、染料、燐寸、砂糖、石油、洋城、煙草、雜貨とす今各品に就いて其概略を示せば左の如し。



1. 綿絲

綿絲は其八割は日本製品にして其餘は上海綿絲及印度綿絲が幾分づゝ輸入せられつゝあるに過ぎず即墨は當地方に於ける綿絲の大消費地なりと稱せらるゝも到底青島市場を左右し得る程の需要は無きが如し當市場に於ける主なる綿絲を示せば

日本綿絲 扇面(16手) 花蝶(16手) 福島(20手) 日島(20手)  
上海綿絲 雙虎(16手) 水月 龍門 紅龍

等にして一箇年移入額約四千大俵とす但し本地方に輸入する綿絲は何れも運搬の都合上より大俵の半分の容量を有する小俵を好み従て扇面、雙虎等の小俵は其輸入頗る多額にして就中扇面印小俵の信用は牢固として動かすべからざるものあり。

2. 綿布

は粗布及び雜綿布とす、粗布は日本製品の勢力圏内にして九龍、龍C、藍魚、金城、金鐘等の賣行良好なり一箇年の移入額は約一千二百俵あり就中九龍、龍Cは最も信用ありて全移入額の七割を占む其他上海製品の輸入せらるゝものあれど到底日本品の敵ならず雜綿布にして賣行あるは紅洋標、雙虎、金城印等にして一箇年約三百箱内外の移入額を有す。

3. 燐寸

日本黃燐燐寸の獨占市場にして其の賣行は商標を論せず甚だ良好にして一箇年の輸入高五千五百小箱を下らず。

4. 石油

戦前に於ては亞細亞公司及びスタンダード會社の製品のみなりしも近來青島を經由して日本石油(福壽)の移入せらるゝもの少からず就中亞細亞會社の僧帽牌、美孚會社の虎印等の移入せらるゝもの大なれば之れと品質を殆んど同じくし價格比較的低廉なる日本石油は將來益々確固たる販路を本地方に獲得し得べし一箇年移入高約一萬五千箱あり。

5. 煙草

葉煙草は縣内一帯に栽培せらるゝものあり且又西部地方より移入せらるゝも雖も卷煙草は英米煙草會社製品の盜牌、稱人、品海等の移入多く僅かに金帽の如き日本人製品の愛要せらるゝありと雖も到底英米煙草の敵にあらず一年約一千二百箱の移入あり。

移出品 移出品の主要なるは落花生、生牛、牛皮、牛骨、鷄卵、豚毛、豚皮とす。

1. 落花生



即墨縣に於ける唯一の農産輸出品にして一箇年約七萬斤の移出あり總て青島に移送せらる

2. 生牛

即墨縣は牛の産地としては到底沙河邑地方にだも及ばざれども近來青島より輸出し或は青島にて屠殺するもの益々増加せる結果即墨附近に種牛の飼養せらるゝものあるに至れり而して趕集市に集まる生牛は百頭乃至二百頭に達することあり。

3. 牛皮、牛骨、豚皮

牛皮、牛骨は共に山東省内至る所産出せざるなけれども本地は其産出比較的少し産額は一箇年牛皮約一千五百枚豚皮約三千枚を出す。

其の他地方より移入する物資 即墨に移入する物資は青島よりのもの殆んど其の全部を占むと雖も其の外に濟南より移入する山東省産物及び膠州方面との民船貿易による多少の物資あり。

膠州は民船貿易港にして寧波、福建地方との民船の往來あり之等が齎らす物資は紙類の如き支那雜貨にして此處より即墨に移入する加紙の如きは一年三百包に達すと云ふ。

即墨移入品にして綿絲布と共に重きをなすものは棉花とす棉花は山東省特産品にして濟南

に集散し此處より山東各地需要に供給せられつゝあり、即墨に於ても毎年約四千俵（百斤入）の需要あり以上の外陶器類、粗製金物類、茶等の移入せらるゝもの多少ありと雖も之等は僅少にして到底市勢を動かすに足らず。

(二) 金融

貨幣 貨幣は硬貨に膠平銀兩あり補助貨として英洋、北洋、德洋の大洋錢及び支那各省鑄造の一角二角の小洋錢並に銅元あり銅元は當地貨幣の本位とも云ふべきものにして總て物價は銅元を以て建値をなす。

即墨に於ける銅元計算は京錢法にして銅元五十箇を以て計算すと雖も一吊文より常に八文を減じ銅元四十九箇二文の串錢を以て一吊文とし授受するの慣習あり減すべき八文は名付けて底子と云ひ八文を減することを八底錢と云ふ紙幣は正金銀行鈔票、手票（軍票）及び各商戸の發行する紙票あり。

各商店の發行する紙票は資本主大商舖少き即墨にありては金融上看過すべからざる實力を有するものなりと雖も不幸にして調査の端緒を得ず之れを後日の再調に俟たんことを期す。

金融機關 即墨には一の銀行あるなく金融機關としては唯一箇の當舖と二十軒の錢莊とあるのみ當舖は公來と稱し資本金二萬兩を有し黃縣人の設立に係る利率一箇月二分を徵收して貸出しを行ふ。

錢舖は綿絲布、棉花雜貨商舖の兼業する所にして二千吊文乃至八千吊文の資本金を以て互に金融の調節を謀り各商店發行の紙票を信用し需要供給の權衡を維持しつつあり。

各錢舖相互間の貸借金利は毎年二回に決算する慣習にして三月十五日、八月十五日を其期とす此間に於ける金利は前半期即ち三月十五日より八月十五日を其期とす此間に於ける金利は前半期即ち三月十五日、八月十五日迄は元金一千吊文に對し八十吊文後半期に於ては百二十吊文とす。

(ホ) 商業範圍

即墨城內は西岡裡を以て最も繁華の地とし主なる商舖此地に集合す毎月十日に於て集市の開かるゝありと雖も各商舖は大資本を有するもの少く買賣の進取的なるものなし然れども附近に部落の密在するありて棉花、綿絲布を始め諸雜貨は縣内各部落に於ける趕集市に於て賣却せらるる而も東北方九十支里の地には民船港金家口を控へたれば此一帶及び萊陽南部

の商權は金家口奪はれ唯僅かに附近數十支里の地方を以て其商圏となすのみ。

二、青島

青島は一千八百九十八年(明治三十一年)獨支條約に依りて獨逸に租借せられ爾來約二十年間獨逸が對支經營の根據地として全力を此所に注ぎし結果二十年前の一漁村は變じて北支那貿易の總樞たらんとするに至り逐年堅實なる發展を遂げ來りし所にして其の沿革經濟貿易事情及び政治的殖民地としての價値は近來廣く世人の注意を引き殊に日本が大連を經營するに至るや大連と青島との盛衰は恰も兩國の殖民政策の優劣を語るかの如く思はれ本邦識者間に於ても絶えず調査の歩を進められしのみならず獨逸は年々其經濟貿易事情報告を發表し以て其努力の跡を示しつつあり然るに日獨戰後青島が我軍政治下に歸するや軍政署は調査機關を設立し著々調査の歩を進め時々其報告書を發表しつつあれば青島に關する經濟貿易事情は遺漏なく世人の前に公開せられ居るを信するも今回滞在數日の間觀察研究し得たるものを記して以て青島最近の經濟貿易事情の報告となす。

(イ) 山東に於ける青島貿易の地位

青島は山東省の東部膠州灣岸に位置し、臺西鎮、臺東鎮、抱島、青島の四地方を總稱す山東省は山岳高原多くして平原少く従て外省との交通又比較的不便にして古來孔子の歎となり梁山伯の所在地となりしのみならず匪賊省内に滿ち現時尙海盜匪賊の徘徊して良民を害し外人を襲ふこと屢々見聞する所なり然れば山東省は四圍の文明的風氣に接すること比較的遅々たりし所にして住民皆頑固にして勤勉の風あり實に北方の強たるに恥ぢざるなり。

青島の開港前にありては僅かに芝罘の一港に依りて海外貿易行はれし爲め芝罘は數十年來人口三千八百萬を有する山東全省の門戸として重きをなせしかども原來芝罘は地勢上山東全省の輸出入貨物を吞吐するには餘りに一方に偏在し加之背後地は山脈に依りて交通自由を缺ぎしを以て西部及び南部は芝罘を利用する能はざるの不便を有せり而も冬季は結氷の恐れあり港灣又淺くして大船の航行に不便にして日本以外の外國とは直接の聯絡を保つこと能はず主として上海を經由する間接貿易に過ぎざれば其貿易の如き僅かに四千兩臺に達せしことあるを最高とす。

されば青島の開港せらるゝや獨逸は單に政治的殖民地として青島の發展を謀れるのみならず經濟貿易上の見地よりして山東の經營に銳意努力し獨逸人にして東洋に店舗を有するも

のは必ず此地に支店又は出張所を設け上海との交通を頻繁ならしめ山東道を以て濰縣、周村、濟南等の古來山東省内に於て最も有力なる經濟中心地を連結し以て山東省經濟力の統一を計劃實行し其熱烈なる經營は遂に之が成果を收め山東鐵道に依り運輸する貨物は獨支兩國の特約に依りて内地貨捐を全廢せらるゝに至り以て津浦鐵道が如何に競争的方針を取ると雖も其運貨政策に於ては前者に一等を輸せざるべからざるに至らしめ一方山東省内の特産物を歐洲諸國に紹介すると共に特産物栽培を奨勵し以て濟南に集合する山東省及び南直隸、河南東部の物産を青島に集め之れより海外諸國に輸出するの政策は的中して青島港の貿易は比年向上の域に進み日獨戰前平和の時に於て總輸出入合計は六千萬圓臺に達し純輸出入額も五千九百萬圓に達せり然るに芝罘貿易は年々衰退し僅かに三千萬圓即ち青島港の半數なるのみ將來に於ても煙濰鐵道開通する機會あらば多少の増加は見るべけれど芝罘は到底青島の上に立つべからざらん加ふるに芝罘貿易は敢へて背後地たる山東省のみを以て其の範圍とするに非ず、營口、錦州地方も尙ほ芝罘に取りては看過すべからざるものあり。

(ロ) 北支那に於ける青島の地位

現時北支那貿易に最も重大なる關係を有するは山東鐵道及び津浦鐵道に依りて濟南に連結せらるゝ天津、浦口及び青島の三港とす現今に於て三港は何れも其の地理的關係に依りて見るも互角の勢を以て並進すべしと雖若し將來に於て小清河の浚渫成り山東鐵道亦北支那の輿地に向つて延長せらるゝ事あらんか河南、山西一帶の産物及び其地方需要外國品の輸送に就いて三鐵道の競争開始せられ三港又其の争覇戰の激烈なるものあるに至るべし然れども天津は冬季結氷の缺點を有し浦口亦距離及花捐納入の弱所あれば山東鐵道及び青島港務の政策其當を得ば必ず將來北支那貿易上最も優利の地位に立ち二港の商勢力を大に壓縮し得るの時來るべきを信す。

(ハ) 日本軍政治下に於ける青島

日獨戰爭の爲め一時鎮港の止む無きに至りし青島も我軍の一撃に直に陥落せし後は我軍政署の手に依りて經營せられ當局者の施政其當を失せず著々舊態に復し諸種の設備全く成り軍務、商務、教育、交通、運輸何等故障なく進捗しつゝあり。蓋し戰前にありては日本商人の數極めて少かりしに反し戰後は協商國經濟同盟の結果獨、塊、土人の營業を禁遏したる爲めと戰爭の餘波により英、佛、露人等の營業中止となり唯

僅かに大商舖としては怡和、和記の二洋行の存在するのみとなりし爲め大小日本商店は軒を列べ壁を接し旅館の設備、通信、新聞及び店舖の設備等好く整頓し中學校、女學校、小學校等開校せられ半永久的經營の歩益健實に向ひつゝあり。

(ニ) 青島港の外國貿易

青島開港後一九〇七年に至る十箇年間に於ける外國貿易の發展は屢々として年々輸出入合計三千萬兩に達せざりしが一九〇八年以來躍進的發展をなし一九一三年に至りては既に總輸入額六千萬兩に達し殆んど倍加し一九一五年の如き九月より十二月に至る四箇月間に於てさへ一千三百萬圓臺に達せり但し青島戰後は青島に於ける輸出入商人の變遷と戰亂中取引關係最も重要なる濟南市場が天津、浦口等に取引を開始した情勢ありしのみならず直接貿易船の寄港杜絶し唯僅かに上海、日本、天津及び南滿、朝鮮地方への近海航路船の出入ありしのみにして船腹の缺乏甚しかりしが爲め一時貿易狀況に變調を來たせし爲め戰後は戰前に比して稍減退の色あり。今最近の青島外國貿易額を示せば左の如し。

年次	純外國輸入額	純國內輸入額	內國輸出總額	合計
一九〇四年	八七四、七七八	三八六、七九六	六二四、九〇七	一、八八三、三〇八
一九〇七年	一、六四一、六〇五	三、七四三、五一一	八四七、八三五	二、八六三、七〇九
一九一一年	二、〇八九、四三〇	三、三九三、一五八	一九八、五三、六六九	四、六八〇、一六五
一九一二年	三、三九五、五八一	五、七五七、四五〇	二四、九九九、三六〇	五、四七二、〇九二
一九一三年	二、六〇七、九九五	七、二六八、五九二	二五、六九二、三七三	五、九一六、八八〇
一九一四年	一、八一〇、四〇八	三、〇五七、七四〇	一六、五九七、九九〇	三、七〇七、七〇八
一九一五年	六〇〇、二六七	八七四、九三四	六三、二八、六四二	一、三一九六、二四七

上表を見るときは一九〇七年迄は輸入は輸出の約二倍なりしもの一九一一年に至りては殆んど相匹敵し一九一二年は輸出は輸入に超過し爾來兩三年殆んど相匹敵し一九一五年度自九月至十二月の四箇月間に於ては輸出又超過せり之れ支那に於ける各開港場中青島の一異彩として誇るべき所にして而も一九〇四年より一九一三年の十箇年間に於て輸入は約三倍なるに比し輸出は四倍の増加を見たり之れ山東省の特産物發展に伴ふ自然の勢にして又輸入品の増加は山東省が購買力を増加せるを意味するものにして山東省富の増加と見るを得べし。

べし。

(ホ) 青島に於ける主なる輸出入品

青島に於ける重要輸出入品は左の如し。

輸入品

綿絲布、石油、燐寸、砂糖、麻袋、鐵道用枕木及材料、木材等とす。

輸出品

落花生、豆油、牛皮、生鶏卵、落花生油、麥稈真田、獸脂、獸骨、胡桃等とす。

之等に關する統計及輸出入狀況に就いては既に他に屢々發表せられたるところなれば茲に再記するの煩を避くべし。

青島港が其輸入額及び輸出額に於て近き數年間躍進的發展増加を來たせるは獨逸の誘導に待つものありしは言を要せざれども又本邦と青島との貿易關係甚しく密接なる發達を遂げたるもの預りて大いに力ありと云ふを得べし從來常に獨逸貿易をして青島の主位たらしめしもの一九一二年に至りては本邦貿易の七百六十萬兩に對し獨逸貿易は減少して四百七十萬兩となれり戰後に於ける青島貿易は殆んど本邦獨占の狀態にあり然れば本邦製造工業者



及び直接支那人との間に取引關係ある商人は現今に於て非常の注意を拂ひ此好機を逸せずして本邦品の信用を確實にして將來歐洲戰亂後世界經濟戰の渦中に投ずる場合と雖も一歩も山東の日本品輸入狀況の後退を許さざるの決心を必要とす。

(ハ) 商業圏

青島の商業圏は山東鐵道沿線を主とし濟南を以て最となす北は即墨、平度、昌邑に達し小清河沿岸地方亦青島勢力下に歸向し西部は黄河に依りて河南に及び南は民船に依りて海岸地方は遠く江蘇省に及び鐵路によりては濟南より濟寧、單縣に達し濟南より北方德州も一部之れが商圏と認むるを得べし。

三、濰縣

(イ) 位置及地勢人口

濰縣は膠州、芝罘、濟南各地を聯絡する三公道の燒點にして現時山東鐵道沿線中最も殷富と稱せらるゝ周村と青島との中間に位し青島を距る一九六基米突の地に位置す而して山東省三大城の一にして東西二關の二大城を合して濰縣城と呼び西關は縣公署の所在地にして

約三千の戸數と約二萬五千の人口とを有す大商舖極めて少くして主として官紳の住宅多し東關は戸數約七千人口五萬を有し住民の大部は商を以て業となし其殷盛なる輕視すべからず東西二關の中間に白浪河の貫流するあり水流極めて少しと雖も二關の間數所に橋梁を架して二關の交通を便にし更に二關の中間白浪河岸より南方約三支里濰縣停車場に達する間は道路整頓し城内と驛の往來を便にし人馬絡繹として盡きず此間支那馬車の往來するありて荷客の運搬に従ふ近來日本居留民の數著しく増加し二百六十人の多きに達す。

濰縣の南方約三十支里以南は泰山より起れる山脈西より東に連なりて峰巒相發々所謂山岳地帯をなせども東昌邑より西周村に達し北渤海に望む一帶の地は平原地帯にして一望千里一山の見ゆるなき平原にして農作物好く此地に實り工業又此所に發達す。

(ロ) 商業狀態

山東鐵道未開通の時代殊に芝罘が省内唯一の物資吞吐港として山東一帯の商權を掌握せし時代において濰縣、膠州、濟南、芝罘間の三大街路の交叉點として且山東省の中央中樞地として西部地方と芝罘の間に於ける集散物資の仲繼市場となり現時青島對濟南の商業關係を小にしたるが如き有様なりき従て濟南の客商は勿論遠く河南、山西方面客商も周村と

濰縣とに往來し商業工業共に般賑を極め山東省北部及西部地方に於ける物資集散の要地なりき然るに山東鐵道の開通後は其商圏の大半を周村鎮に奪取され山西河南の客商も濟南に集り更に濰縣を差置いて直ちに青島に出づるの傾向を生じ往時の般盛繁華は逐次衰微の兆を萌したり。

近來支那に於ける政治的動亂屢々起るや濰縣は常に革命黨の巢窟となり動亂絶ゆることなく爲めに大資本家大商店は移轉を決定して全安の地に退去し商業益不振の域に進み加之山東鐵道が日本軍政治下に管理せらるゝや坊子に旅團本部を設け此處に經營の一步を印するや濰縣商業勢力圏の一部は又坊子に侵蝕さるゝに至れり、然れば濰縣の現時は到底往時の般盛に如かざるも今尙ほ他の都市に比較するときは周村と共に山東省中部地方の商權を兩分し共に山東省經濟の中心地として重大なる地位を占め商業繁盛なり。

(二) 移出入貿易事情

從來芝罘の商圏に屬したりしもの山東鐵道開通後は全然青島勢力圏に變移し唯僅かに葉煙草、粗製金物、陶器、織物、棉花等の西部地方特産品の少量が濰縣を経由して芝罘に向ひ少量の雜穀が民船に依りて下營より輸入せらるゝに過ぎず。

當地が年々山東鐵道に依りてなす輸移出入の主要なるものに就いて統計を示せば

大正四年度發送貨物 (再移出共)

品名	數量	品名	數量
麻	九三	燐寸石	〇三〇
綿	五六七	生牛	七二〇
綿布	二四一七	葉煙草	三〇〇
豆油	三三三	獸骨	二六九
眞麥	七四・五	綿	九・八
田稈	〇・六	絲	一・七
砂	三〇一	合計	一・七
糖			
牛皮			

大正四年度移入品

品名	數量	品名	數量
大豆	二、四六五	高粱	三、四六五
高粱	三、四六五	小麦	四、七七八
小麦	四、七七八	米	四九〇
米	四九〇	麻	六四・三
麻	六四・三	綿	一、三三六
綿	一、三三六	綿布	一、〇三六
綿布	一、〇三六	綿絲	二、九四三
綿絲	二、九四三		
花生	〇・九	豆油	〇・四
豆油	〇・四	葉煙草	二五・一
葉煙草	二五・一	獸骨	二二
獸骨	二二	牛皮	九四・五
牛皮	九四・五	鷄卵	一・七
鷄卵	一・七	洋火	四四四・二
洋火	四四四・二	石油	一、三四八〇
石油	一、三四八〇	合計	一、四五一〇
合計	一、四五一〇		





大正五年度前中期移輸出品

品名	數量	品名	數量
大豆	五三三	棉花	一六七三
高粱	二四四	綿布	四六
小麥	三〇〇	綿絲	二八二
落花生	一〇三	火柴	三〇六
麻	一一三	生油	〇八
砂糖	五五五	石油	二七二
葉煙草		牛骨	五三〇
染料		合計	五三三〇
獸骨			
牛皮			
燐寸			
石油			
麻			
合計			

大正五年前期移輸入品

品名	數量	品名	數量
大豆	五二六	小麥	八三二
高粱	九四八	米	三三六二
小麥	八三二	落花生	二二九
米	三三六二	綿	一三二七
落花生	二二九	綿布	八四七
綿	一三二七	綿絲	三三六八
綿布	八四七	鹽	〇二
綿絲	三三六八		
鹽	〇二		
砂糖	一七二〇		
染料	四七四		
葉煙草	〇五		
獸骨	三七		
牛皮	六二六		
燐寸	一四八五		
石油	九七七		
麻	四八七		
合計	三〇四二		

注意 上表の單位は生牛は頭數を以て表はし其他は一千六百六十六斤六合を一噸とする噸數を以て示せり。

上表に依りて見れば其移入品は大豆、高粱、小麥等雜穀を以て主とするに似たるも穀類は比較的重量大なるを以て其量に於ては到底綿絲及綿布、棉花等に及ばず濰縣は從來棉織工業の盛んに行はるゝ土地なれば綿絲の需要大にして棉花、綿布、石油、燐寸之れに次ぐ。移出品は綿布、葉煙草、牛皮、牛骨、麥稈、生牛等にして綿布其主位にあり之れ濰縣及び其附近が綿布製織業の盛なる一端を語るものと云ふべし。

濰縣は山東省に於ける有名なる葉煙草の生産地にして山東省東部地方に於ける平度、昌邑、掖縣、黃縣、萊陽、福山、蓬萊、招遠、芝罘等の各地方に向つて陸路多量の移出をなしつゝあり濰縣より移出せらるゝ麥稈眞田は沙河鎮産品とす。

濰縣に集まる牛骨は東關後門(濰縣驛より五支里)東鄉強堡庄(十五支里)西北鄉壽光地方(六十支里)地より集中するものにして價格は本年三月下旬に於て百斤三吊六百文なり。

以上の外濰縣及其附近郷鎮にありては刺繡、編物、豚毛の産多し。豚毛とは猪鬃にして之れに關しては後章に記すれば此所に略す。

(二) 日本人の勢力

濰縣は斯く山東省經濟の中樞たるのみならず交通往來の焦點に當り比類少き大都市なれば軍政署は此處に野戰郵便局及野戰電信局、守備中隊を駐紮せしめ濟南領事館分館又此處に在り現に當地に於ける日本在住民は二百六十人内外にして口數に於ては極めて有力なるかの感あれども之等は主として制錢業者、小雜貨、旅館、飲食料理店業者にして有力なる輸入貿易に従事するもの一もあることなし。

之等二百の居留民は官紳軍人は濰縣驛構内に居住すれども商民は南關に居住し實業組合を組織し此處に集會を催し書記を置き居留民の支那側に對する共同行爲の實行に當り又居留民發展の方策を講究すべき機關となし居れり然れば濰縣に於ける日本居留民の將來は其指導宜きを得ば發展の餘地は綽々たるものあるべし。

厘錢は濰縣城内及其附近は動亂の結果移出せられたるもの少く單に當地東西兩關城内に於てすら現住日本人厘錢業が三年間買収に従事するも尙盡ざるべしとは其調査に従事せる當地實業組合員の言明せる所なり。

四、濟南

(イ) 商業上の地位

濟南は山東省の首府にして都會としては濰縣と共に山東省中の筆頭に記入さるべき大都會たりしも交通不便の地なりし爲め其商業的地位は頗る發達遅々たりき山東、津浦兩鐵道の未開通時代にありては僅かに小清河によりて芝罘との取引ありし外は運河を利用する天津との取引を行ひしを以て濟南は全然天津港系統の輿地銷路市場たりしが山東鐵道一度開通してより津浦鐵道未開通の間に於て其の交通上の便利は濟南貿易をして全く青島系統に轉屬せしむるに至れり濟南は獨逸の膠州灣租借間もなく濰縣周村と共に支那政府が互市場として開放せし土地にして特に山東鐵道開通後に於ける濟南の經濟的商業的發展は頗る顯著なるものあり。

(ロ) 商業範圍と交通状態

濟南は山東省に於ける生牛、牛骨、牛皮、棉花、落花生、落花生油等の特産品生産地の中央點に位するを以て山東、津浦南北段鐵道の開通後は單に從來の消費市場たるのみならず

之等重要物産の集散頻繁を加へ市勢は一變して山東省中央市場として頗る重大なる意味を有するに至れり而して本市場の向背が山東、津浦兩鐵道の營業成績に直接の關係を生じ青島盛衰亦濟南市況に左右せらるゝを以て山鐵及青島經營の當局者に取りては寸時も濟南市場の歸趨する所を度外視すべからざるなり。

蓋し山東鐵道は津浦鐵道に比し内地税を徴收せられざるの特點を有するを以て津浦鐵道が山鐵に對する濟南市場奪取を目的とする激烈なる競争も遂に其效を奏する能はず現に濟南貿易の大勢は青島に歸屬しつゝあり而して濟南の商業圏としては濟南以東は青島直屬の商業圏なるも北は德州より南は濟寧、單縣地方に至り此間は主として鐵道交通に依る商業圏にして西南部地方御河に近き夏津、清平、高唐地方は從來より陸路の交通あり河南、山西よりは黃河の奔流を利用する交通あり濟南に近き濰口は河南、山西方面と濟南間交通の貨物積卸地にして毎年二千隻以上の船の出入するものあり青島と河南、山西との交通は濰口を通じて年々頻繁を加へつゝあり。

小清河は濟南城內釣突泉と名附くる清泉より發し直ちに城内より小貨物船を通ず延長三百餘支里にして河口に羊角溝の民船港あり芝罘間の貿易あり同地は又濟南の商圏に屬す。

斯の如く濟南の商業勢力圏は津浦鐵道以西に向つて扇狀形に發展しつゝあり將來若し山東鐵道が尙西方に向つて延長せらるゝことあらば河南、山西に於ける貨物は殆んど濟南に來集するに至るべし。

(ハ) 輸移出入状態

濟南は既に内地互市場として實に支那に比類少き急發展を遂げ南滿の奉天府と彷彿たる所ありと雖も奉天が附近に競争市場を有するに反し濟南は三鐵道の終點たるかの觀あり而も競争市場なきを以て其の發展の速かなる驚くべきものあり但し純然たる陸路交通に依りて發達せる市場にして天津、漢口、上海等の如く水路を有せざるを以て其貿易は直接外國貿易地に非ず青島、天津、上海三港の共通取引市場とも稱すべく而も青島と最も密接なる取引關係を有す。

(ニ) 現今に於ける三港との取引状態

日獨戰後山東鐵道及び青島が日本軍政治下に統べらるゝや戰前に於けるよりも青島、濟南取引は幾分減少せる傾きあるが如し蓋し戰時中青島貿易が中絶したる爲め天津及び浦口を経由する上海港より直接取引の開始せらるゝあり戰後我邦に於て青島諸機關の整頓に力盡

せしと雖も戦亂の結果より起れる船腹の缺乏は大いに青島、上海間の運賃を昂騰せしめしのみならず青島に於ける外國商舖の營業中止の結果は從來の如く歐米諸國との直接貿易港として機能發揮する能はず従て上海を通じて間接の貿易を行はざるべからざるに至りし爲め最善なる商業政策により營業方針を定むる商舖は濟南に集散する土貨の輸出に就いては山東鐵道を利用するよりも津浦鐵道を利用して上海へ直送するを利益とする場合少からざるに至れり。

今津浦鐵道に依る運賃を示せば次の如し。

下記運賃は濟南に於ける支那人運送會社濟南滙通公司及び悅來棧の受負運送率なりとす。

滙通公司受負運賃表

自濟南至上海			
名 稱	噸 數	運 賃	備 考
無殼落生	二〇	二二〇元	貨捐及運賃合計
花生油	一	一七元	外津浦捐三元六角を徴す
麻	一	一一元	津浦捐を包含せず

自濟南至浦口			
名 稱	噸 數	運 賃	備 考
棉花	每包	二元四角	運賃貨捐合計每包百斤を限度とす
小麦	二〇	二五〇元	同上
小麦	一五	一八〇元	同上

上表中には上海落地税を包含せず。

悦來棧運賃表(由濟南至浦口)			
名 稱	噸 數	運 賃	備 考
無殼花生	二〇	一六五元	運賃貨捐合計
花生油	一	一六元五角	同上
麻	一	八元五角	津浦鐵道貨捐を包含せず
棉花	一包	一元六角	運賃貨捐合計每包百斤を限度とす
小麦	二〇	一五六元	運賃貨捐合計
小麦	一五	一二七元	同上

小麥	二〇	一百六十元	津浦捐及上下並車價を包含す
無殼花生	二〇	一百七十元	同上
花生油	八	一百二十六元	同上
火麻	一〇	一百五十五元	同上
棉花	百包	一百三十元	同上每包百斤を限度とす

自濟南至上海

品名	噸數	運賃	備考
無殼花生	二〇	二四八元	津浦運費貨捐及車價等を包含す
花生油	八	一九六元	同上
小麥	二〇	二三五元	同上
棉花	百包	二六五元	同上每包百斤を限度とす

上表中車價とは運送會社が受負運送をなすときは必ず番人を乗車せしむるを以て之れが歸路旅費なり。

依て之れを自から運送するときは尙ほ十四五錢(一件につき)内外安價を以て輸送すること

を得然れば青島經由と浦口經由とにより棉花一俵を上海に運送する運賃を比較するときは

青島經由	二圓六十錢八厘
浦口經由	二圓五十錢

を要し一俵に就いて十錢の差額を生ず。

然れば濟南を去る六十四哩南方なる大汶口附近に集散する落花生、牛皮、牛骨、落花生油の如き金額の三分の二は浦口を經由して上海へ輸送され濟南を經由して青島へ出づるものは三分の一に過ぎず。

但し濟南に於ける重要輸移入品たる綿絲布、穀類、石油、燐寸等は主として日本或は大連直接貿易なるを以て大部分青島を經由するものとす左に山鐵に依て發送せらるる物資統計を示せば

發送品 (單位は一千六百六十六斤六合を一噸とする噸を以て示す)

大正四年度の分

名稱	大豆	高粱	小麥	米	花生	麻	棉花	綿布	綿絲
----	----	----	----	---	----	---	----	----	----

數量	名稱	數量	名稱
三七二四・二	花生油	四七九五	皮磷
三一四〇八・二	豆油	一、七五九	寸石油
三六九八・一	真麥	七、二四七	生牛
八〇九八	田稈	五、六〇〇	葉煙草
五二四	砂糖	三、一四一	獸骨
三五五・一	糖牛		
三三六・一	皮磷		
五〇、一五五・一	寸石油		
五三三・三	生牛		
三三・七	葉煙草		
六六・一	獸骨		

到著品 (單位同上)

數量	名稱	數量	名稱
二五・三	花生	九八五	麻
七〇	花生油	二〇五	棉花
四四・二	葉煙草	五、五三九・六	綿布
七六〇	獸骨	五、五三九・六	綿絲
三三六・八	牛皮磷		
三〇六・五	寸石油		
八九六・三	生牛		
四五			

大正五年度前半期の分 (單位噸一六六六・六斤) 發送貨物

數量	名稱	數量	名稱
一六、六三〇・二	大豆	一、八九四	布綿
一〇、五九八・五	高粱	三、一五	絲花生油
三七、五三八・二	小麥	八二、四	豆油
二、七九二・五	花生		
二、六七五・一	麻		
一、三三〇・三	棉花		
八九四	綿		
三、一五	布綿		
八二、四	絲花生油		
一、九七五・八	豆油		
三三、〇六	真麥		
一〇、四	藍砂		
四・一	糖鷄		
七、六	卵染		
二、五五	料草		
七、七	煙		
四、六四・一	獸骨		
七、六二・四	牛皮磷		
八、三	寸石油		
一〇、四	生牛		
一、一七三・四			

到著貨物

數量	名稱	數量	名稱
一、五〇	高粱	四、三	棉花
五〇、四	小麥	〇、八	綿布
一、七一〇	米	二、五〇七・九	綿絲
〇、五	花生	三、五二二・四	真麥
四、三	麻	六、四四	田稈
一、二九六・一	皮磷		
五、三六二・二	寸石油		
三、一七九	生牛		
五、七			

上表に依れば濟南青島間に於ける取引額の最も多額なるは大豆、高粱、小麥、落花生、棉



花、綿布、綿絲、燐寸、砂糖、石油、花生油、豆油、麥稈真田、染料、牛皮、獸骨、燐寸材料等にして綿布、綿絲、砂糖、石油、燐寸等は輸入の大宗とす。

(ホ) 日本人の地位

濟南に於ける日本人の地位は近來非常の發展を遂げ日本領事館の設立となり三井洋行、大東公司、大町洋行、鈴木洋行、同文商務公所等の土貨輸出商が設立せられしのみならず戦後厘錢業盛大に行はれ近來濟南に集中するに至り在濟南日本居留民は三千人の多數に達し之れに伴ふ諸日用品雜貨商の開業となり居留地の一部は純然たる日本市街を形成し數箇の旅館の設備も完全し旅行者をして不便ならしむ但し戦後俄然として如斯き發展を遂げたりしは主として厘錢業者の入込めるが爲めにして確實健全なる職業を以て對支的商業に従事するもの及び日用雜貨、旅館、料理店營業を行ふものは六百人に過ぎざれば戦後に於ける日本人の發展状態は極めて不自然なる膨脹と云ふべし。

(ハ) 濟南に於ける衡

濟南に於ける衡は五種あり曹法稱、曹零參稱、行稱、蘇法稱二十兩稱之れなり此外濟南には磅稱ありて十二兩稱なり行稱とは問屋が使用する衡にして穀物を衡量す。

穀物は商埠章程によりて賣手より二分の口錢を支拂はざるべからず穀物の賣買は衡量濟みの後五日以内に受領せざれば每石一百文の倉敷料を徴收せらるる左に各穀物一石の衡量斤數を示せば

小	米	三百三十斤	豆	子	三百斤
高	梁	二百八十五斤	小	麥	三百十斤
吉	豆	三百二十斤	黑	豆	三百二十斤
芝	秣	二百四十斤	谷	子	二百五十五斤
苑	豆	三百三十斤	大	麥	二百四十斤
包	米	二百九十斤			

### 第二節 重要輸出入品

#### 一、棉花

(イ) 濟南に集散する棉花に就いて

支那が世界に於ける棉花の大産地の一として棉花市場を左右するは吾人が夙に知る所なる

も山東省が棉花の産地として知らるゝに至りしは最近の事に屬す元來支那人は好んで亞片を吃する國民にして四百州何れの地として亞片の栽培せられざる無く山東も又地質としては棉花の栽培に適する地方少からざるに係らず亞片の爲めに地を割きし爲め其産出寥々として振はざりき然れども亞片の害毒漸く支那、朝野識者に依りて認識せらるゝに及び前清末葉頃より亞片の栽培を嚴禁するに至りし爲め近來之れが栽培全く省みられざるに至れり山東省が近來少からざる棉花を産出し既に海外に於ても之れを認めらるゝに至りしは實に亞片栽培禁止の跡を受けて本品の栽培を奨励せしが爲めなりと知るべし。

1. 産地及産額

濟南に集散する棉花は主として山東省産のものなりと雖も又河南及直隸省産棉花も少からず今之れが産地を擧ぐれば

西北部一帯地方(一箇年實棉産額約百八十萬担とす)

高唐、臨清、武城、夏津、恩縣、館陶、邱縣、堂邑、清平、冠縣

東北方地方(一年實棉産額四十二萬六千六百担)

蒲臺、濱、利津、霑花、樂陵、商河

南西部地方(四萬八千八百担の實棉を産す)

平原縣、陵縣、朝城、濮縣

南部地方(實棉六十五萬二千担を産す)

荷澤、鄆城、單縣、城武、定陶、鉅野、曹縣

直隸省南部地方

吳橋、南宮、威縣等にして以上の外時に河南産棉花の集散するを見る。

山東省内に於ける棉花産額については未だ自ら之れを實査せずと雖も中外諸種調査機關に依りて調査せられしもの綜合する時は次の如し然れども其産額の如きは種々異論ありて見解同じからず其間多大の差を見何れが確實なるか知るべからざるものあり。

嘗て農商部が調査せし所に依れば山東省内に於ける産棉地域は一六四四萬畝にして實際に植棉せらるゝは其三分の一約五百四十四萬七千畝内外と見ることを得べし而して一畝の平均産棉額は約二十五斤なりと云へば山東省内産棉額は一箇年約一百三十五萬擔なり。

濟南工業學校の調査に依れば恩縣、高唐、夏津、清平、臨清、館陶、冠縣、曹縣等は一箇年各二十五萬擔以上の實棉を産し霑花、濱、武城、邱縣等は各十萬擔以上の産出額を有す



青島軍政署は山東省棉花總產額は一箇年約二十萬擔に過ぎずと公表せり蓋し其の根據とする所は深き信念に依りて成されたるものなりしも吾人は支那側の調査が餘りに多額に失するを信ずると共に此説も聊か過少の嫌なきに非らざるやを疑ふ。

畢竟斯の如きは年の豊凶及び栽培耕地の多少に依りて異なる所にして之れが産額を嚴密なる意味に於て記すべからざるも上述諸調査を綜合するときは山東省のみに於て二十萬擔以上の産額を有することは略ぼ知り得べし。

### 2. 品質及出廻時季

濟南に集散する棉花は主として山東棉花なれども山東棉花は品質良好ならずして紡績用に供せらるるものは僅かに恩縣産品あるのみなり、山東省品の特質は種實小にして純白、房大にして濕氣少きにあり殊に恩縣産は品質上等にして色白く柔かにして纖維細長く手紡用として適し農民に愛用せられつゝあり。

直隸省吳橋南宮品は濟南に集散する棉花中最も品質良好なり純白にして纖維細長く稍濕氣ありと雖も到底南方産棉花の多濕なると比較すべくもあらず。

然れば恩縣及び吳橋品は紡績用として二十番手絲の製絲をなし得られ南宮品は十八番手の

製絲に使用せられ夏津物は恩縣品と混棉するときは十六番手絲を製絲し脱清品も又十四番手十二番手絲の製絲には使用し得べきものなりと云ふ。

斯の如く濟南棉花は製絲用として使用し得べき良品質のものは僅かに二、三箇所に産出するに過ぎず其他は主として打綿用として支那人間に使用せられつゝあり之等各地綿を等級別にするときは恩縣物、南宮物を一等品とし河南物、吳橋物の上を二等品とし其他を三等品とす吳橋物は棉花として品質は當然一等品として品評すべきものなれども包装劣悪なる爲め二等品として取扱はれつゝあり。

棉花の播種は陰曆三月下旬頃に行はれ二週間内外にして發芽し普通六月初旬に於て開花し七月下旬或は中旬末頃に於て第一回の摘花を行ひ九月頃降霜に會ひ枯死する頃に至りて全部の摘花を終了するものなれば其出回時期は陽曆十月頃に初まり三、四箇月後の陰曆年末の頃を全盛とし六、七月頃に至りて止むを普通とす。

### 3. 米國種植付けと其成績

山東棉花が品質良好ならざるは既に記述せる所にして再言するの必要を認めざるも山東棉花品質改良に腐心せる痕跡を辿りて山東は良棉花の産出に不適なる一例を左に擧げんとす

蓋し山東は地質氣候等が最も山東種棉花に適當し此種棉花を栽培するに非れば良好なる結果を得る能はざるに似たり。

數年前濟南試驗場は山東棉花の品質改良を企劃し世界中の良種として名高き米國種棉實を求めて之れが試験的栽培をなせしことあり之れが結果及び發育の狀態を見るに共に舊曆三月二十八日に於て播種し四月十五日に發芽せり發芽後米國種は發育成長極めて良好にして山東種に比して發育甚だ早かり然れども開花期は山東種が六月六日なりしに比して遅く六月二十一日に至りて初めて開花せり山東種は七月二十五日に至りて既に第一回の摘花をなせるに係らず米國種棉は八月七日に至りて初めて第一回の摘花をなし得たり棉花は第一回摘花後は隔日に摘花するを普通とするを以て早くより摘花するときは早く全部の摘花を終了すべきや明かなり、斯くて九月五日降霜の爲めに何れも枯死するに至りしが山東種は既に此のとき全部の摘花を終了し居たりしも米國種は未だ摘花漸く半ばならずして枯死せり。

從來山東省に於て米國種棉花の栽培を試みしものは蓋し少からずと雖も何れも不結果に終りしのみならず米國種は第一回播種後三年を経過するときは全然山東種に同化され何等品

質に差異を認め得ざるに至るを以て現に土人は山東種以外のものに何等特別の注意を拂はず。

#### 4. 集散狀態

棉花の間屋業をなすものを花行と稱す現に濟南に於ける棉花間屋は次の如し。

阜 成 信 瑞 興 益 慶 泰 合  
恒 升 王 成

廣成なりと雖も昨年度に於ける棉花收穫は極めて凶作にして産棉額減少を來せる爲め濟南花行中恒升及び廣生の二花行は本年休業することに決定せり。

棉花は其生産地附近に營業する小花行の手に依りて實綿の儘耕作者より買收せらる小花行は繰綿器を設備し繰綿業を兼營するを普通となすが故に自家工場に於て繰綿をなし之れを濟南市場に送るものとす。

#### 5. 荷造り

地方花行は自家工場にて繰綿にし之れを白粗布を以て包み苧麻繩を以て細包す。

苧麻繩は小なるものを以て細包せるものを好むの風習あり之れ即ち惡意を以て繩中に土砂

を混じりて包装の重量を増さんとするの風習あるが爲め買手は自から小細を以て細包せるものを好むに至りしものと知るべし。

包装は之れを三種に大別す即ち大中小なり大俵とは一色百斤入りにして之れを壓搾せるものにして中俵は之れを壓搾せざるものを云ふ小俵は六十斤入りにして同じく壓搾せられたるものとす。

濟南に於ける包装は上述の如く大壓搾俵は百斤入りとす之れ天津に集散するものは主として原産地より運河或は河流に依りて民船にて輸送せらるゝを以て百三十斤以上の重量を有するも不便莫しと雖も濟南に集散するものは或は馬背に依り或は船より汽車に移積せざるべからざるが故に取扱ひ上百斤を最大限度となしたるものと知るべし。

#### 6. 濟南に於ける商慣習及び集散高

濟南は山東西部及び河南直隸地方の土産品集散する所にして諸種商業機關は設備甚だ好し今濟南に於ける棉花の買賣慣習を見るに地方原産地より小花行自から數十俵或は數百俵宛輸送し其の得意先なる濟南の花行に至る。

花行は倉庫を設備するのみならず倉庫の庭園には又之れを野積することを得濟南花行の倉

庫は何れも一千五百俵或は二千俵の棉花を收容し得前庭には尙三、四千俵を野積するを得之れ濟南は降雨極めて少くして棉花の野積を不便とするが如き降雨あることなければなり花行は倉庫の設備の外尙地方花行をして宿泊せしめ宿泊料を徴收することなきのみならず(食費は別に二十錢徴收す)倉敷料をさへ無料とするの習慣あり。

但し地方花客の荷到着するや在濟南の中外棉花商人との間に仲介買賣の勞を取り若し地方花客の代理販賣成立するときは一俵(百斤)に就き銀三錢の口錢を取るものとす在濟の中外棉花商人は地方花客と直接棉花の買賣を契約する事なり何れも花行の手を経て之れをなしつゝあり若し賣却濟まざるに地方花行の歸りし時は花行は代理販賣及び代金取立又は立替拂ひをも行ふ代金は兩を以て建となせども支拂者の希望に依りては洋錢を以て換算支拂する事を得。

濟南に集散する棉花數量は年に依りて増減ありと雖も同地日本領事館の調査に依れば一年二十萬擔乃至三十萬擔と見るを得べし而して其一割は濟南に於て消費せられ三割強は山東省内に於て消費せられ他の五割強は天津或は青島、上海に向て輸移出されつゝあり。

#### (ロ) 東部山東省に於ける棉花移入状態

東部山東省に於ける棉花の移入は秋冬の季に於て最も盛なりと謂ふべし蓋し毛皮類の高價なる山東省にありては中流以下は到底毛皮を防寒の用に供する能はざるを以て冬季棉花を愛用し其需要大なればなり。

今大正五年度上半期に於ける山鐵沿線の主要驛に於ける棉花積卸高を見るに

到着貨 (單位は貨車噸)

青島	八九四二
膠州	一六九
高密	四九
坊子	九〇
青州	五〇
張店	四〇
周村	九二
濟南	〇八
博山	三三
濰縣	三三五
合計	一、二五六

上記を俵數に換算するときは (一噸を一六六六斤として)

青島	一五〇四二
膠州	三三三
高密	八二七
坊子	一五〇
青州	一四七
張店	六七
周村	一五七
濟南	二二
博山	三三七
濰縣	二八七
合計	

發送貨 (單位は貨車噸一六六六斤)

青島	一六九
濰縣	五五六
青州	〇三〇
周村	二九〇
濟南	一、三三〇
博山	
合計	

之れを俵數を以て示せば

青島	二五二
濰縣	九四
青州	五
周村	四八二
濟南	一、〇、三、三、八

之れに依りて昨年度上半期に於ける各驛の純到着高及び發送高は

青島	一四七八九
膠州	三三三
高密	八二七
坊子	一五〇
青州	一四七
張店	六七
周村	三三三
濟南	一、〇、三、三、八
博山	三七
濰縣	一、一、六、三

にして唯周村驛發送貨物のみは到着貨物に比して尙三三三俵の超過を見る之れ周村は濱縣蒲臺縣附近貨物の集散する所にして附近産棉花が此處に集散するが爲めにして濟南の外は殆んど全部發送貨なり。



上表は大正五年三月より九月に至る上半期統計にして棉花出廻りの最も少き時期にして到底之れを以て後半期又は全年度の統計を見ること能はず。

大正四年度發送表 (單位貨車噸)

青島	大港	濰縣	周村	濟南	換表	青島	大港	四方	濰縣	周村	濟南
〇・三	六六〇	五六七	六七八七	二四七	換算數	五	一〇〇	三・三	九四六	一・三〇	二八七四〇

到著貨物表

青島	大港	城陽	藍村	膠州	高密	丈嶺	昨山	黃旗堡
五四六七	四二〇九	二五〇九	二八八四	二五四五	七九	二五五	一八九四	一七
蝦蟆屯	坊子	濰縣	大圩河	青州	張店	周村	濟南	博山
一六	〇四	一三三六三	〇三	一三八六	〇一	八四三	二〇五	五一

之れを俵數に換算すれば (一俵百斤として)

青島	大港	城陽	藍村	膠州	高密	丈嶺	昨山	
九二一・三	七二〇五・五	四一七六五	四八〇六五	四二四一〇	一三二七	四二六	三一五六五	
黃旗堡	蝦蟆屯	坊子	濰縣	大圩河	青州	張店	周村	濟南
一七三三	二六七	六七	一〇九〇B	五	一三二〇	一六	一四〇五	四一七

依て各驛純發送及び到著貨俵數は

青島	大港	城陽	藍村	膠州	高密	丈嶺	昨山	
九一〇六	七〇九〇五・五	四一七六五	四八〇六五	四二四一	一三二七	四二六	三一五六五	
黃旗堡	蝦蟆屯	坊子	濰縣	大圩河	青州	張店	周村	濟南
二八三	二六七	六七	一九六五八	五	二四一〇	一六	二七五一	二八六三七

濟南市場は山東、南直隸、河南各棉産地の棉花が此處に集散する處にして此處を中心とし



て山東省各地の需要に供給し且つ鐵路に依りて青島に輸送せられつゝあり大正四年度に於ける青島純到着貨俵数は約八萬擔にして濟南驛より山鐵各地及び青島に向け輸送せる數は約十二萬擔あり然れば大正四年度に於ける濰縣以東各地方に於ける濟南棉花の消費高は約三萬三千三百六十三擔なり以上の外昨年上半年統計に依るときは武定府管内の棉花にして周村市場に集まり東部各地に輸送せるものあれども極めて少數にして二、三千俵に過ぎず今東部各驛到着貨物の消費地方の大略を記するに濰縣に荷卸せるものは其一部は濰縣附近の住民に依りて需要せらるゝと雖も大部は陸路沙河地方に運送せられ沙河にて一部消費の分を除きては此處を中心として掖縣、黃縣、蓬萊、棲霞、福山、芝罘地方へ販路を求めつゝあり。

坊子は昌邑の南部及び沿線以南地方を得意とし藍村は主として平度古現地方に供給し城陽は即墨、萊陽に供給す。

(ハ) 輸出状況

山東棉花の海外に輸出せられたるは近年の事にして青島を經由し輸出されしは一九〇七年のことに屬し従前は却つて上海地方より輸入せられつゝありしものも一九〇年に至りては

上海輸出はるゝに至り一五、五五二擔の輸出額を見一九一三年には五二、七八九擔に達し大正五年度には二四、七五五擔の輸出を示せり左に前年度に於ける月別輸出表を記せば

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
六二二	二七四六	一六二〇	二四九	七二七	二〇五二	四一三五	一八八六	三三三三	一五四	三二六	二八

山東棉花は濟南に集散する外臨清地方のものは運河を利用して天津に送るもの少からず青島軍政署調査に依れば約二萬擔に達すと云ふ。

(ニ) 價格

價格は山東省に於ける棉花作の豊凶により高低あるは勿論又廣く世界各棉花産地の産棉豫想高或は産出高の多少によりても輸出商の見込買或は手控等にて供給の過不足需要の増減を生じ到底一率の價格を保持し能はざるは贅言するの必要なきも數年間の過去に於て經驗するに百斤大俵一俵最底十三兩最高二十七、八兩の間を上下しつゝあり。

本年三月中旬に於ける濟南棉花の價格は

一等品 二二、〇兩

二等品 二二、五兩

三等品 二〇、五兩



なり。

(ホ) 運賃及其他諸掛り

濟南天津間

十五噸貨車運賃

六十九弗五仙

貨捐

十八弗二十仙

合計

八十七弗十五仙

最近津浦鐵道百貨統捐局を花捐の割戻しをなすも天津に於ては別に又鈔關稅を納入せざるべからざるを以て山東鐵道の一車十五噸の運賃六十二弗八十仙に比すれば其の差又小ならず。

今棉花一俵を上海に送るに就き必要なる運賃輸送別を示せば。

自濟南經青島至上海

濟南花行は略ぼ相隣接して存在す花行より山東鐵道濟南停車場に至るに賃金は

運送苦力賃

銀 一 錢

驛に於ける積込費

銀 一 錢

山鐵運賃

銀三十五錢三厘

青島埠頭に於て貨車卸し苦力賃

銀 二 錢

埠頭苦力賃

銀 四 錢

埠頭 稅

銀 八 錢

輸出稅 銀五十五錢 滿鐵船賃 銀一圓五十錢  
海上保險 銀 四 錢 計 二圓六十錢三厘

自濟南經浦口至上海

同花行至津浦車站苦力賃

銀 五 錢

濟南車站より上海迄運賃 (釐金稅加入)

銀二圓四十五錢

合計

銀二圓五十錢

然れば現今濟南より上海に至るべき牛骨、牛油、鶏卵、棉花の如きは運賃の關係上鐵路直接上海に輸送さるゝもの少からず蓋し青島、上海間にありては船腹の缺乏を告げ船積運賃の高價なるが爲めなれば山東鐵道當路者の一考を要する問題たらん。

### 二、雲母

雲母の産地は青州府内にして其主産地として土人の手に依りて閑時採掘せられつゝあるものは臨朐縣、諸城縣及び洪山とす。

諸城縣内に於ける産地は縣城を去る東北約二十支里の地韓家溝にして洪山は長山縣の南三



十餘支里周村の東南二十餘支里の所にあり臨朐縣内の産地は未だ確實なる調査を経ず。古來土人の手により少量の採掘を見たりしが光緒三年二月に至り獨逸人某に依り公然採掘に著手せられたるも産額多からざりし爲め同年十月中止せり一説には支那官憲の許可を得ずして採掘に従事せる爲め禁止せられたりとも傳ふ。

支那に於ける用途は極めて少く僅かに玩具に使用せらるゝを主とし青島にて獨逸人が暖爐に使用したるに過ぎざれば其價格低廉にして且つ定まりたる標準なし。

近來日本商人にして山東雲母の有望なるに著目し之が採掘に従事せんと計畫する者及び土人をして之を採掘せしめて自から輸出せんとする者あるも未だ産地を實査せるものあるを聞かず余も亦自ら産地を實査せんに非ず唯僅かに支那人の言ふ所に依りて記せるのみなれば此際専門家の實地調査を得ば獨り吾人の幸のみにあらざるべし。

### 三、山東豚

支那人が豚肉を嗜好することは世既に定評の存する所にして山東省内亦豚の飼養せらるゝもの甚だ多く隨て豚より生ずる各種産品亦少からず今左に其大略を記し參考に供す。

#### (イ) 産地及び種類

省内到る處豚の飼養せられざるなく特に多産地として知らるゝものなれども人口密にして回回教徒の居住少き地方は豚の飼養せらるゝもの殊に多し豚は羊、山羊と異り牧場として廣きを要せず食料も亦特殊のものを要せずして大豆、高粱、豆餅等何れも食し其飼育簡單なれば至る所地方郷鎮の農家、旅館等は何れも二三頭を有せざるなく多きは一家數十頭を飼養す従て春秋農作の收穫終りし頃には多數の豚群野外に表はれ看守者の指揮進退するを見るべし省内豚数は八百萬頭にして毎年の屠殺数は約六十萬頭と稱せらる。

省内の豚は黒色及び白色の二種とす、黒色種は元來の支那種に屬し白色は西洋種及び雜種とす但し白色種のもの僅かに膠州、青島、即墨地方に於て見るのみにして之等地方養豚の大部及び他地方に於けるものは支那種に限らる。

#### (ロ) 豚肉

豚肉は食用として用ゐられ之れが屠殺は軍政署管内にありては青島屠獸所及び滄口、坊子等の屠獸許可を受けたる場所に於てなざるゝものなれども奥地市鎮に於ける屠殺は直接之れが使用者たる支那料理店及び鹽豚業者之を行ふ之等は自由屠殺にして支那官憲の検査を



經ざるを以て病豚肉を販賣するも自家繁榮策と相反せざる以上何等顧慮するを要せざるなり。

1. 鹽豚の産地及び沿革

鹽豚の製造は從來即墨縣下金家口及び女姑口、滄口、青島等膠州灣沿岸地方に於て行はれたるものにして金家口、滄口、女姑口等の民船貿易に依りて盛んに移出せられたり。然れども滄口、女姑口等各地が租借地として獨逸政令下に歸してより従前の移出税每頭銅錢六箇なりしもの忽ち海關銀一錢及び裝船税二百六十文を課せらるゝに至りし爲め俄かに移出減退し女姑口に於ける本業は近來全く其の跡を絶ち滄口は僅かに景氣を持続せしも關稅高率に進むに連れ近來其衰退甚しきに至れり従前獨逸統治前にありては年額滄口にて四萬頭内外、女姑口にては一時五萬頭乃至七萬頭に達したりしも其後は三萬頭に下り最も少き時は七八千頭に過ぎざりき之れ獨逸統治後に於ける關稅高かりし結果にして之れが爲め獨逸租借地外の即墨縣金家口地方に其繁榮と利益とを吸收せらるゝに至れり。

2. 滄口に於ける鹽豚業者

左に滄口に於ける鹽豚業者を示せば

德生和 益豐棧 瑞和誠 仁和誠 公成棧 瑞原祥  
の六軒とす。

3. 鹽豚出廻時期

鹽豚の出廻時期は氣候の暑からざる即ち九、十、十一月の三月を最盛期とし十二月末に於て終る。

4. 鹽豚製法

屠殺後脱血を終り胸腹中線を切開し内臓を除去し脱毛を行ひたる後半は溶解せる支那粗鹽を肉に擦り込み更に鹽を散布して數頭を積み重ね之れを數日間三回乃至八回宛一頭に對し約三十斤粗鹽を加へて鹽積を終り又は深さ一米突半長さ三米突幅二米突の石造穴中に一頭に對し食鹽(前法の約半量の割合)水を滿たし此中に屠豚數十頭を積み重ね其上部に石を安置して重壓を加へ四五日を経て再び地上に重積すること四五日ならしめ能く水分を除去したる後二頭宛粗製ズツク又はアンペラ包となして移出するを普通とす。

(ハ) 豚皮

豚皮は主として支那内地に於て消費せらるゝものにして海外に輸出せらるゝもの比較的



少し本品は主として生皮、鹽皮の二種に區別し生皮の重量一枚十一斤乃至二十斤なれども普通十四五斤とす鹽皮は生皮に比して稍重し山東に於ける鹽皮法は生皮の肉面に鹽を包み外面に鹽を散布し之れを地上に堆積し普通三日毎に給鹽を行ひ約十日を終て鹽藏を終る價格は生皮に比して大差なし青島にありては一年約一萬枚十五萬斤の産出あれども山東全省に於ては幾何の産皮數を有するや未だ之れを知る能はず。

高密、安邱、平度、即墨附近のものは一度濰縣に集まり芝罘附近のものは芝罘に集まり兩地に於て製革せられ省内の需要に供給せられ其餘は日本、上海、關東州地方へ移輸出せらる本品の用途は山東省内にありては馬鞭子、皮繩子の製造に用ゐる又靴子の製造に使用するの外農耕用具の製造に際しても其強靱なるを以て繩に代用せらる豚皮は屠豚數と等しかるべきを以て省内産額は六十萬枚と計上するを得べし。

(二) 豚毛

省内食豚の最多きを以て豚毛は豚皮と共に到る處に産す豚毛の用途には肥料用及び工業用の二あり肥料用として使はるゝものは亂毛と稱する短きものにして工業に使用せらるゝは猪鬃と稱する強靱にして長きものなり亂毛は腹部及び脚部の毛にして猪鬃とは頸部、背部、

背側に生ずる毛を云ふ。

四、輸出豚毛に就いて

豚毛にして海外に輸出せらるゝものは猪鬃のみにして亂毛は土民の肥料又は捻繩用に供せらるゝのみなり猪鬃が近來輸出品として重きをなすに至るは世界各國何れも刷毛の製造に之れを使用すること盛んに行はるゝが爲めにして我國の如きも近來此種工業の發達するに伴ひ猪鬃の輸入せらるゝもの少からず。

猪鬃の産地として最も注目すべきは山東省唯一の作房の所在地たる郗庄附近とす各地方にて買ひ集めたる猪鬃は沙河、珠橋、金家口、平度、濟南等の地方に集まり再び郗庄の作房に送られ此所にて齊整せらる。

郗庄は濰縣の西北二十支里の地にして作房は此附近鄉村の間に散在し約二十軒ありと云ふ何れも八十箱乃至五百箱宛を毎年取扱ひつゝあり十年前迄は芝罘より輸出せられつゝありしが近來青島、天津より輸出せらるゝもの増加し芝罘との輸出關係は殆んど斷絶せられたり。

(イ) 品質及び出廻時期

猪鬃は之れを洗乾し櫛を以て梳き長短に依りて區別し齊整するものとす其最短なるものは二吋として最長なるを六吋とす之れが齊整に於ける區別は各種二分五厘の差を有すと雖も二吋二分五厘物及五吋七分五厘物は作製せられざるに依り山東猪鬃は約十五種に區別することを得。

之れが品質の區別は細大光澤の有無剛軟混物の多少に依りて區別せらるるものにして變色毛死毛なく洗乾好く行はれ不純物の混合少きものを優良品とす。

猪鬃は四時産出の絶ふることなきも夏季は豚毛稀薄にして短きを以て其良品の産出少く冬は豚毛密生し且つ長きを以て良品出づるのみならず毛量も夏冬の差大なるのみならず冬は魚類少くして肉食の度を高め殊に越年前後に於ては屠殺の數も増加するを例とし従つて豚毛の出廻期も舊曆十月頃より翌年三四月頃を盛んなる時とす。

(ロ) 産額

山東省に於ける猪鬃の齊整は郟庄附近に存在するのみなれば其全産額は山東省の全産額と見るも大差なし今青島軍政署の調査する所によれば郟庄附近作房の製出する所は僅かに支

那人が洗濯用刷毛を製造するものゝ外は殆んど其全部が輸出せらるるものゝ如く一千九百十三年に於ける青島輸出額は三千六百七十五擔又天津への移出額は三百餘擔なるを以て山東省に於ける猪鬃の年産額は大約四千擔なるべしと云ふ。

(ハ) 輸出の現状

従前芝罘より輸出せられたりしが青島開港後は主として獨逸人の手を経て青島より輸出せられ芝罘との輸出關係絶ちたりしが青島が日本官憲によりて支配せらるるに至り従來猪鬃輸出業として盛んに輸出に従事せる獨人も遂に青島と運命を共にし現に僅かに英商怡和洋行の手を以て輸出せらるるに過ぎざれば青島經由輸出せらるるものは漸次減少して目下濟南を経て天津に移出せられ天津より海外へ輸出せらるるに至れり過去數年間に於ける各輸出港に於ける輸出統計を示せば。

青島

年次	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九	一九一〇	一九一一	一九一二	一九一三	一九一四	一九一五
數量	一、二九六	一、三三九	一、五〇八	一、七四四	二、一四四	二、九三三	三、三三三	三、六七五	一、五九五	九五二

年次	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四	一九二五
數量	一九八三	一六六七	一八三六	一六八六	一七五七

上表の中青島より輸出せらるゝものは全然之れ山東産のものなれども天津よりせらるゝものは山東省産猪鬃は其量多からずと雖も青島戦後は卻庄作房に於て製品販賣路の減縮に對抗せんが爲め天津を経由して輸出せんとして濟南に作房を増設し此所に店員を派し天津外國人との交渉をなさしむるに至りしが故近來天津へ向け移送さるゝもの漸次増加しつゝあり之れ青島の猪鬃輸出衰退せる一端を語るものと云ふべし。

(二) 結論

山東省内現存豚數は前述の如く約八十萬頭と算せられ毎年屠殺せらるゝもの約六十萬頭と計算せらる然れば毎年省内に於ける産豚數も又略六十萬頭に達すべし之れに依りて之れを見るときは豚皮も又毎年六十萬枚の産出あるべくして豚毛は又一頭平均一斤の割合として大約六十萬斤を集散し得べし然れども現在山東豚毛の集散は年約四十萬斤と算せられつゝ

あるを以て尙ほ之れが集散を精密に行ふ時は將來約二十萬斤の増加を見る事を得べし。

五、綿絲布

(イ) 緒論

先に龍口、芝罘及び其の勢力範圍内に於ける綿絲布に関する調査を報告する所ありしが今又青島及び山東鐵道沿線に於ける本品の需要供給の狀態に關して聊か報告するところあらんごす。

(ロ) 青島に輸入する綿絲布

膠州灣が獨逸に租借せられてより青島の開港となり山東鐵道の開通となり延いて歐洲航路船の寄航を促し上海との交通頻繁となり山東鐵道は山東省に於ける樞要經濟力を統一し内地の生産力又之れに伴ふて増進し青島は今や芝罘の商圏を壓倒し天津に向つて非常なる猛撃を加へ勝者の地位に立ちつゝありて近來山東省に需要せらる綿絲布の七割を此所より供給するに至れり。

(ハ) 輸入綿絲布の消長



左に青島海關報告に基き青島より輸入せられし綿絲布の狀況を略記し以て其の消長を示さん

青島より輸入せらるる綿絲は一千九百十三年に於て十一萬六千八百五十七俵に達し青島戰後一九一五年度に於てさへ九月以降四箇月間に約三萬俵の輸入ありしを見る之れ青島が地形に於て山東省の頭部に位したるのみならず山東鐵道に依り省内の中心重要地點を貫通し自然本省貿易の中樞たる資業を具へ港灣の設備優良にして外國船の出入便利なると相應じたるが爲め勢ひ其貿易は増進向上せざる可からざりしに反し従前山東省に於ける外國貿易の唯一の開港場たりし芝罘は地既に北方に僻在し山脈連なりて自然的交通不便の地にあるを以て其の商業圏も又山東全省に及ぶ能はず港灣の設備又不良にして青島に比すれば自然的に其價値の差甚しかりし爲め従前の不便を忍びて尙ほ天津、鎮江地方との取引よりも芝罘との取引を便せし地方にありてすら青島の開港後は其經濟的商業的聯絡を此處に取るに至りし爲め一時五萬俵に達せし芝罘の綿絲布輸入額は現今にありては僅か一萬五千俵に過ぎざるに至れり加ふるに従前天津市場の系統に屬せし濟南市場も青島系統に變じたるを以て青島の綿絲輸入状態は益々増額するに至れり之れ畢竟人爲

自然の二調子揃ひし結果のみ。

今左に輸入統計を示せば。

(一) 日本綿絲の地位

従來青島及び芝罘より輸入せられし綿絲は英國、印度、日本及び支那産の各種なりしが近來英國絲は漸次減少の傾向を示し歐洲戰後痕絶の有様なり元來支那は文明の度未だ高からず爲めに其用ふる衣類の如きも近來細密なるを好むの傾向生じたりと雖も尙之れを他文明國と同日に論ずべくもあらず衣類も粗布の如き廉價にして強靱なるを愛するが爲め其の原料絲も又太番手の需要多きこと自然の勢なり然るに英國品は三十二番手以上のもの多ければ厚布製織用に適せず従て其輸入數も粗大なる印度絲及日本絲に及ばず。

印度絲は極めて粗大にして主として十二番手ものなれば従前支那人の嗜好の幼稚なりし時代にありては好く彼等の需要に應じ得たりしが近來支那人の趨向の變遷に伴ひ二十番手、十六番手、三十二番手、四十二番手等の需要増加し殊に十六番手の賣行き最も良好なれば日本綿絲は次第に増加し印度綿絲を驅逐しつゝあり歐洲戰突發後は益々其勢力を強くせり

(ホ) 綿絲布の輸入額

主なる輸入綿絲の種類及價格 (三月初旬調)

名	稱	單位	番	手	價格	國	別	備	考
福	島	大一俵	二〇番	手	一二三五	日	本	實行良好	
日	子	同	同	同	一二二五	同	同		
唐	面	同	一六番	手	一一〇〇	同	同		
扇	蝶	同	同	同	一一〇〇	同	同		
花	馬	同	同	同	一〇九〇	同	同		
三	魚	同	同	同	一一一〇	同	同		
藍	艦	同	同	同	一〇九五	同	同		
桃	同	同	同	同	一〇八〇	同	同		
軍	同	同	同	同	一〇七〇	同	同		
下	同	同	同	同	一九八〇	同	同		
金	花	同	四番	手	一一〇〇	同	同		
水	月	同	二番	手	一〇五〇	同	同		
雙	菊	同	一〇番	手	九一〇	同	同		
天	堂	同	一〇番	手	八九〇	同	同		
							度海		

實行最良にして即墨濟南附近に販路多し。濰縣高密地方に實行きよ

年	次	英	國	印	度	日	本	支	那	合
一九一五年	年			二四一六〇	二六三三〇	二六三三〇	六九二〇	二九四三〇		
一九一四年	年			八八六九〇	六二三八〇	六二三八〇	七七六〇	七九〇九〇		
一九一三年	年		一〇	二二八五三〇	六九九七〇	二〇四二六〇	二一六八五〇	二一六八五〇		
一九一二年	年		六〇	二二六六五〇	五七五四〇	一五九六八〇	九九三八一〇	七〇四四二〇		
一九一一年	年		二二六	一三三三二〇	三九四九七〇	一七五九七〇	七〇四四二〇			

上表に依るに青島に於ける日本綿絲は益々増加し一九一三年に於ては殆んど七萬俵の輸入ありて全輸入綿絲の六割五分に達せり一九一四、一九一五年は青島戰爭の爲めに其消長を確實に知る能はずと雖も年々青島が綿絲の輸入を増加し且つ日本品が最大の需要を有する一面をも窺ふに足らん。

日本綿絲が支那市場に其勢力を扶植し確實に之れが根據を固め諸外國品を追放し自から優勢なし外國品に代りて其の地歩を轉倒せしむるに至りしは實に日露戰爭後にして爾來我國綿絲布の支那に輸入せらるゝもの益々増加するに至れり而も今時歐洲戰亂の結果日支貿易關係は愈々親密の度を加へつゝありて綿絲布の如き其輸入の殆んど全部が我國製品名の傾

向を發生せり之れ蓋し歐洲及び印度品が供給杜絶せしに依るものと雖も又工業家が此機會を利用し研究怠らず多額の製品を出し且つ好く支那の需要に適する製品を出し得るに至りしものあるに起因せずんばならず、最近數年間各種綿布輸入高を國別にして示せば左の如し。

シーチング平織 (原色粗布) (一俵二十反入として)

年次	米	國	支	那	英	國	日	本	合	計
一九〇四年	五六三〇〇						六〇〇	二〇六七五	七、七五〇	
一九〇六年	二七五〇〇						三、四二〇	一七六〇	三〇、八二八〇	
一九〇八年	六、九四四・五						一、四一五・五	一六五〇	一、七〇〇	
一九一〇年	六、四三九・〇						一、二二〇	一、八四七・〇	九、四〇七・〇	
一九一一年	四、九五六・〇						五、六四〇	三、八五四・五	九、三七四・〇	
一九一二年	六、一九二・〇						八、九六五	九、二一六・五	一六、三〇五・〇	
一九一三年	四、二二〇						三、九一五	二、一七五	一六、六七五	
一九一四年	二、〇三〇						二、七五〇	八、一一〇	一〇、四六〇	
一九一五年	一九二〇						二、四〇〇	五、九九五・三	六、一九一〇	

ジーンズ (一俵二反入として)

年次	米	國	英	國	日	本	合	計
一九〇四年	五八・〇						一、五〇四・〇	一、五〇四・〇
一九〇六年	四四・〇						二、九一〇・七	三、三五六・七
一九〇八年	三八・七						二、六九九・八	三〇、八七五
一九一〇年	三三・五						三、三二五・六	三六、四〇一
一九一一年	三三・五						三、一九八・五	三五、二四〇
一九一二年	二五・五						五、一四八・五	五二、六四〇
一九一三年	八九・〇						六、五五四・〇	六、六七一・五
一九一四年	一八・〇						一、八六七・〇	一、八八五・〇
一九一五年							三、一四七・六	三、九三三・一

天竺布 (一俵二十反入)

年次	日	英	國	本	合	計
一九〇四年	四、八三七・六	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九〇六年	二、三三三・五	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九〇八年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一〇年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一一年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一二年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一三年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一四年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五
一九一五年	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	一、〇一〇・九	二、八二八・〇	一、四三三・〇	一、五五二・五

原色生金巾平織 (一俵二十反入として)

年次	一九〇四	一九〇六	一九〇八	一九一〇	一九一一	一九一二	一九一三	一九一四	一九一五
數量	一〇、八六七	一六、六九五	二四、〇四〇	三三、五五四	三三、五九〇	一六、七二〇	一九、二五〇	六、九〇七	二、五〇〇

白色晒金布平織 (一俵二十反入として)

年次	一九一一	一九一二	一九一三	一九一四	一九一五
數量	二、五六〇	二、五六六	四、七六〇	三、七〇〇	六、五三〇

ドリル (一俵二十反入として)

年次	米國	和蘭	英國	日本	合計
一九一一年	四、五六五		九	一〇〇五	五、七五〇
一九一二年	九、三三〇			一、四八〇	四、八四七
一九一三年	一、四〇七			二、六二一	三、五〇五

一九一四年	二、五二〇
一九一五年	四、二七
合計	五、五五六
	四、九四〇
	三、八一〇

大正五年度に於ける月別輸入高は

生金巾平織 (單位疋)

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
數量	八、二八二	一、九五五	二、九三三	六、六三〇	三、九九五	八、〇一五	四、四九五	二、四六〇	九、八六〇	九、五三三	八、二八五	九、〇四二	二、六九三〇

シーティング平織 (單位疋)

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
米國	一、三四〇	一、四八六	六、四四〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	七、〇〇〇	一、六〇〇	二、二八〇	二、二八〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、九〇六
英國				四、〇〇〇		四、五〇〇	二、二八〇	二、二八〇		一、七七〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、三三〇
日本	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	四、七三〇
總計	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇	一、五二〇

支那品 (上海) (單位疋)



一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
11110	11100	11110	11000	11000	11000	11000	11000	11000	11000	11000	11000	11000

晒金巾 (單位疋)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
6808	6731	6340	2880	2065	473	456	308	182	318	470	762	4393

雲齋織 (單位疋)

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
米	30												30
英													
日	500												500
支	109												109
總計	639												639

ジーンズ (單位疋)

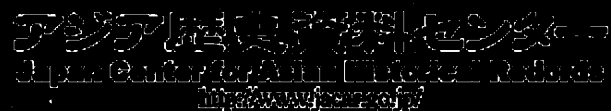
月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
米													
英	500												500
日	11100	11160	11080	11040	11000	10960	10920	10880	10840	10800	10760	10720	11100
總計	11600	11160	11080	11040	11000	10960	10920	10880	10840	10800	10760	10720	11600

現今山東省各市場に於ける輸入綿布は粗布、ドリル、金巾、天竺布、デーンズ等とす以下青島より輸入せらるる各種綿布に就き少しく説明し以て其の品質及び消長の状態を示さんとす。

(一) 輸入綿布の種類

1. 粗布(花旗布)シーチング

粗布は金巾及び天竺布と共に山東輸入綿布中の主要なる物にして歐洲戦後歐米品輸入の困難となるや日本品は益々本地方に其信用と銷路とを廣め一千九百十五年度及び一千九百十六年度の如き殆んど全輸入の九割を占むるに至れり日本粗布にして最も賣行き良好なるは



九龍、龍C、金城の三種にして何れも十三封度物を主として十四封度物之れに次ぐ以上三種中最も銷路確實にして賣行良好なるは九龍及び龍Cとす左に本年三月九日の青島市場に於ける價格を示せば

九龍	三九五 <sup>H</sup>	龍C	三九〇 <sup>H</sup>	金城	四七〇 <sup>H</sup>
----	------------------	----	------------------	----	------------------

とす。粗布は元來殆んど米國品の獨占舞臺にして上記統計表中に示すが如く一千九百四年に於て米國製品は殆んど粗布總輸入額の七割五分を占め日本品の如き其數極めて少く年に依りて増加を示せども年に依りて甚しく減少する等其地歩は甚だ不確實なりしが一千九百十二年に至りて日本粗布は俄かに其輸入數量を増加し米國品の六、一九二俵に對し九、二一六・五俵の多數に達せり。

爾來年々輸入粗布の増加するにも係はらず米國品は漸次減退し英國品、支那品又減退し日本粗布の需要愈々増加し日米粗布は其地位を轉到するに至れり。

之れ蓋し日露戰役後我日本の機業家が覺醒して新興の氣運に乗じ支那市場に於て常に最大信用を有し堅實牢固たる銷路を有する米國綿布に對抗し之れを支那市場より驅除せんこと

に努力し其先驅として簡單なる粗布の製織輸出を企畫したる事が著々成功したるが爲めなり加之歐洲動亂の突發と共に英米印度品の供給は益々減少し青島は日本の手中に歸したる結果山東方面に於ける日本綿絲布の需要益々増加の傾向を示し一千九百十六年度に於ては殆んど粗布輸入總數の九割九分は日本品なるに至れり。

2. ジーンズ(坎布)

支那人が綿布に對する嗜好は近來追々粗より密に入りつゝあるは世人の徧く知る所にして近來支那各所海關統計が同質なるドリルとジーンズとに於て粗品たるドリルが其輸入を減少し精品たるジーンズが増加しつゝあるを示すを見るべし之れ蓋し支那人が綿布に對する趣の向上を示すの一端を窺ふに足らん。

ジーンズは精巧品なるを以て日本にありては其精巧の度到底英米品に及ばず従て本品は從來英國品が其七八割を占め之れに僅かに米國品の輸入ありしに過ぎざりしが一千九百十三年日本品の二八、五俵の輸入を見るに至り一千九百十五年に至りては已に三千俵一千九百十六年度に於て六千俵に達し米國品の如きは全く青島市場に跡を絶てるが如し。

3. ドリル(打連布斜織布)

ドリル即ち打連布は主として支那人の常衣及び足袋に使用し尙ほ靴底の製造にも使用せられつゝありて粗布と共に其需要侮るべからざるものありと雖も山東省にありては既に其需要の減退の状態にありてジーンズ之れに代りつゝあり十年前迄は米國品の輸入最も多かりしが日本品は逐次歐米品を驅逐し一九一四年以來殆んど九割七分迄は日本品のみの輸入なり一九一六年に至りても尙ほ七割を占めつゝあり價格は顔印四、五〇圓(四〇碼)三象印三、一二圓にして顔印最も賣行きよし。

4. 生金巾(綉布)

支那人は之れを稱して小線花旗布と云ふ漂泊せるものを晒金巾と云ひ然らざるものを生金巾と云ふ。

生金巾は英、米、日三國品より輸入せらる青島に於ける輸入は一千九百四年一萬二百八十七俵にして一九一三年一萬九千百十五俵に達せしを最多數とし其後は戦亂の結果減少したり而して青島の全く平和に歸したる一九一六年度に於ても上表に見る如く僅かに五千八百四十六俵半に過ぎざりき今三月初旬青島に於ける日本品の相場及主たる種類を示せば

綉子

四・六五

旗軍

四・六五

にして就中旗軍の賣行きは甚だ良好なり。

5. 晒金巾(漂布)

近來僅かに日本品の輸入を見ると雖も本品の輸入は主として上海を經由して輸入せらるゝ英國製品にして日本品にありては到底未だ英國品の壘を磨すべくもあらず。

前掲表に依て之れを見るに一千九百十一年に二千二百九十六俵なりしもの一千九百十三年には既に四千七百六十俵に達し殆んど二倍に増加したり以て需要者の嗜好變遷の半面を知るを得べし然れども戦後再び一千九百十六年度に於ては其半數二千俵内に減少するに至りしは歐洲品の供給不足によりて來れるものにして我國が未だ其の需要に充分なる供給をなし得ざるを語るものと云ふべし。

(ト) 青島綿絲布の地方的分布狀況

青島綿絲布の主要なる銷路は山東鐵道沿線各驛及び其商圏地方と金家口及び青島以南海岸地方にして青島に於て消費せらるゝものは極めて少し今青島より山鐵各驛に發送せる綿絲及綿布の統計を示せば

大正四年度綿絲發送高(單位噸一千六百六十六斤)

驛名	青島	大港	四方	濰縣	周村	濟南
數量	二二五三三	八二六六	〇三三	九八	四四九	三二四一

大正五年度(單位同上)(上半期の分)

驛名	青島	膠州	坊子	濰縣	青州	張店	周村	濟南	博山
數量	六五九八	一〇	二五	四六	二四九	二四	一八四	三三五	〇五

同綿絲到著高(大正四年度)

驛名	青島	濰縣	坊子	濰縣	周村	濟南
數量	一三三	〇二	八二四	二〇	二九四三	一八六九
驛名	大港	四方	濰縣	周村	濟南	
數量	一三	〇二	九七五	一六七	〇二	
驛名	博濟	山南				
數量	一八四六	〇七				

大正五年度前半期

驛名	青島	濰縣	坊子	濰縣	周村	濟南
數量	三三三	一〇五	二四二	一〇五	六六八	三三六
驛名	博濟	山南				
數量	二六三七	四六二七				

綿布發送高(單位噸一六六六・六斤)

驛名	青島	濰縣	坊子	濰縣	周村	濟南
數量	三五九九四	二二九一三	〇二	〇五	六六八	三三六
驛名	博濟	山南				
數量	二二四九	四六二七				

埠名	四年數量	五年前半數量
坊子	三三七	一三三
濰縣	一〇九	一六七
青州	〇二	一六三
金嶺	四二	三三六
張店	七一	三五二
周村		
明水		三三四
棗園		
黃臺		
濟寧		
博山		

綿布到着高(單位噸一六六六斤)

埠名	四年數量	五年前半數量
青島	二六七	三八四〇
大港	二四	
城陽	七三	
藍村	八九	
膠州	二八二	一〇七
高密	二八三	九五
丈山	六二	
昨嶺	〇八	
坊子	〇二	
濰縣	一〇〇	八四七
昌樂	二〇	二二
青州	八四	六三
淄川	〇六	
辛店	一三	
周村	一六二	一〇八
張店	〇二	四七

埠名	四年數量	五年前半數量
普集	〇	
明水	〇	
張園	〇	
龍山	〇八	二五七
濟南	五五三	二七五
博山	五三四	四七二

上表に依り各地綿絲布需要状態を見るに其の最も多量に移入せられつゝあるは濟南府にして其類は青島より移送する額の殆んど半に達せんとす濰縣、周村共に一千噸以上の移入額を有し昨山丈嶺等之れに次ぐ。

(チ) 濟南市場に於ける綿絲布の現状

濟南は濟南府城の置かれたる地山東省第一の大都會にして城内人口二十五萬商埠地人口三萬と稱せらる、山東鐵道は濟南を其終點とし津浦鐵道又此所を通過するを以て青島、天津の二大開港場を控ふるのみならず浦口を經由して遠く上海の大貿易港に通ず加之小清河の水運あるありて四通八達の衝に當り又運河及黃河に依りて河南との交通も比較的不便ならず從て濟南の商業勢力圏は比較的廣大にして南は濟寧北は德州に至り西又河南省内に及び小清河沿岸も亦濟南との往來少からず然れば濟南は實に青島に取りては唯一の銷路なるのみならず濟南が兩鐵道開通以後一躍して山東省中央大集散市場となり省内特産物此地に

集散するに至りては濟南は又青島に取りては唯一の生命の源泉たらざるを得ず従て青島の貿易關係は濟南市場の半獨占的たり得ると否とに依りて決せられ青島に輸入せらる綿絲布の銷路亦其如何に依りて左右せらるべきものと云ふべし。

現在に於ける濟南綿絲布の移入高は確實なる統計を示す事能はざれども山東津浦兩鐵道の運賃政策及び地理的關係が青島に有利なるを以て濟南が年々需要する綿絲布の約七割強は青島より移入せられ天津より移入せらるゝは特別の取引關係あるにあらざれば到底青島品と競争の地位に立つ能はざるが如し。

今左に大正四年及び同五年前半期に於ける山鐵に依れる綿絲布の移入高を表示し竝に津浦山東兩鐵道の運賃關係を説明し以て濟南に於ける綿絲布の移入狀態を明かにせん。

綿絲布移高(單位噸)

年次	大正四年		大正五年	
	移出	移入	前半期移出	同上移入
綿絲	三二四一	五三二四	八九六	三五二四
綿布	五六〇〇	五三三九六	三二五	二五〇七九

津浦線及山東線の運賃比較

山東津浦の兩鐵道に取りては濟南市場の集散貨物を獨占的に輸送する否とは其成績の良否に絶大なる影響を及ぼすや論を待たざる所なり然れば此兩鐵道は先づ山鐵が濟南市場に於ける自己勢力を津浦線に奪はれんことを恐れ之れが政策を講究實行するに及び津浦線又之れに相應じ兩者間に激烈なる競争を起し互に運賃率に改正を加へるに至れり大正三年以來日本が山東鐵道を管理するに至りてより現今に於ける兩鐵道の綿絲布に課する運賃率は次の如し。

品別	山東鐵道			津浦鐵道		
	五噸貨車	十噸貨車	十五噸貨車	五噸貨車	十噸貨車	十五噸貨車
マツチ	四七三〇	八二〇〇	一〇一四〇	四四〇〇	八八二〇	八六一九
石油	四七三〇	八二〇〇	八二五〇	四四〇〇	八八二〇	八六一九
綿絲(外口)	四七三〇	八二〇〇	五二二〇	三三・一五	六六三〇	六九・六五
綿布(同)	四七三〇	八二〇〇	五二二〇	三三・一五	六六三〇	六九・六五
綿絲(支那)	四七三〇	八二〇〇	五二二〇	三三・一五	六六三〇	六九・六五
綿	四七三〇	八二〇〇	五二二〇	三三・一五	六六三〇	六九・六五



即ち山東鐵道にては特別割引の政策を取りつゝあるを以て青島濟南間十五噸一車積は五十二弗三十仙を以て運搬し得べく濟南天津間の六十九弗半に比較し十二弗の安價なり但し津浦線にありては支那製綿絲、綿布に對しては三等品としての取扱ひをなし天津、濟南間四十九弗七十五仙なるが故に山東線に比して二弗五十五仙安し。

然れども津浦線にては從價二分五厘に相當する貨捐(厘金税)を徵收せらるること下の如し。

綿 (布(每疋))

種類	重量	六斤物	八斤物	十斤物	十斤以上物
税金		四三	五八	六七	七〇

綿 (絲(一捆))

綿絲一捆は三百斤入とす每一捆に對する貨捐は元來六九、一〇仙なれども現今割引せられて四一、四六となれり。

今之れを一車積に見るに

綿 (布(十斤物))

一貨車百二十俵積一俵二十疋にして

$$120 \times 20 \times 67 = 160.8 \text{ 弗}$$

即ち一六〇、四六弗

綿 (絲)

一貨車七十二捆積にして一捆は三百斤入なるが故に

$$72 \times 41.46 = 29.85 \text{ 弗}$$

即ち二九、八五弗なり。

綿布の如きは貨捐のみにも既に山東鐵道運賃の三倍に相當す故に津浦線に依りて綿布を濟南に發送せんが爲めには十五噸一貨車の運賃貨捐の合計は二三七、六六弗にして山東鐵道運賃の約四倍に相當す。

以上の外外國貨物又は土貨を天津より濟南に移入する場合には天津にて鈔關稅を賦課せらる。

主なる消費地

濟南に移入せらるゝ綿絲布の主要需要消費地は左の諸地方とす。

北部山東省經濟事情

泰安 棗園 濟寧 滕縣 德州 利津 東昌 新泰 萊蕪

現在取引状況

濟南に於ける綿絲布取引商人は主として支那人にして日本及び其他の各國商人に依りて取引せらるゝもの少し之れ畢竟支那商人が利用しつゝある支那爲替機關が外國新式爲替機關に比し便利なるに因由するもの大なり。

前述の如く濟南が山東省土産物の中央集散所たるの實を確實にしてより日本及び外國商人の青島に本支店を有する者は濟南に支店又は出張所を開設せしもの少からず之等も之等は主として土産品の買付けに従事しつゝある者にして綿絲布の移入に従事すること少し昨年某商會は濟南に出張員を派し綿絲布の移入販賣を企劃したれども運送の方法及び爲替率の關係等の爲めに遂に支那商人に一籌を輸し濟南にて販賣するよりも青島にて販賣するを得策とするが如き結果を來せし爲め遂に出張員の撤廢を斷行するに至れり。

(リ) 周村市場の現状

周村市場に於て年々取引せらるゝ綿絲布は年額約一、六二七噸の綿布と一、八六九噸の綿絲とす同地は濟南より二時間青島より六時間にして達すべく陸路濰縣に至る二百四十支里芝

罌へ六百支里にして鐵道開通前にありては全然芝罌の商業勢力圈内に屬したりしが現時芝罌との關係は極めて少く主要輸入品の如きは全く青島よりせらるゝに至れり此地より一日行程にして小清河畔又河に至るべく鐵道未開通前にありては省内水陸交通の要地をなし遠く直隸、河南、山西地方客商の絹織物及び皮革類組製金物類の買付けに來るもの多く從て綿絲布の取引も是等との間に行はれたり。

現時に於ても尙取引時期に於ては四方より客商集りて大取引を行ひつゝあり加之本地方は絹物及び土布の製織地なるが故に綿絲布の輸入せらるゝもの少からず山東鐵道沿線各都市中濰縣と共に濟南に次いで最も大なる需要地にして年額約百萬兩に達す。

(ヌ) 濰縣市場の現状

鐵道沿線各都市中屈指の大都會にして人口約八萬と稱せらる鐵道未開前にありては全然芝罌港の商圏内にありしも鐵道開通後は芝罌との取引は益々衰微しつゝありと雖も棉花、葉煙草、粗製金物類及び少量の雜貨類は今猶濰縣を通過して芝罌との間に取引せらるゝもの少からず現今主要輸入品は青島に其供給を仰ぎつゝあり中北部山東省一帯の物資集散市場として尙は重きをなし殊に綿織物の産地なれば綿絲の輸移入頗る大なるものあり年々百萬



兩内外の輸入額あり尙巨額の綿布をも輸入す。

(Ⅳ) 其他東部各市場の移入状況

城陽驛に集まる綿絲は陸路即墨縣に送らるるものにして即墨は金家口より移入せらるるものと合して年々三千俵内外の綿絲布の需要あり藍村は平度、沙河、古現に至る貨物の通過地にして約百噸に近き綿絲と十噸内外の綿布とを移入す之等綿絲布の需要地は主として平度及び古現にして平度を通過し沙河に至るもの尙尠からず。

丈嶺は濰縣以東に於け綿絲布の大需要地にして年々一千噸内外の需要あり其消費地としては昌邑縣を最とす。

(Ⅴ) 結論

山東省に於ける綿絲布の輸入港は芝罘、龍口、青島の三港にして芝罘及龍口の綿絲布銷路の現状及將來に關しては先きに第一回旅行報告書に於て聊か愚見を披瀝する所ありしを以て更に之れを述ぶるの要なきも此所に山東綿絲布の需給状況を記述せる序に二三事情に就いて青島との比較研究の一端を記述せん。

山東鐵道未開通の頃に於ける芝罘の商業圏は山東省内にありてすら遠く周村地方に迄及び

其輸入數も五萬俵を下らざりしが現今に於ては地理上に於ても人爲上に於ても共に優越なる青島及山東鐵道の爲めに其商業圏の大部分を奪はれ現狀に於ては其地位全然青島と相顛倒せり龍口は僅かに新開の港にして設備未だ完からず唯内航汽船の寄航あるのみと云ふも過言に非ず然れば以上二港は唯僅かに自然的地勢の恩恵に依りて背後に狭小なる商範圍を保ち得るのみなれば到底青島と相對抗して省内の勢力圏を自然的地形以外に於て争ふ事は不可能なりと云ふべし但し芝罘が港灣の設備を完成し煙濰鐵道の開通成るの時あらば歐洲戰後獨逸人は芝罘を根據地として山東省の商權を青島に於ける日本と相争奪せんとするに至るべく英國も又威海衛が商港としての價値なきを認めつゝある現狀なれば或は芝罘に依りて山東省内一部の貿易を適確に自己の掌中に收め以て青島及び大連の盛運に相對せんとするに至るなきを保し難し。

又一方青島綿絲布の半數を需要しつゝある濟南府は山東、津浦兩鐵道の政策如何に依りては或は天津貿易系統に移遷することなしと云ふべからず若し濟南が天津系統貿易市場と變するに於ては現今青島輸入綿絲布に對して其需要は半數に減退すべし。

然れば青島綿絲布の將來は一つに係りて煙濰鐵道の成否と濟南市場の向背とにありと云ふ

べし。

### 六、燐寸及石油

山東省にありては下級農民の一部には尙ほ礮石相擊して發火せしむるの風習残りりと雖も燐寸の輸入せらるゝもの又甚多し青島、芝罘、濟南以外の大都會を除きては電燈の設備なければ省内何れの地と雖も點燈用として石油を輸入し之れを使用するを以て燐寸と石油とは山東省輸入品中極めて重要な地位を占めつゝあり。

#### (1) 燐寸

本品は支那内地製品及び日本製品の二種にして何れも安全燐寸と黃燐燐寸の二種あり安全燐寸は僅かに山東鐵沿線の芝罘等の日支上層家庭に於て使用せらるゝのみなれば其數も極めて少量なるを免れざれども黃燐燐寸は實に莫大の需要ありて本省は日本黃燐燐寸の大顧客と云ふべし。

#### 1. 支那製燐寸の日本燐寸販路に及ぼせる影響

現時省内燐寸製造所は芝罘に於ける中鉄燐寸製造會社及び濟南に於ける振業火柴有限公司

とす何れも黃燐燐寸の製造に従事し中鉄公司の如きは日本人技師を招聘し盛んに製品を發賣し品質も何等日本燐寸に劣る所なく消費者の信用も小ならずして各地に於ける需要は實に莫大なる量に達す從て之等二會社の設立が日本製品の山東省に於ける販路甚大なる影響を及ぼし斯業者の注意を要する事は明かなる事實なり芝罘に於ける中鉄燐寸は未だ芝罘市場の燐寸を獨占すること能はざれども濟南振業火柴有限公司製品の現狀は輕視すべからざるものあり同會社は東順泰店主業良弼の發企にして大正三年の設立に係る資本金は二十萬元と稱するも實際の拂込みは極めて小額にして而かも開工後僅かに三年に過ぎざるに既に濟南市場の需要に多大の影響を及ぼすに至れりと云ふ青島より濟南に向つて發送せる燐寸材料を見るに三百七噸の多きに達するを見るに之等は芝罘に輸入するもの及び濟南に需要するもの共に日本材料にして將來燐寸製造業の發展と共に其需要を増すべく燐寸の需要と材料の需要とは反比例を以て進むべし。

#### 2. 三開港場の輸入狀況

芝罘、龍口及び青島の三港が輸入する日本燐寸の狀態を海關統計に依りて示せば

芝 罘 (單位クロス)



年次	青島 (單位クロス)	
	數量	價格
一九二一年	一、五七、八八五	一、九八、八八五
一九二二年	二、三三、九〇七	一、九〇、七八九
一九二三年	二、三三、九〇七	一、九〇、七八九
一九二四年	三、四九、二六九	一、九〇、七八九
一九二五年	四、六六、二〇七	一、九〇、七八九

龍口

年次	龍口	
	數量	價格
一九二一年	四、九四、九〇二	七、七五、一〇七
一九二二年	六、六二、〇五六	三、四九、二六九
一九二三年	六、六二、〇五六	三、四九、二六九
一九二四年	三、四九、二六九	一、四六、二〇七
一九二五年	四、六六、二〇七	一、四六、二〇七

龍口にありては未だ海關統計に依りて之れを表示すること能はざれば本囑託が昨年中各店舖に就いて調査せる所を以て大體の數量を知り得べきを信じ之れを左記す。

右統計は大正四年度に於ける汽船積輸入品の統計にして民船貿易品の統計を缺くが故に正鶴を得ざるや勿論なり然れども龍口に於ける燐寸は主として龍口其物の需要消費するものなれば先づ以上統計の二倍と見るときは大なる誤謬あらざるを信す。

上表に於て芝罘及青島より輸入せらるるものは全都日本燐寸にして兩港の輸入高が近來減退しつつあるの傾向を明らかにす青島港に於ける一千九百十五年度の分は九月、十二月の四箇月間の分なれば之れを以て全體を律する能はざるも芝罘は或程度まで青島の輸入不足を補はざるべからざる理由あるにも係らず尙減少を示せるは確かに芝罘製燐寸の發展の跡を示すものと見るを得べし。

3. 省内各地需要狀況

今省内各地方の需要状態を見んが爲め青島より輸入するものは鐵道統計に依りて大體の狀況を看察し得べく芝罘よりするものは余の調査せる所に基きて以て推知し得べきを信じ左に之を記述すべし。

大正四年度各驛發送數量 (單位噸一千六百六十六斤六合)



驛名	青島	大港	高密	濰縣	濟南
數量	一六三三九	三〇六四四	三〇〇〇〇	〇三三〇〇	五〇〇〇〇

大正四年度各驛到着貨物 (單位噸數一、六六六六)

驛名	藍村	高密	丈嶺	昨山	黃旗堡	濰縣	昌樂
數量	一六六六	一九〇七	三二二五	五〇〇九	一五〇四	四四〇一	〇三三〇〇

驛名	青州	淄河店	辛店	周村	明水	濟南
數量	一八六二	四九五	一五〇	三三〇〇	一四一六	三〇〇六五

大正五年前半期各驛發送數量

驛名	青島	膠州	高密	坊子	濰縣	青州	張店	周村	濟南	博山
數量	一九四四二	八六〇二	一八三〇六	二二〇〇一	六六六六	一八九六一	二二八八			

同期到着貨數量

驛名	青島	高密	坊子	青州	濰縣	張店	周村	濟南	博山
數量	三三〇二	三三七	二二〇	一三〇〇	一四八五	三四〇一	六六六六	一八九六一	二二八八

上表に依れば青島より輸入せる燐寸の最大消費地は濟南にして青島より發送せるものと殆んど七割を此處に吸収し濰縣、周村之れに次ぎ共に一割内外を消費す。芝罘より輸入せらるるもの消費地に於ける消費額の大略を示せば次の如し。

地名	黃縣	掖縣	沙河	平度	萊陽	棲霞	福山
數量	一一〇〇〇 <small>小箱</small>	三〇〇〇 <small>小箱</small>	七二〇〇 <small>小箱</small>	三〇〇〇 <small>小箱</small>	一七〇〇 <small>小箱</small>	一七〇〇 <small>小箱</small>	二〇〇〇 <small>小箱</small>

等とす上表中平度の全部及び萊陽の一部は青島より移入せらるるものとす而して芝罘燐寸の最大なる消費地は黃縣にして沙河鎮之れに次ぐ然れば黃縣及沙河は芝罘輸入燐寸に取りては非常なる顧客にして之れ等二都市の向背は芝罘燐寸の盛衰に重大なる關係を有す。

(ロ) 石油



1. 需給概況

石油は燈火用として其需要少からず美孚、亞細亞、露國石油は従前より盛んに輸入せられ特に都會にありては美孚、田舎にありては亞細亞の銷路大なるものあり。  
 美孚油は美孚牌、虎牌、鷹牌にして價稍高きも品質極めて良好にして煤煙少く光明瞭なるが故に電燈なき土地の上流家庭及び大商店にては洋燈に主として此種石油を用ふ亞細亞油は亞細亞牌、僧帽牌、鐵錘の三種あり前者に比すれば品質劣等にして煤煙多く光明瞭なれども價格廉なるが故に地方の洋燈を用ひずカナテラを點燈用に供する者は煤煙及び多少の光不明瞭の如きは省みる所に非ず主として後者に使用するを以て美孚油と相對抗して相當の銷路を獲得し居れり。

2. 二港輸入石油

左に青島及芝罘に於ける石油輸入狀況を研究せむが爲めに海關統計を示さん

年次	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
----	-------	-------	-------	-------	-------

青島 (單位ガロン)

米國	八五九〇四三	一〇六九〇、七六九	五二、一七二	一四四、〇五九	二二、五六〇、八〇
スマトラ	四、一六四、〇六〇	四、一六六、九〇	二四九、七三六	八四、八二	一〇、四〇七
日本					三、四〇七
俄國	八八九四〇	一、五二九、九二〇	一、七五四、九六二	一、九六六、六五七	三、四〇七

次に大正五年度に於ける青島港石油輸入狀況を月別に示せば (單位ガロン)

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月
米國箱入		二〇〇				四四九、八二〇	
露國裸							九八二、六九四
露國裸		一、四六六、〇三三					
スマトラ		一、一〇〇、〇〇〇					
日本箱入	三、七〇		四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、四九七、〇	一、〇〇、〇〇〇	九、五〇、二〇〇
合計	三、七一〇、一六六、七〇三	一、一〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、四九七、〇	四、六九八、〇	一、〇、七、七、三
米國箱入						一、〇〇、〇〇〇	六、五〇、〇〇〇
合計						一、〇〇、〇〇〇	六、五〇、〇〇〇

米國裸	露國裸	スマトラ裸	日本箱入	合計
九八四〇三	三三三六〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇
一四九四〇三	三三九七〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇
一四九四〇三	三三九七〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇
一四九四〇三	三三九七〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇
一四九四〇三	三三九七〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇
一四九四〇三	三三九七〇	五三三六〇	一〇五三三〇	一五三三三〇

芝 栗 (單位ガロ)

年次	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
米國	二八六〇〇	三六六二〇〇	四九八七〇	二八二四七五〇	一三三三三三三
スマトラ	一	一九八九〇	四九八七〇	三三九七五〇	四二〇〇〇

上表に照らすに米國油即ち美孚公司の製品が最も需要多く亞細亞公司製品之れに次ぎ日露兩國石油も又少からざる輸入をなしつつあり。

3. 日本石油の地位

歐洲戰爭突發以前にありては山東省に於ける日本石油は全く其影を認めざりしと雖も歐洲戰開始後日本が青島を占領して以來即ち一千九百十五年(大正四年)に於て二、〇二〇ガ

ロスの日本石油が青島より輸入せられたるを見る之れ蓋し海關統計に表はれたる日本石油輸入の嚆矢なり爾來戰亂の爲め船腹不足を來し加之戰亂の結果は銀塊の昂騰を惹起したる等の原因に依りて日本石油は非常なる勢を以て青島、芝罘、龍口の三港より輸入を開始し青島港にありては露國油、スマトラ油等と相伯仲するに至るまで増加せり。

昨年下半年に至りて芝罘支那商人記仁、曳源永は大連政記公司の仲介により東京増田合資會社と日本石油會社の輕油二千箱の取引をなしたるが該油は直江津九にて新瀉を發送し九月十一日芝罘港に到着無事取引了せり之れ芝罘市場に於て始めて表はれたるものなり此輕油は福壽印にして價格も又破格の廉價なれば賣行きも良好なりき、龍口にては昨年十月下旬より同市場政記公司分店に於て福壽印輕油の經理販賣を開始せり。

日本石油は其品質に於ては到底美孚油と同日にして論すべからざる程煤煙多く點燈用としては極めて不良にして燈罩は忽ち黒くなり光り不明瞭となると雖も石油の燃焼遅く頗る經濟的にして而も價格廉なるを以て好く支那人の經濟的思想に適合し殊に地方鄉村にして洋燈に代ふるにカンテラを以てするものは亞細亞油と大差あるを見ざるを以て將來適當なる方法と製油精選に不斷の注意をなせば現在に於ける鎖路を減退せざるや勿論にして益々發



展の域に到達し得るや明らかなり左に芝罘に於ける昨年九月中の各種石油の價格を示して以て參考とせん。

福壽印 三、三兩 美孚 四、〇四兩 虎牌 三、九四兩 亞細亞印 三、七五兩 ます。

地方的分布状態 山東鐵道沿線各驛に於ける發著貨及び余が旅行經過地に於ける消費統計を掲げて以て地方的分布状態を最も簡單に示さん。

大正四年度發送石油 (單位噸、六六六六斤)

驛名	數量
青島	一九五三〇
大港	四八四七四
城陽	四四八
藍村	三〇〇
高密	四五〇
濰縣	三〇〇
昌樂	一五〇
青州	〇七
濟南	一五五七一
博山	一五〇

同年度到着貨 (單位噸、六六六六斤)

驛名	數量
大港	三三六六
城陽	三三六六
藍村	三三六六
陽	三三六六
藍村	三三六六
村	三三六六

大正五年度前半期發送石油 (單位噸)

驛名	數量
姚莊	三三八
膠州	四〇三九
高密	三七四〇
嶺密	二二四五
丈嶺	六三三三
昨山	二九九一
黃堡	四〇〇八
南流	六〇〇
坊子	六三〇
濰縣	一、四八〇
昌樂	二九三
青州	一、三二七
淄川	五九八
辛店	一、四九六
金嶺	四四八
周村	九一七
明水	六三〇
龍山	一、〇八八
郭店	一五〇
黃臺	六八七
濟南	八、九六三
南川	一、四四六
山	七三三

同到着石油 (單位噸)

驛名	數量
青島	八、〇八四
膠州	〇三
高密	七五
坊子	八八
濰縣	〇八
青州	一五三
張店	〇一
濟南	一〇四
博山	〇一
青島	一一六九
膠州	三八〇
高密	一、七四四
坊子	九七七
濰縣	四六四六
青州	九七七
張店	六九九
周村	五、三六二
濟南	三、三一一
博山	三三三



地名	黃縣	掖縣	沙河	平度	萊陽	棲霞
數量	五〇〇〇 <small>担</small>	四〇〇〇 <small>担</small>	一五〇〇 <small>担</small>	三〇〇〇 <small>担</small>	三〇〇〇 <small>担</small>	二〇〇〇 <small>担</small>

山東省內石油の分布は上表によりて其大體を知り得べし石油を以て夜暗を照らすを以て唯一の原料とする山東省にありては都鄙至る所其需要頗る大にして且つ必ず缺ぐべからざる重要品なれば山東鐵沿線に於ても石油程多量に全驛通じて需要せらるゝものは他に見ざる所たり。

### 結論

光榮ある戦勝に依りて日本と山東とは益々密接の度を加へたり、而して歐洲戦亂の結果は從來獨逸を主とし其他の歐米諸國より輸入しつゝありし主要品は拂底の委となり自から一羣帶水の日本は手を下さずして山東省全市場を半獨占的に其銷路となすを得たり。思ふに過去に於て急激なる進歩をなせる山東省經濟狀態は將來と雖も其誘導者に當を得其

歸趨する所に誤ならしめば其經濟狀態は益々發達し従つて省民の生産力を増し生活程度の向上を促進し外國品購買力を増進せしめ得べきは信じて疑はざる所なり。過去に於て獨逸が苦心經營播種せる所は今や之れが收穫をなすは日本の責任に歸したれば將來山東省に於ける各種施設經營及び之れに伴ふ利益は之れを日本の手中に掌握せざるべからず余は今此稿を脱するに臨み吾人は山東省に於ける日本の責任を明覺し山東省の現況に鑒み自他共に幸福の境に誘致し以て支那貿易及其開發上に一大責任を有する日本の國策施行の寸助たらんことに努力せざるべからざるを思ふ。

(大正六年五月十三日脱稿)





### (附) 山東に於ける麥稈眞田の調査

(支那農商工報に發表せるもの)

- 一、緒言
- 二、産地及集散市場
- 三、編製及整理
- 四、種類
- 五、品質及用途
- 六、包装及價格
- 七、産額及集散狀況
- 八、取引状態及一切費用
- 九、青島の輸出状態
- 十、結論

#### 一、緒言

支那に於ける麥稈眞田の海外輸出は今より四十餘年前即ち西曆一千八百七十一年に開始せられ爾來輸出數量は年と共に増加し大正元年の輸出總額は十二萬七千一百四十三擔價額七百六十四萬三千五百五十九兩に達したが同三年に至り歐洲戰亂の爲め大打撃を蒙り英、獨、

佛等の諸國向輸出數量著しく減退した然かし今尙支那に於ける重要輸出品の一として聲價を保つて居る其の主なる産地は直隸、山東、河南、山西の各省であるが就中山東が第一で殆ど支那總輸出額の六割を占めて居る茲に山東麥稈眞田の概況を述べて聊か斯業家の參考に供しよう。

支那に於ける麥稈眞田の製作の創始は福建で今を距ること五十年前(即西曆一千八百六十年頃)之れを用ゐて水兵の制帽を製作した其後劉坤一が兩江總督時代に巡防隊の制帽となし長江水師提督も亦之れを以て部下の制帽に用ゐた是に由りて之を觀れば麥稈眞田の用途は初め僅かに海陸軍隊のみであつたが漸次民間にても之れに倣ひ夏季用の涼帽(夏帽子)を製つたもので需要日々に増加し遂には安徽、浙江兩省に傳播し次第に山東、河南、山西等にも斯業の發達を見るに至つた、然るに南支那は氣候及地質の關係上産する處の原料麥稈は粗大にして外皮亦堅硬で編製に餘り適しないのに反し北支那の土は多く砂を含むから麥稈の質は柔軟で色澤は鮮明且外皮も比較的薄く編製に容易である故に製品は美麗で且つ工賃至廉であるから今日では遂に南方の麥稈眞田製造業者を壓倒し迅速なる發達を遂げたのである。

### 二、産地及集散市場

山東省に於ける麥稈眞田の主要産地及集散市場を列擧すれば次の通りである。

産地	集散市場
萊州、平度、海倉、朱橋、白沙市、黃縣等 沙河を以て中心と爲すの一帶地方	沙河鎮 (舊萊州府屬)
泰安、新泰、蒙陰地方	浮邱 (舊泰安府屬)
寧陽、中莊、大王地方	寧陽 (舊兗州府屬)
郟城縣地方	馬頭 (舊沂州府屬)
壽光及清水湖附近	壽光 (舊青州府屬)
上家道口及許家莊、利津等黃河及小清河 下流一帶地方	樂安 (廣饒) (舊青州府屬)
新城(垣臺)縣地方	新城 (垣臺) (舊濟南府屬)
濰縣及昌邑縣地方	濰縣及昌邑 (舊萊州府屬)
陽信縣地方	陽信 (舊武定府屬)
玉臺附近	玉臺 (膠州管下)

### 曹州朝城地方

以上の中最も著名のものは沙河を以て中心となす一帶の地方である此外往年青島港に移出されたる直隸、河南二省の主要産地を列擧すれば次の通りである。

産地	集散市場
青縣、尙家林、鳳凰店、蘇集、 滄口、興濟地方	興濟 (舊天津府屬)
直隸 遵化州一帶地方	玉田 (舊遵化縣屬)
開州、南樂、韓張等、大名府一帶地方	辛莊 (舊大名府屬)
河南 毫州(安徽)柘城、太康、朱橋、歸德地方	鹿邑 (舊歸德府屬)
河南省内黄河沿岸地方	惠濟橋 (舊開封府屬)

上記の内最も有名のものを興濟大名府及鹿邑地方とす。

### 三、編製及整理

麥稈眞田の原料は凡そ大麥、小麥、裸麥、燕麥等各種麥類の莖稈は如何なる種類にても悉く使用することが出来るが北部地方では小麥の莖稈を主として用ゐて居る(壽光、樂安、



新城地方では大麥の莖稈を使用するものが多い。麥稈の收穫を目的とする麥は其の刈入時期が肝要である若し早きに失する時は麥實の收量が減少するのみならず其の莖稈上に小皺を生じ微を生じ易い従つて良好なる眞田を得ることが出来ない若し遅きに失する時は莖稈に必ず斑點を生じ亦眞田の原料に不適當である最適當の刈入時期は全熟期前四五日が最も宜しい其の簡易見分法は麥穗が黄色を呈し麥實固結の時を以て適度とする、然れども山東の農民等は皆な麥實の收穫を以て主とし莖稈は第二とするから刈入時期に餘り注意をしない様である唯だ沙河地方の眞田編成を以て目的となす麥は稍普通收穫時期に先だち早刈の傾向がある、刈取つた麥稈は直に日光直射の地方で之れを乾燥する普通田畝上にて乾燥し穂を打落してより更に二三日間日光に曝し其の水分の除去されたる後、切草器を用ゐる根部より第三節以下、上部の穂首より二三寸の部分を取り去り五六寸細縛の大束を作成し居宅の物置に貯蔵するのである、然れども稍々進歩せる者は所謂野晒法による即ち前述の如く不用部分の生稈を除去し先づ燻蒸小屋に堆積し硫黄を以て七八時間燻蒸の後取出して十分に乾燥して再び貯蔵を行ふ、野晒法によりたるものは乾燥して十分に光澤の變種も比較的遅く又微を生ずることも少なく永く貯蔵することが出来る山東でも此の野晒法を行ひ貯

蔵する者があるが一般には極めて少なく大抵は天日乾燥によりて貯蔵する。

麥稈眞田の編製は多く農家婦女子の手製に係り、四季之れを行ふ最盛期は普通九、十月から翌年三月に至る間である、此の間は農家は收穫を完了たる後で最閑散期であるから貯蔵の麥稈の中から編製することの出来るだけの量を取り出し先づ一節二節に附著して居る葉鞘を除去し一握づゝ取り擧げ稈の頭部を上に向け逆に之れを握り再び暗處より明處に向ひ透視し其の斑點あるもの及纖維と色澤の不良なる者を除去し更に太き者、細き者を區分し、同一の太さの者を一纏となし次に精選の稈を左手を以て其の一把を握り右手に剪を持ち切離して一節と二節とにする此の一節即ち先節は葉鞘被覆せらるゝこと少く日光の直射により黄色を呈し其二節は即ち葉鞘に被覆せらるゝこと多く白色を呈して居る、之れ全く一節と二節と莖稈の色合の全然相異する所以である。

斯くの如くにして採擇終了すれば先づ稈を粟糠汁或は麥粉汁中に浸漬し約小一時間にして取出して陰乾にする（普通斜立するを以て横木に二十分間懸け其の水氣の去るを度となす）始め編製に著手する際の材料には圓稈用のもの（稱して原草辦と云ふ）分開用のもの（稱して披草辦と云ふ）とがある、麥稈の分開は普通金屬製小筒の底部に十字或は丁字形の

刃を有する小刀を装置し麥稈を一本づゝ管内に挿入し其の刃を當てて之れを引裂くのである(引裂く方に二分、三分、四分等の種別がある)其他編方には菱物、平物、角物、細工物等がある而して農民等は輸出商の特別註文品のみを製作して居る多く原草平辨(圓稈を以て扁平に之れを編むもので多く七條を以て之れを編む)原草花辨(辨黄白の圓稈を混合して之を編むもの)披草平辨(分開の物を以て扁平に之れを編むもので多く七條を以て之れを編む)披草勉辨(分開の物を以て扁平に之れを編むもので兩邊三編幅に寛狭があるもの)の四種である、其の編製の際に當り彼等の最も注意を要するは結合の處に隙が無く真田の幅の廣狹相等しく真田の邊が整齊のものである、編製の物は普通十碼(最長二十碼)を以て一捲と爲す、捲法は何等機械を用ゐず唯手足を用ゐる適宜に之れを捲くだけである、此等農家編製の麥稈真田は收買人に由り買集められ辨莊(後章買賣狀態參照)に送る辨莊では此等の多種多様な麥稈真田を類に依り概別し次に整理をするのである、整理作業は漂白、挿換、補換、捲柄、漂白、結束の順序に依り之れを行ふのである今其の方法を概述すれば次の通りである。

一、漂白 前述の如く種類毎に之れを概別し如露を以て清水を撒布し濕氣を含みし時に束となして燻蒸室に裝入して燻蒸漂白するのであるが燻蒸には硫黄を用ゐる其の室の高さは六尺長さ寛さは均しく六尺半で三方を密閉し一方を扉とする底には篋を鋪き(篋は普通高粱稈を以て之れを編む)以て瓦斯の流通に便する而して底の中央部分には三つ四つの小孔を穿ち土管或は竹の圓管を通する下部に竈を設け硫黄燻蒸の裝置をなす、例へば真田百斤に付約硫黄一斤を要する真田の裝入は底の中央の小孔の部分が空虚となつて居つて其處からするのである其の他は嚴重に密閉してある燻蒸時間約十時間で燻蒸後再び室内に放置し約半日を経過して始めて取出を行ふのである。

二、挿換 挿換とは真田中の混入不良の者を他の良稈を以て挿入交換の意である。

三、補換 補換とは寛窄不同の者及編方不良の處を除去して之れを補綴の意である。

四、捲把 捲把とは即ち真田を捲筒(捲筒とは極めて簡單なもので長方形の木臺上に一尺二三寸の間隔にて細木の圓棒を立て手にて真田を二箇の圓棒に通じて之れに捲付くる裝置になつて居る)と稱する圓筒上に捲き六十碼或百二十碼(沙河多く披草編で六十碼で其他は多く原草編で百二十碼である)の長さで一把を作成するのである。

五、漂白 此れ第二回の漂白をなすもので即ち捲き上げた物を前記の燻蒸室で更に硫黄を

以て約小一時間燻蒸する其の方法は第一回と同様である。  
 六、結束 結束とは即ち第二回漂白を経過したる物を一把毎に兩端より稍内に向ひたる部  
 分を白の木綿糸或は麻糸で三四箇所を堅く縛り以て外觀をよくし辨莊の證紙を其の一端  
 に貼用する便に供ふのである。  
 斯くの如く數多の手續を経て始めて麥稈眞田は商品と成るのである前きに記載の通り編成  
 の業は農家各戸にて整理して各集散市場の辨莊が之れを取扱ふのである。

#### 四、種類

麥稈の海外輸出に就ては常に苦心研究し需要者の嗜好に投ずることに力めて居る歐米の需  
 要者よりは年々斬新の様式の註文を受け之れを地方の辨莊に通じ式の如く編成する故に其  
 種類は年々増加し輸出開始より今日に至る迄に實に數百種を降らす然れども之れを大別し  
 て原草辨(麥稈の圓形なる者を使用して之れを編製するもの)披草辨(裂開の麥稈を以て之  
 れを編むもの)の二種とする。

(平辨(唯麥稈の二節即ち白色の部分を用ひ圓形を以て之れを編む者))

#### 原草

花辨(麥稈の一節即ち黄色の部分と二節即ち白色の部分の各圓形を交叉して編み平物と)  
 爲す者である故に眞田の表面には黄白色の斑色を呈する

#### 披草

勉辨(裂開の麥稈で編み平物と爲すもので兩邊の編幅に寛狭のあるもの)  
 平辨(裂開の麥稈で編み平物と爲すもの)

是に由りて之れを觀れば花辨は皆原草を以て編製し披草には花辨無く勉辨は皆披草を以て  
 編製し原草には勉辨が無い又唯麥稈の尾節即ち黄色の部を以て原草辨を編むものであるが  
 産地は山東省沂州府馬頭地方に限られて居る普通稱して原草黃辨と爲す。

以上四種に用ふる處の麥稈は最も少きは四條最も多きは二十二條で十九、七條を以て編製  
 する此の四種中細條を以て之れを編むものも有れば又粗條を以て之れを編むものもある其  
 他麥稈眞田の寛狭(三密里米達より十五密里米達に至るを普通とする)品質の優劣及産地等  
 により貿易者は各其の名稱を異にする故に大別して右の四種に分つても之れを細別すれば其  
 の數が甚だ多く一々列挙することが出来ない今主要輸出の麥稈眞田の名稱に就て之れを舉  
 ぐれば次の通りである。

- 興濟原草白辨 一等品 Lai Hsingchi White 1st quality
- 同 二等品 2nd quality

直隸興濟地方の産で興濟市  
 場に集散する

山東に於ける麥稈眞田の調査

辛莊原草花辨	一等品	Lachow Mottled 1st quality	直隸省大名府産にして辛莊市場に集散するものであるが従来萊州商人の手を経て取扱はれたものであるから外商間には Lachow mottled の名稱がある
同	二等品	2nd quality	
沙河披草平辨	一等品	Shaho Split plain 1st quality	沙河を中心とする一帯地方産出のもの
同	二等品	2nd quality	
沙河披草勉辨	一等品	Shaho ping plain 1st quality	沙河に集散する
同	二等品	2nd quality	

以上は即ち普通編製最多の麥稈眞田の大別及主要輸出品の種類に就て述べたるものである而して毎年需要者の特別註文の變態に由り今日では其の種類殆ど數百に達し編法も亦頗る複雑である此等特種品を大概分別して之れを擧ぐれば次の通りである。

一、菱物 草帽辨の兩邊が菱形をなすもので、原草披草均しく使用する山東地方の一般菱物は四條或は四條を以て之れを編成する四條のものを四草と謂ひ六條のものを六花と謂ふ故に披四草と稱するものは即ち披草四條を以て編みし菱物で原六花と稱するものは即ち原草六條を以て編みし菱物である、其他染色の麥稈を用る混合して之れを編む時は色名を其の冠に符する、例へば緑花四草とは即ち緑色の麥稈を以て緑色の麥稈混合編製の四

條菱物の意である。

二、角物 草帽辨の兩邊の角を立てゝ編むもので原草、披草均しく使用するが多くの原草を用う、角物は普通翅と稱して居る其の編法に依り種々の名稱があつて同一でない即ち七草小翅、紅花疊翅、白五小翅、綠花長翅等十餘種ある此等は皆な其の編法を異にし又混合染色等に依り夫れ々名稱を符したるもので實物に據らなければ説明することが困難で略することとした。

三、半菱物 草帽辨の唯半邊が菱形をなすもので(普通菱物編法とは稍異なる)専ら原草を用ゐる普通鋸條と稱して居る此れは草帽辨の形狀が恰も鋸形をなして居るからである此等は其の編法に依り三空鋸條、單鋸條等の種類がある。

四、色物 染色麥稈を以て混合編製の總稱である前記各種中には皆な色物があるが變態が殊に多い、染色は皆な輸出外商より染料を地方集散市場の辨莊に與へ辨莊内で麥稈を染めて更に農家に交付するのである其の編法は辨莊の指示に由り色物を編製するので赤、藍、綠、褐等が最も多く染色上最も注意を要すべき點は左の通りである。

甲、染色の美觀を呈出すること



- 乙、染料の麥稈の内部に浸透すること
  - 丙、染色をして均一せしむること
  - 丁、麥稈の強弱光澤形状等を變更せしむること
- 然れども以上の染色方法は未だ幼稚にして歐米人の嗜好に適することは頗る困難であるから其の大半は歐洲に輸入せられて後彼の地で染色せられる故に今でも山東内地で一般色物の編製は極めて少額である。

### 五、品質及用途

麥稈眞田の品質良好なる者は次の如きものである。

- 一、原料の良品
- 二、接編の務めて緊き者
- 三、幅員の一定せる者
- 四、菱物及角物にありては菱及角の整然たる者
- 五、平物にありては平滑なる者

### 六、染色物にありては其染色鮮明なる者

麥稈眞田は極く細き麥稈を以て編み幅員の狭きものを高價品とする普通披草辨は原草辨より價が高い此れ披草辨の原料は概ね良好なる者を用る且麥稈を開裂して數條と爲すに因り麥稈は細薄となり手工も亦困難であるからである又披草辨は原草辨に比し軽く體裁も亦良好であるが強健で耐久力に富むで居るのは原草辨の特長である、今迄に英、米、佛等へ輸出せられたるものは沙河市場に集散する披草辨を主となし獨逸に輸出せられたものは直隸省、大名府産の原草辨が甚だ多い今此等支那産と外國産との歐米市場に於ける聲價を比較して觀ると次の通りである。

品別	意匠優劣	編法	耐久力	光澤	染色	需要者の廣狭	單位の低廉
支那産	下	下	中	下	下	上	上
日本産	下	中	下	上	下	上	中
伊、瑞産	上	上	上	下	上	中	下

是に由りて之れを觀れば山東産は意匠編方染色等伊、瑞等の産に及ばないが需要の比例は其の上位を占めて居る而して價額低廉なる故に一般界よりは尤に歡迎せられて居る。

次に各産地の麥稈眞田の品質に就て其の概略を述べれば次の通りである。

沙河地方の産は多く披草辨(十餘年前に在りては原草辨を編製せしも其後全然披草辨のみとなつた、而して平辨、勉辨は同敷を以て之れを編製する)で品質優良手工精巧にして頗る細き草辨を以て幅員の狭き者を編製する實に輸出麥稈眞田の主産地で他地方の遠く及ばざる處である蓋し其地の土質は一般に混砂の深壤土よりなり而して麥稈は柔軟良好の物を産するからで此れも亦一原因である此地斯業の開化最も早く故に編製は他處に較ぶれば優異の點がある、披草辨の産出は唯だ此の沙河地方のみで其他の産地は原草辨を編製するを以て主と爲す蓋し沙河地方以外の地は披草辨に用ゐる様な良好の麥稈を得ることが出来なからである。

平度地方の産は四草を以て主となす(前記種類の部参照)品質は不良である。

壽光、樂安(廣饒)新城(桓台)の産も亦四草を以て主となす、然れども平度地方産に比ぶれば品質は佳良である又此の地方では大麥の莖稈を産出し多く四草を編製するに用ふ品質も亦比較的良好である。

浮邱、寧陽、玉台地方の産は原草平辨を以て主となす品質の優劣は等しからず優なるもの

は青島を経て歐洲に輸出せられ劣なるものは日本へ仕向けられる。

昌邑地方より産する所の者は僅かに變態の粗品を以て主となす多種多様なれど品質の良好なるものは無い。

馬頭地方より産する所のものは原草黃辨を以て主となす品質は多く不良のもののみである。

陽信地方及直隸省興濟に産する所の者は原草白辨を主となす而して品質比較的良好なるものは歐米に向て多く輸出せらる。

直隸省大名府地方に産する所のものは原草花辨を以て主となす品質は佳良にして日獨戰爭以前には青島を經由して専ら獨逸に輸出せられたものである。

河南省鹿邑及惠濟橋地方に産する所のものは寬邊原草辨を主となし品質は不良である。

以上の内品質及手工の最佳良なる者は沙河地方産で陽信及直隸省大名、興濟の産之れに次ぐ其他は皆粗製品で品質良好なる者を産せず。

麥稈眞田の主要なる用途は帽子を製作するもので其他籠、箱、花盆等の容器を製作するが其れは極めて僅で全體の百分の一位である今麥稈眞田の主要なる需要地即ち歐洲の草帽製作の順序を概述し聊か參考の資料に供せん。



- 一、石膏を以て模型を造る。
  - 二、縫紉機械を以て草帽辨を縫ひ其の縫紉に随ひ適宜模型に合せて繼續して縫合する即ち縫紉の際に當り先づ尖頭より開始し次に冠部を造り終りに邊に及ぶ。
  - 三、膠を用ひ糊付にする。
  - 四、蒸氣室に入れ架上に排列して之を乾燥する。
  - 五、其の次に鐵製の Style Type (模型) を嵌合し上より同様の鐵製模型を乗せ重力を加へて更に蒸氣を通ずる。
  - 六、其の柔軟となりし時に當り再び模型に合せて其の形狀を整飾する。
  - 七、橡皮で造つた模型に合せ水壓力を加へ此處に始めて帽子の形體をなす。
  - 八、其れより裝飾専門の當事者に賣渡され裝飾をせられ六箇づゝ紙箱内に裝入せられ市場に送られ發賣せらるゝのである。
- 上述の如き複雑の手續を経るものであるから短き真田或は寛狭不同の者及切斷されたる真田漂白過度の者等は皆な不適用である而して山東の麥稈真田の編製及整理の技術は甚だ優良でないから猶歐米婦人の上等帽子製作用に供することは出来ないものである。

## 六、包裝及價格

收買人は農家に至り一戸毎に少量の真田を收買し適宜に一捲となし麻繩を以て捆り順次買入れ擔運の程度に達すれば止む買収して辨莊に擔運するには特別の包裝は施してない既に辨莊に到れば即ち收買人により整理せられ種類を區別して包裝となし之れを天津、青島、煙臺等に移出する其の包裝は箱裝と昂拍那包の二種がある、沙河地方に産する處の披草辨は多く箱裝を用ひ(平度及昌邑地方の少量産出の披草勉辨も亦同様箱裝を用ひ)其他地方に産する所の原草辨は皆昂拍那包を用ひ以下箱裝及昂拍那包の包裝に就て述べて見よう。

- 一、箱裝 箱裝を用ふる者は唯沙河地方産の披草辨で長さ六十碼を以て一把と爲し(前項整理の部参照)四百八十把を以て一箱と爲す沙河附近には木箱を専門に製作する者あり辨莊の註文に依り之れを製作する材料は鴨綠江或吉林地方の松板を用ひ長方形にして大小種々あり普通十五立方尺乃至三十立方尺内外に至る一箇の重量は二十斤乃至五十斤で價格は一元乃至二元である真田の上等品は薄くして狭きを以て自然小箱裝を用ゆる者は上等品である箱内には油紙及大阪紙(日本の連紙にして支那人の稱して大阪紙と爲す者

紙質は西洋紙に似て薄くして且つ白いを貼り眞田を其中に装入するのである、即ち先づ大阪紙を以て裏を包み更に油紙を以て其の上を覆ふ其際莊號(屋號)の商標を記したるものを入れて包装を終了するのである即ち蓋は釘付にし其の上部は麻繩を以て十字或は「キ」の字形に緊縛する外面に産地眞田の名稱莊號及箱の重量等必要の文字を記載する、一箱内の眞田の重量は其の品質の良否によりて異なるが普通は十斤乃至二十七、八斤位である品質愈良好なれば重量は愈輕い斯くの如く包装して輸出港に送附せられ外商に輸出せられ更に包装を解開し一つ／＼草辨を検査する(検査は邊の齊整均一と否とを主となす)即ち種類及邊の寬窄を區別の後再び箱に装入し前記同様の包装をして木箱を用ふ然れども多く原箱を使用し唯表面へ自己の商標を添記するに過ぎないのである、然し深く包装に注意する外商は特別に堅牢なる木箱を製作し別に装入を行ふ者もある、往年青島で新業に従事したる佛商振興洋行 China Straw Braid Export Co. の如きは最も嚴密に其の品質を検査し且つ木箱は必ず自己製作の者を用ひ換裝後輸出したものである。

二、昂拍那包 沙河地方に産する所の披草辨を除く他の地方所産の原草辨は皆昂拍那包と爲す長さ一百二十碼を以て一把と爲し二百四十把を以て一包となす包装は一百二十

把毎に麻絲を以て繋りて上捆となし二捆を合して一包となす、昂拍那は普通兼を用ひ編む者で麻絲を以て總て之れを捆す眞田には何等之れを覆ふ處の油紙を用ひず即ち昂拍那を以て之れを包む其の上部は麻繩を以て堅縛し十字又は「キ」の字形と爲す表面上に産地重量莊號等必要の文字を記載する一包の重量は眞田の種類に依り不同であるが大抵二百斤乃至八十斤位で普通一百三十斤内外の者が最も多い斯くの如く包装せられ輸出港に送附せられる輸出商は多く其の品質を検査せず種類に應じて上部を更に蒲蓆(アンペラ)を以て之れを包み自己の商標を記して之れを輸出する。

麥稈眞田の品質は大に優劣の差がある價格も亦一様でなく一箱及一包の價は十五兩位より三百餘兩位に及ぶ北部地方の披草辨一箱は下等品五十兩位より最上等品三百五十兩に至る原草辨一包は下等品十兩より最上等品三百二十兩に至る今主要輸出品に就て輸出港に於ける取引狀況を示せば次の通りである。

種類	數量	價格
沙河披草辨	一箱	五〇—三五〇
與濟原草白辨	同	五三—三三〇

山東に於ける麥稈眞田の調査



辛莊原草花辦	一箱	一五—一五〇 <small>(大名府産)</small>
陽信原草白辦	同	二〇—一〇〇
浮邱原草平辦	同	二〇—一八〇
惠濟橋原草平辦	同	一〇—一三〇
鹿邑原草平辦	同	二〇—一五〇
馬頭原草黃辦	同	一〇—二〇 <small>(日獨戦後は編製せず)</small>
樂安大四草	同	三〇内外
壽光四草	同	一五内外
新城四草	同	三〇—二〇
玉田原草辦	同	三〇—二〇

七、産額及集散狀況

支那の麥稈眞田は殆ど全部北部地方に産する處のものに係る、故に該地方の産額は實に支那の總産額である各産地の輸出に對しては多く青島と密切の關係があるから本節に於ては山東一省竝に北方一帯の日獨戦争前後の産額及集散狀況に就て述ぶることとした。

一、日獨開戦前の狀況 北部地方の麥稈眞田の産額に對しては何等統計の根據が無く且つ需要の額は年々不同である今十數年間斯業に従事し各産地及集散市場の狀況を詳知したる支那商人に就て集散概數及支那内地の消費比例を探聞し一面稅關統計に由り前數年間の輸出額を求め此等數目を以て基礎となし其産額を推測すれば大した誤りは無いであらうから以下其れに就て表示して見よう。

集散市場	集散額	集散市場	集散額
沙河 <small>(濰縣昌邑を合す)</small>	三萬箱	壽光樂安新城	三萬包
辛莊	四萬包	陽信	四萬包
浮邱及寧陽	八萬包	興濟	一萬二千包
玉頭	二萬包	惠濟橋	一萬四千包
馬頭	二萬包	合計	三萬九千包
鹿邑	四萬包		八萬九千包

備考 玉産は十數年前に在りては五六千包の集散を見たりし其の後漸次衰落し五六年前より全く集散しない様になつた。

前項包裝の部に述べし通り沙河産披草辦の一箱の重量は平均五十斤で其の他の原草辦一包

の重量は平均百二十斤である前記の數量を以て擔に換算すれば三萬箱は一萬五千擔となり合計十三萬七百擔となる。

即ち市場の集散總額は均しく十三萬擔と爲すことが出来る而して一面戰前六年間（自明治四十一年至大正二年）の輸出額を示せば次の通りである。

明治四十一年	一〇〇、五五三	明治四十二年	一三〇、九五四
同 四十三年	一二三、〇一一	同 四十四年	一一三、五四七
大正元年	二七、一四三	同 二年	一〇一、〇三四
平均年額	一一六、〇四一		

右表に示すが如く平均輸出年額は大約十一萬六千擔で又支那内地の消費額は支那商人の云ふ處に據れば幾んど輸出額の二十分の一を占めて居る即ち六千擔と見れば大差がない故に輸出消費合計十二萬二千擔である、此れは一方面より觀察したる生産總額で所謂市場にある前記集散總額も約八千擔の差がある、然れども大數より觀察せば殆ど近似の數を得たるものと謂ふことが出来る、此等の状況により推測せば戰前一年の生産總額は十二萬擔乃至十三萬擔で價額は七百二十萬兩乃至七百八十萬兩（價額は税關統計に據り一擔を平均六十

兩となし計算したものである）が至當の見解であらうと思はれる。

集散市場の最大なる者は沙河、辛莊、興濟、惠濟橋となす各産地より集散市場に來集する麥稈眞田（前項産地の部参照）は商人の手を経て更に輸出港に輸送せらるる其の販路は青島天津上海三港を以て主となす其他僅かに芝罘漢口に移出せらるる青島港は前記集散市場の全部を網羅し其の額十萬擔位で天津港は興濟、玉田、惠濟橋、陽信の各市場より移入し其の額一萬二三千擔上海港は惠濟橋、鹿邑の市場より移入し其額天津も略々同じく一萬二三千擔である其他僅かに沙河市場より芝罘に移入し或は惠濟橋市場より漢口に移入せらるる今各市場より三主要輸出港に移入の比例及徑路等を概述せば次の通りである。

- 甲、青島港に輸送せらるる者は左の如くである。
  - 一、沙河市場より輸送する者 稀に芝罘に出づる者あれど大部分は青島に仕向けらるる青島へ輸送の徑路は陸行も中途より山東鐵道によるものとの別がある、陸行は平度藍村等を通して青島に至るもので行程三百餘支里（一支里は我が六町以下之れに準ず）あり皆大車（三四頭曳の馬車）に搭載する一車の積載量は普通十四箱で運賃は三十五吊（京錢を使用す京錢とは制錢にして我が寛永通寶に類似す）内外で三日半を要する中途

より鐵道に搭載する者は先づ大車を丈嶺或は藍村に拉き此處より鐵道によるもので行程二日半を要する此の二徑路の中大抵前道に従ふものが多い何んとなれば後者の徑路に由れば中途にて又大車にて陸行しなければならぬ大車にて直ちに青島に至る者は歸途貨物あれば積載することが出来る而して丈嶺或は藍村に至るものは即ち大半は歸り荷がない故に運送夫は青島行を希望する之れが爲め短距離の割合に比較的運賃は高率で且つ汽車に積換等の手續を要する時日は前者に比し僅かに一日を減するのみである此の故を以て多く大車に由り陸行するのである。

二、浮邱及寧陽市場より輸送する者 全部青島に輸送する其の徑路推車(一輪車)を以て博山に出し再び山東鐵道に由り青島に達する。

三、馬頭市場より輸送する者 全部青島に輸送せらるゝ其徑路は推車を以て江蘇省、滄雲(青口)に送り再び戎克により青島へ到る。

四、新城壽光樂安市場より輸送する者 全部青島に輸送せらるゝ其の徑路は新城の貨物は推車或大車を以て周村に出し此處より山東鐵道に由り壽光樂安の貨は推車或は大車を以て濰縣に出し此處より山東鐵道に由り青島に輸送せらる。

五、信陽市場より輸送する者 集散額の十分の七は青島へ輸送せらるゝ其徑路は推車或は大車を以て濟南に出し此處より山東鐵道による。

六、興濟市場より輸送する者 集散額の十分の四は青島に輸送する其徑路は津浦鐵道にて濟南に出し此處より山東鐵道に搭載す。

七、辛莊市場より輸送する者 全部青島に輸送せらるゝ其の徑路は大車に搭載して東昌濟河を経て濟南に出す、其の間陸路五百支里六日行程で一車の積載量は十四包運賃四十餘吊(京錢)で濟南よりは山東鐵道に搭載す。

八、玉田市場より輸送する者 集散額の十分の一は青島に輸送する其の徑路は津浦鐵道に由り濟南に至り濟南より山東鐵道に搭載す。

九、鹿邑市場より輸送する者 鹿邑市場より青島へ輸送する者は極めて少なく集散額の百分二位である其の徑路は陸行して濟寧に出で濟寧より津浦鐵道に由り濟南に至り更に山東鐵道に由る。

十、惠濟橋市場より輸送するもの 集散額は十分の四は青島へ輸送せらるゝ其の徑路は黃河の水運に由り濟南に至り濟南より山東鐵道に由る。

乙、天津港に輸送するもの左の通りである。

一、興濟市場より輸送する者 集散額の十分の六は天津に輸送せらるゝ其の徑路は津浦鐵道に由る。

二、玉田市場より輸送する者 集散額の十分の九は天津に輸送せらるゝ其の徑路は京奉鐵道に由るものもあるが其他は多く陸行を爲す。

三、惠濟市場より輸送する者 集散額の十分の二は天津に輸送せらるゝ黃河水運に由り濟南に出で此より津浦鐵道に由るものと御河水運とに由る二種がある。

四、陽信市場より輸送する者 集散額の十分の三は天津に輸送せらるゝ其の徑路は興濟に到る迄は陸行をなし此處より津浦鐵道に由る。

丙、上海市場に輸送する者は左の通りである。

一、鹿邑市場より輸送する者 青島市場に輸送せらるゝ集散額の百分の二を除く外殆ど皆上海に輸送せらるゝ其の徑路は淮河水運及津浦鐵道に由り浦口或鎮江に出で此處より揚子江の水運滬寧鐵道等に由り上海に至る。

二、惠濟橋より輸送する者 集散額の十分の四は上海に輸送せらるゝ其の徑路は不明で

あるが大率は鹿邑市場より輸送せらるゝものと同徑路である。

以上は日獨開戦前の産額及集散の概要を述べたものである、従前北方の麥稈眞田は僅かに天津上海に至る者を除くの外は専ら煙臺港に吸収せられたものであるが獨逸が青島を經營する様になつてから本品は重要物産であつて此の輸出額は青島貿易の發展上必ず良好の結果を獲ることを審知し先づ獨逸本國商人に對し斯業を奨励し隨て此れと關係を有する支那人及び輸出外商をして所謂眞田業公會の麥稈眞田の商業機關を設置し資金を補助し慘憺經營極力吸収の策を講じた、一方又北方内地より煙臺に至る者は多くの日時を費し比較的運賃高く且つ損傷及危険の虞ありしかば前に煙臺に輸送する者も山東鐵道の開通に隨ひ乃ち轉じて迅速安全なる汽車輸送に由り青島に仕向けらるゝこととなり、斯業者も亦大いに便宜を得ることとなつた、斯くの如くにして青島の麥稈眞田貿易は急速に發達し集散總額中の約八割を吸収する盛況を呈し遂に煙臺の壘を奪ひ支那唯一の麥稈眞田市場となつたのである。

二、日獨戦後の狀況 歐洲市場に於ける麥稈眞田の需要は戰爭開始以來各國經濟界の恐慌に因り餘り重要視せられざる様になり其需要は遂に頗る減少し歐洲市場を以て第一の顧

客となせし麥稈眞田の輸出額亦自然減退した其の影響は更に各産地の生産額に迄も波及し新城、壽光、樂安、馬頭等の地方に在りては作業を全然中止し其他戦前に較ぶれば非常な減少である、即ち大正四年の輸出總額は僅かに四萬一千九百四十八擔價額三百七十四萬八百四十兩で支那商人の言に據り綜合判断すれば戦後麥稈眞田の生産年額は大約戦前の四割に當り即ち五萬擔内外である、輸出港に於ける集散状況の如きも青島は日獨戦争の影響を蒙り斯業の經營機關は破壊せられ又輸出外商の閉平移轉等に因り至く一大變化を受け戦前の青島の盛況は遂に轉じて煙臺及天津に移る様になつた、而して戦後主要輸出港の内地よりの移入年額は之れを知ること出来ぬが天津を以て第一となし次は芝罘で青島と上海とは伯仲の間にある。

#### 八、取引状態及一切の費用

取引機關の主要者を收買人、辦莊、辦行、輸出商の四種に分つ取引は必ず此の四種に由り行はれるものである以下分別して説明しよう。

一、收買人 收買人は普通販子と稱す(資本の大なる者を大販と稱し小なる者を小販と呼

ぶ)常に産地附近の市邑に在りて多く日を定めて麥稈眞田の市を開き此れに因り買出をする又直接農家各戸に至り收買し辦莊に送る、收買人は皆自己の計算に由りて之れを買出し代金は多く銅貨を以て支拂ふて居る、而して皆其の勢力範圍を畫し甲の範圍内は乙は之れを犯さざる習慣になつて居る、又辦莊は必ず收買人の手を経て之れを買集むるのである、收買人は辦莊の註文に因り收買する者であるか又任意に收買する者もある、辦莊と收買人との結算は現品交付の際之れを行ふもので決して代金前渡等のことはしない。

二、辦莊 辦莊とは集散市場に在りて麥稈眞田の賣買を業とする者で皆自己の名目、自家の計算を以て賣買取引を爲す純粹の普通商人である、即ち收買人が買集めたる麥稈眞田を整理及包装し更に輸出港の辦行を通じて輸出商に賣渡される、辦行の關係に對しては原來二種あり、(一)は多少の報酬を辦行に與へ委託して輸出商に製品を賣渡し(二)は辦行の註文を受け其の中人より製品を輸出商に販賣する但し何種を論せず總て輸出商指示の様式に應じて之れを行ふ者である、辦莊の大なる者は資本二十萬兩内外小なる者は二三萬兩に過ぎないが五萬兩以内の者が最も多い今主要集散市場の辦莊の數を示せば次の

山東に於ける麥稈原田の調査  
通りである。

集散市場	沙河	戰前	戰後	集散市場	樂安	戰前	戰後
	浮邱	四〇	二〇		辛莊	四	全部閉店
	寧陽	一五	不明		興濟	六七	四〇
	馬頭	一五	同		惠濟	一五	七
	壽光	一二	全部閉店		鹿橋	二〇	不明
			同		包	一〇	同

其他の市場は不明である而して各市場の辦莊は沙河商人の經營に係るもの多い之れに因り沙河市場の辦莊と常に相互聯絡を採つて居る。

三、辦行 輸送港に在りて輸出商と内地集散市場の辦莊の中間に立ち而して賣買を紹介するを以て專業と爲す然れども青島の辦行に在りては輸出商を兼營して居る者もある辦行は常に辦莊と聯絡して價額の變動包裝額等の通信を怠らず一面輸出外商と往來し外國より若し書信或は電信を以て註文あれば之れを引受ける、即ち註文様式を辦莊に送致し其の數量、價格、期限を通知し其の回答を受けたる後外商に傳ふ、自身の希望を以て取扱

ふ者は別に辦莊に照會せず)賣買契約を締結後貨物の引渡期限は一定してないが註文を受けてより二箇月乃至三箇月を以て普通とする今參考に供ふる爲め特に戰前青島の辦行並に戰後の狀況を列記すれば次の通りである。

商號	資本主	營業主	營業年數	戰後の狀況	商號	資本主	營業主	營業年數	戰後の狀況
天祥永	杜文廷	朱式文	九年	少數輸出	通聚成	任約卿	劉子山	四年	少數輸出
乾順公	延某外資	任錫三	三年	止	福和永	劉子山	劉子山	十年	止
恒和興	杜奎臣	金世年	六年	同	會旭祥	杜營權	姜雲軒	四年	同
乾和興	邱雪亭	馬蘭階	三年	少量輸出	恒盛隆	宋義山	宋義山	四年	少量輸出
知盛和	同	仲仙樓	十四年	止	恒昇和	徐秩卿	徐秩卿	十六年	止
正祥棧	杜積軒	杜積軒	十四年	同	天祥德	孫某	孫某	三年	同
通福	張壽世	宋雨亭	七年	少量輸出	和盛棧	資某	資某	三年	同
福聚棧	同	楊少衡	十六年	止	洪祥益	吳某	楊鴻前	九年	同

備考 右各辦行資本主の原籍は悉く華州縣、沙河地方に屬す。

即ち本品は皆沙河商人の取扱に係り斯業に對する沙河商人の勢力の大なることを知るべ

山東に於ける麥稈原田の調査



し右の内取扱額の最も多き者を通聚福、福聚棧、通聚成、福和永、會旭祥、正祥棧、天祥永等で戦前に於ける此等辦莊の取扱總額は毎年五六百萬兩に達し大なる者は一家百萬兩小なる者も亦二十萬兩位である、戦後に至り輸出外商の閉店に随ひ辦行の大多數は營業を休止し他の貿易事業に従事し目下形勢觀望の有様である。

四、輸出商 輸出商は必らず輸出港に在りて歐米賣買市場の輸入商の註文を受け辦行に移譲して品物を齊へ輸出をする者で多く外國商人に屬すと雖も亦辦行にして直接輸出商を兼營して居るものもある(青島の辦行中日本向輸出を取扱て居るものもあるが其數は甚だ尠ない)輸出外商は買辦をして専ら辦行との交渉に當らしめて居る。買辦は保證人又は保證金を提出して外商の指示に由り其の責任を負ひ辦行との取引には一定の費用を除くの外に買入れに對し報酬を徴収することになつて居る。

今戦前青島に於ける輸出外商を列記すれば次の通りである。

- |        |      |      |        |      |
|--------|------|------|--------|------|
| 捷成洋行   | 禮和洋行 | 哈喇洋行 | 瑞記洋行   | 維德洋行 |
| 益斯洋行   | 世昌洋行 | 利康洋行 | 禪臣洋行   | 衛禮洋行 |
| (以上獨商) | 立興洋行 | 振興洋行 | (以上佛商) | 怡和洋行 |

和記洋行 (以上英商)

此等輸出外商は皆相當の輸出を爲し就中捷成、振興、和記の三洋行は其の取扱額最も多く戦前に於ける一年の平均輸出總額は五百萬兩の盛況を呈した、戦後に至り最も多數を占めし獨商は全部閉店し佛商も其の賣買を中止し唯英商の怡和、和記、太古(太古は戦後に至り營業を開始したものである)の三洋行が斯業に従事して居るが微々たるものである。

以上は取引機關の大要であるが輸出外商は歐米市場の商店より書信又は電報にて註文を受けたる時は即ち買辦をして買入に従事せしむ此の際外商が買辦に指示する條項は期限種類數量、價格等で買辦は外商の意を承け即ち辦行と交渉する、辦行は更に辦莊に通知し品物を齊へしむるもので辦莊は製品既成の數量を漸次辦行に送至する豫約品が辦行に到達すれば買辦は外商の主人或は執事人と共に検査をする(前項包装の部参照)最嚴の検査は邊子の整齊均一で普通辦子尺と稱する真鍮製の密里米達尺を以て之れを量り合格すれば始めて現品を受取るのである、代金は若干の前渡しをするものもあるが多くは現品受領後二週間以内に清算するもので外商の支拂ふものは多く外國銀行の支拂手形である(青島戦前に在り

ては德華、滙豐、渣打銀行等の支拂手形を使用したものである。辦行は更に自身の店舗或は錢莊(小規模なる銀行の如きもの)發行の滙票(爲替の如きもの)を辦莊に交付する稀れには現銀を用ふる者もある、賣買成立の際辦行の紹介費及買辦の手數料は普通百分の二を天引して賣主由り支出せしむ故に賣主の辦莊に在りては千兩の賣買に對し辦行の紹介料二十兩買辦の手數料二十兩を除去するから賣主の實收は九百六十兩である。

開戦前青島の歐米商店との豫約習慣及び邊子寸法の成立法に就て之れを述べれば歐米商店と豫約する者は最初青島の輸出商は厳しく邊子の寸法を制限した、例へば七耗の者百箱六耗の者五十箱を買ふと云ふ有様である、然れども原來本品は支那土人婦女子の手工的工業に屬するから整齊均一は勢ひ不可能である之れに因り此の如き整齊規格に依りて取引を行ふ時は時々煩苦を惹起し或は損失を蒙ることが大きい青島の斯業従事者は協議の結果此の取引條件を廢止し次の如き規約を設けて邊子寸法の煩苦を避くることとした。

歐米に輸出する麥稈眞田の邊子は普通、五耗、五耗半、六耗、六耗半、七耗等と爲す、各半耗づゝの差がある、其の取引は例へば最狭幅寸法と云へば五耗の者幾箱、五耗より五耗半に至る者幾箱、五耗半より六耗の寸法に至る者幾箱を組合せて之れを行ふものである普

通歐米商店との豫約規定は(幾耗より幾耗に至る者幾百箱但し平均幅の寸法で幾耗を超過するを得ず)各寸法の箱數比例に對して爲し右指定の範圍を超過せずして賣手の思惑を以て適當に之れを組合せるのである、今一例を擧ぐれば即ち五耗より八耗に至る者百箱と云へば平均幅寸法七耗を超過することが出来ない又其の取引の時は左の如く之れを組合せるのである。

五耗の者	三	箱	五耗より五耗半に至る者	三	箱	
五耗半より六耗に至る者	五	箱	六耗より六耗半に至る者	十一	箱	
六耗半より七耗に至る者	二十一	箱	七耗より七耗半に至る者	二十五	箱	
七耗半より八耗に至る者	三十二	箱	合	計	百	箱

此の平均幅寸法は七耗を超過せず即六耗九七二五で平均幅寸法の採法は前記の組合せに由る試に一例を擧ぐれば先づ五耗を以て基礎となし其れ以上の寸法は五耗と五耗半との平均寸法五耗半と六耗との平均寸法を取り(以下此れに準ず)各組の箱數を以て之れを乗じ其の全體の合計を全箱數を以て之れを除じて即ち平均寸法を得るのである。

前記の例に在りて五耗三箱は即ち全部五耗と爲す、五耗より五耗半に至る者三箱は即ち此



の兩者寸法以内のもので賣手の思惑に随ひ適宜に組合せるのである、又三箱の各箱内の寸法は殆ど全部同一寸法ではないが五耗より五耗半に至る者、若干把を相互装入して置くものである(以下之れに準ず)更に必要條件は、一條の麥稈眞田を以て一把を構成するに當り量目の輕重は倍て置き寛さの寸法相等しきものを以て組合せるのである、最狭幅寸法より最寬幅寸法の中間の各寸法に至り必らず連續的に組合せるのである、即ち前記の例に在りて中間の寸法とは例へば六耗より六耗半に至る者、又五耗半より六耗に至る者と云ふが如くするので全然組合せの内に含まずと云ふが如きは絶對的にないのである。

右は組合による普通行ふ所の豫約法であるが此の外に従前の如く賣買に際し希望に由り單獨に寸法を指定して豫約を爲す者もある、例へば五耗の者五十箱又六耗の者百箱と云ふ様なもので此の時に當り價格は常に普通に比し高く買手には頗る不利である。現今麥稈眞田の取引に至りては必ず前記の機關を經由して之れを行ふもので輸出外商の未だ直接内地に到り買入せし者あるを聞かず。現今青島の辨行を介して麥稈眞田を收買し日本(大阪、神戸)に輸出するに青島日本間の一切の費用を擧げて一例を示して見よう。

戦後に於て日本向輸出の最も多きは浮邱、寧陽産の原草糶である重量二百斤容積二十二立方尺價格三十三兩の者一包に就て之れを示せば次の通りである。

- 一、青島の改包費 (輸出の際大半は改包する改包は非常に手数な要する且つ昂拍那及補綴の破損等の如き之れを取り換ゆる者が多い) 銀 四 角
- 二、埠頭に到る運送費 銀 八 仙
- 三、埠頭の包装費 銀 五 仙
- 四、埠頭料 銀 二 角
- 五、輸出税 (百斤に對し海關兩三錢五分一包は二百斤なるを以て七錢を要す海關一兩は銀一圓五十六錢八厘の換算率である) 銀 一 元 一 角
- 七、船賃 (四十立方尺は銀五元一包の容積は二十五立方尺分損擔保は百元に對し二角五仙の保險料を要する、一包の價格は輸出地の時價銀六十元である、普通八割をなす即ち銀四十八元に對する保險料を要する) 銀 二 元 五 角
- 七、海上保險料 銀 一 角 二 仙
- 計 銀 四 元 四 角 五 仙

右は重量二百斤容積二十五立方尺價額三十三兩の者一包に對する青島、日本間の現在に於ける一切の費用である、其の他包装及價額は不同があるが此の要式に準ずる、計算は左記の事項に基き則ち其の一切の費用を知ることが出来る(改装費、運送費、包装費等は餘り大差が無い)。

埠頭料 一箇 銀二角五仙  
 其他の者 一包 銀二角

輸出税 百斤に對し海關兩三錢五分海關兩の一兩は銀一元五  
角六仙八厘の換算率

船費 四十立方尺の者 銀五元

海上保険料 金損擔保 百元に付 銀一角八仙  
 分損擔保 同 銀二角五仙

備考 海上保険は皆販賣地其の時價を定む普通八割内外に對して保險料を附する、普通輸出地の時價に見越し利益(輸出地時價の十分の一二)を加算し販賣地の一切の費用に之れを合計し以て販賣地の時價を爲すのである

茲に再び山東鐵道驛中麥稈眞田の產出盛なる濟南、博山、丈嶺、周村、各驛より青島に至る運賃を示せば次の通りである。

	一車一噸の積載運賃	少量裝載
濟南	四一九	五〇三
博山	四一一	五七五
丈嶺	三四五	四二四
		四八三
		一一一

周村

四〇六

四八七

五六八

一七四

備考 運賃は銀を用ふ、麥稈眞田は比較的重量輕くして容積大なる者は即ち十五噸車に十噸以上を積載することが出来ない、表中十五噸容積の一噸の運賃を掲げしは十五噸車を借り切りて他の重貨と合裝の場合を括して言ふたものである、山東鐵道の一噸は一千基瓦で即ち一千六百六十七斤百基瓦百六十七斤七である、裝載少量の上貨下貨は鐵道の負擔に由るが一車裝載の際は即ち上貨下貨は俱に貨主の負擔に由り其の費用は一噸に對し銀一角五仙に當る。

再び輸出税に就て之れを言へば從來麥稈眞田の輸出税は一般に百斤に對して七錢(海關兩)を徵收する然れども獎勵輸出品で特に外國諸國に至る者に限り一千九百十五年四月一日より半減して三錢五分となした、若し支那の甲港より乙港に移出する場合は輸出税は七錢を課せられる。

九、青島の輸出状態

一、戦前の状態 既述の如く戦前に於ける青島麥稈眞田貿易は獨逸政廳の保護獎勵と山東鐵道との開通に因り急速に發達し忽ち天津、芝罘、上海等を凌駕して上位を占むる様になつた即ち一千九百〇五年に於ける輸出額は第一位を占め其後年と共に向上發達し日獨戦前に在りては支那輸出總額の八割を占むる盛況を呈した今主要輸出港の戦争前十年間

の輸出數量を掲げて各港の盛衰を窺はん。

年次	青島	芝罘	天津	上海
明治三十七年	二五、三八三	一六、六九七	二六、一九八	一〇、五〇八
同三十八年	四一、四一七	一〇、八三六	二二、二九八	八、三〇七
同三十九年	六二、三八四	五〇、七四	二八、七一五	一一、三三三
同四十年	六二、〇七八	一四、一五	二四、四四四	一一、八六〇
同四十一年	六七、一九〇	七八一	一一、三七八	一一、二〇四
同四十二年	一〇三、九九六	三二六	一四、三八八	一一、二五二
同四十三年	一〇〇、〇一五	二二	七、四五五	一五、五二一
同四十四年	八八、〇〇二	四	一一、一五六	一四、三八五
大正元年	一〇四、七二九	一	一一、〇〇六	九、三八六
同二年	八七、二八六	一	七、六七七	五、四七九

右表を觀るに青島が獨り繼長増高の勢を呈し之れに反して他の三港は漸次衰退の氣運を示し就中芝罘が最も甚だしく殆ど輸出の影を見ざる様になつた、今戰爭開始の前年（大正二年）の青島港の輸出數量及價額竝に輸出地に就て表示すれば次の通りである。

輸出地	數量(擔)	價額(兩)	輸出地	數量(擔)	價額(兩)
佛國	三二、九九八	一、四六五、三七八	白耳義	六、四二二	二、九二七、三三三
獨逸	九、五七九	四、二六七、七五三	英拿	三、一〇六	一一、九四七、一
米國	五、六三八	二、五三三、七八七	加洲	一、六八	五、五六九
伊國	三、〇二〇	一、四七〇、二四	香港	三七	一、八九一
比律	八五	三、二四七	芝罘	一〇	七、七六
和蘭	二七	八九二	廣東	五九	三、四四〇
上海	一五、六四四	八、三四、一八六	合計	八七、二八六	四、一八四、七一四
汕頭	四五	三、三三五			
日本	一〇、二九六	六、一三〇、七四			

右表を根據として戰爭前に於ける青島港と輸出地との關係を知悉することが出来る、即ち佛國は常に需要最多の國で輸出額の百分の三十四を占めて居る又上海及日本へ仕向けられる者は多く更に包裝を換へて歐米市場に輸出せらるゝ而して此等の輸出は獨逸商人に由り取扱はれる者最も多く佛英兩商之れに次ぐ其他僅かに支那商人が日本及支那諸港に對する輸出を若干取扱つて居るだけである。

二、戦後の状態 歐洲戦争の影響を受けて支那の麥稈真田も亦自然減少し其の輸出は之れを戦争前に較ぶれば其の額約三分の一に低下した斯くの如く日獨戦争の禍は青島に於ける斯業者に莫大の障礙を加へた今即ち大正四年(戦争開始の翌年)の主要輸出港よりの輸出數量を示さば次の通りである。(本年支那の總輸出額は四一九四八億、價額三七四〇八四〇兩である但し同年一月より八月に至る迄青島税關は日本官憲の隷屬期間であるから同港よりの輸出を除くこととした)

輸出港	輸出數量	輸出價額	輸出港	輸出數量	輸出價格
青島(九月以後の分)	五六五三	二七三、一七五	天津	二五五〇	一一二、八八〇
芝罘	六六六二	一九九六、六九一	上海	三、五〇八	二二四、二七三

備考 此の外一月より八月に至る青島税關の同港より輸出數量は二萬六千〇二擔で此等は多く獨商達成、維德、利康等の各洋行が戦争前に買占めし絶ての貨物を米國人の名義で上海及天津に輸出したものである。是れに由り之れを觀れば戦前に比し輸出の最も減退せし者は實に青島である、天津は反て増額し久しく不振状態の芝罘は捲土重來の勢を呈して俄然其の頭角を顯し而して價額に在りては第一位を占むる様になつた、蓋し之れ青島斯業衰微の反影に外ならざるのみである。

戦後青島の輸出商は僅かに英商和記、怡和、太古、三洋行及支那商の盛隆、通聚、福等の三四家のみである、之れに因り商況も亦萎靡して振はず英商は上海に輸出するを以て主となし支那商は日本及上海に輸出する日本商中、三井、原田、大澤、湯淺等の各商店は見本を各地に送り取引を開始せんとし居れど猶未だ實現せられない。

今戦後に於ける青島港の輸出數量及輸出地を表示して其狀況を窺はん(大正四年一月より八月に至る迄税關は日本官憲の隷屬期間であるから除くこととした)

輸出地	大正四年九月以後		大正五年		大正六年二月分	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
芝罘	三七	一一三四	一一三	一三〇三	一	一
上海	二〇六四	七四、三七一	五〇四九	三〇三、五五四	八八	六、二七〇
天津	—	—	一一	九七	—	—
大連	三六〇	二一、七三一	一五	一、〇六九	二二	八五五
日本	三、一九二	一七四、八三九	九八七四	六五七、二八七	六七九	四八、三三九
合計	五、六五三	二七三、一七五	一五、一九四	九七五、八七二	七七九	五五、五〇四

即ち戦後輸出地の主なるものは日本及上海で此等は總て包装を換へて歐米諸國へ仕向けられる又大連に輸出する者も亦更に南滿東清西伯利亞等の諸鐵道を経て歐洲へ送らるゝ



### 十、結論

歐戰開始以來支那產麥稈眞田の輸出は頗に減少し生産も亦其の影響を受けて減退した然れども一旦歐戰終局を告ぐれば列邦の需要数は必らず恢復することが出来ること確信する、故に編製を改良し産額を増加することは實に當務の急である然れども本品は全然特種貿易品であるから品質の鑑別需要の景況及賣買關係は特別の経験があるものでなければ殆ど從事することの出来ない性質のものである故に青島の對外貿易が平調となれば斯業商の勃興を促し隨て再び賣買市場に活躍する様になるであらう即ち従前の斯業従事の支那人及輸出外商の手に因り再び開發せらるゝは必然である現今邦人にして斯業に従事する者は支那產麥稈眞田に對して今日迄に深く研究し居らず取引の經驗に乏しく且つ本品の取引に就て未だ嘗て海外商との聯絡がなく反對の地位に孤立して支那商及輸出外商と相互競争することは到底不可能で唯だ他人の活躍を傍觀するは當然で火を見るよりも明かなる事實である、現在の狀況により之れを推せば、本品輸出の邦商の前途たるや頗る憂慮すべきものであると

思料せらるゝ二三の邦商は深く此の點に注意して斯業に經驗ある支那人に對して日々研究を怠らず見本を海外の各商店に送致し確實なる取引機關を結ばんとして居るが必ず可喜の現象を呈することが出来るであらう更に此の際麥稈眞田の編製、品質、商習慣等凡て取引を行ひ能ふ程度に就て極力研究し且つ海外貿易商と斯業の聯絡を求むることは最も緊要の事項であると斷言する。

## 露領黒龍州通信

於セヤ河沿岸 山田久太郎

一、露領の女子軍隊 先般來ブラゴエシチンスクの留守師團に於て年齢満十八歳以上二十歳未満、體格強壯にして係累なきものとの條件下に女子軍を編成すべく志願者を募りたるに應募者は約六百名に達し其中約二百名の合格者を出せり。合格者は採用と同時に丈けなす黒髪否金髪を剪りて五分刈の坊主頭となり軍服を著し武器の附與を受け簡單なる教育を施し其成るを待ち戦地に送るものにして服裝を始め毫も男子の軍隊と異ならざるなり唯兵其物の素質の上に比丘尼と壯丁との差あるのみ。前項の外ブラゴエシチンスクにはハバロスク一帯の地方に於て採用され出征の途次滯在中のもの約四百名ありしが其最大部分は既に出發して征途に就きしが如し。體格検査は嚴重ならざるものと見ゆ太刀山然たる大物もあれば中肉中脊乃至小柄の可愛き小物もあり又人三化七の醜婦もあれば窈窕花を欺く美婦もあり海千山千的妖婦流もあれば氣品の高き令嬢流もあり玉石混淆真に犬羊牛馬を同埒内に收容せしものあり。



前述の如く服装其他男子の軍人と同一なるも婦人特に妙齡者のこととて接近して熟視すれば顔面及頸筋邊の色白く手指等も所謂白魚式又概して皮膚も滑かにして何となく嬌々しく人をして矢張女性は女性なりを思はしむ尙ほ臀部の太きは彼等の特徴にして、其間大に滑稽趣味あり。

彼等果して國家興亡の岐るゝ職務に耐ふるや否や大なる疑問なるべし聞けば應募者中には天草的將た高原的經歷あるものも少からずして當局者の彼等採用の目的は職務の補助以外更に戦地の軍隊に對し或る種の給養的意味もあるものなるか否其れが主たるか事實然りとせば本軍の任務は其本性に適する特種の方面にあるものなれば立派に其任を果すに相違なかるべし。

二、沙金地帯の概況 黒龍江を中心とする露支の兩領一帯は有名なる沙金の産地にして到る處に之を産し其豊富なる唯驚くの外なし、殊に露領は最も其産出に富み河川に沿ひ若くは之に連る地にして殆ど存在せざるはなしと云ふ有様なり詳報は後日に譲り今一端を録すべし。

露領東部西比利の沙金區に四大別あり其南端なるをブレヤ河孟區次をセレムジャ河孟區

其次をゼヤ河孟區最北端のものを黒龍江上流河孟區となす。

ブレヤ河孟區は殆ど採掘未著手のものにして其他は部分的に彼處此處採掘中に屬す、此中邦人の著手に適するは交通其他の關係上中間の二區即ちセレムジャ河孟區及ゼヤ河孟區とす我久原工業會社が早くも此點に著目し過般來調査員を派遣し一部の調査を遂げたるも故なしとせず。

金の採掘と云へば佐渡又は生野などの困難なる法式を聯想せしむるも此地帯のものは器械を用ゐざるは勿論複雑なる器具すら用ゐずして事足るものにて多くは單に上層二、三尺の土を除けば直に沙金地層(厚さ七、八尺のもの多し)となるを以て牛勞掘りか芋掘りか若くは甘草掘の作業に等しく其分離法も土混りの穀物を洗ふに類す而かも其含有量は土砂の千分の十五乃至二十に達す立ちながら其邊の土人に試掘せしむるも僅少の時間内に二匁内外の金粒を得らるゝ實狀なり以て其梗概を窺ふべし。

露國官憲の發表せる統計によれば最近一箇年に於ける一帯の産額は五百布度(一布度は四貫三百六十目)に過ぎざるも私かに支領の黒河に運ばれ賣却さるゝものゝみにても二千布度の上に出づる事實あるを以て該官憲の數字は事實の十五分の一か二十分の一にも

相當せざるべし蓋し到る處に五人十人組をなして盜掘するものを見、不幸にして其現場を鐵區主に發見せらるゝも時に鐵拳の見舞を受くることある位に止るなり若し夫れ一旦掘りたる跡の掘返し(此掘返しにて侮り難き含有量あり)に至りては何人が探掘するも隨意にして敢て咎むる者なし。

此邊に一袋三百圓なる語あり其因由を質せば麥粉一袋を食料として盜掘に従事する時は其盡くる迄の間に三百圓に價する沙金を得るは容易なるより發生せしものなりと。

不正的利益を得らるゝの地は得て賭博の流行あり賣春婦の跋扈あり賄賂の公行あるを常とす此一帶亦共數に漏れず其盛なる意想の外にありゼヤ河の上流ブラゴエシチンスクを去る約七百五十露里のトンビキにすら尙且つ我醜業婦のみにて約三十名を算し沙金と物々交換的に獸類の如き奴共を對手に營業しつゝあり其實狀や知るべきのみ。

過る五月十八日付を以て露政府は一帶地域の所有權を外人に移すを認むる法律を發布し其細則の出でざる爲め未だ實行を見るに至らずと聞く従つて目今にては尙ほ露人の名義により露人の役員を使役し探掘するの外なきも五千一萬の小資本より五萬、十萬の中資本にても事實上の權利を得らるゝ所甚だ多し斯く事業の著手容易となりしも歐戰の結果

經濟上疲憊の極度に達せしに因るものにして乘すべき機會は眞に今なり然るに久原社員を始め我視察員又は調査員等の多くは専門家の肩書あるにも不拘沙金に關する實地的智識に乏しく加ふるに高標者流の臆病者のみにて少し風體の變りたる露支人を見るときは馬賊と即斷し面色を變じて遁逃する有様(先般ロスの一軒家に投宿し其家の主人が他用ありて外出せしを見てこは必ず馬賊の家なり同類を呼びに行きしものなりと猖獗なす所を知らざりし滑稽を演せしものあり)にて調査も何もあつたものに非らず從て透視的視察をなすもの多きは嘆すべきなり。

目下の露領は半ば無警察にして都市に於ても多數の無賴漢ありて自畫殺人強盜等の行はるゝは珍らしからざる(過る十三日ブラゴエシチンスクに於て一度に六名の殺人ありたる如き)新聞紙の報する程の危険なし一概に云はれざるも凶手に罹るものゝ多くは不注意に基因するに似たり現に久原社員の確れたる二氏(一行皆然り)の如きも氣毒なれども其原因は到る所豪遊を極め且つ金銀寶石に身を飾り會社を笠に人を人とも思はぬ傲慢なる素振と其くせ大變臆病なりしとにありとの風説多し、兎に角西比利地方に於ける我國の發展上喜ばしからざる事柄なり。

セテムジャ河、ゼヤ河共にブラゴエシチンスク市より沙金地帯の尖端方面迄（七、八百露里の間）概ね隔日位に官私小汽船の發航ありて交通甚だ便なり。

三、森林地帯と樹木の種類 一般に樹木に富み到る所に小森林の點在するを見る然れども其最も豊富なるは上記沙金地帯なりとす殊にセテムジャ河のストイバ附近より上流地方竝にゼヤ河のボムナーク附近より上流地方にして風雨に因る倒木の爲め足を容れ難く其腐朽して丈餘の土壤をなす所すら珍しからずと云ふ是等の森林は不完全なる方法により伐採せられ後となして其間を流るゝゼヤ河等によりストラジフカ及ブラゴエシチンスク方面に流下せらるゝものにして單に前者の埠頭のみにては後（一連約二百本内外のもの多し）二百八十連、分解のものを合せ其數實に數萬本（長さ六間内外末口一尺七、八寸内外のもの）に達す従て其價格も低廉にして製材濟のものも南滿地方の三分一程度に過ぎず。

樹種は楡、松、柎の類を多しとす既梨地甚だ少く大體の形勢は北海道の森林地帯に彷彿す。

四、物資缺乏の慘狀 麥粉魚類の如き日常必需品すら一人一回幾何と制限の上販賣され居

る有様にて諸雜貨は勿論食料品に至るまで眞に缺乏の極にあり此分にては本年冬季ともならば餓死に迫る怖ありとて憂慮しあるもの多し洵に悲惨の光景なり。

物資の現狀斯の如くなるを以て若し自然に委するときは奸商等の乗する所となり如何なる暴騰を見るやも知れざれども官憲の主食物（上下を通じ毎日なくてはならぬもの）販賣に關する取締意外に公平且つ嚴重にして仕入價格に幾分の利益を加へたる標準價を規定し其れ以上に販賣せしめざるが故に不當の利を貪る能はざるなり此の如き制度の存するは貧富の懸隔甚だしきを語るものにして慶すべきに非らざるは勿論なれども既に其これある以上適切なる一種の社會政策にして吾人に取り參考とすべき價値あるべし。

食料品中にも多少贅澤なるもの竝に有無何れにても生活上支障なきものゝ如きに至りては別に制限なきを以て極端の暴價に上り居れり、卵一箇二十哥を呼び下等の巻煙草十本四十哥少し上物は同じく七、八十哥にして普通の喫煙家にも月に煙代四、五十留を要する如き其一例なり又邦人の主食たる米も益々暴騰し二斗入一俵四十留を稱へつゝありて苦痛察するに餘りあり戰況の悲報頻々たるより一たび支領に入る時は殆ど露國紙幣の價値なく何日此形勢を挽回し得るか餘所事ながら痛嘆に堪へざるなり吾人も其影響を

受け大に閉口せり。

## 林西の近況

囑託 大神 正節

○蒙匪に備ふる事極めて嚴重 海拉爾附近に活動を開始せしとの噂ある蒙匪の威壓を感せし乎前敵司令部に於ては俄に東門を去る二支里の山頂に天幕を張り若干の兵を之に配備し日夜警戒に當らしめ居候外之迄に無く珍らしき事には歩騎砲各隊日々操練を行ひ或は二道街米公館東側空地に練習所なるものを設け連日歩兵各箇教練を爲すあり亦過日余が司令部に米上將街を訪問せし際不在なりしを以て行先を副官に尋ねし時の返答より推定するに林西東北方五、六十支里附近には蒙匪に備ふる防禦工事を爲しをるにあらざるかとも思はれ兎角客秋の危機一髪に鑑み周到の注意を拂ひ軍界大に緊張の状態に御座候。

○過し孟蘭會と来る可き仲秋の節 去る陰曆十四、十五、十六の三日間は孟蘭會に當り各商舖五色の國旗を掲げ十四日早朝米司令が堂々たる正装にて東門裡祠堂に血淚頓首戦病死者の靈祭を施行したる以後日夜市民の參詣者絶えず大に賑ひ申候亦來る陰曆八月十五日は仲秋觀月の節なるを以て今より月餅等の賣出仲々盛にして市況に活氣の幾分を加へ居り候因に祠堂寄附金米司令の大洋五百元商務會の大洋二百元を筆頭とし合計大洋千三百餘元に候。

○モルヒネ使用者の追放 司令部よりモルヒネ使用者追放の嚴命を發し候結果稽查局に於ては極力之が檢舉に勤め本月六、七兩日間に男女合計約五十名を城外に追放したるも之等全部は乞食體の者のみにして檢舉法飽迄支那式を發揮致し居候元來市内に於けるモヒ阿片使用者の全滅を期しをれる司令部の主題より打算すれば爲に各隊の將卒も大に減少する譯となり鄭、常兩統領等の常習阿片喫煙者も追つ拂はれざる可からざるに頭隠して尻を出しをれるの處置之が支那一般の通例とは憐む可く亦た憂ふ可き善隣に御座候はず哉。

○市中近郷極めて平穩無事 近々赤峰よりの通信によれば同地方到る處馬賊の跳梁を極め危険千萬との事に候も當地附近は唯軍界が若干蒙匪の威壓を感じをれると察せらるゝの外頗る平穩無事に候。

○其の後當林西の天候と氣温 落葉未だ天下の秋を報せざるも次記温度表は秋氣到來を示

し目下天眞の清寂を味ふ可き好時節に候。

月 日	天 候	最高温度	最低温度
八月三十一日	晴	七十五度	五十二度
九月一日	午前降雨、午後晴れ	七十一度	六十度
同 二日	晴	六十八度	四十九度
同 三日	同	七十度	四十六度
同 四日	同	七十六度	四十七度
同 五日	降雨夜中風猛烈	六十九度	五十一度
同 六日	曇 天 強 風	六十一度	五十二度
同 七日	晴	六十四度	四十八度
同 八日	同	七十一度	四十度

○軍界頭目連の貸家 余の駐在せる燒酒醸造業東生泉は當市場現在の位置として場末なるも將來を見越せし商人により其の對面に宏大なる店舖向き家屋新築中に候亦米上將街は二道街二鄭統領は五道街に各莊大なる數戸の店舖向き貸家を建築中の處最早八分通り出來上

り居り申候支那大官と抜目無き金儲け即ち成金の贅澤と同じく今更事新しく彼此れ申す間敷候。

○在留日本人盜難に罹る 當地在住入齒業森要は去る八月三十一日午前六時頃用便に赴きたる瞬間の留守中入齒用小道具一式在中の皮製小靴一箇を何人にか盜まれ未だ犯人縛につかず爲に同人は種々工夫を凝らし代用品を自ら造り漸くにして營業繼續中なるは實に氣毒千萬に存せられ田舎住ひに決して油斷のならぬは小泥棒に御座候。

○余は近々純蒙地帯を跋渉せんぞす 余は明後十日の大吉日を選び林西出發大、小巴林を經由し阿爾科爾沁旗に至り更に西北行東、西烏珠穆沁王府を訪ひタブスノール(鹽湖)を一週し出來得可くんば同湖畔に數日滞在調査に従事する豫定に致し居候何れ旅行中の萬事萬端に至りては林西歸著後報告により貴意を可得先は林西近況右の如くに御座候。

### 扶餘(伯都訥)近況報告

一、露貨及黑龍江省官帖下落に伴ふ市面の影響 近時露貨暴落に暴落を重ねたる結果各地共商取引に甚大なる影響を蒙りたるが當扶餘も其例に漏れず打撃を蒙りたるもの少からず内でも錢舖は長春哈爾濱等に取引關係を有し兩地に於て盛に定期買買を爲しつゝありしを以て打撃一層甚だしく大部分莫大の損失を招き破産の止むを得ざる状態にあり殊に當扶餘は營口に於ける過爐銀の如く扶帳と稱し現金取引を爲さず錢舖の手を経て單に帳簿上の決済のみを爲す慣習あり隨て錢舖一度倒産せば其影響直に各方面に及び爲に目下關係取引者間に於て頗る紛擾を重ねつゝあり商務會にては之が調停整理を爲し居るも未だ其緒に就かざるものゝ如し。

斯る状態なるを以て市中は商取引甚だしく阻害され各地との爲替は銀行に依るの外殆ど不可能となり兩替も僅少に限られ露貨は單に相場はあるも買手なく金融沈衰せり今當地の主たる錢舖屋號資本金等を擧ぐれば下の如し。

屋號	資本金	執事姓名	備考
天豐源	二〇〇〇〇〇	玉泰昌	哈市天豐源の支店にて本年新設に係り損失最も多く破産の狀態に在り
永豐德	五〇〇〇〇	劉星閣	昨年度は十數萬兩を利益し業務頗る發展しつゝありしも大損失を招き破産せんす

和記	田奉賢	本店も業務盛なりしも永豐徳と同じく損失多く將來業務維持不明なり
阜豐厚	張星閣	損失稍僅少なむが如し
德義合	趙興周	營業の規模大ならず隨て損失も大ならざるが如し

次に黑龍江省官帖は例年吉林官帖に比し一割乃至一割五分方低廉なりしに其後三割乃至三割五分位迄低落し一時稍小康を保ち居りしが最近に於ける蒙匪跳梁と黑龍江省支那軍隊の不穩との爲急天直下の勢を以て六、七割方迄下落し尙人心の動搖激しきを以て下落せんとする形勢に在り既に長春に於ける相場は十割に低下せる由元來扶餘は吉林省にも拘はらず日常取引本位貨は黑龍江省官帖にして其流通頗る大なるを以て吉林省中他地方は吉林官帖の昂騰に伴ひ一般好景氣にて購買力も増加せるに引換へ當地は全然反對の現象を呈し且つ加ふるに前記の如く露貨の暴落に伴ふ打撃等の爲め市況甚だしく沈衰の狀態に在り然れども本年當地作物は小麥を除き(小麥は三四分作)其他の穀物は比較的豐作にて又黑龍江省支那軍隊の動搖も許師長の移駐應諾に依り平穩に歸すべしとの説もあり旁々穀物出廻時期に至らば或は市況の恢復を見るを得べきか。

二、征蒙軍隊出動の件 黑龍江蒙匪山方面に大部隊の蒙匪出現し跳梁を極めつゝある爲各

地より支那軍隊派遣されつゝある模様なるが當地知事の言に據れば第三旅は全部出征を命ぜられ續々出發しつゝあり又第四旅の一部も出動する筈にて當地駐屯第三旅馬隊第一營は既に數日前出征し之が補充には雙城堡駐屯第四旅馬隊第一營來駐する由而て營長及一連は昨日到着せり。

## 開魯近況

囑託 宮崎吉藏

前略兼て奈曼旗方面旅行中に有之候處本日無恙歸回仕候間此段御報告申上候途上は至極平穩無事に有之候然るに本地方一圓は兼ての豫想に違はず既に兩三箇處に於て稍々大團の鬪匪(馮麟閣の部下の由)竄擾して焚殺搶掠を恣にし居り候爲官民の驚愕一方ならず加之討伐隊の敗北に次ぎ怪しき警報續々として到來致居候由なきは當市場の如きも復た民國初年の轍を踏まんかと人心恟々其堵を安んせざる有様に御座候随つて型の如く謠言蜚語紛々として生じ商舖は申すに及ばず城内も黄昏前早くも閉扉されて其警戒振りの物々しき餘りに滑稽なれども又洵に惘然に不堪候。草々頓首

## 自第一號至第十二號滿蒙經濟事情總目次

### 第一號

緒言

滿蒙略圖

滿蒙の意義

滿蒙の土地經營

滿洲の貿易に就て

東清鐵道南支線第二松花江以南各驛一覽

長春より第二松花江に至る鐵道線各驛經濟事情

東清鐵道南支線附近重要都市

滿洲の支那商店組織

渡滿案内

課税に就て

總目次

第二號

柞蠶に就て

滿洲に於ける小麥粉の生産狀況

附中部支那に於ける製粉會社及本邦に於ける主なる製粉會社

滿蒙に於ける我地方經營

日本商品市場としての哈爾濱

錦西縣大窪溝炭礦に就て

松花江の水運

滿洲に於ける紙幣發行銀行

東三省煙草及酒稅の沿革並に其の現行稅率

伯都訥近況

第三號

松花江下航日記

第一松花江水運の狀況

錦州事情

第一松花江沿岸に於ける都市

滿洲產煙草

滿洲に於ける農家と耕地

南滿の水田

蒙古鹽合同販賣契約

赤峰近信

北滿に於ける米人の農業

第四號

吉長鐵道

吉林事情

哈爾濱より南下日記

滿蒙に於ける天惠的なる牧羊業

山東省沙河に集散する麥稈真田に就て



山東省土山郷の鹹鹽に就て

赤峰通信

露領近信

哈爾濱附近の冬越船

東蒙に於ける耕作地の徵稅

第五號

長春事情

南滿洲の米作果樹園藝及羊毛現況調査

滿洲の通貨及建相場

滿洲の金融と金融機關

在滿邦人經營の銀行

大正五年に於ける邦人の發展

滿洲移住鮮人の國籍取得に就て

連山港の價值

滿洲に於ける日支合辦事業

關東都督府の産業獎勵

東蒙に於ける甘草

東三省地租收入豫算

東部西伯利亞地方に於ける邦人の爲すべき事業

洮南近信及洮南縣下支那人の資産額

赤峰に於ける日本人の現狀

經棚近信

白音他拉近信

大正五年大連貿易概況

滿洲に於ける新聞雜誌

第六號

大正五年北滿大豆作柄其他に就て

滿蒙産業及邦人發展狀況視察旅行記

- 拘鹿に於ける邦人發展狀況並有望なる事業
- 滿洲の工業に就て
- 滿洲に於ける正金銀行の特貸現況
- 烏丹城事情
- 東蒙甘草集散狀況
- 松花江下流沿革の農産物
- 錦州に於ける通貨及金融
- 奉天附近一帶に於ける日本人の農業
- 大正五年末に於ける滿洲各地の市況
- 黑龍江省通信
- ハルビン近信
- 經棚近信
- 赤峰近信
- 奉天に於ける銀行設立計畫

一月中の滿洲通貨相場

第七號

- 關東州土地制度梗概
- 商租權
- 大連の發達
- 伯都訥事情
- 滿洲に於ける小麥粉の輸出入狀況
- 滿蒙産業調査並邦人發展狀況視察報告
- 滿洲の漁業
- 大正六年一月滿洲各地市況
- 黑龍江省通信
- 熱河所屬各地炭鑛調査
- 二月中滿洲通貨相場表

第八號

滿蒙の交通

大連に於ける特産物輸出状況

滿蒙産業調査並邦人發展狀況視察報告

吉林官帖

大正六年二月中滿洲各地市況

海龍縣に於ける帖子問題

東三省の畜産

三月中滿洲通信相場

第九號

滿洲の鹽業

滿蒙産業調査並邦人發展狀況視察報告

平泉赤峰方面貨物の輸出入に就て

滿洲産牛骨の概況

附 支那産牛骨

赤峰方面に企業を以て調査せる復命書

北滿に於ける新鐵道

大正六年三月滿洲各地市況

滿洲に於ける支那商店帳簿組織

東三省監裁培獎勵に就て

四平街調査報告書

長春に於ける日本製紙の勢力

同 大豆小麥賣買課稅諸掛

吉林通信

哈爾濱附近松花江解氷狀況

哈爾濱近況

四月中通貨物相場

最近三箇年金銀相場高低一覽表

第十號

總目次

滿洲に於ける對露輸出品製造に就て  
從赤峰經多倫獨石口至懷來調查報告

公爺府及圍場方面調查報告

京奉線灤州驛より赤峰に至る沿道狀況

滿蒙産業調査及邦人發展狀況視察報告第四

洮南に於ける金貨業

附 洮南商店組織

農安事情

滿洲天日製鹽の將來

附 曹達工業の將來

滿洲に於ける味噌醬油

赤峰近信

南滿陸運狀況

黑龍江省新紙幣發行條令に就て

露國向滿洲輸入品に就て

附 滿洲輸入板硝子

長春に於ける牛馬賣買の大勢

第十一號

南滿洲鐵道沿線各地經濟事情

大正六年四月中滿洲各地市況

同 五月中滿洲各地市況

渾河の水運と其流域に於ける農業

第十二號

北部山東經濟事情

密領黑龍州通信

林西近況

伯都訥近況

開魯近況

總目次

大正六年九月八日印刷  
大正六年九月十日發行

關東都督府民政部殖產課

大連市東公園町十七號地  
印刷人 嶺 田 嘉 三

大連市東公園町十七號地  
印刷所 株式會社 滿洲日日新聞社